

令和4年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金

介護のしごと魅力発信等事業

(情報発信事業)

報告書

令和5年4月

株式会社産業経済新聞社

目次

第1章 事業概要	
1.1 事業全体の主旨・目的	1
1.2 事業の構成	5
1.2.1 事業実施体制	5
1.2.2 事業の内容	6
1.2.3 スケジュール	14
第2章 企画委員会	
2.1 立ち上げまで	15
2.1.1 企画委員会実施スケジュール	15
2.2 各会の課題と論点	17
2.2.1 第一回企画委員会	17
2.2.2 第二回企画委員会	20
2.2.3 第三回企画委員会	25
第3章 介護に関する入門的研修オンライン講座(動画)	
3.1 オンライン講座の概要	29
3.2.1 モデル事業の結果(横浜市)	29
3.2.2 モデル事業の結果(静岡県)	30
3.3.1 就労マッチングのしくみ、実証実験	30
3.3.2 就労マッチングの結果	31
3.4 研修内容(シラバス)	32
第4章 ファンコミュニティ	
4.1 ファンコミュニティ「きっかけ」とは(狙い)	33
4.2 きっかけ内「ゆうゆうLife」の概要	33
4.3 アウトプット(投稿等実施した内容)	36
4.4 アウトカム(成果)および分析	38
4.4.1 ファン化の状況	38
4.4.2 ファン化に影響した施策	43
第5章 イベント実施報告	
5.1 企画背景	46
5.2 イベント概要	46
5.2.1 こうほうえん向原イベント	46
5.2.2 こうほうえん西大井イベント	47
5.3 オンライン番組 企画背景	50
5.3.1 番組概要	50
5.4 介護の日ポスター・チラシ展 企画背景	51
5.4.1 概要	51

第6章 テレビ・ラジオ、新聞広告による情報発信	
6.1 BSフジの番組制作、イベント企画	54
6.1.1 「DAYS BLG!はちおうじ」	55
6.1.2 「CYBERDYNE」	57
6.1.3 「湯〜亀（ゆ〜き）グループ」	58
6.1.4 番組関連イベント	60
6.1.4-1 番組関連トークイベント第1弾	61
6.1.4-2 番組関連トークイベント第2弾	64
6.1.5 動画配信	67
6.2 ニッポン放送の番組制作	68
6.2.1 ラジオ特番第1回	69
6.2.2 ラジオ特番第2回	71
6.2.3 音声配信	73
6.3 新聞広告	75
第7章 ウェブサイトの狙いと構成	
7.1 ウェブサイトの狙い	78
7.2 ウェブサイトの構成	78
7.2.1 主なコンテンツ	78
7.2.2 都道府県の介護事業者認証評価制度	80
第8章 ゆうゆうLife コンテンツについて	
8.1 取材・記事の狙い	81
(掲載事例)	
8.2.1 【まちから】子どもから高齢者、障害者も集う場が誕生	81
8.2.2 【まちから】「小多機」で本人本位のサービスを目指す	84
8.2.3 【まちから】働きながらの「自立」を支援	87
8.3.1 【しごとから】レトロな雰囲気とDXが共存	90
8.3.2 【しごとから】心惹かれる人たちとともに	93
8.3.3 【しごとから】介護の仕事をインターン体験—東京都	95
8.4.1 【ひとから】介護はドラマチックの連続	99
8.4.2 【ひとから】口腔ケアを通じて、関係性を築く	101
第9章 SNS	
9.1 SNS の活用	104
9.1.1 ユーザーとの接点を増やし、認知拡大できる	104
9.1.2 自社のファンを作ることができる	105
9.1.3 ユーザーや他社と共創することができる	105
9.2 SNS の運用	105
9.2.1 YouTube	105
9.2.2 Facebook	108

9.2.3	Twitter	109
9.2.4	Instagram	109
9.2.5	各 SNS 運営で気をつけていた注意点	110
9.2.6	ユーザーにとって魅力的な投稿が必須	110
9.2.7	長期的に継続した運用を実施	110
9.3	情報拡散	111
9.4	SNS 活用のまとめと今後の施策展開時の提案	112
9.4.1	SNS だけに留まらないメディアの活用	112
9.4.2	顧客層を広げ留めるための SNS の活用	112
第10章 効果検証		
10.1	調査の概要と効果検証の総括	113
10.1.1	調査の概要	113
10.1.2	調査結果	117
10.1.3	調査結果を踏まえた考察と評価	119
10.2	調査結果の集計および分析	121
10.2.1	ウェブサイト「ゆうゆう Life」記事閲読による意識変化	121
10.2.2	ウェブサイト「ゆうゆう Life」新聞全面広告出稿	142
10.2.3	オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」	157
10.2.4	イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」	164
10.2.5	イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」	174
10.2.6	YouTube チャンネル「ゆうゆう Life」	198
10.2.7	入門的研修動画事業	221
10.2.8	きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」	240
10.2.9	事前調査	248
	まとめ 事業の振り返りと今後への考察	257

第1章 事業概要

1.1 事業全体の主旨・目的

・事業を通じて目指したい未来像

テレビ、ラジオ、SNS など多様なメディアを活用して介護の仕事の魅力を伝え、一般の人々が福祉・介護に抱いているイメージを向上する。
 介護に関する入門的研修動画の講座を広く普及することで、介護の仕事へ繋がる仕組みづくりを推進する。

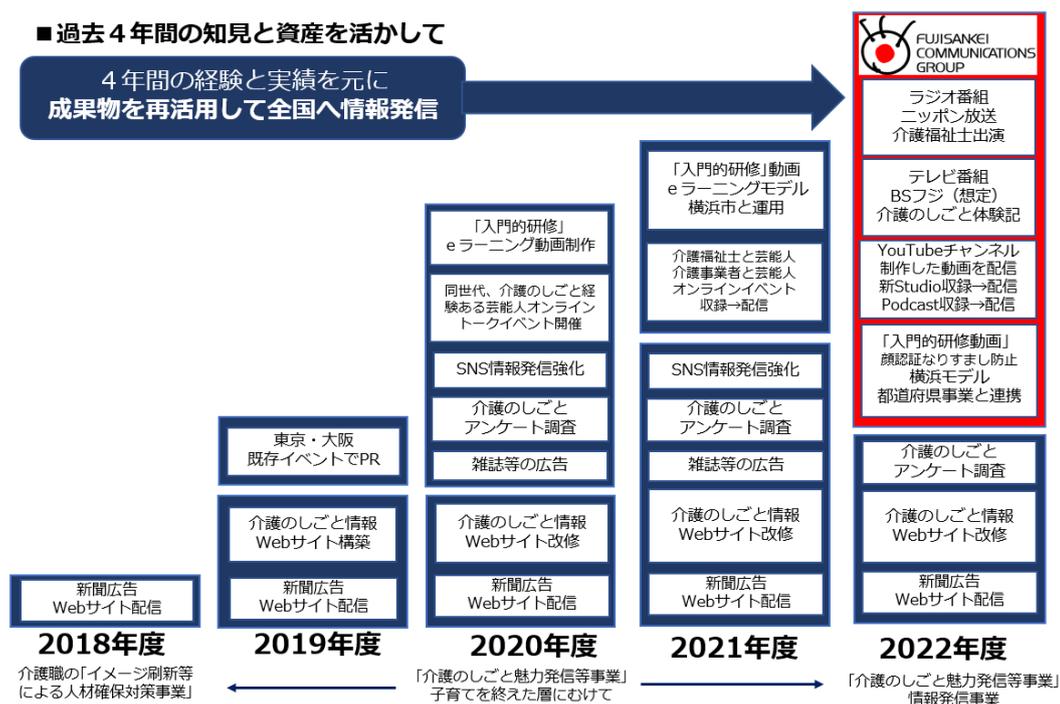


図 1-1 当事業の全体概略図

・過去の実績

産経新聞社は、令和1年度から3年度にかけて「介護のしごとと魅力発信等事業（子育てを終えた層に向けて）」を受託、「主に30～60歳代の女性」+「介護に無関心な層」をターゲットとし、子育てを終えた層のみならず、子育て中の層に向けて、連携事業者や介護分野の協力を得ながら、介護の仕事の魅力を伝える施策を工夫、展開した。特に、コロナ禍の影響により、リアルなイベントや介護事業所などへ取材ができないこと等、制約が多い中での事業展開となった。同年代や介護の仕事の経験がある芸能人によるオンラインイベントにより魅力の発信をした。

令和2年度にはコロナ禍でリアル研修が進まない中「介護に関する入門的研修」をeラーニング教材として制作、令和3年度の秋から、横浜市の協力を得て、実際の受講生を募集、顔認証による本人確認等による視聴、修了証の発行までの実証事業を実施、想定以上

となる 216 人の応募があるなど大きな成果を出すことができた。

・今年度の事業概要

令和 4 年度は、情報発信事業を受託。ラジオ、テレビの番組を使った情報発信や介護の仕事へのイメージアップの新聞掲載、過去 3 年間に制作した成果物の再活用、YouTube チャンネル「ゆうゆう Life～介護のしごと」や産経新聞社が運営する双方向オンラインコミュニティ「きっかけ」等での情報発信など多様なメディアを駆使した新聞社ならではの情報発信を実行した。

都道府県事業との連携で実施した「介護の日（11 月 11 日）ポスター・チラシ展」は 20 自治体から出品があり、自治体からは、全国への情報発信に対して高い評価を得た。また、「介護に関する入門的研修動画」は、横浜市と静岡県で実施した。富山県や茨城県等ほかの都道府県にも出向き説明した。

修了者を施設見学会やボランティア紹介、就業支援までの仕組みづくりを実施したが、残念ながらコロナ禍の影響で、受け入れできる施設がなかった。また、就業支援を都道府県の人材センターに繋げる点は、誘導や system 面で課題が残った。

公式サイト「ゆうゆう Life」では、コロナ禍の影響で、取材活動が制限される中、テレビ番組などで取材した特色ある取組みを行う介護施設や介護福祉士、スタッフを取材、掲載した。介護職の多くが、やりがいや楽しみを感じて働いている。世の中の先入観と、当事者の現実との間にあるギャップを埋め、現場の介護職の実感を見て、知ってもらい、ひいては「介護のしごと」に関心を持ってもらうことが、本事業の狙いであることを再確認した。「ゆうゆう L i f e」の今年度のページビューは 115 万 5,250PV に達した。

・事業の目的

・介護のしごとの魅力を多様なメディアを活用して、広く伝えることで、イメージの改善、意識や行動変容が生まれる。

■目的

・介護のしごとの魅力を伝え、一般の人々が福祉・介護に抱いているイメージを向上

■手法

- ・介護のしごと魅力を感じてもらう為に、全国的イベントの連携、新聞、テレビ、ラジオ、SNSで発信する
- ・入門的研修動画を活用して、都道府県の地域の事情に応じた魅力発信を行う
- ・過去4年間の成果物(動画や漫画などのコンテンツ)を再活用した動画チャンネルで情報発信する

■ターゲット

・シニア、子育てを終えた層(子育て中を含む)を中心に、幅広く全国へ介護職の社会的評価向上を図る



図 1-2 当事業の目的

・令和4年度は2本柱の情報発信事業を実施

1. 3年間の成果物を再活用した情報発信
2. 新聞・ラジオ・テレビを活用した情報発信

ターゲットは、シニア、子育てを終えた層（子育て中を含む）を中心に幅広く全国へ介護職の社会的評価の向上をはかった。

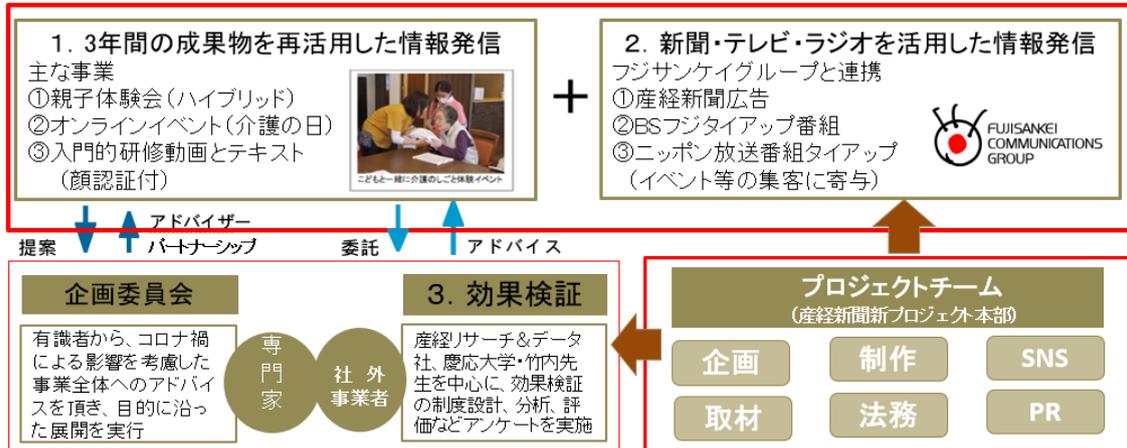


図 1-3 当事業の概要

1. 介護に関する入門的研修動画

- ・横浜市（102人応募）、静岡県（38人応募）にて開催
- ・医療介護総合確保基金の対象となるために就業マッチング仕組みの実証実験

2. 情報発信

- ・公式サイト「ゆうゆうLife」、特色ある介護施設やスタッフを取材
- ・BSフジ、戸塚純貴さん出演の特別番組（5分×6回）、アーカイブ配信、番組関連イベント
- ・ニッポン放送、安藤なつさんらがゲスト出演の年末年始特別番組（30分×2回）、アーカイブ配信
- ・産経新聞、介護福祉士の笑顔溢れる広告記事を3月に掲載
- ・オンラインコミュニティ「きっかけ・ゆうゆうLife」、双方向で交流
- ・動画メディア、YouTubeチャンネル「ゆうゆうLife」で制作した動画の配信

3. イベント

- ・子どもヘルパー教室、介護施設のイベントと連携
- ・介護の日ポスター・チラシ展、都道府県事業と連携
- ・BSフジ番組出演者と介護福祉士らによる番組連動トークイベント

4. 効果測定

- ・事業効果の検証や分析は、産経リサーチ&データ社が、井上由起子日本社会事業大学教授の監修、白井孝子東京福祉専門学校副校長のアドバイスのもとに実施

した。

5. 企画委員会

- ・本事業を実施に際して、業界団体等から有識者に企画委員を委嘱、事業内容についてアドバイスや進捗報告を6月、10月、2月に実施した。
- ・本事業のパートナー企業及びオブザーバーにも参加することで、事業内容を検討、わかりやすく報告することが出来た。

令和4年度介護のしごと魅力発信等事業(情報発信事業)

企画委員一覧

	氏名	所属・役職
1	井上 由起子	日本社会事業大学 教授
2	梅本 句子	社会福祉法人こうほうえん東京事業本部 介護福祉士
3	佐藤 泰輔	横浜市健康福祉局高齢健康福祉部長
4	篠原 正治	神奈川県社会福祉協議会会長
5	白井 孝子	東京福祉専門学校副学校長
6	瀬戸 恒彦	公益財団法人かながわ福祉サービス振興会 理事長
7	光元 兼二	全国有料老人ホーム協会 企画部長

(あいうえお順)

5. 効果検証

- ・今年度は、情報発信、イベントなどを対象としたアンケートもとに、企画委員である井上由起子教授の監修・アドバイスにより、設計、集計と分析を産経リサーチ&データ社が担当した。

1.2 事業の構成

1.2.1 事業実施体制

- ・産経新聞社が、BS フジ、ニッポン放送などと連携して事業を実施した。
- ・オンラインイベント制作は、介護福祉施設、新東通信と連携して事業を実施した。
- ・きっかけは、クオンと連携してコミュニティ運営を実施した。
- ・介護に関する入門的研修動画は、横浜市、静岡県、かながわ福祉サービス振興会、東海道シグマ、アンカーズ、ベンチャー・サポートなどと連携して事業を推進した。
- ・SNS 等を活用した宣伝 PR は、作戦本部と運用面、情報の発信をした。
- ・有識者による企画委員会を設置し、事業実施に向けた企画の検討、情報発信などについて協議をおこなった。

■組織図

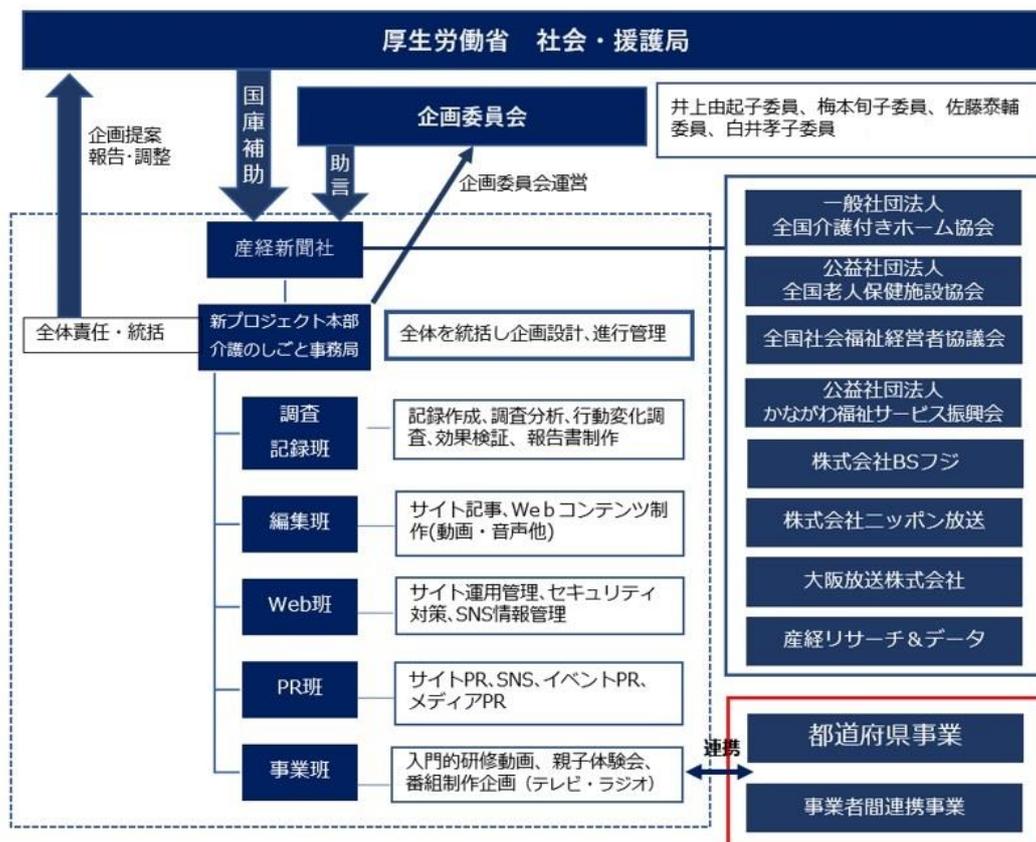


図 1-4 組織体制図

1.2.2 事業の内容

1) 介護に関する入門的研修動画事業

・令和4年度は、横浜市と静岡県で実施した。横浜市は、102人、静岡県は44人の応募があり、それぞれ、68人（終了率68%）、23人（終了率52%）が、期限までに動画視聴を完了し、横浜市、静岡県は修了書を発行した。横浜市は、昨年と同等の終了率であったことで、弊社の「介護に関する入門的研修動画」の完成度に自信を持つことが出来た。また、今年度は、就業マッチングサービスの実証実験も行った。修了者に介護施設の見学やボランティア参加などを紹介する専用の相談窓口を設置、介護施設や各都道府県の人材紹介センター等と連携できるようにした。修了者への誘導方法など課題が残った。今後、受講者数の拡大を図るなど、地域医療介護総合確保基金の対象となることを目指したい。

厚生労働省の入門的研修に準拠、白井孝子先生(東京福祉専門学校)監修

講座42本、1講座は約30分



1.介護に関する基礎知識	3回
2.介護の基本	3回
3.基本的な介護の方法	20回
4.認知症の理解	8回
5.障害の理解	4回
6.介護における安全確保	4回

■ 特色

1. スマホ視聴で受講ハードルが下がる
2. 受講生のすそ野拡大に活用できる



■ 機能

1. なりすまし防止機能(スマホ対応)
2. 早送り防止機能
3. ID発行、視聴進捗管理サポート
4. 事業運営全体のサポート



図 1-5 介護に関する入門的研修動画事業

都道府県事業との連携として位置付けている「介護に関する入門的研修オンライン講座」は、視聴後に、介護の仕事に興味を持ち初任者研修などの上位研修や有償ボランティア、デイサービスなど簡易な業務（仕事）に就労するなどを案内する方策がさらに必要と感じた。今年度は、マッチングの仕組みを構築、実証実験したが、都道府県の人材紹介センターや「介護事業者認証評価制度」の適用を受けている事業者への紹介や運用に関する課題などがわかった。次年度以降に横浜市や静岡県と運用を協議することとした。

動画研修から就労マッチングまでワンストップを構築



図 1-6 介護に関する入門的研修動画介護のしごと相談

2) 多様な情報発信

1. 公式サイト「ゆうゆうLife」

特色ある介護施設や介護福祉士、都道府県事業などを取材、情報発信した。コンテンツアップ数は、20本。漫画アップ数は、52本。



図 1-7 オウンドメディア「ゆうゆうLife」

2. BS フジ、特別番組

ドキュメンタリーなど社会的な課題解決などの情報発信に適した番組制作に実績のあるBSフジにて、介護のしごとの現場を戸塚純貴さん（俳優）が体験するドキュメント番組を制作、放送。その後、アーカイブでオンデマンド配信した。視聴回数は、5万4,000回を超える視聴があった。

【タイトル】
「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」

【放送スケジュール】

- #1 「DAYS BLG！」前編 10月31日（月）22：55～23：00
- #2 「DAYS BLG！」後編 11月7日（月）22：55～23：00
- #3 「CYBERDYNE」前編 11月14日（月）22：55～23：00
- #4 「CYBERDYNE」後編 11月21日（月）22：55～23：00
- #5 「湘～亀グループ」前編 11月28日（月）22：55～23：00
- #6 「湘～亀グループ」後編 12月5日（月）22：55～23：00

【出演者】
戸塚純貴(映画『ケアニン～あなたでよかった～』主演)

【番組内容】
映画で介護福祉士を演じた経験を持つ俳優・戸塚純貴が、実際の介護福祉の現場を訪れ、体験したこと、感じたことを綴っていくドキュメント番組。日本人の約2割が後期高齢者になると言われている2025年を目前に、それぞれ異なる視点で介護福祉に向き合う3つの事業者は、介護の未来にどんなビジョンを描いているのか。そして、戸塚は介護の仕事のリアルにどんな想いを抱くのか…。



戸塚純貴 (Junki Tozuka)
生年月日: 1992年7月22日
出身地: 東京都
2010年に開催された第23回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストにて「理想の恋人賞」を受賞し、芸能界入り。
2011年7月のテレビドラマ「花さかしの君たちへ～イグザンク～」(ラジエス～2011)で俳優デビュー。
2012年9月から映画「ライガー」に原良城平役で出演。

<番組放送後、以下で動画配信！>

- ・ You Tube (産経新聞「ゆうゆうLIFE」 & BSフジ公式)
- ・ BSフジオンデマンド

図 1-8 BSフジ特別番組（5分間×6回）

3. ニッポン放送、年末特番

ターゲットであるシニア層が視聴するラジオメディアにおいて、年末年始特別番組を企画、放送した（30分×2回）。

介護のしごとを経験した安藤なつさん等に介護福祉士のインタビューを交えながら、仕事の楽しさを語ってもらった。



YouTube「ゆうゆうLife」チャンネルにて、
 現在、公開中



ラジオゆうゆうLife1 2022/12/30放送

■推定到達人口

- ①令和4年12月30日（金）
 147,206人 聴取率：0.46%
- ②令和5年1月1日（日）
 121,605人 聴取率：0.38%

ビデオリサーチ調べ

図 1-9 ニッポン放送特別番組（30分間×2回）

4. 産経新聞、記事体広告掲載

介護スタッフの笑顔と共に、イメージアップを図ることを目的にした記事コンテ
 ンツ（広告）を3月に掲載、全国へ情報発信した。



図 1-10 産経新聞全国版（4年連続掲載）

5. 双方向オンラインコミュニティ「きっかけ」事業

産経新聞社が令和2年10月にスタートした介護経験などの情報交換ができる「きっかけ・ゆうゆう Life」は、産経新聞社のオンライン上のコミュニティ「きっかけ」内に、介護や介護の仕事に興味を持つ人を集め、1年間運営。介護の仕事を知るための“きっかけ”となるよう、参加者にテーマを投げかけて投稿を促したり、イベントと連動してコメント投稿を促したりした。介護や介護の仕事についてみんなが話せるコミュニティとして、介護の仕事の情報を伝え、興味を最大化させた。



図1-11 オンラインコミュニティ「きっかけ」内「ゆうゆう Life」

施策	テーマ
1	働く上で重視していることは？
2	「介護のお仕事」に関する素朴な疑問大募集！
3	＼11月11日は「介護の日」／ポスター・チラシ展開催のお知らせ！
4	＼戸塚純貴さんが出演／「介護の日」にちなんだBS フジのテレビ番組・トークイベントのお知らせ
5	「資格がなくてもできる」介護のお仕事ってあるの？
6	ラジオ放送のお知らせ★ニッポン放送で介護の魅力をお伝えする特別番組を放送します！
7	ゆうゆう Life 公式 Youtube からキャンペーンのお知らせ★
8	戸塚純貴さん参加★3月4日にBS フジ無料トークイベントを開催しました

図1-12 オンラインコミュニティ「きっかけ」内「ゆうゆう Life」投稿テーマ

6. 動画メディア

YouTube チャンネル「ゆうゆう Life」は、過去3年間で制作した動画コンテンツや漫画、イベントの様子などを配信した。

視聴回数は、全体で6万回を超えるなど、新たな情報発信として広く伝える効果をおよぼすことが出来た。



図 1-13 YouTube チャンネル「ゆうゆう Life」

3) イベント

1. 介護施設と連携して収録型のイベント

地域密着の親子体験会を予定していたが、リアルで開催は厳しいとの判断からオンライン開催を企画。リアル配信は通信リスクがあることから収録に変更。介護スタッフの1日やお年寄りとのコミュニケーションに必要な基礎知識が身につく、施設内で行われる体操や早口言葉の紹介や、介護の基礎知識のクイズなどの要素も入れ、小学生も楽しめる内容として、その様子を公式サイトや動画チャンネルで配信した。

■企画協力：I T C 蓮田
制 作：産経新聞社
日 時：10月9日 配信開始予定日 11月10日
場 所：I T C 蓮田施設内にて収録
タイトル：「子どもヘルパー講習会」（名称変更予定）（約30分）
出演者：I T C 蓮田職員（介護福祉士2名 MC 1名）

■番組内容

- 1) オープニングトーク（2分）：
- 2) 介護職の1日（90秒分）：動画
- 3) ホーム内の体操／早口言葉など
- 4) クイズ／6問 → 解答例を紹介
- 5) 講習会（15分）：2名
お年寄りとのコミュニケーションと介護のしごとの魅力
- 6) 子どもヘルパーの任命証と記念品の贈呈

■ターゲット

小学生高学年～成人を想定


 介護付有料老人ホーム
蓮田オークプラザ「介護館」




 介護付有料老人ホーム
蓮田オークプラザ駅前温泉館



図1-14 介護施設との連携イベント

2. 介護の日ポスター・チラシ展

都道府県事業との連携として、介護の日ポスター・チラシ展を初めて東京サンケイビルB2で開催した。出展した自治体からは、高い評価を頂いたと同時に、展示を見た方からは、介護の日への気づきと「理解が深まった」との声を頂いた。



展示会の様子



告知用ポスター

■介護の日（11.11）記念ポスター・チラシ展

場所：東京サンケイビルB2（大手町）
ブックギャラリー

期間：令和4年11月1日～11月14日

内容：都道府県のポスター・チラシを展示

■出展した都道府県

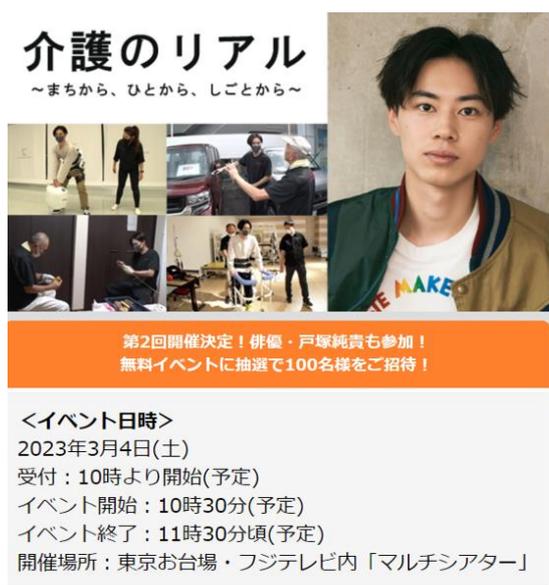
北海道・秋田県・福島県・埼玉県・神奈川県・長野県
 新潟県・愛知県・富山県・大阪府・奈良県・和歌山県
 兵庫県・大分県・岩手県・山口県・三重県・群馬県
 千葉県・広島県

図1-15 介護の日ポスター・チラシ展

3. テレビ番組連動型トークイベント

BS フジで放送されたテレビ番組を見ながら、取材先や特色のある介護福祉士と映画「ケアニン」に主演した俳優、戸塚純貴さんによるトークイベントを開催した。当初は、1回のみで開催予定であったが、好評のため急遽、令和5年3月に2回目を開催した。参加者からは、介護の仕事に関する理解が深まった点や戸塚純貴さんの良き人柄が伝わったなどの高い評価を得たイベントとなった。

コロナ禍の影響で、会場は満席にせず、消毒、マスク着用など対策をしっかりと行って実施した。会場は、フジテレビ1階のマルチシアター。



介護のリアル
～まちから、ひとから、しごとから～

BSフジで放映された番組「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから」の第5話と6話の収録秘話や介護のしごとに関するトークを公開イベントとして開催する。

第2回開催決定！俳優・戸塚純貴も参加！
無料イベントに抽選で100名様をご招待！

<イベント日時>
2023年3月4日(土)
受付：10時より開始(予定)
イベント開始：10時30分(予定)
イベント終了：11時30分頃(予定)
開催場所：東京お台場・フジテレビ内「マルチシアター」

動画をアーカイブで、1年間配信する



図 1-16 オンライントークイベントの様子（収録）

1.2.3 スケジュール

・4月13日に受託後、企画委員の選任(5月)、企画委員会の開催(6月、10月、2月)、企画内容の討議を実施して本年度の事業骨格を決定後、着手した。

・当事業の主なスケジュールを以下に示す。

実施事項	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画委員会(有識者会議)	準備		● 会議				● 会議				● 会議	
事業間連携会議				● 会議				● 会議			● 会議	
入門的研修動画推進事業 (都道府県事業と連携)		● 広報PR	● マッチング 構築			● 募集支援		● 運営支援				
オウンドメディア 公式サイト「ゆうゆうLife」	準備	● 取材	● 掲載	● 取材	● 掲載	● 取材	● 掲載	● 取材	● 掲載	● 取材	● 掲載	● 掲載
BSフジのタイアップ特別番組		● 企画準備			● 制作	● 放映	● 配信
ニッポン放送のタイアップ番組		● 企画準備	● 制作		● 放送	● 制作		● 放送	● 制作		● 放送	
産経新聞への広告出稿										● 掲載準備		● 掲載
オンラインコミュニティ「きっかけ」	準備	● 新年版		● オーナー 取組	● オーナー 取組	● オーナー 取組	● オーナー 取組	● オーナー 取組	● オーナー 取組	● オーナー 取組	● オーナー 取組	
YouTube動画チャンネル		準備		● 管轄 発信
イベント「こどもヘルパー教室」		● 企画準備				● 体験会	● 体験会	● 体験会				※収益、編集、配信に変更
イベント「介護の日ポスター・チラシ展」		● 企画準備						● 介護の日 イベント	● アンケート			
イベント「番組連動型トークライブ」		● 企画準備						● イベント				● イベント
効果分析: イベント等、アンケート	準備		● 調査設計		● アンケート			● アンケート			● アンケート	● まとめ

図 1-17 スケジュール (全体)

第2章 企画委員会

2.1 立ち上げまで

2.1.1 企画委員会実施スケジュール

企画委員会を以下の日程で実施した。

表 2-1 企画委員会実施スケジュール

開催回	日程	議題
第一回	令和4年6月22日(水) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none">・事業計画案(全体)・イベント事業Ⅰ~Ⅲ・コミュニティ「きっかけ」・情報発信 テレビ・ラジオ・新聞・オウンドメディア・入門的研修動画事業・効果検証
第二回	令和4年10月5日(水) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none">・事業概要・イベント事業Ⅰ~Ⅲ・コミュニティサイト「きっかけ」・情報発信 テレビ・ラジオ・新聞・オウンドメディア・入門的研修動画事業・効果検証
第三回	令和5年2月21日(火) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none">・事業概要・入門的研修動画事業・情報発信 テレビ・ラジオ・YouTube・コミュニティ サイト「きっかけ」・公式サイト「ゆうゆう Life」・新聞紙面・効果検証・イベント ポスター・チラシ展・事業の振り返り

※第一・二回は産経新聞社本社7階A会議室、第三回は産経新聞社本社8階B会議室でハイブリット会議にて実施された

表 2-2 企画委員一覧

委員名称	所属	写真
井上 由起子	日本社会事業大学 専門職大学院 教授	
梅本 旬子	社会福祉法人こうほうえん東京事業本部	
佐藤 泰輔	横浜市健康福祉局高齢健康福祉部 部長	
篠原 正治	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 会長	
白井 孝子	東京福祉専門学校 副学校長	

<p>瀬戸 恒彦</p>	<p>公益財団法人かながわ福祉サービス振興会 理事長</p>	
<p>光元 兼二</p>	<p>公益社団法人全国有料老人ホーム協会 企画部長</p>	

2.2 各会の課題と論点

2.2.1 第一回企画委員会

■ 【協議事項1】 イベント事業

- 意見 起用する方向性などについて
 - ・ こどもヘルパー体験会は全国から募集をするイメージなのか。地域の公民館を借りて地域の子供に来てもらう。高齢者施設などでもできる。フォローアップの態勢まで作ると良い (井上)
 - ・ 全国でこどもヘルパー講習会を行う際に一定の枠組が重要。認定証の取り決めが必要。時間配分を決めて子供たちを中心にどのように介護の現場と仕事内容を知ってもらえるか。教育プログラムとして展開していくことが重要。学校との連携を含めて、自治体と連携して開催をするほうが有効である (瀬戸)

● 今後の対応

- ・ こどもヘルパー講習会についてブラッシュアップしていく

■ 【協議事項2】 ファンコミュニティサイト「きっかけ・ゆうゆう Life」

- 意見
 - ・ アンケートの 146 名という数字は、横浜市での受講者 216 名中の 146 名が回答。世代が若くてもこのシステムを活用できることがわかった (梅本)

● 今後の対応

- ・ SNS を活用した戦略を引き続き工夫していく
- ・ 構築したシステムを幅広い世代へ活用できるよう検討していく

■ 【協議事項3】 情報発信事業

- 意見
 - ・ 基本 3 テーマ (まちから、ひとから、しごとから) から掘り下げていく。自分事にしてもらう。キーワード、きっかけを掴んでもらうにはテーマが重要。3 人 3 事業者のモデルケースを取り上げる予定で全 6 回やる予定。拡散してもらえる俳優を採用する予定。現

地レポートを含めて検討している（山田）

・若年層に向けてイベントを行い、その後ミニ番組の映像をイベント用に再編集して会場で流す（林）

・町亞聖さんとラジオで顔なじみのゲストをキャスティングしてリスナーが自然に耳を傾けやすくなることを狙いとする。行動変容を起こしていきたい（長濱）

・新聞については読者数がだんだん減ってきていることもあり、新聞における情報発信の仕方は毎月テーマを決めて記事を載せていくスタイルにした方が良い。シナジー効果をどこまで出せるかがポイント（瀬戸）

・取材先候補は 5 分の番組に出演してくれる人と同じにする。事業所を取り上げるのか、人を取り上げるのか。介護される当事者がでてくる、介護する家族が出てきたりする組み合わせを検討してもらえたらよい（井上）

● 今後の対応

- ・番組構成は複数のテーマを組み合わせで工夫していく
- ・行動変容を起こすために具体的に何をしていくのか検討していく

■ 入門的研修動画事業

● 意見

・就労に繋げてもらえたらと思うが去年の 146 名は今後どうするのか（白井）

・横浜市は検討中。令和 3 年度の案内であればできるのではないかな。

・人材確保は共通の認識で、今現在どんなことが起きているのか。新卒はほとんど採用できていない。中途採用を確保している状態で人材紹介を使って回ってきた業界である。横浜市と業界団体がどう連携してこの仕組みに繋げていくのかが大事（光元）

・収益事業に変えていくには横浜市としてはどういう立場にいたらよいか。入門的研修動画事業を就労にどう繋げていくか。どの業者に関わってもらっていったらよいか悩ましい。受講された方に案内をすることは行政の立場ではできるか。特定の業者を紹介することは悩ましいところ（横浜市）

・人材センターを持っている神奈川県と我々（社会福祉協議会）との連携を取っていった方が良い（篠原）

・入門的研修を受講のあと介護職への就職、介護はしないけどサポート、アテンドをすることからはじめる方が多いと思うのだから、現実的にこのルートはあり得るのか（井上）

・江戸川区内でも同じことをやっていて、修了した人の思いはそれぞれ。実際に介護職へ就職をしようとする人は少ない。終わった後にもう一回現場をみて、その後またどうするのかを検討しているように感じる（白井）

・LINE を使う場合は個人情報はどう扱うのか。優良職業紹介ではないという前提なのか。スキームを確認したい（瀬戸）

・高崎市で使っているシステムでは個人情報は共有されない。LINE 上で走るウェブサーチ。LINE の中にボタンを埋め込んでそれを押すとウェブ上のサーチを立ち上げるイメージ（澤）

・現場を見に行くのなら、現場は働いてもらいたいと思っているので、本来のニーズとずれてしまうかもしれない。実際働くとは違ふことがあるため、そこをサポートできるような流れがあると良い。学生の採用活動をしていると、熱心な学生は 3 回も 4 回も足を運んで納得し承諾していくプロセスがある。ギャップをいかに小さくするかが大切。ボランティアや何度も足を運ぶ機会を作るなどサポート態勢を作ることが大事（梅本）

● 今後の対応

・入門的研修を終了後、就労に繋げてもらうためにはどうすればよいか引き続き検討していく

■ 効果検証

● 意見

・まだ企画を固めている段階だが、去年のロジックモデルを活用、分析をして企画を進めていきたい（初見）

・介護の無関心層、介護の関心層=子育てを終えた層ではないので、そこは一緒にはならない。4つの層に分かれる。テレビを見る人たちは無関心層から関心の層に移って欲しいと想定をした上で、各ターゲットを絵に描いて検討していくとよい（井上）

・もっと検討が必要である（白井）

● 今後の対応

・去年のロジックモデルを活用し早く分析を進める

・各ターゲットを明確にして検討していく

■ まとめ

・よいプロジェクトになるように協力していきたい（井上）

・各部署の中での連携が大事。県だけでなくその他の機関との連携を進めていく（篠原）

・無関心層については、私自身が異業種から出向できている関係で、社会的意義のある仕事だと気付いた。取材先として福祉の分野の人材だけではなく、ビジネスという観点で言えば民間のトップや大手企業の経営者で異業種の方も多（光元）

・すぐ働ける人、未来を担う子供たちに介護の仕事を伝えることは非常に大事。学童やPTAの機関を活用すると親も関わってくるため、より広がりができる。夏休みに向けて企画してみるのはいかがでしょうか（白井）

・全体的にとてもよい。細かいところを詰める必要はあるが、各メディアの特性を生かしてシナジー効果を期待。新聞広告は再考したほうがよい。新聞購読者に対してのアプローチはよい。若い人たちに感動を伝えられるような非常によい映画があり、若い子たちの心揺さぶるようなコンテンツをいろんなメディアを使いながら繋げていけるようにしていくとよい（瀬戸）

・広報活動はTikTokなど動きのあるもの、興味・関心を持つところが違うのでどう取り入れていくのか。単年度で終わってしまうことが多く、継続できる取り組みにしていけるような仕組みにしてもらえるとよい（白井）

・前年度の効果がとてもよかったので、研修が終わり修了ではなく、介護の現場に一人でも多くの方が働いてもらうことが最終目標であり、ゴールに向かってどう繋げていくのが引き続き検討事項である（横浜市）

・企画委員の先生方が定期的に入ってもらうことでメディアの担当とコラボレーションすることで良い企画になっていく（藤野）



図 2-1 第一回企画委員会の様子

2.2.2 第二回企画委員会

■ 【協議事項 1】事業の進捗

● 意見

・国としては平成 30(2018)年度から実施しており、都道府県などの各自治体で介護分野の人材が直近の数字で 211 万人、求人倍率の 3 倍になっている状況。2040 年には約 280 万の介護人材が必要になる。現在「介護のしごと魅力発信等事業」には多くの企業に参加してもらっており、いろいろな有識者の方の意見を聞いて参考にしたい（塩野）

● 今後の対応

・これからは介護人材が多く必要となるため何が出来るかを検討していく

■ 【協議事項 2】イベント事業

● 意見

・今回の 11 月 8 日にあった東京都板橋区向原で行った職業体験は中学の校長先生からの提案。6 日は向原でお祭りがありその近隣に住んでいる方々（高齢者含む）が集まって来

るのでそこでインタビューをして実際に考えてみたものやっってもらい感想を書いてもらう。コミュニケーションを多めに取ってもらおう企画にしている。西大井は実際やってみてどう考えたかを感じてもらいコミュニケーションを深めてもらう。学生のみなさんが考えるきっかけになるのではないかと（梅本）

・番組と連動させてトークライブを行う。介護のリアルを俳優さんが介護現場へ訪問する「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」を全6回放送予定。戸塚純貴さんがケアニンの主演経験を生かして介護施設を訪問してもらい、改めて発見したことや介護の仕事にどう向き合っていけばよいのかを体験してもらう。イベントに応募してもらうときに事前アンケートを取る。当日もアンケートを取り意識変容を検証する予定（山田）

・いろいろとチャレンジしている様子がわかった。現場で行われている様々な取り組みを紹介することは非常によい。とてもよく練られたコンテンツで楽しいイベント・トークショーにしていけたらよい。戸塚くんもとてもよい（瀬戸）

・全体を通じてすっきり構成されていて良い。フジテレビ内マルチシアターでの一般のお客は100名程度募集とはどう募集をかけるのか。その時に行う第2部の「会話で学ぶ」のところでは具体的にどのようなトークをする予定なのか（井上）

・先着順を予定。社内でよく精査をして来週告知をする。関心はなかったけど初めて勉強してみたいという方を期待している。第2部は戸塚くんが現地に行き体験したことを話してもらう。若い人たちにどのように興味を持ってもらえるか、介護福祉との携わり方、関わり方を知ってもらい理解してもらえるような展開にしていきたい（山田）

・番組出演者や社会福祉 HERO' s のファイナリストの人たちとのトーク内容は精査してもらいたい。どのような会話をしていくか。食べていける職業だということを発表してもらいたい。イベントの様子はあとからみられるのか（井上）

・ゆうゆう Life サイト内などにアーカイブに残すことを調整中（山田）

・キャスティングゲストは安藤なつさんが内定。あと1名は人選中。収録は11月下旬に設定をして余裕をもって調整していく。介護福祉士の声などの取材音声を紹介予定（長濱）

・若者向けには YouTube で発信して欲しい。若手のキャリアアップを語る介護福祉士の卒業生は。施設で矛盾を感じながら経験を積み自分で施設を立ち上げて経営し活躍している卒業生を紹介している。一般の人たちとともに介護の仕事に携わっている人にも共感を得られる（白井）

・今回は情報発信事業に携わってきた。「こうほうえん」はもともと発信力があつたが産経の力を借りてより幅広く発信していけるようになった。ITC 蓮田は最終的にはオンラインで実施予定。早口言葉やクイズなど楽しいコンテンツに仕上がっている（光元）

● 今後の対応

・若い人たちにどのように興味を持ってもらえるか、介護福祉との携わり方、関わり方を知ってもらい理解してもらえるような工夫をしていく

■ 【協議事項3】情報発信事業

● 意見

・きっかけのトークテーマの疑問への回答は誰がするのか。しっかり回答する人を吟味してもらいたい。シアターのイベントの司会は介護のわかる人にしてもらいたい。自社のアナウンサーだと司会はできるだろうが介護の仕事に関しての理解度はどうだろうか（篠原）

・回答をするときに専門職にフィルターをかけたほうがよい（井上）

● 今後の対応

・きっかけ「ゆうゆう Life」には26,784名が登録しており、オーナー投稿を利用して

介護の魅力に関する話題などを投稿し、介護への興味関心をさらに深められるような施策を検証していく

■ 【協議事項 4】 入門的研修動画事業

・令和 3 年度は多くの方に申込してもらい完走し想像以上の成果があった。本年度は受講者を集めるツールで悩んでいる。HP からではなく LINE や Twitter や地域の広報などいろいろな手段を活用して引き続きやっていきたい (佐藤)

・デジタルコンテンツを有効に活用して修了してからの追跡調査を検討したい。修了したあとの働き方をリサーチしていきたい。エビデンスとしてデータをきちんと把握することで効果も変わってくる。追跡のアンケート調査をデジタルで行えばよい。いろいろな働き方があるので、データを有効に活用して行って欲しい (瀬戸)

・神奈川県だけではなく全国的に困っている。取り組み方が非常に難しい。受託は何年続くのか。何とか横展開をしていきたい (篠原)

・地方自治体はやり方を含めて自由度が高い補助金制度となっているので、良い取り組みがあれば県でやってもらいたい。それぞれの事情があるため、全国すべてができるかは難しいところ。多様な働き方のモデル事業もやっており、少数派の取り組みの事業もどんどん発信していきたい (塩野)

・就労に繋げるように展開できないかを考えている。この研修事業の内容を団体の中で PR できるように今後とも相談させてもらいたい (光元)

・入門的研修をそれぞれの自治体がやるかやらないかを判断している。介護助手が現場へ出るために学んでもらうものによいのではないか。法人が使うものにもどうか。入門的研修にとらわれずもう少し幅広く利用できる方法を検討していく (井上)

● 今後の対応

・きっかけ「ゆうゆう Life」には 26,784 名が登録しており、オーナー投稿を利用して介護の魅力に関する話題などを投稿し、介護への興味関心をさらに深められるような施策を検証していく

■ 【協議事項 5】 効果検証

● 意見

・60 代以上の方が 6 割弱いる。60 代で介護の仕事をしていないわけではないが、年齢構成をどうしていくか (井上)

● 今後の対応

・若年層へ興味関心をもってもらえるように工夫していく

■ まとめ

・今回の企画については、とても魅力的な内容になっていて企画全体はよい。トークセッションでの MC (司会) の力量が非常に重要になってくる。どうやって盛り上げていくか。放送日の告知をどうしていくか。新聞は若い子たちは読まないためインターネットを有効に使う。YouTube 等を使いながら一定期間視聴できるようにする環境をつくる。変革期であるためインターネットを活用してメディアも利用しながらデジタルコンテンツをきちんと構築させる。ラジオはこれから非常に魅力的なメディアで良い (瀬戸)

・興味深く聞かせてもらい期待した部分もある。介護の人材の裾野を広げるには若い方にどのようにアプローチしていくのか苦労している。イベント系や媒体を使った PR が若い層に届いて成果となって見えるようになるまでには時間がかかると思うがこのような取り組みを地道に進めていくことが重要 (佐藤)

・今回事業者団体として参加しており、介護のしごとの魅力を広く発信していくコンテ

ンツをメディアや産経とも協議を重ねながら進めていきたい（光元）

・広く知って欲しいので告知でインスタグラムを利用したらどうか。インスタが若者の支持を受けている。Twitter、Facebook は年齢層が高い（白井）

・メディアの効果は素晴らしいと実感している。イベントの前には企画委員に知らせて欲しい（井上）

・学生の採用をしていると学生達はインスタグラムで検索をしており、こちらもインスタグラムで情報を発信していくと良い。介護のしごとをどこまでちゃんと伝えていくのか悩ましく、深く伝えると重くなり、魅力発信ならば一歩踏み込んだ内容が良いと思うので、長く介護の現場で働いている方に話をしてもらおうと深みが伝わってくるのでは。介護技術を競うような取り組みを取り上げてもらおうと勉強もしながら技術も鍛えられる。認知症をどう捉えるか。トークライブでは他業種が多くなるため MC（司会）の力量がかなりポイントになってくる（梅本）

・情報発信が一番大事。テレビ・ラジオ含めてしっかり発信の仕方を検討してもらい（篠原）

・コロナも収まってきているのでどんどん取材へ行き発信して行って欲しい。横浜市の入門的研修動画が全て終了したあとに実績結果が欲しい（塩野）





図 2-2 第二回企画委員会の様子

2.2.3 第三回企画委員会

■ 【協議事項1】事業の進捗

- ・静岡県の入門的研修動画の説明会を行ってきて現在まで順調に進んでいる（太田）
- ・人材センターとのマッチングがまだほとんど共有できていない。どのような方向性でいくのかを具体的に詰めていかないといけない（篠原）
- ・入門的研修動画については非常にニーズが高いと評価している。介護に関心をもってくれる層を開拓していくことがポイント。関心だけに終わらず就労へ繋げていく連携をどうするのか。令和6年度の予算で仕組みをどうしていくのかを前向きに検討していきたい（鳥居）
- ・放送、イベント、YouTubeを連動させて展開する企画で、若い方にも見てもらいたいため全6回のミニ番組を制作した。番組は5分で編成。YouTubeは30万回を超える再生数。第1回のリアルイベントは時間内に収まらないくらい質問があり、第2回も実施することとなった。BSフジでは、今回は戸塚純貴さんの出演を1年間配信の許可が取得、会場に参加できない方にも広げられるようになった（山田）
- ・ニッポン放送では、年末年始に30分ずつゲストを変える特別番組を放送。安藤なつさんの実体験の話が印象的だった。もっとじっくり聞きたかったとの声があった。テレビとは違う形で発信できてよかった（佐々木）
- ・広告宣伝はどのように広がったのか。LINE広告なども検討してはどうか（梅本）
- ・BSフジのイベントでの質問の形式は、その場からの質問以外に後から質問を受け付けることをしたのか（篠原）
- ・神奈川県は介護の感動的な出来事の商品を募集して（70-80件ほど）優秀作品を出しており、都道府県との連携事業などを進めていけたらよい（篠原）
- ・11月のトークイベントに参加して大変よい内容のイベントだった。当日の参加者にサービスを受ける側の方が参加しており気づかされることを多かった。3月のイベントも引き続き幅広く意見をもらい有意義な会にしてもらいたい（神林）
- ・今回は情報発信がうまく機能している。自然体で素直な語り口で共感される番組だった。アーカイブにしてオンデマンドで見られるようにする。情報発信の効果が出てきた。きっかけではもっと結果を出して欲しい。10万人から100万人目指して欲しい。魅力的なコンテンツを考えて進化していく、情報をいかに取るかがポイントである。都道府県から情報を提供してもらいプラットフォームに乗せて上手に発信してもらいたい（瀬戸）
- ・ゆうゆうLifeの年齢層は男性で高齢の方もいる。ゆうゆうLifeそのものは女性が多いのはなぜか。データで確認して欲しい。NHKで放送されている「ニッポン知らなかった選手権」の介護特集をみて感じたことがあった。介護という形で惹きつけるのか、もともとある人気番組に組み込んでもらえないか。後者のやり方を来年フジテレビでできないか検討してもらいたい（井上）
- ・関心層はテレビを見てくれているので、無関心層へのアプローチが大事（井上）
- ・都道府県での取り組みで全国での共有の場のプラットフォームができてよかった。全体的には関心層、無関心層にどうアプローチしていくのか。1年目からコンテンツを増やしていき蓄積されシリーズ化されていき、どの層にどう伝えていくのかが重要なポイントである。今回ゆうゆうLifeイベントに参加している「こうほうえん」の取り組みは、コンテンツを伝えると同時に若年層に知ってもらい考えるきっかけを作る地道な取り組みにはよい。転職を考える層（中高年層）には、仕事としてどうなのか、転職して実際どうだったのか、業界そのものが日本においてどのような展望をもっているのか、無関心層に訴えていき関心を取り込んでいく、生活に密着した取り組みをしていきたい（光元）

●今後の対応

- ・入門的研修動画を終了したあとの連携の取り方。関心だけに終わらず就労へ繋げてい

く工夫をしていく

・無関心層、転職を考える層へのアプローチをどうしていくのかを引き続き検討していく

■ 【協議事項2】効果検証

● 意見

・福祉介護のオンラインが若者に響いていたことがよかった。無関心層が目にしてくれる機会がもっと広くあればよい。介護はちょっとおもしろそうだ、という人が一人でも増えたらよい。アンケートの結果でイベントの前より関心が持てたという結果が出ている。幅広い層に見てもらうことが大事。介護を熟知している層とそうでない層とで関心の項目が違うため、ばらけた、いろんな要素があると、一人でも刺さる人がでてくる。入口部分をどこで作るのか。介護の世界は固定観念が大きく、介護はきつい、大変と思っている人が多い。介護はデジタル化されてきて近未来的なところもある。その中でお年寄りや働く人達に笑顔もあり、この二つの要素をしっかり伝えられると新しい介護の魅力を発見できる。「ニッポン知らなかった選手権」に介護のことが出てきたことはよかった（白井）

・アウトカム評価は興味を持つ人が増える、仕事内容に理解が増えるなどが最終的なアウトカムとなるが、今回は情報発信という事業なので、どの年代の人たちがどのくらいの回数をみているのかを評価の対象にしたほうがよい。これだけの人たちが関心有無に関わらず、動画・番組を見る、イベントに参加することからアウトカムにつながる人が少しでも増えるとよい。もともとのアウトプットとして観てくれる人が非常に大事。来年度はそれを含めてできるとよい(井上)

● 今後の対応

・無関心層が目にしてくれる機会をもっと作る必要がある
・イベントでのアンケート結果をしっかりと検証していき、引き続き介護の新しい魅力を発信していくにはどうしたらよいか検証していく

■ まとめ

・「こうほうえん」から事業に参加させてもらい、子供たちに介護の魅力を伝えるところを動画にも撮ってもらい、法人の中ではその動画を活用させてもらっている。自分たちで撮るよりもプロが撮ってもらいと、とてもキレイになり感謝しかない。介護の魅力をどの切り口から攻めていくのか。ICTも進化している現場が増えてきているので、介護の現場も泥臭くなく変わってきていることも新しい切り口になる（梅本）

・動画撮影のときに参加させてもらい、ターゲットを考えて新しく YouTube 配信をする試みを楽しく参加させてもらった。発想を広げることが大事。興味がある人たちはリアルで参加してくるが、リアルでない人に少しでも興味を持ってもらいたいのいろいろな情報を発信していくことが必要である。ICTの進化により機械が得意な人達にも介護に携わりたいと思ってくれる人が出てきても良い。固定概念を外して引き続き情報を発信し続けることが大事（白井）

・新聞広告の記事をみて、40代50代は子育てが終わってある程度時間的に余裕があるのでターゲットをオール年齢でなく年齢別にして発信していくとよい。全国社会福祉協議会の社会福祉法人経営者協議会で人材の検討会をやっている。連携を取りながらやっていけたらよい（篠原）

・行政の立場で言うと、介護人材不足は度々大きな問題として取り扱われている。来年度の新しい取り組みとしては小中高生の若い世代向けに介護の魅力ややりがいを介護職員が出前講座をして伝える。幅広い方々に介護の魅力を知ってもらいたい。入門的研修動画のニーズが高いと認識している。ICTのツールなども使いながら介護に接することがなかった層にも関心を持ってもらうようにアプローチ。現状アウトカムというよりアウトプッ

トで少しでも人数を増やすことで介護に興味を持ってもらい、ゆくゆくは就労まで繋がる地道な下地を作っていくこと、目先のことだけではなく裾野を広げていくことが大事（鳥居）

・プラットフォームを作る。魅力的なコンテンツをプラットフォームいっぱいに掲載していくこと。アーカイブがたくさんありオンデマンド配信で常に見られることがポイント。そこに誘導する SNS とホームページの役割は基本的に違っているので SNS で最新の情報を出しながら誘導していき、魅力的なコンテンツに繋げていくことが大事。コミュニティを作っていく次の戦略に役立つ。いまある「きっかけ」だけではどうかと思い、もう少しひねる必要がある。魅力的なコンテンツには動画が一番よい。無関心層を呼び込むには話題性も必要なので SNS を使うとよい。健康をキーワードにすると、みなさんとても関心があるのでよい（瀬戸）

・産経新聞社が今年も選ばれたのは、メディアとして力があるからである。いままでベタな感じでの福祉や介護の情報発信はずっとやってきており、それに対してメディアのプロを組み合わせてやらないともう難しいとわかって今に至っている。この何年間かやってきて入門的研修を含めて介護や福祉に関心ある層へのアプローチの仕方とか入門的研修の ICT を使った作り方はできてきた感じはある。あとは無関心層にどうやって繋げていくのか、この何年間は双方よくわからなく、かみ合わないままだったが、今年介護関係者とメディア関係者がかみ合ってきて、ブレイクスルーが近くにあるのではないのかという期待を込めて終われそうで来年度に期待したい（井上）

・介護にもいろいろな側面があり、デジタルや「子ども食堂」を切り口にしたりして介護を見ていく。経営面でも工夫されている事業者もたくさんある。シンプルに数字を見たときに非常に特徴のある事業なので、経済や経営学部の学生などにも幅広く興味を持ってもらえるようなコンテンツを作っていきたい（光元）

・コロナでリアルなイベントができず、なかなか無関心層にリーチをかけていくのが難しいと感じた1、2年だった。来年度はネット広告を活用した取組を強化しようと考えている。また、県も地域医療介護総合確保基金で魅力発信をしており、今年度ははじめて都道府県の取組との連携も図っていただいた。産経新聞社でも介護の日のポスター展をやってもらい、他の事業者にも都道府県との連携をお願いしてきたところ。都道府県や自治体と国がすべきことをすみ分けしながら効率的にやっていきたい（藤野）





図 2 - 3 第三企画委員会の様子

第3章 介護に関する入門的研修オンライン講座（動画）

3.1 オンライン講座の概要

令和2年度事業で開発をした「介護に関する入門的研修動画～顔認証（なりすまし防止機能付）」を本年度も活用して、横浜市の協力を得て受講生の募集、運営委託事業者による視聴用IDの発行、受講生の管理や推進、修了証の送付を実施した。

11月に事業間連携事業で参加した「介護のしごと魅力発信サミット」がきっかけとなり、静岡県が実証実験で導入するなど成果を上げることができた。

厚生労働省の入門的研修に準拠、白井孝子先生(東京福祉専門学校)監修

講座42本、1講座は約30分



1. 介護に関する基礎知識	3回
2. 介護の基本	3回
3. 基本的な介護の方法	20回
4. 認知症の理解	8回
5. 障害の理解	4回
6. 介護における安全確保	4回

■ 特色

1. スマホ視聴で受講ハードルが下がる
2. 受講生のすそ野拡大に活用できる



■ 機能

1. なりすまし防止機能(スマホ対応)
2. 早送り防止機能
3. ID発行、視聴進捗管理サポート
4. 事業運営全体のサポート



図3-1 介護に関する入門的研修オンライン講座（動画）概要

3.2.1 モデル事業の結果（横浜市）

横浜市では、10月に産経新聞神奈川県版でオンライン講座の募集記事を掲載、11月号市広報誌で告知したところ、予想を超えて102人が応募した。予算枠に達したために募集を早期で終了した。応募した方に、視聴用IDを付与、受講を12月から開始した。但し、当初から20人は、視聴登録せず、申し込んだだけとなり、課題となった。次年度以降の改善としては、介護の仕事を希望する人の枠を設けるなどで解決する方策を予定している。修了書を手にした人は68人で、昨年と同率の結果となった。また、受講前後でアンケートを実施、介護の仕事に対する意識や態度変容を検証した。（別掲）アンケート結果では、講座内容に対する満足度は高く、携帯電話やパソコンで簡易に受講できる点は評価が高かった。



産経新聞神奈川版9/10付



横浜市広報11/1号



TW広告 10/25~11/1

図 3 - 2 横浜市の募集媒体

3.2.2 モデル事業の結果（静岡県）

静岡県では、リアルによる入門的研修への受講者がなかなか集まらず悩んでいた。県からの提案で、受託事業者が急遽、令和5年1月から実証実験として募集した。告知媒体としては、静岡県LINE、静岡市LINE&Twitter、浜松市LINE、Twitter、Facebookで44名が応募、その後に実施した説明会に33名の参加、23名が視聴を開始して全員が終了した。募集期間が20日間、視聴学習期間が30日間しかない状況であったが、予想以上に大きな成果に繋がった。これは、年に数回実施しているリアル研修と同等以上の結果となった。



図 3 - 3 静岡県の募集媒体

3.3.1 就労マッチングのしくみ、実証実験

さらに今年度は、終了後の対応が課題となっていた就労までのマッチングの仕組みを実証実験で実施した。これは、LINEアプリを活用して、視聴の終了後にボランティア体験や施設見学会の希望、就労支援をメニュー化して、介護のしごとの魅力について理解促進するシステムを開発、同時に、電話でも相談できる体制を組んだ。

これは、地域医療介護総合確保基金の対象には、就労マッチングまでの仕組みが必須という神奈川県からの助言を受けて、実証実験として仕組みを構築した。電話で相談できる仕組みは、非常に有効と考えられるが、運営コストなどが課題となることがわかった。



図 3 - 4 就労マッチングのしくみ

3.3.2 就労マッチングの結果

就労マッチングの結果としては、受講生からの施設見学会など問合せや就労までには、残念ながら至らなかった。これは、受講動機が親や知人の介護が身近に迫り基礎的な知識を得ることを目的にした人が多く含まれていたことや、施設側が受け入れる態勢を組めていない（このレベルでの就労の需要があまりない）などが考えられる。また、受け入れ態勢については、各都道府県にある人材センターとの連携が重要と感じた。

介護に関する入門的研修は、介護の仕事に関する基礎を学ぶ点が重要で、そもそも就労まで繋げることが目的と合致していないと考えられる。気軽に受講する動画は、広く介護の仕事への理解促進ができるツールとしての活用は有用性が高いと思われる。

事業の各地域へ拡大の課題は、新たな取り組みとしてオンライン講座を茨城県、富山県、沖縄県などの各都道府県の担当課に説明したが、導入に至らなかった点である。理由としては、予算の確保時期と提案時期があわなかった事や動画を活用した研修が基金の対象にならないことで広がりを得ることができなかった点にあると考えられるので、今後の課題としたい。一方、横浜市は、神奈川県人材センターと連携することで、令和6年度に基金の対象を申請する準備を進めているという。

3.4 研修内容（シラバス）

研修動画の内容

タイトル	動画URL	タイトル	動画URL
第01話 介護の世界で?自分の可能性をみつける	http://vds.jp/WcaMgDAuvcz	第22話 食事を変える	http://vds.jp/1c7vPMsPPF5Q
第02話 突然やってくる介護のために	http://vds.jp/GjOteclwTy	第23話 清潔に保つために	http://vds.jp/yYs9N48r4DUZ
第03話 あなたならどうする!?身近な危険から身を守るために	http://vds.jp/Zouu5DrXwRbh	第24話 身体のメカニズムを整えるために	http://vds.jp/ThvKHnUj_b9j
第04話 知って安心。介護を支える社会環境	http://vds.jp/UN1EYsP8C3yL	第25話 日常生活の援助	http://vds.jp/BzYsvoDZL_1
第05話 加齢によるカラダの変化とココロの変化	http://vds.jp/NjvsDnoNcrzq	第26話 認知症の人を支えるために	http://vds.jp/bZCvZUjTexPr
第06話 年齢を重ねると病気になりやすい?～身体の機能の変化～	http://vds.jp/AF2sQGNuHxF	第27話 認知症の人はみんな同じ?病気し?ゃない	http://vds.jp/XSXvW6f8a0h_
第07話 年齢を重ねると病気になりやすい?～精神的機能の変化～	http://vds.jp/PzFEcaambR5o	第28話 認知症によるこころの変化	http://vds.jp/iso5mOnXrp0J
第08話 ちょっとしたカラダ?の変化を見逃さない?	http://vds.jp/BpkM4FXs413U	第29話 認知症は、高齢者だけ?の病気し?ゃない	http://vds.jp/YfEcEwM3rcVl
第09話 高齢者の命を守り、望まれる期を迎えるために	http://vds.jp/ix_9sa0Q7vWTQ	第30話 認知症の発症・進行を遅らせるためにできること	http://vds.jp/Yaa_81-Fi_Yw
第10話 いつまでも健康に暮らすために	http://vds.jp/N_6zcsfWwQ6	第31話 認知症の人との関わり方	http://vds.jp/Q2MnXTBomPFc
第11話 「苦しみ」は永遠のテーマ	http://vds.jp/BwwC-9rhX4AM	第32話_家族か?認知症になったとき	http://vds.jp/q2TxCf-ufslw
第12話 私生活で役立つ身体の楽な使い方	http://vds.jp/c_1LVoHf6s	第33話 地域で?支える認知症ケア	http://vds.jp/opp9v5sawQsN
第13話 「介護の世界」～介護の目指すもの～	http://vds.jp/EQS_VihFA9Y	第34話 障害児者のことを学ぶ?	http://vds.jp/ww43k01u7Hlc
第14話 「介護の世界」～介護の専門性～	http://vds.jp/yYKmgYAvs48z	第35話 身体に障害か?ある生活とは?	http://vds.jp/0MnCrY8kqLz
第15話 「介護の世界」介護サービスとは?（自宅で?利用する場合）	http://vds.jp/waHjUD113MTI_	第36話 知的障害と精神障害	http://vds.jp/ET89sw7Whnh
第16話 「介護の世界」介護サービスとは?（施設等に入居して?利用する場合）	http://vds.jp/m7uYviiRsn2Q	第37話 障害児とその家族の気持ちと関わり方	http://vds.jp/QYvYB1CisUy
第17話 「介護の世界」チームで?支える介護	http://vds.jp/M5sEjBxYs9C	第38話 ストレスに負けない!自分の心のケアの仕方	http://vds.jp/TIMcF0ZK6s4d
第18話 コミュニケーション能力を高め、人間関係つくり?に役立てる	http://vds.jp/DkQRsD2hscF	第39話 頑張らな?たくない・卒業したい!	http://vds.jp/yavXs45yE8to
第19話 生活の支えを支える技術	http://vds.jp/4CvQBxUn5Fv	第40話 感染予防をしっかりと	http://vds.jp/Bi7dR6hJSe
第20話 「プロのテクニック・移動、移乗編①」	http://vds.jp/g22TcVjw6c	第41話 介護の未来を考える	http://vds.jp/Z-uj45vMw8NwP
第21話 「プロのテクニック・移動、移乗編②」	http://vds.jp/s6hF0s666s	第42話 ～エピソード～ 子育てと介護、先輩からのメッセージ	http://vds.jp/uzMgTYP3s4T



研修テキスト



運営マニュアル



修了案内メール（見本）

図 3 - 5 講座の内容とテキスト、運営マニュアル

第4章 ファンコミュニティ

4.1 ファンコミュニティ「きっかけ」とは（狙い）

令和2年度に産経新聞社のオンライン上のコミュニティ「きっかけ」内に、介護や介護の仕事に興味を持つ人を集め、介護の仕事への理解を深めてもらうことを目的にしたコミュニティサイト「ゆうゆうLifeコミュニティ」をオープンし、今年度も1年間運営した。介護の仕事を知るための“きっかけ”となるよう、参加者にテーマを投げかけて投稿を促したり、イベントと連動してコメント投稿を促したりした。「きっかけ」では参加者の持つイメージや介護にまつわる体験が語られ、介護に関する素朴な疑問や、働く上で重視していることなどについて、ほかの参加者と情報交換できる場となった。また、イベントや動画・音声視聴などへの集客や、BSフジ番組視聴後の意識・行動変容などの取得、ニッポン放送の番組PRなど、各メディアとの連携も行った。介護や介護の仕事についてみんなが話せるコミュニティとして、介護の仕事の情報を伝え、興味を最大化させた。



図 4-1 「ゆうゆう Life コミュニティ」サイト

4.2 きっかけ内「ゆうゆう Life」の概要

- ・ サイト URL: <https://www.beach.jp/circleboard/af08100/topictitle>
- ・ 開設時期：2020年10月1日
- ・ 登録人数：2万6182人（2023年1月時点）
- ・ 目的：介護や介護の仕事に少しでも興味のある人同士でコミュニケーションを交わすことで、より介護への理解を深める場所とし、介護の仕事にも興味を最大化させる。
各メディアと連携を取り、介護や介護の仕事についてみんなが話せるコミュニティとしての機能を果たす。

■ ネットワークの状況

● コミュニティでの活動データの蓄積

コミュニティでの活動データの蓄積として、リンク数(※)、登録人数、投稿数、拍手数の推移を示す。

※ リンク数：投稿または拍手により、ユーザー間に生じた関係性の総数。

データ抽出期間：2022年4月～2023年1月

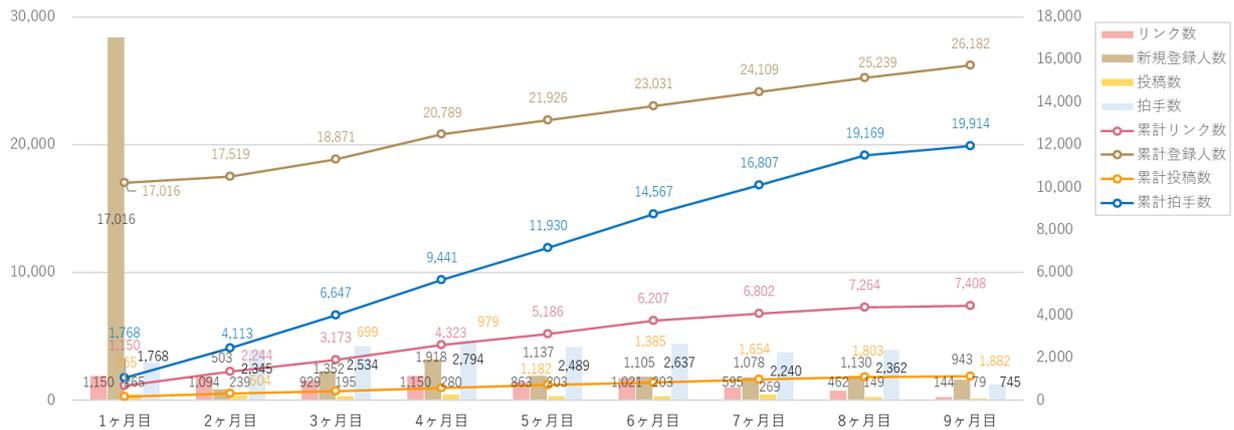


図 4-2-1 「ゆうゆう Life コミュニティ」活動データ

● 参加者の属性

参加者の性別は女性が約6割。年代は30代～50代が約6割を占める。

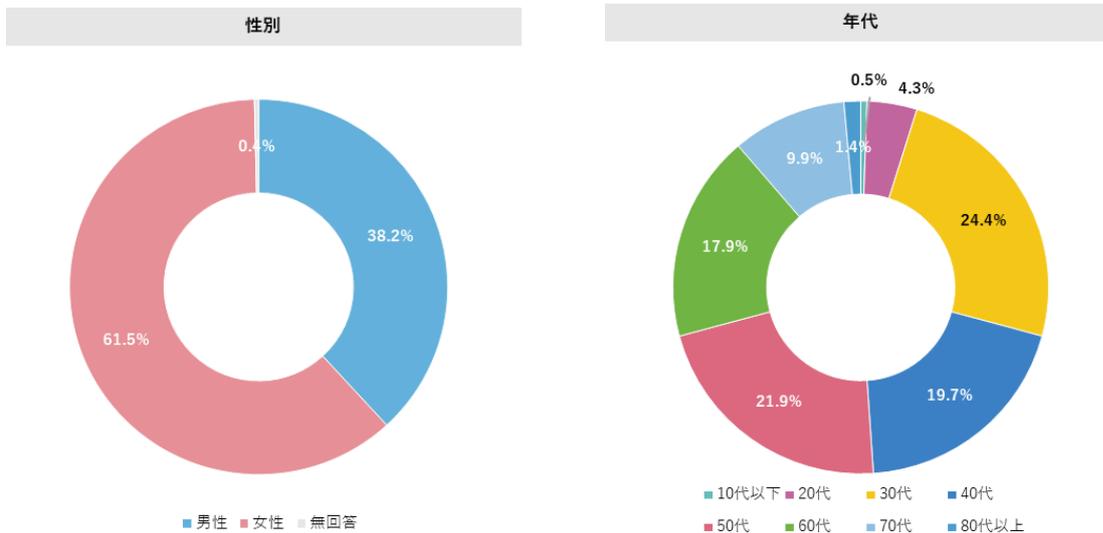


図 4-2-2 「ゆうゆう Life コミュニティ」参加者属性（性別・年代）

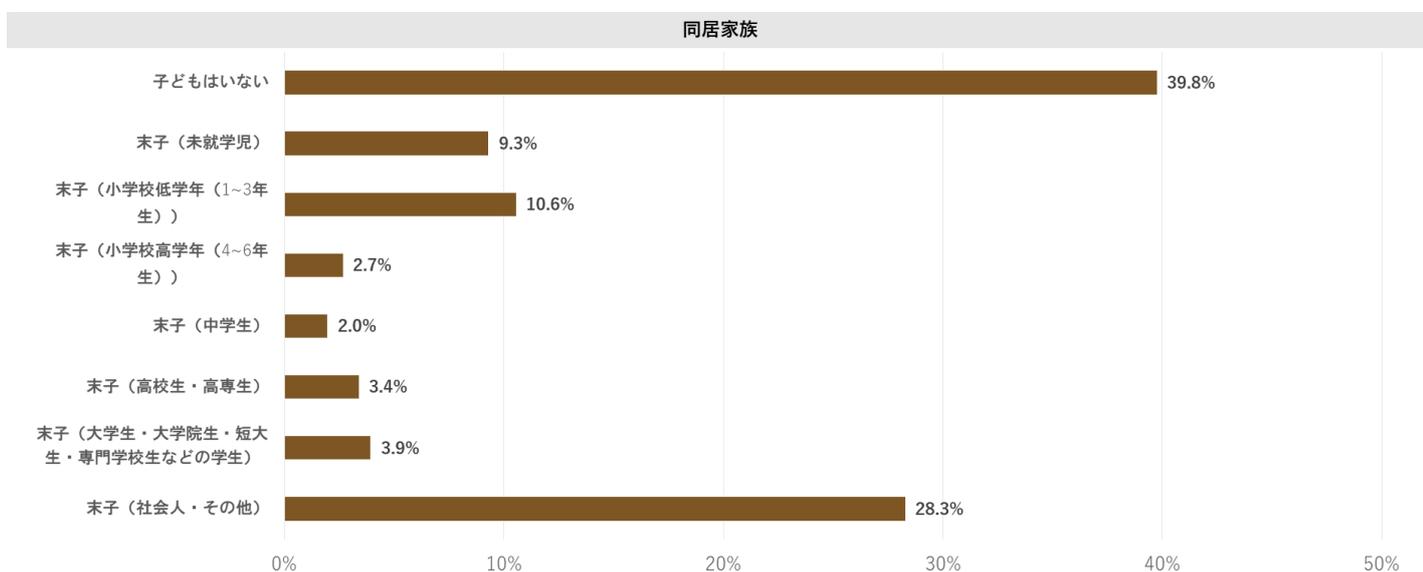
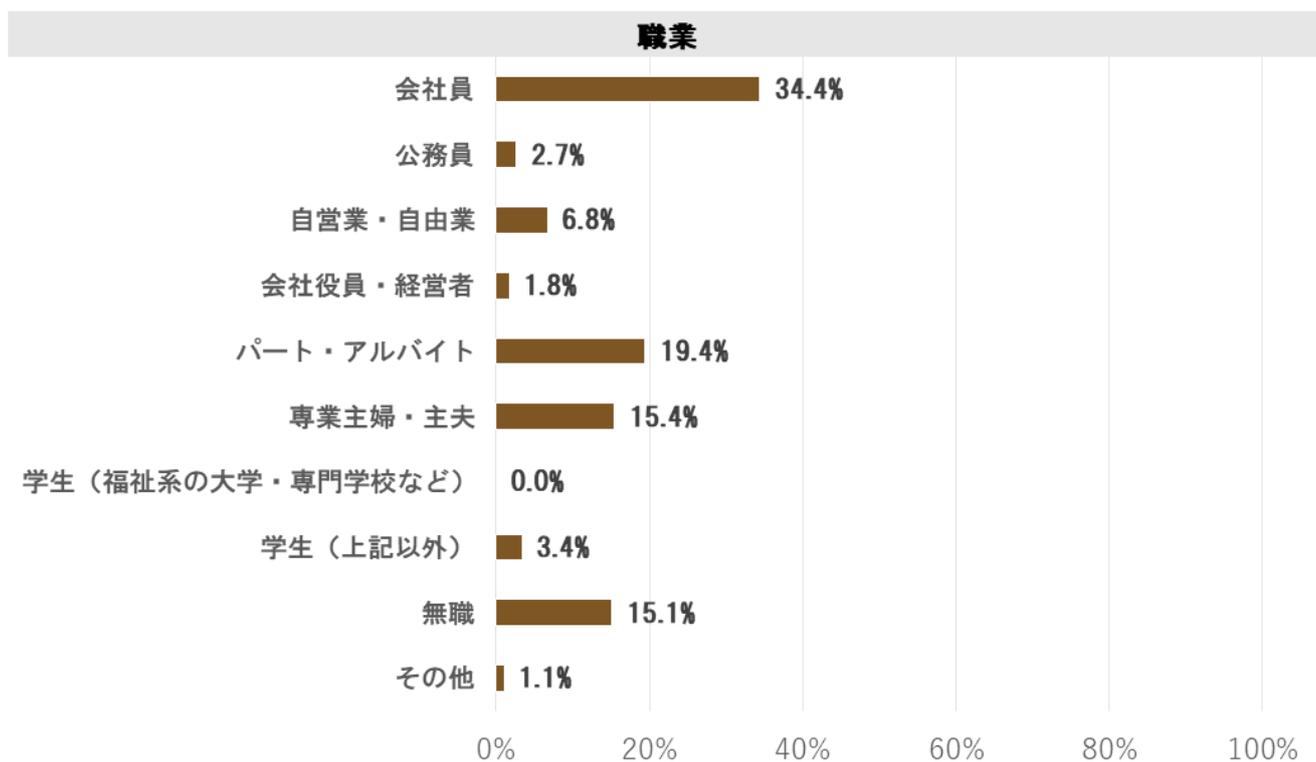


図 4-2-3 「ゆうゆう Life コミュニティ」参加者属性（職業・同居家族）

4.3 アウトプット（投稿等実施した内容）

コミュニティ内で介護にまつわるテーマを投げかけ、参加者がそれに対してコメント投稿をしたり、他の参加者のコメントに拍手や返信などを行ったりすることで、コミュニケーションを活性化させた。

表 4-3-1 年間の投稿

施策	テーマ名
1	働く上で重視していることは？
2	「介護のお仕事」に関する素朴な疑問大募集！
3	＼11月11日は「介護の日」／ポスター・チラシ展開催のお知らせ！
4	＼戸塚純貴さんが出演／「介護の日」にちなんだBSフジのテレビ番組・トークイベントのお知らせ
5	「資格がなくてもできる」介護のお仕事ってあるの？
6	ラジオ放送のお知らせ★ニッポン放送で介護の魅力をお伝えする特別番組を放送します！
7	ゆうゆう Life 公式 Youtube からキャンペーンのお知らせ★
8	戸塚純貴さん参加★3月4日にBSフジ無料トークイベントを開催しました

■ 介護漫画「やっぴりのんびりいこうよ」を新規掲載

公式サイト「ゆうゆう Life」に掲載している介護漫画「のんびりいこうよ」の続編にあたる「やっぴりのんびりいこうよ」をきっかけに新規連載。

冒頭に作者の赤羽みちえさんからのメッセージも掲載し、公式サイト運営だけでは補いきれない双方向のコミュニケーションを実現した。

2023年1月までの投稿数44話。

● 事例

2022年5月26日掲載 題名：「赤羽みちえさんの介護まんが第41話、42話です！」

▼赤羽みちえさんからのコメント

今回もクスツとの中に考えさせていただきました～

みなさんはどうですか？

ご自分のこと好きですか？

自分を大事にしていたら、周りも大事にしてくれて、人にも優しく出来るのかなんて。

優しい循環をさせていきたいですね。

▼漫画 41 話、42 話



▼寄せられたコメント

from: ラベンダーさん 2022年05月28日 13時44分56秒
 結構話がコンパクトにまとめられており今回も次回も楽しみにしています。
 コメントする 拍手する 15

from: 野うさぎさん 2022年05月28日 13時09分27秒
 4 2 話、楽しく読ませて頂きました。
 時には、切実な思いで読むこともあります。☹️
 コメントする 拍手する 16

from: バンテオンさん 2022年05月27日 11時02分17秒
 今回も楽しく読みました。
 このシリーズは面白いので、今後も続けて欲しいなあと思います。
 コメントする 拍手する 17

from: よっしさん 2022年05月26日 23時47分12秒
 いつも赤羽さんのマンガ楽しみにしています。
 4 2 話、自分ならと考えるながら読んでいました。
 コメントする 拍手する 18

from: ALLENさん 2022年07月27日 08時21分13秒
 介護まんがから 学ぶことも多いです。
 コメントする 拍手する 3

from: ちよびんちゃんさん 2022年07月16日 15時16分11秒
 自分の事好きですか、って何気ないけれど凄いい質問ですね。
 ちょっと考えさせられました。
 コメントする 拍手する 3

from: ラベンダーさん 2022年07月09日 17時17分33秒
 自分の事好きですか？という問いに
 自分の事が好きだったら他人のご好きになれないという事なのかな？
 と考えたりしました。
 自分のこと好きになれないということは何か不満があると言う事なので
 他人にかまう余裕がない？って感じなのかなと思ったりしました
 このひとコマ漫画結構奥が深いですね～
 コメントする 拍手する 3

from: マークさん 2022年07月02日 17時39分19秒
 様々あるけれど 真理は シンプルであるから
 けれど 人は 様々な事に、、、
 それでも 答えは 世の中を 巡って居る
 ☆ミ
 コメントする 拍手する 3

4.4 アウトカム（成果）および分析

4.4.1 ファン化の状況

● 「介護」のイメージ

「介護」について、90.3%のユーザーが、「周囲の理解やサポートが必要だ」と回答した。

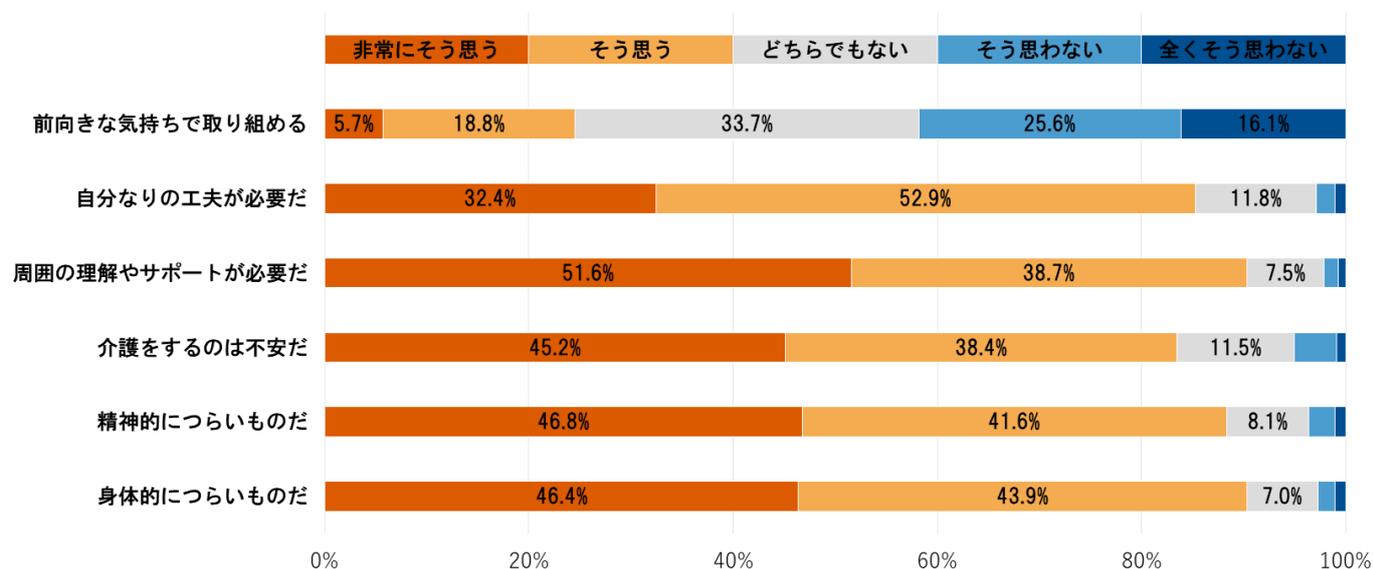


図 4-4-1 「ゆうゆう Life コミュニティ」ユーザー 「介護」のイメージ

● 「介護」との関わり

43.2%が「親や家族などの介護のことに興味がある」と回答した。

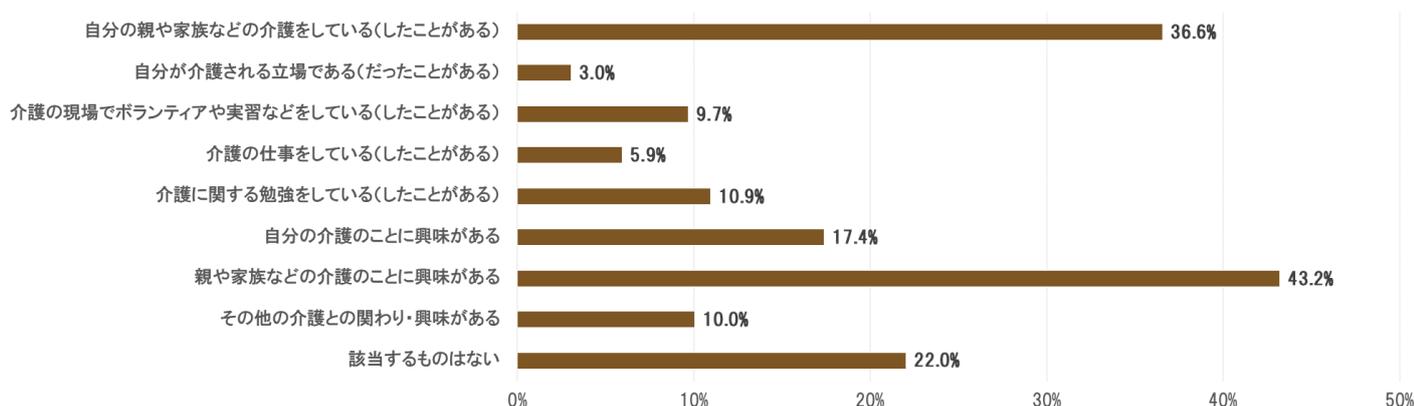


図 4-4-2 「ゆうゆう Life コミュニティ」ユーザー 「介護」との関わり

● コミュニティ参加による態度変化(1/3)

コミュニティ参加により、53.1%が「『介護』について、知識をもっと得たいと思うようになった」について、「大いにあてはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した。

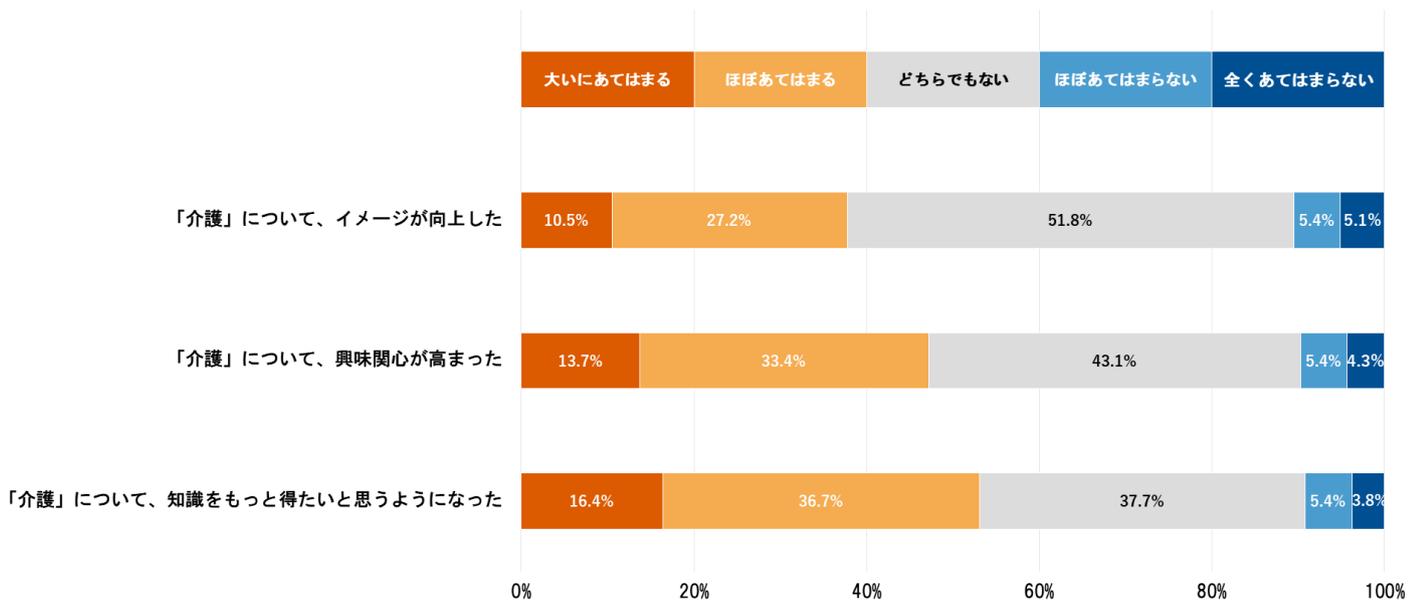


図 4-4-3 「ゆうゆう Life コミュニティ」参加後の「介護」に関する態度変化

● コミュニティ参加による態度変化 (2/3)

コミュニティ参加により、59.0%が「『介護の仕事』は専門性が高い仕事であると感じるようになった」と回答した。

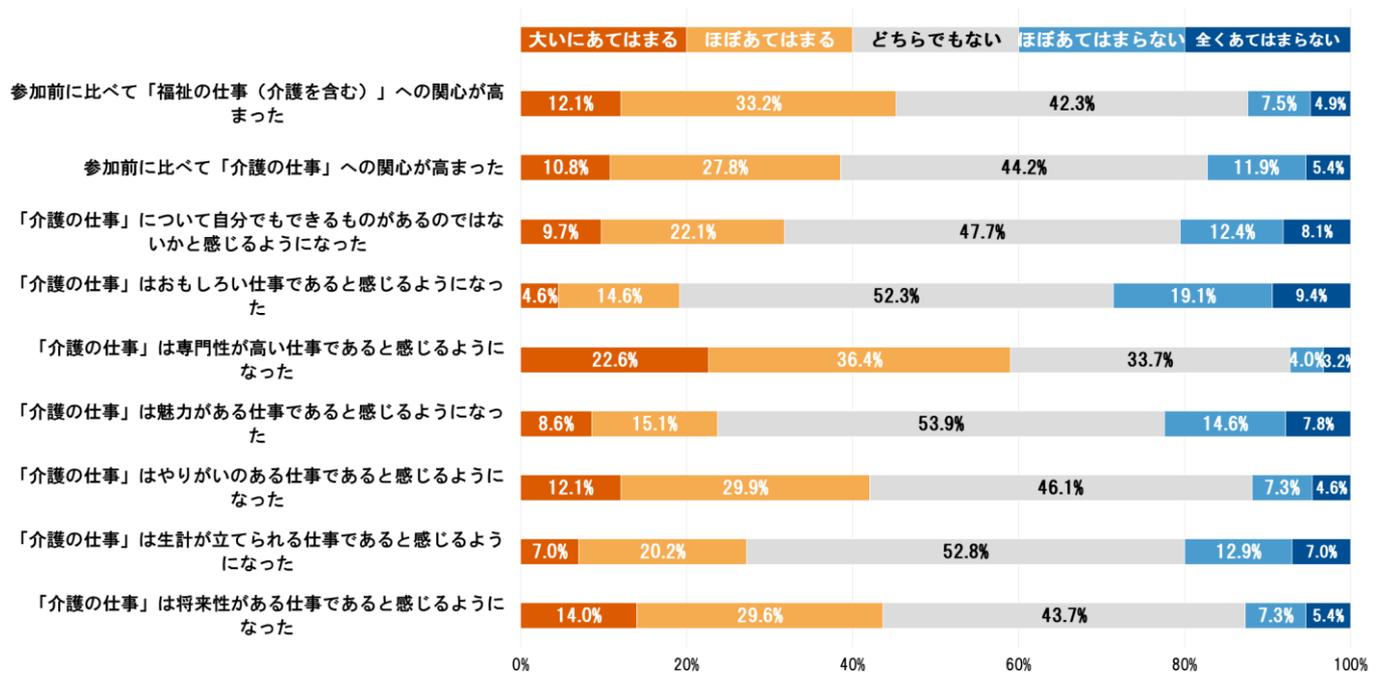


図 4-4-4 コミュニティ参加後の「介護の仕事」に関する気持ちの変化

● コミュニティ参加による態度変化(3/3)

コミュニティ参加により、55.5%が『介護』に関する記事や番組などを見る」と回答した。

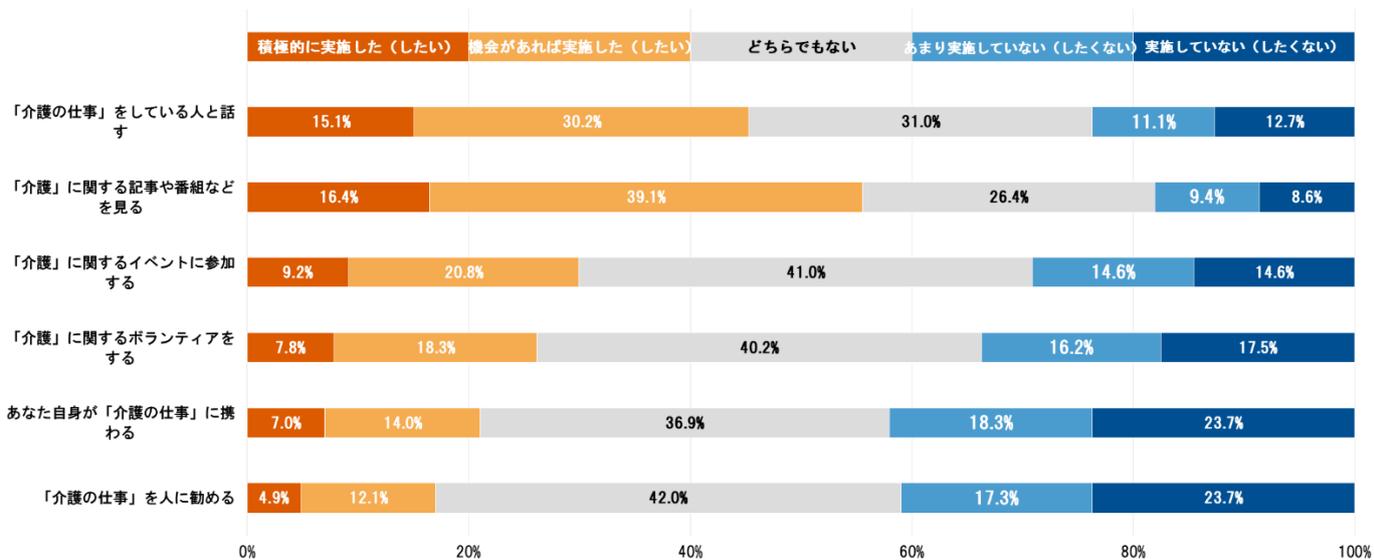


図 4-4-5 コミュニティ参加前後での「介護」や「介護の仕事」に関する態度変化

● 活動と「介護」のイメージ

コミュニティでコメント投稿をしたユーザーは、していないユーザーよりも、「介護をするのは不安だ」「身体的につらいものだ」の割合が高かった。

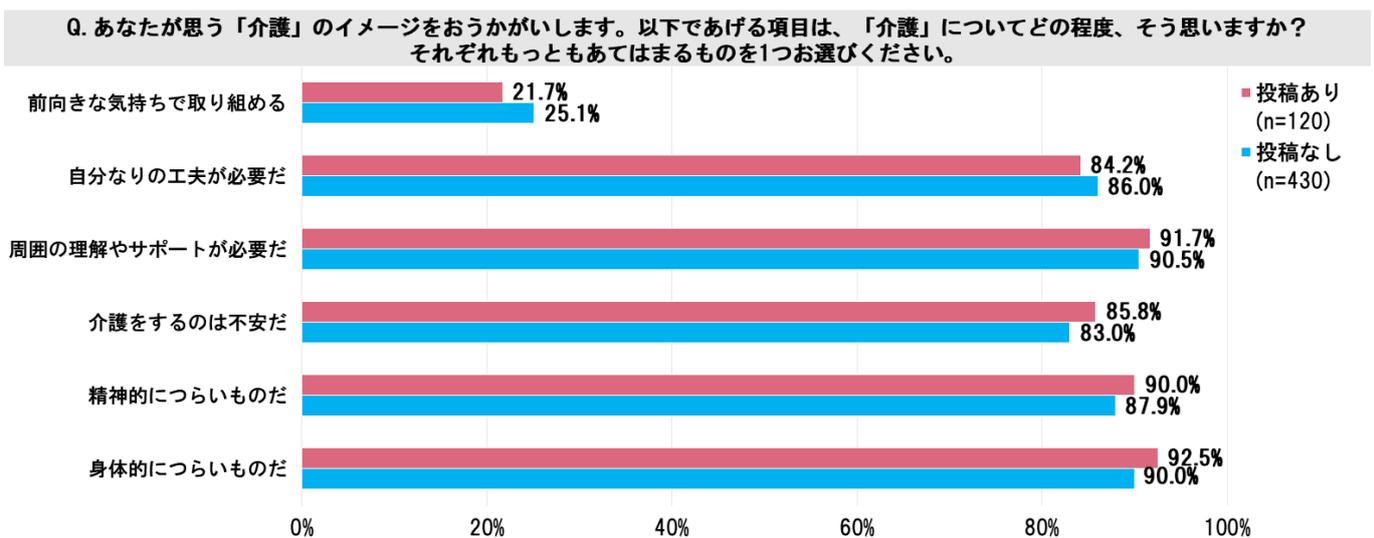


図 4-4-6 「ゆうゆう Life コミュニティ」活動×「介護」のイメージ

●活動と「介護」との関わり

コメント投稿をしたユーザーは、していないユーザーよりも、「自分の親や家族などの介護をしている（したことがある）」の割合が高かった。

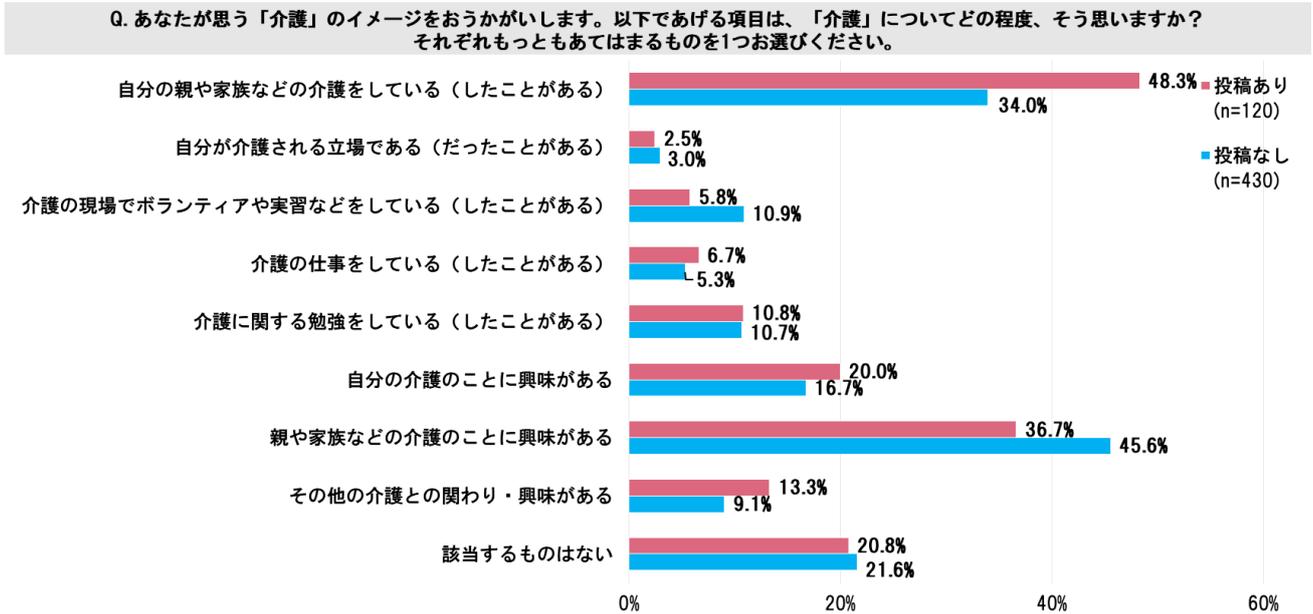


図 4-4-7 「ゆうゆう Life コミュニティ」活動×「介護」のイメージ

●活動とファン化の関係

コミュニティでコメント投稿をしたユーザーは、していないユーザーよりも、「介護」について、興味関心が高まった。

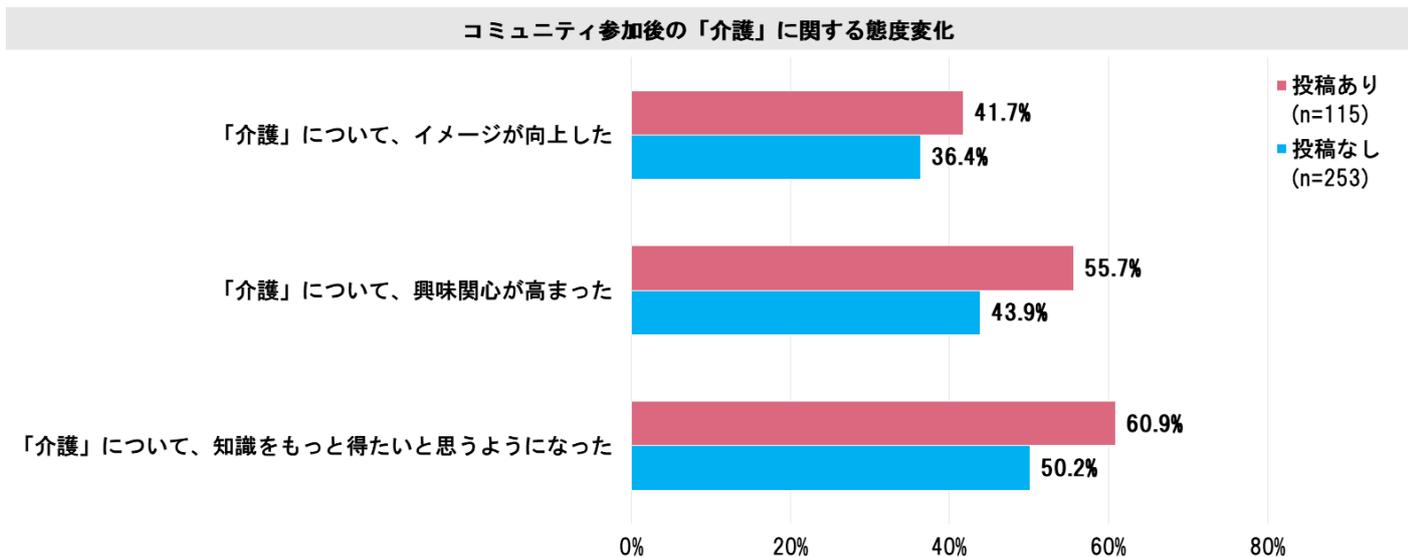


図 4-4-8 「ゆうゆう Life コミュニティ」活動×コミュニティ参加後の「介護」に関する態度変化

コミュニティでコメント投稿をしたユーザーは、していないユーザーよりも「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった。

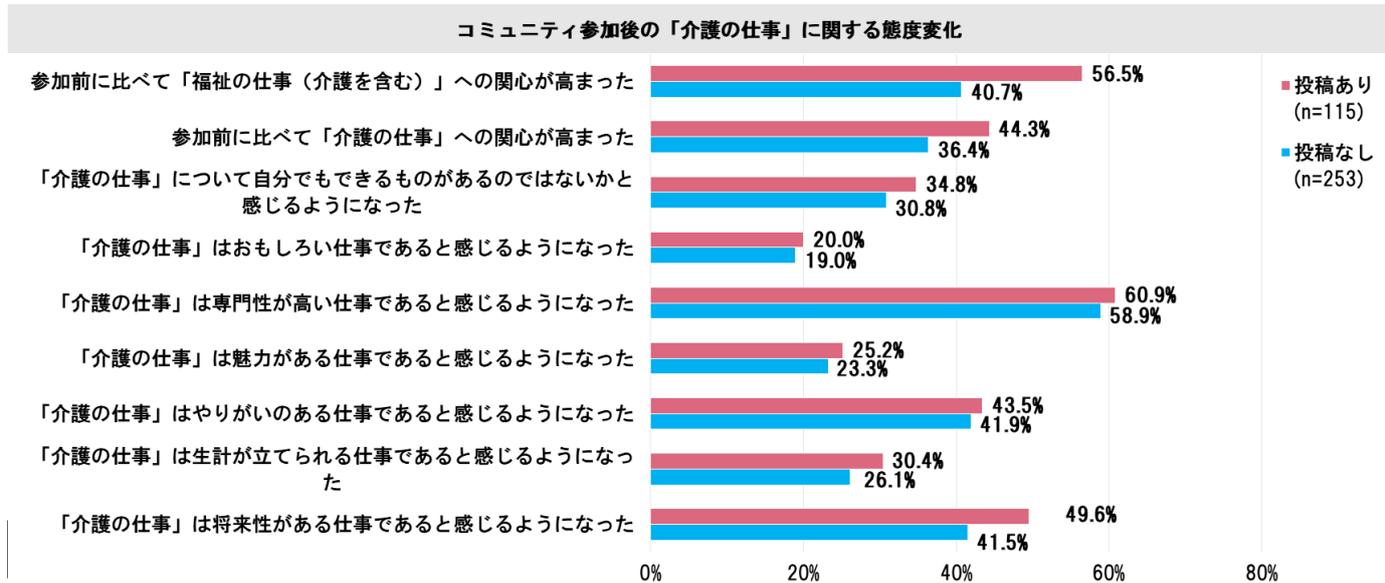


図 4-4-9 「ゆうゆう Life コミュニティ」活動×
コミュニティ参加後の「介護の仕事」に関する態度変化

コミュニティでコメント投稿をしたユーザーは、していないユーザーよりも、「介護」に関する記事や番組などを見ていた。

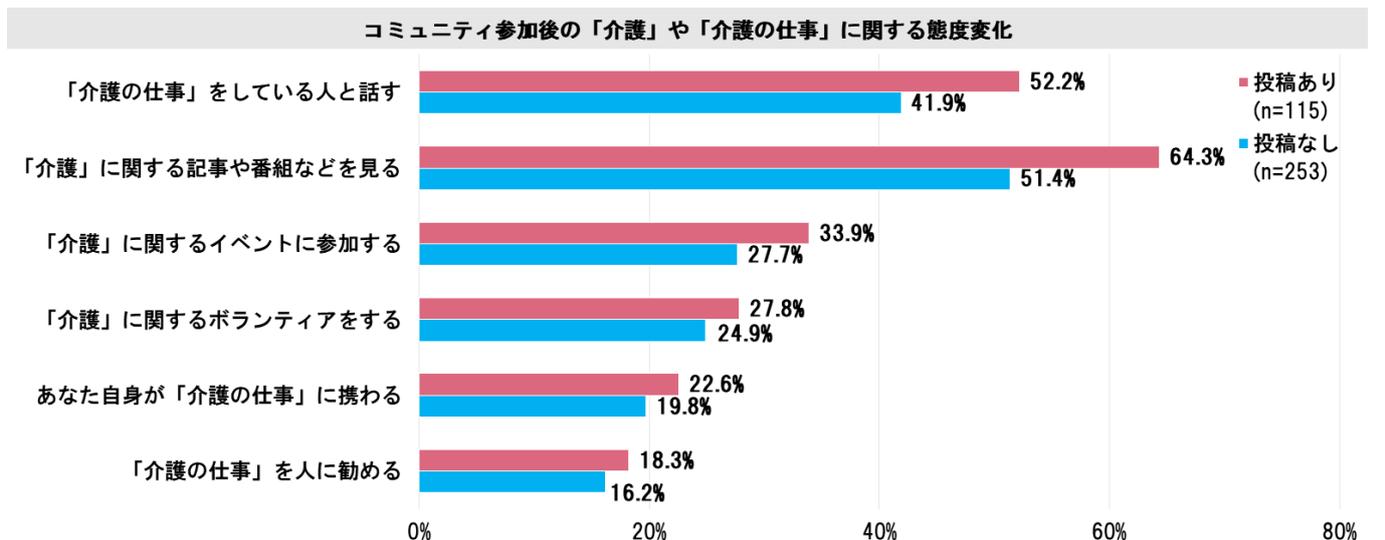


図 4-4-10 「ゆうゆう Life コミュニティ」活動×
コミュニティ参加後の「介護」や「介護の仕事」に関する態度変化

4.4.2 ファン化に影響した施策

多くの人に参加したのは、施策1「聞かせて☆働く上で重視していることは？」。

ファン化した人とそうでない人の差分が大きかったのは施策5であった。

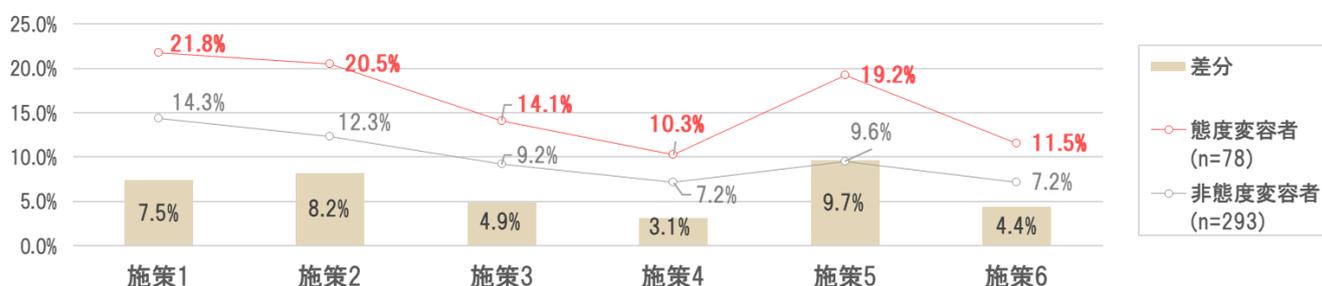


図 4-4-11 ファン化に影響した施策

表 4-4-1 ファン化に影響した施策

施策	テーマ名
1	聞かせて☆働く上で重視していることは？
2	「介護のお仕事」に関する素朴な疑問大募集！
3	＼11月11日は「介護の日」／ポスター・チラシ展開催のお知らせ！
4	＼戸塚純貴さんが出演／「介護の日」にちなんだBSフジのテレビ番組・トークイベントのお知らせ！
5	「資格がなくてもできる」介護のお仕事ってあるの？
6	ラジオ放送のお知らせ★ニッポン放送で介護の魅力をお伝えする特別番組を放送します！

全体を通して最も多くのユーザーが参加した施策は、施策1「聞かせて☆働く上で重視していることは？」であり、態度変容調査回答者の10割超（態度変容調査回答者以外も含むため）が参加していた（態度変容調査回答者以外も含む）。一方で、態度変容者のみが特徴的に多く参加していた施策は「『資格がなくてもできる』介護のお仕事ってあるの？」、続いて「『介護のお仕事』に関する素朴な疑問大募集！」であった。全体として態度変容者は、介護の仕事の話に関する施策への参加が多くみられた。

■ 自分自身が「介護の仕事に携わる」ことを実践した（したい）ユーザーによる共感(拍手)が特に多く集まったコメントを抽出

トピック：聞かせて☆働く上で重視していることは？

※名前、年代、性別、イイネ数／ビュー数

働く上で重視していることってどんなこと？
職場チーム 課、係 一丸の気持ち **人間関係** そして、**心と体の健康** が大切です。
三毛猫さん (70代 男性) 4回/23回

働く上で重視していることってどんなこと？
役所でバイト中ですが **定時で行き帰る 人間関係とコミュニケーション** これで充分です
ケビンさん (60代 男性) 3回/24回

働く上で重視していることってどんなこと？
飲食店勤務なので感染対策徹底ですね。食品ロスゼロマスクでも**笑顔返事はハッキリ** バタバタでも**慌てず急ぐ**
ミューさん (50代 女性) 3回/26回

働く上で重視していることってどんなこと？
生活と仕事がバランス良く継続できること。
トマトロさん (60代 女性) 3回/23回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係で**仲間割れしない**ようにしています。
いちごの小春さん (40代 女性) 3回/25回

働く上で重視していることってどんなこと？
常に期待に応えられるような人材を目指しています。
ALLENさん (40代 女性) 3回/23回

働く上で重視していることってどんなこと？
楽しく働きたいので、**人間関係を重視**します。
よこーたさん (40代 女性) 3回/24回

働く上で重視していることってどんなこと？
初心を忘れない。目上はもちろん、同僚、目下の人に対しても**謙虚な心で接して助言や意見は素直に受け止める**。
ららさん (60代 女性) 3回/23回

働く上で重視していることってどんなこと？
風とおしの良さと**人間関係**
ゆゆさん (40代 男性) 3回/23回

働く上で重視していることってどんなこと？
他責にせず、自分の行動を改め、素直に謙虚に受けとめ感謝の気持ちを忘れずに、感謝しながらお仕事すること！
gumgumさん (40代 男性) 3回/22回

働く上で重視していることってどんなこと？
とにかく何かの役に立つように！ それだけです。
こじか4さん (50代 男性) 3回/22回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係です
mikaさん (40代 女性) 3回/21回

働く上で重視していることってどんなこと？
がんばりすぎない
リウザキさん (40代 男性) 3回/22回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係。お互い気持ちよくお仕事したいです。
sarisariさん (40代 女性) 3回/21回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係
野うさぎさん (80代 女性) 3回/22回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係。
Rumpelstiltskinさん (40代 男性) 3回/19回

働く上で重視していることってどんなこと？
健康、ヤル気、飽きない、周りとの人間関係でしょう♪
こうちゃんさん (70代 男性) 3回/19回

働く上で重視していることってどんなこと？
他人の悪口を、いわないこと。
野うさぎさん (80代 女性) 3回/19回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係。楽しく働けるのがいいですね
ひまわりママさん (60代 女性) 3回/19回

働く上で重視していることってどんなこと？
毎日、きちんと、あいさつをすることが、大事だと、思
います。
クボちゃんさん (60代 女性) 3回/18回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係でみんな仲良く
teruteruwasiさん (70代 男性) 3回/19回

働く上で重視していることってどんなこと？
挨拶はしっかりする **任せられたことは責任をもってや
りとげる**
めがっぺさん (40代 女性) 3回/18回

働く上で重視していることってどんなこと？
責任感を持つこと。心遣いをすること。人をあてにし
ないこと。
さくらんごさん (50代 女性) 3回/19回

働く上で重視していることってどんなこと？
お仕事をして給料を頂くって本当に大変なことです。
でも人間は働くようにできていますね。仕事を退職し
てからその大事さがわかったような気がします。いや
いや働くのではなくて**楽しく働く**そうすると**外の人にも
楽しい気持ち**が伝わって**仕事も楽しくなる**かと思いま
す。
あゆさん (70代 女性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
コミュニケーションが大切です。人間関係で楽しい職
場にしたいです。
くりゆみさん (60代 女性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
お給料以上の**パフォーマンスをあげる**こと
わんごさん (40代 女性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係です。**コミュニケーションを大切**に考えていま
す
けいこまりさん (40代 女性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
社内社外問わず、コミュニケーションです。相手をよく
見る事、よく聞く事、気づく事を大切にしています。
(仕事を正確に責任を持ってする事は当たり前なので
除けています。)
Warren.Mさん (30代 女性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
現役時代は 安全管理、 部下の処遇の公平性、コミュニ
ケーション、 注意する時、大事な話しは別室とする 上
司が責任を取り部下は思い切り働く 役所の非常勤職員
の今は **楽しく、人間関係重視**、昔の事は言わない
ケビンさん (60代 男性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
長く勤められる職場か？
万年おじさんさん (60代 男性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
人とのコミュニケーションです
ばび0618さん (50代 女性) 3回/16回

働く上で重視していることってどんなこと？
自分が合わず事もおおいに必要ですがある程度**自分に
合うかどうか**が**長続きする一環**だと思います。
こうちゃんさん (70代 男性) 3回/17回

働く上で重視していることってどんなこと？
利用される方の満足度です。
万年おじさんさん (60代 男性) 3回/16回

働く上で重視していることってどんなこと？
社内融和ですかねえ
真実のダーリンさん (60代 男性) 3回/16回

働く上で重視していることってどんなこと？
人間関係、給料、簡単な仕事
さくさん (30代 女性) 3回/16回

第5章 イベント実施報告

5.1 企画背景

本事業において、公式サイトを含めたメディアによる情報発信だけでなく、ターゲット層が実際に参加できるイベントを開催することが必要であると考えた。本来は、介護施設などの協力を得て体験型イベントを開催するなどし、実際の現場や介護職の方々に触れることで、介護未経験のターゲット層にもより深くリーチすることが期待された。

しかし、新型コロナウイルスの収束が見通せず、施設内で高齢者と接触するリアルイベントの実施は困難と考えられた。そのような状況だったが、今年度はいくつかのイベントを実施できた。

産経新聞社では、子供たちに介護に関心を持ってもらおうと「TEAM KAIGO」を企画した。介護施設や高齢者住宅の賛同を得て、現役の介護福祉士が講師となつて、お年寄りとのコミュニケーションの基礎を学ぶ機会を地域の中学生に提供した。

イベントのひとつが、「TEAM KAIGO」の趣旨に賛同した「社会福祉法人こうほうえん」と企画・立案した催事で、介護福祉士による講習会と高齢者の日常を体験し、介護の必要性を体験してもらった構成とした。今回は東京都板橋区の向原と同品川区西大井の施設で、中学生を対象とした。

また、介護の仕事の魅力を幅広く情報発信したいと考え、各自治体が取り組んでいる、11月11日の「介護の日」に向けた「情報」にスポットをあてた。当初は各都道府県の介護の施策を紹介するオンラインイベントを視野に入れたが、内容を変更。介護の取り組み内容が一覧できるポスター・チラシに着眼した「ポスター・チラシ展」を企画し、東京都千代田区大手町で実施した。

さらに、オンライン番組も企画した。介護職の一日や入居者の方々と一緒に行う体操、クイズなどを盛り込み、介護の仕事を紹介した企画「こどもヘルパー講習会」をオンラインで配信した。

5.2 イベント概要

5.2.1 こうほうえん向原イベント

講習会および施設主催の屋外イベント「かけはしまつり」で地元の中学生が高齢者へインタビューを行う2部構成とした。

- 【講習会開催日時】 令和4年10月8日 9:30～11:30
- 【テーマ】 「知る・体感する・考える」の3部構成
- 学びの時間 (地域・高齢者の歴史)
 - コミュニケーション (高齢者疑似体験)
 - 考える (自分達にできることは?)
- ※11月6日「かけはしまつり」のインタビュー項目を考える
- 【講師】 こうほうえん向原
- ・介護福祉士 友重敦子氏
 - ・介護福祉士 高井裕一氏
 - ・入居者の方 非公表
- アシスタント
- いたばし総合ボランティアセンター
- ・介護福祉士 阿部邦康氏

- 【かけはしまつり】 11月6日、「コーシャハイム向原7号棟」をメイン会場に、近隣の公園で開催された「第4回かけはしまつり」が開催。
そこで、中学生による地域高齢者へのインタビューを実施した。
※両日とも板橋区立上板橋第二中学校の生徒9名が参加

5.2.2 こうほうえん西大井イベント

1日講習会の構成とした。

【講習会開催日時】 令和4年10月10日 10:00~10:30

【テーマ】 「お年寄り」を知ろう！
年をとるってどういうこと？（身体や気持ちに生じる変化）
体験会
・コミュニケーション体験、車いす体験
・グループワーク
テーマ「お年寄りと接する時に気を付けること」
※品川区立伊藤学園の生徒6名が参加

【講師】 こうほうえん西大井
・介護福祉士 船橋美沙氏
アシスタント

※受講後、記念品を授与。後日「TEAM KAIGO」の認定書を授与した

産経新聞社は、両イベントとも募集ツール制作・イベント構成の立案などをサポート。
また、参加した中学生に、記念品・グッズを贈呈し、「TEAM KAIGO」の認定書を発行するなどして、イベント後も「介護」を想起させる工夫をした。
イベントにあわせ取材を行い、弊社運営の「ゆうゆうLife」チャンネルにイベント動画を公開し、公式サイト「ゆうゆうLife」でも記事を掲載した。

板橋区立上板橋第三中学校の生徒限定企画
地域の高齢者の方とふれあってみませんか!
TEAM KAIGO
メンバー募集

現役の介護福祉士がコミュニケーションの基礎を教えます。受講終了者には産経新聞社よりTEAM KAIGOメンバー認定書と記念品を授与いたします。

講習 (参加人数:10人程度) ※なるべく①②③の日程のご参加をお願いします

日時 10月8日(土) 9:30~11:30
場所 こうほうえん2F会議室 東京都板橋区向原3-7-7

プログラム (①お年寄りのお話をしよう) ②お年寄り
 1.学びの時間 (地域、高齢者の歴史)
 2.コミュニケーション (介護事業所内、高齢者健体体験)
 3.考える (自分達にできることは?)
 ※11月6日のインタビュー項目も決定します

③体験会 ※①②の受講者も参加可

日時 11月6日(日) 10:30~14:00
場所 こうほうえん敷地内「かけはしまつり」会場 東京都板橋区向原3-7-7

プログラム (調査・お話し合い)
 1.地域の高齢者の方へインタビューを実施
 2.集計
 3.感想文(原稿用紙半分程度)
 4.認定書お渡し

募集締切 9月26日(月) ※申込多数の場合抽選になりますので、予めご了承ください。
 ※当日は産経新聞社による、動画・写真撮影、アーカイブ配信を予定しております。撮影をご希望した上でお申込み下さい。
 ※当日、発熱や咳等の体調不良がみられる場合はご参加をご遠慮いたします。

参加日(とびきり) 両日 11月6日のみ

氏名 _____ 住所 _____
 学年 _____ メールアドレス _____

主催：社会福祉法人こうほうえん 協力：産経新聞社 お問い合わせ：k-muka@hara@koho.jp

地域の高齢者の方とふれあってみませんか!
TEAM KAIGO
メンバー募集

現役の介護福祉士がコミュニケーションの基礎を教えます。受講終了者には産経新聞社よりTEAM KAIGOメンバー認定書と記念品を授与いたします。

日時 10月10日(月) 10:00~11:30
場所 ヘルスケアタウン西大井 1階いきいきセンター 東京都品川区西大井2-5-21

プログラム (「お年寄り」を知ろう！)
 ・年をとってどういふこと？ (身体や気持ちに生じる変化)
 ・ワークショップ
 ①コミュニケーション体験、車いす乗車体験
 ②グループワーク
 テーマ「お年寄りとお話するときに気をつけること」

※当日の講師は産経新聞社等で、動画・写真撮影、アーカイブ配信を予定しております。撮影をご希望した上でお申込み下さい。
 ※当日、発熱や咳等の体調不良がみられる場合はご参加をご遠慮いたします。

氏名 _____ 住所 _____
 学年 _____ メールアドレス _____

主催：社会福祉法人こうほうえん 協力：産経新聞社 お問い合わせ：funabashi-m@koho.jp

図 5 - 1 募集チラシ 写真左：板橋 写真右：西大井

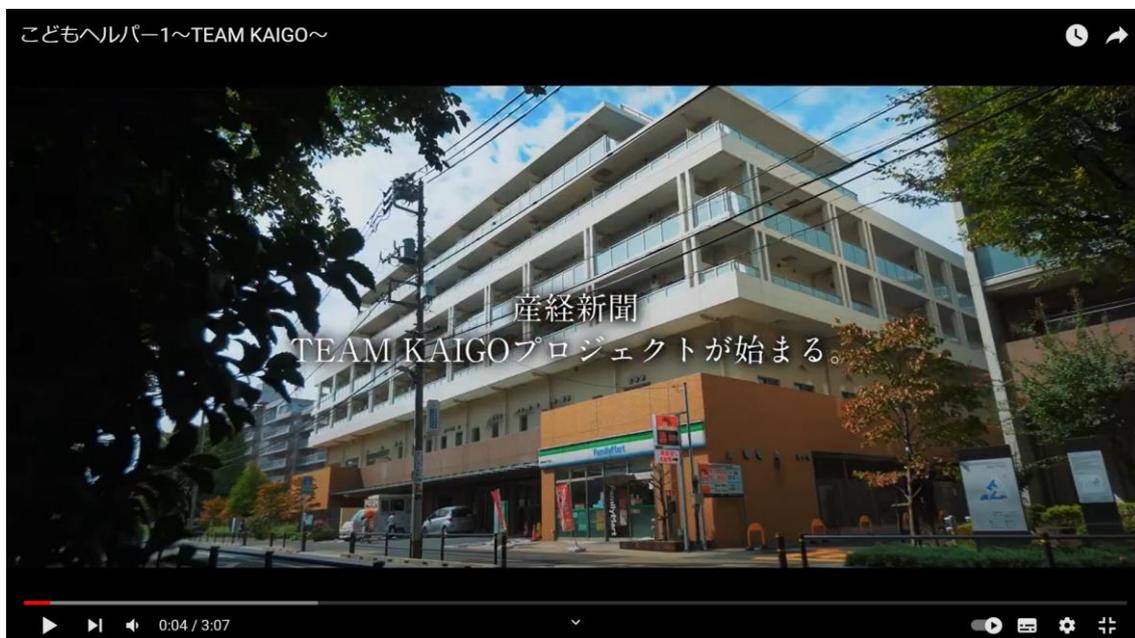


図 5 - 2 こうほうえん向原 講習会 YouTube 動画



図 5 - 3 こうほうえん向原 かけはしまつり YouTube 動画



図 5 - 4 こうほうえん西大井 YouTube 動画

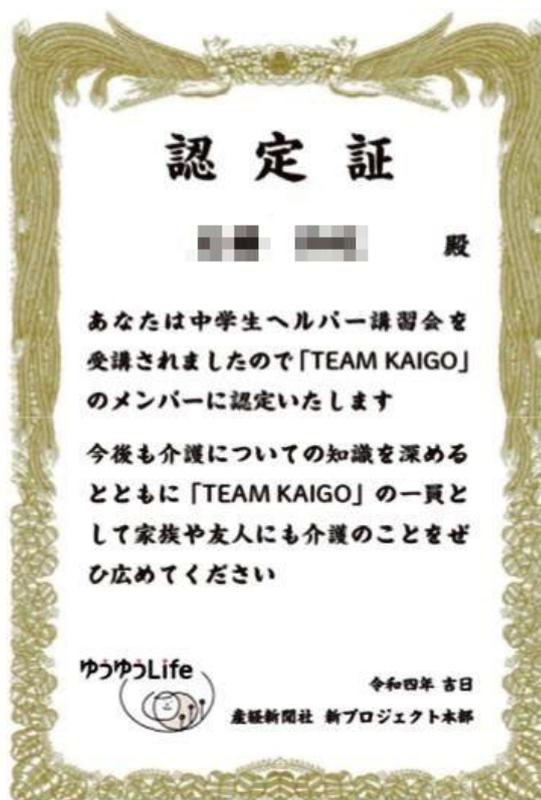


図 5 - 5 イベント参加者への認定証

5.3 オンライン番組 企画背景

産経新聞社では当初、介護職の一日体験や、施設入居者の方々との触れ合いを親子で体験できる親子体験会「こどもヘルパー講習会」を、趣旨に賛同した「株式会社 I T C」（埼玉県蓮田市）の運営施設で開催を予定していた。だが、コロナ禍でもあり、施設内でのリアル開催は困難と判断。同じタイトルのオンライン番組に変更し、親子向けオンライン番組「こどもヘルパー講習会」として配信した。

5.3.1 番組概要

タイトル：オンライン「こどもヘルパー講習会」

番組時間：約 23 分

配信日：2022 年 11 月 10 日～

企画：株式会社 I T C 蓮田

制作協力：産経新聞社

掲載場所：ゆうゆう L i f e チャンネル (youtube) 403 回再生 (3 月 22 日現在)

出演者：株式会社 I T C

本部 総務課	宮城 桃子氏
介護福祉士	菅原 美由紀氏
介護福祉士	高橋 昇氏

番組構成：

- ・オープニングトーク
- ・介護職の1日
- ・ホーム内の体操／早口言葉など
- ・クイズ／6問 → 解答例を紹介
- ・職員から介護のしごとの魅力を紹介



図 5 - 6 テロップやイラストを入れた分かりやすい構成

介護職の1日や、入居者で行っている体操や早口言葉遊びを紹介。認知症を理解するためのクイズには、イラストを入れて分かりやすくし、小学生でも楽しみながら学べる構成にした。

5.4 介護の日ポスター・チラシ展 企画背景

各自治体が行っている介護の施策の中でも「11月11日 介護の日」に向けた情報にスポットをあて、取り組み内容が一覧できるポスター・チラシに着眼。20の都道府県が参加した「ポスター・チラシ展」を東京都千代田区大手町で無料で開催した。介護の無関心層にもPRでき、参加自治体からも評価を得た企画となった。

5.4.1 概要

【期間】11月1日～11月14日

【場所】大手町 東京サンケイビル B2F ブリックギャラリー

【入場料】無料

【交通量】1日14,249人×14日⇒199,486人

※2019年サンケイビル調べを基に推計

【参加県】北海道・岩手県・秋田県・福島県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県・長野県・新潟県・愛知県・富山県・三重県・大阪府・奈良県・和歌山県・兵庫県・広島県・山口県・大分県

【企画・進行管理】 産経リサーチ&データ

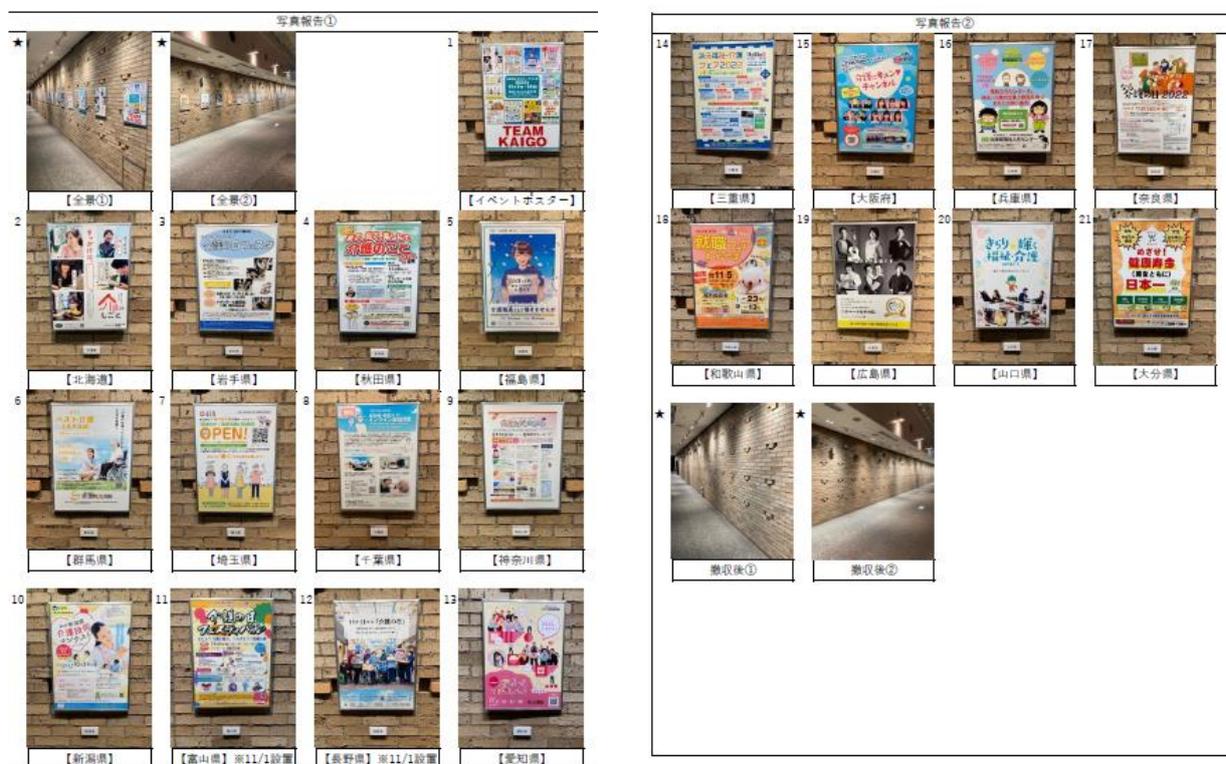


図 5 - 7 出展者ポスター 一覧

。

第6章 テレビ・ラジオ、新聞広告による情報発信

産経新聞社は今年度、介護のしごとの魅力をターゲット層である「無関心層」をはじめ、広範囲にわたって情報を届けるために電波メディアを活用しようと、フジサンケイグループのメディア連携を考え、テレビ、ラジオ企画に取り組んだ。テレビはBSフジ、ラジオはニッポン放送とコラボし、番組制作を展開した。

介護の現場には「きつい・汚い・危険・給料が安い」という4Kのイメージがあると言われており、一般人のなかには、介護の仕事を「おむつを替える仕事」としか認識していない人も少なくない。だが一方で、介護現場で活躍する人たちは、4Kは「感謝・感動・感激・クリエイティブ」であると考える人もおり、介護職の多くが、やりがいや楽しみを感じて働いている現実もある。その点を踏まえ、テレビ、ラジオともに、介護のしごとに対するイメージを変えるような、そして入門的研修(動画)にも関心を持ってもらうことを視野に入れ、番組づくりを目指した。公式サイト「ゆうゆうLife」では、各カテゴリー「ひとから」、「まちから」「しごとから」で介護に携わる、さまざまな人物や施設などを取材、記事化し反響を呼んできたが、今回はテレビ、ラジオの双方において、「ゆうゆうLife」のコンセプト、「寄り添いのある暮らし」や、「まちから」「ひとから」「しごとから」の3つのキーワードを参考に制作した。

また、情報を広く届けるという観点から紙媒体を併用することも考え、産経新聞全面広告を全国版で掲載した。



図 6-1 テレビ・ラジオ、新聞広告によるPR施策

6.1 BSフジの番組制作、イベント企画

まず、番組制作およびイベント企画にあたり、BSフジはかつて、株式会社サンケイビルテクノと「介護のしごと魅力発信等事業～福祉・介護の体験型・参加型イベント実施事業～」などに取り組んだ実績を持ち、今回の事業も全般的にスムーズに進められたことを述べておきたい。その当時制作にあたった、東京ティラノサウルスが今回も制作に入ったことが大きかったと思う。

実際の番組づくりにあたっては、最初に放送枠、放送時期を考えた。視聴者にとって肩の凝らない形で、介護を身近に考えてもらえたら一という願いも込め、他社との差別化を図った、5分間番組×6本の制作を決めた。放送時期は11月11日の「介護の日」をはさんだ、10月末から12月初旬とし、BSフジの看板番組「クイズ!脳ベルSHOW」に続く、月曜午後10時55分～午後11時に放送した。看板番組の後枠ということで、視聴者の視聴習慣も視野に入れた。

次に出演者である。介護にゆかりのある芸能人らは他社のプロジェクトでも重複してしまいがちだが、今回は映画「ケアニン」で主人公の介護福祉士役を演じた俳優、戸塚純貴さんを起用した。視聴者にも、ある意味、新鮮に感じてもらえたのではないかと考えている。

内容としては、戸塚さんが福祉・介護の現場を訪れ、体験したこと、感じたことを綴っていくドキュメント番組とした。タイトルは「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」。日本人の約2割が後期高齢者になると言われている2025年を目前に、戸塚さんは、それぞれ異なる視点で介護に向き合う3つの事業者を訪問。前編、後編という形で、各事業者の取組みなどについて放送した。番組の詳細は下記に記していく。

また、見逃した人や、改めてじっくり見たい人らを考慮し、BSフジ、および「ゆうゆうLife」のYouTubeで、各回の動画を見られる形とした（約1年間公開予定）。

さらに、2022年11月と2023年3月には、番組関連イベントを実施した。戸塚さんや介護の仕事に携わる方々をゲストに招き、介護業界の現状、さらに未来像などについて考えるきっかけの場とし、一般来場者の興味喚起を促した。

【「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」放送スケジュール】

- #1 「DAYS BLG! はちおうじ」 前編 10月31日（月）22:55～23:00
- #2 「DAYS BLG! はちおうじ」 後編 11月7日（月）22:55～23:00
- #3 「CYBERDYNE」 前編 11月14日（月）22:55～23:00
- #4 「CYBERDYNE」 後編 11月21日（月）22:55～23:00
- #5 「湯～亀グループ」 前編 11月28日（月）22:55～23:00
- #6 「湯～亀グループ」 後編 12月5日（月）22:55～23:00

6.1.1 「DAYS BLG! はちおうじ」

「DAYS BLG! はちおうじ」は、社会とのつながり、地域での役割、一般企業との連携など、メンバー同士だけでなく、地域や社会ともつなぐハブ機能を持った、人の想いを実現する東京・八王子市にあるデイサービスで、認知症の方々を受け入れている。

番組では、戸塚さんが、自動車販売店で洗車という“お仕事”に携わる、ある男性利用者に密着するほか、靴べら作りに精を出す別の利用者と一緒に、靴べら作り体験を行うなど、“新たな介護の形”に迫った。



図 6-2 男性利用者に密着し、洗車に励む戸塚さん（左）



図 6-3 男性利用者に教えてもらいながら、靴べらづくりに挑む戸塚さん（右）

6.1.2 「CYBERDYNE」

超高齢社会が直面するさまざまな社会課題の解決に向けて、筑波大学発ベンチャーとして誕生した企業「CYBERDYNE」。人の身体機能を改善・拡張するために研究開発された装着型サイボーグ「HAL」の技術革新や人への支援などに取り組み、人・ロボット・情報系の融合複合分野を扱うことを目的としたサイバニクス技術の研究、開発を行い、福祉・介護の世界で人々の生活をサポートしている。

番組では、戸塚さんが茨城県つくば市の本社を訪れ、HAL（腰タイプ）を体験するほか、実際に同商品を採用している介護の現場の声も紹介する。最先端テクノロジーを駆使して開発された介護ロボットの導入により、“介護の仕事の最先端”の現状などについて探った。



図 6-4 HAL 腰タイプを体験する戸塚さん（左）



図 6-5 リハビリに使われている下肢タイプを装着し、歩行する戸塚さん（左）

6.1.3 「湯～亀（ゆ～き）グループ」

昭和 10 年（1935 年）に公衆浴場「新井湯」を創業。同 27 年（1952 年）に有限会社「新井湯」を設立、同年に銭湯「新井湯」が誕生した。地域住民に必要とされるサービスを次々に整備し、平成 15 年（2003 年）に介護事業に進出し、銭湯の脱衣場を活用した通所介護事業所（デイサービス）の開設を経て、現在は、居宅介護支援、訪問介護、小規模多機能型居宅介護、高齢者住宅など幅広く事業を展開している。

番組では、戸塚さんが東京・品川区にある「新井湯」を訪れて、介護職の若手男性社員に指導を受けながら介護職を体験。利用者と触れ合うなど、ひと味違う「介護施設」と、地域と密接に向き合って共に助け合う地域包括ケアの理想形を探った。



図 6-6 利用者と一緒にトレーニングを行う戸塚さん（中央）



図 6-7 新生湯の介護職、園田将人さんに話を聞く戸塚さん（右）

【BSフジ「介護のリアル」視聴率】（ビデオリサーチ調べ）

#1：世帯視聴率：0.2%／視聴世帯数：113,800 世帯
個人視聴率：0.2%／視聴数：239,400 人

#2：世帯視聴率：0.2%／視聴世帯数：113,800 世帯
個人視聴率：0.2%／視聴数：239,400 人

#3：世帯視聴率：0.2%／視聴世帯数：113,800 世帯
個人視聴率：0.2%／視聴数：239,400 人

#4：世帯視聴率：0.1%／視聴世帯数：56,900 世帯
個人視聴率：0.1%／視聴数：119,700 人

#5：世帯視聴率：0.2%／視聴世帯数：113,800 世帯
個人視聴率：0.2%／視聴数：239,400 人

#6：世帯視聴率：0.1%／視聴世帯数：56,900 世帯
個人視聴率：0.1%／視聴数：119,700 人

※番組は資料編でDVDにて提出

6.1.4 番組関連イベント

福祉・介護の世界をより身近にとらえ、介護や介護の仕事について考えるきっかけになればという思いも込め、無料で一般来場者を招待する番組関連のトークイベントを実施した。戸塚さんをはじめ、介護の仕事に携わる方々をゲストに招き、第1回は「介護の日」（11月11日）にちなみ、2022年11月12日に実施。好評を得たことなどもあり、第2弾イベントを2023年3月4日に開催した。どちらも、活発なトークが繰り広げられ、盛り上がりを見せた。イベント開催の事前および事後にアンケートを実施し、意識調査も行った（別章で記述）。

6.1.4-1 番組関連トークイベント第1弾

2022年11月12日、東京都内で「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」の番組関連のトークイベントを行い、約100人の一般来場者が駆け付けた。

イベントは、戸塚さんがオンエア映像（第1～第4回）を見ながら振り返る1部と、介護の仕事に携わる介護福祉士らが出演した2部の構成で進行。最後に質疑応答の時間も設けられた。司会はフジテレビの川野良子アナウンサーが務めた。

戸塚さんはロケ先となった、介護の現場について振り返り、「僕らや下の（若い）世代って、介護について触れる機会はそんなに多くないと思うし、遠い存在というイメージでしたが、（現場を訪れ）とても触れやすい、親しみのあるものだなって思いました。いろいろ知っていくと、介護って面白くて明るくて温かいものがたくさんあり、僕は印象が変わりました」と感想を述べた。そして、さまざまな体験を通して「利用者さん、スタッフさん、働いている方々、皆さん、楽しそうにしていってらっしゃった。僕はその日々の時間を一緒に過ごさせていただき、いろんなことを学ばせていただきました。触れたり、お話をさせていただき楽しかったです」と述べ、さらに「科学の技術や最新テクノロジー（の観点）から、大きく見ていくと介護の世界も広がっていき、明るい未来が待っているのかなって思います」と話していた。

質疑応答の際、映画「ケアニン」を見た来場者から、「心が苦しかったときに救われました。これからもこういう作品に出て元気づけていただけたら」という声が飛ぶと、「うれしいです」と素直に感激し、「僕は介護福祉士ではなく、俳優ですけど、知らない人たちに何かを発信すること、届けることは微力ながらできるのかなって。思いやりとかが介護やケアすることには大切。考えることが大切なことだと思うので、改めて僕も自分でできることを頑張りたいと思います」と誓っていた。

第2部では、「メディカル・ケア・サービス」認知症戦略部部長の杉本浩司さん、社会福祉法人「多摩同胞会」の福本美希さん、デイサービスの「DAYS BLG!はちおうじ」代表の守谷卓也さんが登壇した。それぞれが介護の仕事について熱いトークを繰り広げ、質疑応答では会場から「介護の仕事に携わっていてよかった点は？」という問いも。この件について守谷さんは「一緒にいることが楽しかったりしますし、同じ方向を向いて共に歩むことで充実感やパワーをいただいています。そういった気持ちの感謝も大きいです」と回答。福本さんは「自分の関わりで利用者さんが笑顔になってくださったときに、やっつけてよかったなって思いますし、私自身、うれしい気持ちになります。お互いに笑顔になれる関係って介護ならではの、身近な関係ならではの。そこは自分のやりがいとして楽しんでいます」と語った。杉本さんは「お風呂で温まっただけで『気持ちいい』とか、人間らしさが分かったり、（人間らしさが）出てくる瞬間がたまらないかなって」などと持論を披露した。

ちなみに、戸塚さんは「（介護を受ける方は）僕より年上の方々に人生の先輩として、何をするにも学びがたくさんあります」と話していた。

戸塚さんは、画面から伝わる純朴なイメージそのままに、介護に対するトークを展開し、丁寧な受け答えに人柄が現れた。ある来場者は「非常に素直で真面目で純粋な感じが伝わって、好感を持ってました」と話していた。



図 6-8 第1部で撮影エピソードなどを語る戸塚さん



図 6-9 丁寧にトークを繰り広げた戸塚さん



図 6-10 質疑応答では次々に質問が飛んだ

6.1.4-2 番組関連トークイベント第2弾

2022年11月に行われたBSフジのドキュメンタリー「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」の番組関連トークイベント。「非常に中身の濃いイベントでした」（来場者）との声が届くなど好評だったこともあり、2023年3月4日、東京・台場のフジテレビマルチシアターで番組関連トークイベント第2弾を開催した。今回も戸塚さんや介護福祉士ら介護の現場で働く方々がゲスト出演。前回上映しなかった放送回を振り返りながら、戸塚さんらのトークが弾み、会場では、介護の仕事に関心を持つ人や多くの戸塚ファンが「介護のリアル」に耳を傾けた。司会は前回に続き、フジテレビの川野良子アナウンサーが務めた。

まず、スクリーンには、東京都品川区の有限会社新井湯が運営する介護事業所「湯～亀（ゆ～き）グループ」の様子が映し出された。ここは、公衆浴場がデイサービスを行っており、

戸塚さんが実際にお年寄りの背中を流すなど利用者と触れ合う模様が伝えられた。

「ぼくも一緒にお風呂に入りたかった」と戸塚さんは会場を笑わせながら、「みんな、気持ちよく入っていて、こういうのがあるといいなって思いました」と体験を振り返り、実際に働く介護職スタッフについては「ぼくと同世代の人がしっかりと介護をしているのがすごいと思いました」などと感想を語った。

ゲストで登場した、新井湯の代表取締役の新井重雄さんは、戸塚さんの「仕事ぶり」に感心しながら「銭湯はひとつの文化遺産」などと、地域住人との交流の場ともなる意義について語った。

続いて登壇したゲストは、東京都大田区の複合介護施設「サンタフェガーデンヒルズ」を運営する社会福祉法人善光会理事で最高執行責任者、統括施設長の宮本隆史さん。この施設では介護の現場に最新のIT技術を導入している。会場にはその様子を伝えるビデオが上映され、戸塚さんは人の労力を減らすSCOP（スコップ）と呼ばれる最新機能に目をみはった。宮本さんは「（介護現場では）利用者の体温、血圧などの記録やメモを取ったものをシステムに入力するなど手間（時間）がかかる。（SCOPは）データ化もできますし、時間をすごく短縮できます」と介護職の負担が軽減されることなどを説明した。

イベントでは、質疑応答の時間も設けられた。会場から、介護の仕事などを通してそれぞれが感じる「座右の銘」を問われ、宮本さんは「一期一会（いちごいちえ）」、新井さんは「人間万事塞翁が馬」と答えた。これに対し、戸塚さんは「他力本願」と述べると、会場から笑いが沸き起こるなど、終始和やかな雰囲気に包まれた。



図 6-11 介護現場取材した模様を語る戸塚さん



図 6-12 新井湯の新井重雄さん（右）の熱いトークに耳を傾ける戸塚さん



図 6-13 左から司会のフジテレビ川野良子アナ、戸塚さん、新井さん、宮本隆史さん

6.1.5 動画配信

「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから」を見逃した人や、改めてじっくりみたい人のために、番組の動画配信も考えた。「BSフジ公式チャンネル」では第1話から第6話まで配信中である。配信期間は約1年を予定している。公式サイト「ゆうゆうLife」でも、第1話から第6話まで配信している。



図 6-14 BSフジ公式チャンネルで配信

【再生回数】

第1話は 38,558 回

第2話は 110,555 回

第3話は 61,966 回

第4話は 44,261 回

第5話は 35,412 回

第6話は 19,658 回

再生回数合計は 310,410 回（令和5年3月31日現在）

※「ゆうゆうLife」でも配信しており、こちらは別章で記述する。



図 6-15 「ゆうゆう Life」 YouTube でも配信

6.2 ニッポン放送の番組制作

テレビに続き、もう一つの電波メディアとして欠かせなかったのがラジオである。そこで、フジサンケイグループ連携で、ニッポン放送との番組制作を考えた。こちらでもテレビ番組制作同様、グループ連携とあって、全体的にスムーズに進行できたと思う。

今回のラジオ番組は、介護および介護の仕事に理解を深め、その魅力発信を目的に、介護経験者のあるゲストを招いた特別番組とした。実際に介護の現場に携わる介護職の方々の声も盛り込むこととし、30分間番組×2本に決めた。番組名は「ラジオゆうゆう Life」。放送枠は、年末年始となり、第1回は12月30日午後4時～4時30分、第2回は1月1日午後3時30分～同4時となった。

出演者については、番組パーソナリティーやゲストは、ニッポン放送とゆかりのあるタレントらを念頭に選考した。“番組の顔、ともいえるパーソナリティーは、同局の「ひだまりハウス〜うつ病・認知症を語ろう〜」（日曜前6・25～）でパーソナリティーを務める、町亜聖さんが担当することになった。町さん自身、いわゆるヤングケアラーの経験をもち介護の世界に詳しい一人。過去には、弊社の介護受託事業で司会進行などを務めた経緯もあり、互いの信頼もあった。

次にゲストである。年末特番の第1回のゲストは、自身もヘルパー2級の資格を持つ（出演時。その後介護福祉士試験に合格）、お笑いコンビ、メイプル超合金の安藤なつさん。第2回は、介護経験のある元ニッポン放送の松本秀夫フリーアナウンサーをゲストに迎えた。

さらに、第1回、第2回ともに介護職の方々が出演するコーナーを設け、介護の仕事のやりがいなどについて語ってもらった。

<番組概要>



番組名：ラジオゆうゆう Life

放送日：第1回 12月30日(金) 16:00~16:30 / 第2回 1月1日(日) 15:30~16:00

放送局：ニッポン放送 (関東ローカル)

パーソナリティ：町亞聖さん

ゲスト：第1回 安藤なつさん、第2回 松本秀夫さん

6.2.1 ラジオ特番第1回

令和4年12月30日放送のゲストは安藤なつさん。バラエティーや女優でも活躍する安藤さんは、小学校低学年の頃、伯父の家が小規模のデイサービスをしていたことがきっかけで介護にかかわるようになった。小学校高学年から中学生の頃、週末に手伝いに行き、高校生になってからはそこでアルバイトも。「自分にとっては居心地がよく、当時は近所の公園に遊びに行くような感覚でした」と語る。お笑い界で活動しながらも20歳のころにヘルパー2級(当時)を取得した。

番組では、介護現場でのエピソードなどについてトークを展開。前向きに介護に関わる安藤に、友達からも「楽しそうだね」と言われていたという。また、自身も母親の介護を経験した町さんも、周りから「(家族の介護を行うのに)偉いね」と言われるのに違和感を覚えたと言い、「介護は他人が思うより楽しいことだ」と語った。

介護職の方々が出演するコーナーの第1回は、現役の介護職で東京都青梅市の小規模多機能型居宅介護「福わ家(ふくわうち)」で働く、吉永麻菜実さんのインタビューを紹介した。「人生の先輩、が周りにいる環境は子供にとっても良い影響があるといい、育児と仕事を両立させる吉永さんが仕事のやりがいなどについて語った。



図 6-16 介護の仕事について語った安藤なつさん（左）とパーソナリティーを務めた町亞聖さん



図 6-17 娘を育てながら介護の仕事を両立させている吉永麻菜実さん

6.2.2 ラジオ特番第2回

令和5年1月1日放送のゲストは松本秀夫さん。ニッポン放送のプロ野球実況の看板アナだった松本さんは、55歳を機に早期退職し、現在はフリーとして活躍中。平成28年(2016年)には母親を介護した自身の生活をつづった書籍を出版した。

番組では、その介護体験などについてトークを繰り広げた。介護が必要になった母親との2人暮らしを決めた松本さんは、緻密な計画を立てずに勢いで始めたため、「もっと手をつないだり、寄り添ってあげるべきだった。亡くなるまで、それに気づけなかった」などと、「失敗から学んだこと」を軸に、息子が母をどう介護したらいいか、その心持ちなどについて素直に語り、親の介護を考える中高年男性のリスナーにも貴重なエピソードを届けた。

また、番組内では、東京都青梅市を中心に複数の施設を運営する井上信太郎さん＝心のひろば代表＝のインタビューも紹介された。井上さんは介護の仕事や業界について、熱いトークを展開。「介護する側の主観に立たず、介護される本人本位であることを目指してきた。お年寄りには、重たくてやさしくて温かい言葉をかけてくれる。若い人たちはそれに支えられてがんばってほしい」とメッセージを送った。



図 6-18 自身の介護体験を語る松本秀夫アナ、手前は町さん



図 6-19 ラジオ出演する井上信太郎さん

【特番の聴取率および推定到達人口】

① 令和4年12月30日（金）

聴取率：0.46%・推定到達人口：147,206人

② 令和5年1月1日（日）

聴取率：0.38%・推定到達人口：121,605人

※調査エリア：1都3県(12歳～69歳までの男女)

(ビデオリサーチ調べ)

※番組は資料編でDVDにて提出

【特番についてのリスナーの声】（抜粋）

★東京都在住 40代女性

「親の介護についてそろそろ考える時期になり、少し不安を感じていましたが、安藤なつさんが楽しそうに、介護にかかわっていたことに勇気が湧きました」

★神奈川県在住 50代男性

「30分はあっという間だったので、もっと聴きたかった。1回分しか聞けなかったの
で、分けずにまとめて放送してほしい」

★千葉県在住 30代女性

「安藤さんの『周りから大変でしょって言われるけど、自分は遊びに行っている感覚だった』という言葉が印象的でした。何事もとらえ方次第だなんて思って、自分の仕事の考え方を
見直すきっかけになりました。ありがとうございました！」

6.2.3 音声配信

ラジオでも、今回の特番を聞き逃した方や、もう一度ゆっくり聞きたい方に対し、音声配信を考えた。YouTube「ゆうゆうLifeチャンネル」で、約1年にわたって（予定）、番組の音声を公開している（詳しくは別章で記述）。



図 6-20 「ゆうゆう Life チャンネル」で令和 4 年 12 月 30 日分の「ラジオゆうゆう Life」を配信（音声のみ）



図 6-21 「ゆうゆう Life チャンネル」で令和 5 年 1 月 1 日分の「ラジオゆうゆう Life」を配信（音声のみ）

6.3 新聞広告

「産経新聞」全国版朝刊には、介護職のイメージアップを図る全面広告を出稿した。2023年3月19日掲載。購読者の年代や発行地域が広く、電波メディアで到達できていない層など幅広い網をかけようと考えた。

紙面構成は、介護現場で活躍する介護福祉士を掲載面上半分で紹介するなど、前年度に倣った。各者の「現場での生きたコメント」を掲載し、幅広い読者に介護の仕事の魅力を訴求できるように努めた。写真は、いきいきとした瞬間の表情をとらえ、介護の仕事に対するやりがいを印象づけた。

また、公式サイト「ゆうゆう Life」で好評の赤羽みちえさんの漫画「のんびりいこうよ」の新作を全面広告用に書き下ろし、介護職の魅力を伝える内容とした。

下部の記事部分では、介護のしごとの「本音」に迫り、やりがいや介護の仕事内容などに触れ、幅広い世代に呼びかけようと考えた。

支えられ、支える。

介護福祉士
杉本 美乃乃さん(33) 東京都在住

介護職は利用者の思いやニーズがオーダーだと思っています。その思いやニーズに、交流を図っていく中で、実は人間関係で悩める機会が多々あるんです。デジタル入力など、デジタル化が進む一方で、(介護の仕事は)人間味あふれるのが楽しいところですね。

介護福祉士
土田 美乃乃さん(33) 東京都在住

介護に携わり約17年。今の職場が毎日楽しくなりました。サービスながら、メンバー(利用者)と人が近隣の企業などに働きに出たり、モチベーションを上げています。最近の話し合いや相談、いらぬ国語で楽しいです。この職場をずっと増やしたいですね。

介護福祉士
小林 美乃乃さん(37) 香川県在住

介護と障害福祉と両方の職場を経験しました。どちらも人を支える仕事で根本的な部分は同じです。ご利用者の方の喜ぶ姿を見れば、自分自身のことのようにうれしく感じます。そんな仕事で、イチャイチャは中々ないんじゃないかなと思います。

介護福祉士
福本 美乃乃さん(33) 東京都在住

娘たちの力を支えられたら、あと1年で歩けるようになるかも……。暮らしの中でお手伝いできるだけで、人生に寄り添えるのは介護ならではのやりがいを感じます。高齢の方と話す時、自分自身の知識が増えます。若い人には介護に関心を持っていただけたら。

のんびり いこうよ

赤羽みちえ (番外編)

① 今を生きる
② たからもの

介護のしごと 伝えてます

世間からは、きつ、賃金が安いと思われがちな「介護のしごと」。しかし、介護職自身は思いがけない印象を持っている。人と関わる仕事から、期待される介護職は、だが、毎日の何よりも相手とのかかわりの深さ、ある介護職(担任者)が、引継ぎは、「大団円の夜にはスピードと正確さが求められる。でも、介護はそれよりも、相手どういいうで、どういふ思いが伝わるかが大切」と話す。

人の生き死にに伴って、家族と一緒に笑ったり、泣いたりする。

特別養護老人ホーム(特養)でアパレルの社員を募集した介護福祉士(引継ぎ)は、「介護は、人が生きるとは手伝える仕事」と語る。社長が、自身の社立でモーションングに身を投入した。家族から、この声をかけられた。「ここで働かせてよかった」。

募集の賃金は近年、確実に改善している。

例えば特養で働く介護福祉士の賃金は、平均で月に35万6300円(令和4年度介護従事者処遇改善増進法)。「国庫一般の賃金とそれ以上と聞きたい」と語る。「介護福祉士、30歳以上、注目の介護職に就く意を伝える。もちろん働き方、資格、勤務年数、勤務先などによる賃金の差は大きい。資格を取り、経験を積み、働く先を選べるのは、どこでも働けること。」(取材は17日午後取材当時)

youyoulife

産経新聞社のケアするウェブマガジン「youyoulife」は、介護を必要とする一人ひとりの人生に寄り添い、つながる関係や暮らしを提案します。

このページは、厚生労働省補助事業「令和4年度 介護のしごと増進推進事業(介護福祉士)」の一環として制作・掲載しています。

<https://youyoulife.jp/>

図 6-22 産経新聞全国版朝刊 2023 年 3 月 19 日掲載

【媒体概要】

媒体名：産経新聞

形態： 日刊新聞

体裁： ブランケット判

発行部数：1,026,293 部

価格： 月ぎめ 3,400 円（税込み）

※（日本 ABC 協会「新聞発行社レポート半期」2022 年 1 月～6 月平均）

第7章 ウェブサイトの狙いと構成

7.1 ウェブサイトの狙い

介護のしごとの「楽しさ」や「現場のリアル・やりがい」を伝える情報発信サイト「ゆうゆうLife」はケアするウェブマガジンと称し、下記の「4つの伝えること」をコンセプトに介護のしごとをわかりやすく情報発信している。

「4つの伝えること」

1. 介護のやりがい（自立支援、看取り支援、人生を垣間見る）
2. 介護の広がり（施設で家事や掃除/運転、地域共生の予防や見守り）
3. 働きやすさ（無資格から専門職へ、年齢不問、職住近接、常勤の賃金）
4. 事業所の違い（事業所による働き方や働きやすさの違い）

7.2 ウェブサイトの構成

- ・ サイト名称：「ゆうゆうLife」
- ・ ドメイン名：https://youyoulife.jp/
- ・ サイト



7.2.1 主なコンテンツ

(1) 記事コンテンツ

記事コンテンツは6つのテーマ（「ひとから」、「まちから」、「しごとから」、「先輩から」、「ここから」、「親子から」）に分類した。

「ひとから」は、介護職の働き方や、仕事の魅力を伝えるコンテンツであり、もっとも伝えたいのは、「介護のしごと」の魅力である。

「まちから」は、介護の「周辺」を紹介するコンテンツである。地域包括ケアに広がる仕事にフォーカスし、介護の仕事の裾野を広げて見せることで、介護の働き方のハードルを下げることを狙った。

「しごとから」では、介護職の働きやすさを追求する事業所と、その取り組みなどを取り上げた。また、事業所の違いを紹介する役割なども持たせようと努めている。

「先輩から」は、高齢者の生活をイメージできるようにと設けた。こんな風に年を重ねたい、とモデルになる高齢者と、介護を受けながらイキイキと暮らす高齢者を織り交ぜ、元気な高齢者だけでなく、介護を受けている高齢者もまた、魅力ある人生を現在進行形で送っていることを伝えた。

「ここから」では、コラムや漫画、エッセーなどの手法をとり、「介護とは人生を伴走する仕事だから、そこには多くの笑いや涙がある」という感情をかきたてることを狙った。

「親子から」は、令和元年度に産経新聞社の親子事業「こどもと一緒に介護のしごと体験」に参加してくれた事業者を紹介する狙いで始まった。同2年度、同3年度に続き、同4年度も残念ながら、コロナ禍で親子事業が実施できていない。

なお、それぞれのインデックスを選択すると切り替え表示が可能となっている。

※詳細は、第8章「ゆうゆうLife コンテンツについて」を参照

これによりサイトを訪れた閲覧者の関心度が高い記事をまとめて掲出でき、上記の「4つの伝えること」をコンセプトとした情報発信が効率よくできるように工夫した。

(2) 都道府県の介護事業者認証評価

介護事業者認証評価制度を広く告知することを目的に、各自治体（都道府県）の介護事業者認証評価制度のホームページに遷移できるページとなっている。

※詳細は、7.2.2 都道府県の介護事業者認証評価制度を参照

(3) 他事業者連携

「介護のしごと魅力発信事業」相互情報発信の目的で他事業者のバナーをサイト内に掲出した。



図 7-1 「ゆうゆう Life」ウェブサイト構成

7.2.2 都道府県の介護事業者認証評価制度

都道府県が職員の人材育成や就労環境等の改善に取り組むなど、一定の水準を満たす介護事業者に対し、認証を付与する「介護事業者認証評価制度」。閲覧者が自治体のホームページにアクセスが容易になることを目的としている。このページ内の各都道府県（地図）をクリックすると、自治体のホームページへ遷移する。



図 7-2 「ゆうゆう Life」ウェブサイト内「介護事業者認証評価制度」リンク状況

第8章 ゆうゆう Life コンテンツについて

8.1 取材・記事の狙い

「介護のしごと」に興味を持ってもらい、魅力を感じてほしい。介護職に就く人たちが介護施設などを取り上げ、ウェブ上で情報発信をしてきた公式サイト「ゆうゆう Life」。その立ち上げ当初から、一貫してこの姿勢で記事の取材・編集を行ってきた。

令和4（2022）年度も、「まちから」「しごとから」「ひとから」といった切り口で、身近に感じられる介護の話題についてさまざまな取材を行い、記事化してきた（記事一覧は巻末資料）。

前年度に比べ、地方の施設への訪問、人が集まるイベントなどの取材は緩和傾向にあったが、新型コロナウイルス感染対策が回避となる取材はひとつもなかった。それでも、多数の関係者の協力を得て取材を行うことができた。

上期（4～9月）は5本の記事を、下期（10～3月）は15本、今年度では計20本の取材記事を掲載した。下記にその抜粋した内容を示す。年齢などは掲載時のもの。

8.2.1 【まちから】子どもから高齢者、障害者も集う場が誕生

神奈川県愛川町に誕生した地域共生文化拠点「春日台センターセンター」を2022年7月1日付。

■利用者と地域の人びとが生活動線の中で交流できる場に

県北部に位置する同町は、北東に政令指定都市の相模原市、南に厚木市にはさまれる。1960年代後半から厚木市とまたがる地域に広大な内陸工業団地が整備され、開発が進んだ。



図 8-1 安倍真紀センター長（左）と運営する「愛川舜寿会」常務理事の馬場拓也さん

工場の進出に伴い、団地や住宅が建設されて1990年代には人口は3倍を超えて4万人を突破するまでになった。しかし、製造業の海外移転など産業構造の変化もあり、かつて「春日台センター」として地域の人に利用され、にぎわった商店街でも閉店する店が相次ぎ、町に変化も生じた。

県北部に位置する同町は、1960年代後半から厚木市とまたがる地域に広大な内陸工業団地が整備され、開発が進んだ。工場の進出に伴い、団地や住宅が建設されて1990年代には人口は3倍を超えて4万人を突破するまでになったが、製造業の海外移転などで、かつて「春日台センター」として地域の人でにぎわった商店街も閉店する店が相次いだ。今回、再び「センター」を人が集まり、活気ある場にしよう、町の中心（センター）にしようという思いから「センターセンター」と名付け、再スタートした。

特徴的なのが、コインランドリーや洗濯代行サービス、さらには揚げたてのコロッケの販売といった地域に向けたサービスがあることだ。子どもたちが放課後に自然と集まり、勉強したり、駄菓子を買ったりすることを楽しむ場として地域になじんでいる。

センター長の安倍真紀さんは「洗濯代行やコロッケづくりだけでなく、将来はさまざまな就労の場を提供していきたい。これまで福祉の現場で長くやってきましたが、このセンターを任せられ、サービスの質を重視すると同時に、運営する側として『利用してくれる人がいること』を常に考えていきたい。その点を若いころよりずっと意識するようになったし、スタッフにも分かってもらおうようにしている」と語った。

■ここ来ると、大勢の人と出会える

地元出身で、開所以来同法人の介護サービス「小規模多機能型居宅介護」を利用しているという梅澤臣子さん（84）はスタッフに笑顔を向けながら、「私は長く幼稚園教諭で子どもを相手にする仕事をしてきました。ここ来ると、大勢の人と出会えるのが楽しいですね。スタッフのみなさんもよくやってくれるので、助かります」と話す。



図 8-2 スタッフと語り合う利用者の梅澤臣子さん（右）



図 8-3 施設内で売られる人気の手づくりコロッケ

取材時は、オープンから3カ月ほどたった時だったが、安倍さんは「すっかり地域の人に認められたという感じがします。幼稚園帰りのお母さんや、学校帰りの子どもたちがグループホームの高齢者や障害児とも自然に交流している。コインランドリーも近所の方がよく利用してくれています。利用してくれる方、地域の方、そして私たちスタッフの『顔と顔』が少しずつ、つながっているのを実感します」と振り返った。



図 8-4 子どもが喜ぶ駄菓子コーナーも

8.2.2 【まちから】「小多機」で本人本位のサービスを目指す

東京都青梅市を拠点に高齢者が通いや泊まり、訪問も利用できる「小規模多機能型居宅介護（小多機）」を運営する井上信太郎さんに、地域に根差した介護事業について聞いた。2022年9月16日付。

■原点は初体験の「ありがとう」

井上さんは、介護の世界に入って30年。母、美都子（みつこ）さんが青梅を拠点に、障害者の外出支援などを行っていた影響を受けた。

「私が高校2年のときに、特別養護老人ホームにコーラスの慰問に行く際、『手伝いに来ないか』と言われて一緒に行ったのです」と明かした。

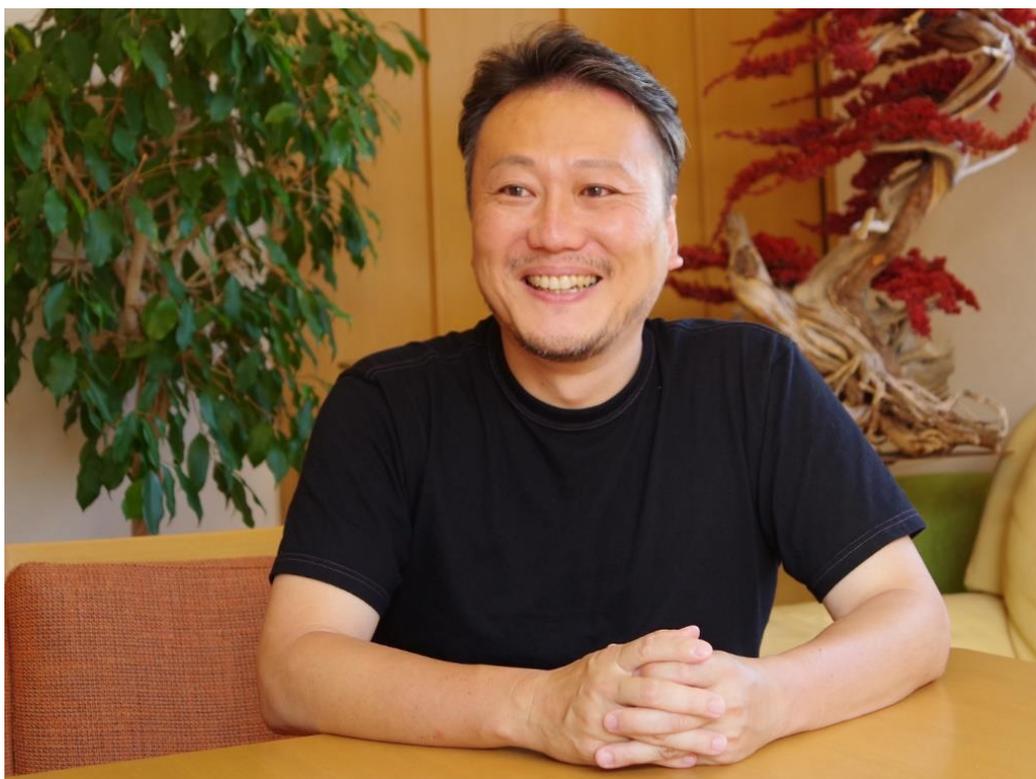


図 8-5 介護の仕事について語る井上さん

母親に連れられて行ったその施設は、「高齢で認知症のある方もいたのですが、『ありがとう』と言われたのです。そんなことを言われたのは、おそらく私にとって初めてのこと。人の役に立っているという気持ちになり、『福祉の仕事も悪くないんじゃないか』と思いました」と振り返る。

都内の福祉専門学校で学び、最初に勤務した介護施設では熱心な余り、上司と衝突することもあったという。一時は介護の仕事を離れ、トラックドライバーをしていた。しかし、「介護保険制度が始まるから一緒にやらないか、私たちにも介護の会社が作れるのよ」と母に言われ、2000年に「有限会社心のひろば」を始め、再び介護の仕事に就いた。

■効率よりチームで乗り越える

現在、ケアマネジメント事業所（居宅介護支援）や訪問介護を行う「ここひろ青梅」（青梅市）、地域ケアサポート館「福わ家（ふくわうち）」（青梅市）、同「福ら笑（ふらわー）」（羽村市）の3拠点と、「maru. +BEANS CAFE（マルドットプラスビーンズカフェ）」（青梅市）も経営。正職員ほかも含めて約120人のスタッフを擁する。



図 8-6 利用者と支えるスタッフ。チームケアを実践している

「近年、介護職の現場では効率が求められ、生産性を問う人がいます。それはもちろん分かりますが、支援というのは地道な仕事で、じっくりかかわれる人材が必要。生産性を求めすぎると殺伐とした雰囲気になる。（スタッフも）能力の高い人にだけ焦点を当てるのではなく、チームで乗り越えていくことが大事。チームケアに力をいれています」

運営する「心のひろば」の理念は、「あたたかい心」「おもいやりの心」「やさしい心」一である。井上さんは、「つまり、『（利用者）本人のためのサービスを作ること』が、その理念を実践していくこと」という。

介護職に就こうと思う人たちには、「なぜこの仕事を選んだか、ということを忘れないでほしい。本人本位でないサービスを提供してしまい、相手を傷つけ、自分も傷つき離職してしまう人がいる。ただ、この仕事を目指したときの夢と希望を持っていれば、思いはかき消さず」とエールを送った。



図 8-7 利用者と一緒にコーヒーを飲んでくつろぐ

8.2.3 【まちから】働きながらの「自立」を支援

富山県魚津市の社会福祉法人「海望福祉会」は特別養護老人ホームや障害者支援施設などを運営する。ここは介護のほかに、就労困難者らを支援するユニバーサル就労を行っている。前後編で取り上げ、後編では介護スタッフの生の声を聞いた。2022年11月4、11日付。

■自立を目指し、畑で働く

魚津市内の海辺から5キロほど離れた山地にある就労支援事業所「ぶどうの森」。畑ではペアを組み、畝をはさんで力を合わせてサツマイモの収穫に向けた準備が進んでいた。

ここは、障害があるなどして一般企業への就職が難しい人を対象に、雇用契約を結ばずに生産活動など就労訓練を行う事業所（就労継続支援B型）だ。利用者が農業を通じ、「一般就労」や「就労に必要な能力を育む」ことを目指している。



図 8-8 実ったサツマイモの収穫作業

今年6月から作業に参加する濱田智成さん（55）は、父親が経営する鉄工所で溶接の仕事をしてきたが、職場の人間関係や仕事のストレスからアルコールに依存するようになったという。

「いろいろと失敗したり、肝臓を壊したりして仕事を辞め、断酒プログラムに参加。アルコールや薬物依存からの回復支援施設に入っていたんです」と明かす。

社会復帰を目指す中、雇用・就労支援を行う「ぶどうの森」と出会い、今は、1日4時間、週5日作業に参加する。「将来的には農業で食べていきたい。今はグループホームで生活しているが自立できるようになりたい」と語った。

職業指導員の澤田雄平さん（37）は「男性、女性、作業ができる、できない—そうしたことを一度取り払い、どうしたら頑張ってもらえるかを考えている」と話した。

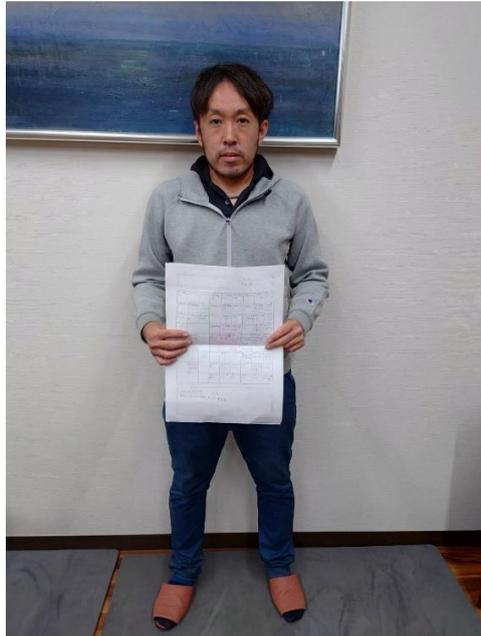


図 8-9 マンダラチャートを手にする澤田さん

具体的には、個々の利用者に「マンダラチャート」と呼ばれる目標設定シートを作成し、目指す目標や、その実現のために何を、どう行っていくかなどを記入する。「自分にとってはゼロからのスタートだったが、畑仕事も介護も好きだし、自分に合った仕事だと思う」（澤田さん）

海望福祉会では、後継者不足に悩む農業と就労意欲がある障害者らをつなぐ「農福連携」も進めるが、同福祉会理事で総合施設長の大崎雅子さん（56）は、「農福連携で地域資源である1次産業の農業、2次産業の製造（加工）、3次産業の小売りを掛け合わせた6次産業化でより可能性を広げたい」と語る。

同福祉会では05年から障害者や生活困窮者、引きこもりなどで働く意欲がある人を支援する「ユニバーサル就労」も行い、同福祉会ではこれまでにのべ53人の就労を支援。このうち非常勤職員として雇用契約を結び、16人が就労している（22年10月現在）。



図 8-10 後編では介護スタッフが仕事について語った

8.3.1 【しごとから】レトロな雰囲気とDXが共存

宮崎県都城市の特別養護老人ホーム「ほほえみの園」は、昭和の横丁と近未来の介護が共存する。入所者の安心感を追求しながら、介護にDX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に取り入れている。2022年7月8日付。

■昭和初期の横丁が再現

施設のホールでは、昭和初期の横丁が再現され、昔ながらの電柱の下に雑貨屋や駄菓子屋が並ぶ。地域の高齢者には馴染みだった「庭の鶏小屋」まである。さすがに鶏はいないが、スイッチを入れると、鶏小屋の音がする。高齢の入所者が子供時代を思い起こせるような雰囲気をつくる。



図 8-11 昭和の横丁には駄菓子屋も床屋もある

■ネコ型配ぜんロボットも大活躍

レトロな雰囲気を醸し出す一方、最新鋭の機器も活用する。夕食時に厨房から居室へ進むのは、ネコ型配ぜんロボット「ベラちゃん」。行く手に障害物があればストップし、「通してほしいにゃ」と主張する。道を譲ると「今、料理を運んでるにゃ」と通り過ぎて行く。その様子がかわいいと人気で、入所者が声をかけるという。2022年に約7千500万人の生産年齢人口が、2040年には6千万人を割ると見込まれる。高齢者の数に応じて介護職を増やしていくのは困難で、より少ない人手で現場を運営するために、介護現場のDX化は喫緊の課題だ。



図 8-12 配ぜんをするロボット

■スタッフは私服で介護

入所型施設には珍しく、ほほえみの園のスタッフは私服で介護にあたる。施設長の吉村陽子さんは、「スタッフにはおしゃれをしてね、と言っています。ご高齢の方たちも気持ちが上がり、自分もおしゃれをしたいと思って元気になる。ここは生活の場。生活の場では、普通は制服を着ませんよね」という。

介護職の鶴田美穂さん（24）はニットベストにガウチョパンツ。介護の仕事に就いたのは、中学時代の経験がきっかけだ。障害のある人を家まで送り、「ありがとう」と言われたのが忘れられなかった。1人1人に合う声かけを心がけ、繰り返すうちに頼ってもらえるようになった。「今は気難しかった入所者さんの一番のお気に入りです」と、吉村施設長が言葉を添える。

運営する社会福祉法人「スマイリング・パーク」理事長の山田一久さんは、何よりも介護の必要な人の心の内を考える。「入りたくて施設に入る人はいない」と思う。施設入所を望むのは、本人より家族であることも多い。では、どうすれば施設が自宅に代わりうるか。

家族が孫を連れて面会に来てくれるよう、中庭に滑り台を置き、施設内に児童書のコーナーを設けた。昭和の横丁では孫に駄菓子を買って与えることもできる。

「施設でなければ暮らせない人もいる。在宅では受けられなかった愛情も提供できる。覚悟をもってやっています」（山田理事長）



図 8-13 入所者とおしゃべりをする鶴田美穂さん（左）

8.3.2 【しごとから】心惹かれる人たちとともに

鹿児島市の社会福祉法人「太陽会」が運営する障害者支援センター「しょうぶ学園」を訪ねた。しゃれたレストランやパン工房、アート工房などが点在するこの施設は、その人がその人らしくいられるよう、利用者との日々の会話に介護スタッフも癒される一。2022年7月29日付。



図 8-14 指揮する福森伸さん＝鹿児島市のしょうぶ文化芸術支援センター「アムアの森」

統括施設長の福森伸さん(62)はこの日、学園のホールで障害のある利用者らによる楽団「otto (オット)」の指揮をとっていた。打楽器、弦楽器、ハーモニカ、太鼓などで繰り広げられる音楽はにぎやかで、サン＝サーンスの「動物の謝肉祭」を思わせる。自由な振り付けで踊るダンサーもいて、熱気にあふれている。

福森さんは、「人間はありのままでもいいはず。ずれていてもいいし、ずれていなくてもいい。そう思いつつ、人に見せるとなると、音楽も『あるべき姿』にとられる。永遠のテーマだね」と話す。

しょうぶ学園の利用者は現在、知的障害などがある2歳から87歳の約200人。多様なサービスがあり、入所施設で暮らしながら日中はアート工房に通う人や、外部から通ってきてパン工房で働く人も。発達障害のある未就学の子どももいれば、放課後を過ごす児童もいる。

アートの種類は多様で、敷地内には刺しゅうなどを行う布工房、はがきや手描きTシャツなどを作る和紙・造形の工房、木工や陶芸の工房などが点在する。

■何気ない会話に癒される

設立から約50年が経過し、利用者の高齢化が顕著だ。最近では身体介護の必要な人も増えてきた。生活支援員の宗像恭子さん（43）は、「ベッド上の介護も増えている。介護研修を取り入れて、高齢化への環境を整えている」という。



図 8-15 「癒やされる瞬間がある」と言う宗像さん（左）

宗像さんは芸大を卒業してインテリア会社に勤務した後、帰郷を機に就職した。

「利用者さんの生活や人生に関わる中で、そのやり取りに癒やされる。例えば、普段は反発の強い人から『気をつけて帰ってね』と声をかけられると、明日も頑張ろうと思える」と明かした。

アパレルから転身した生活支援員、酒匂美智代さん（51）も「何気ない会話に感動したり、癒やされたりする」と口をそろえる。

長い時間を一緒に過ごす、家族のような関係になっていく。敷地内のレストランに食事に来て、ギャラリーでアートを見て感動して就職した。「ここにいる人たちに心惹かれる。年齢とともに疾患も出てくるので、この人たちの役に立てたらと思います」と語った。



図 8-16 昼休みに工房を出て昼食に向かう

8.3.3 【しごとから】介護の仕事をインターン体験－東京都

介護の担い手の人材不足を解消し、「介護のしごと」に関心や興味を持つ人を増やそうと、東京都は今年度（令和4年度）、「TOKYOかいごチャレンジインターンシップ（愛称・かいチャレ）」事業を実施している。その狙いを改めて聞くとともに、現場の反応などを取材した。2023年3月28日付。

■地域で介護にトライする人を増やしたい

東京都新宿区を拠点に在宅介護を中心に事業を行う株式会社「K-WORKER」（佐藤修代表）は、インターンシップを受け入れている事業所のひとつ。実際に事業所での対面とオンラインでの事業説明を含め9人（3月17日時点）を受け入れた。

「地元の新宿区を中心に地域内で仕事として介護にトライする人材を増やしたいと考え、参加しました」というのは同社統括マネージャーの野津禎二さん。



図 8-17 高齢者の利用者とK-WORKERの介護スタッフ

K-WORKERの通所介護事業所での1日のプログラムは、午前中に2時間ほど「介護サービス」の基本を中心に、仕事の種類や高齢者の体と心の理解、キャリアアップなどの座学を行う。

「現在は、介護職員初任者研修の中にあるボディメカニクス（最小限の力で介護ができる介護技術）を取り入れ、身体的負担を軽減する方法などもプログラムに取り入れています」と、家族の介護や実際に介護職に就いた際に活用できる技術も説明するという。

指導に当たる野津さんは現在38歳。専門学校に通っていた19歳のころ、末期がんになった祖父を病院に見舞った際、「合気道の師範までやったおじいちゃんがすごくやせ細っていたのを見てショックを受けました。元気で体が丈夫な人—おじいちゃんは“強い人、”と思っていたので、高齢になって体が衰えていくという事実気づいたのです。それが介護に興味を持ったきっかけです。将来的に介護の仕事へのニーズは高くなるのははっきりしていたので志望しました」と振り返る。その後、洋服店でアルバイトをしながら旧ホームヘルパー2級の研修を終え、2006年にK-WORKERに入社した。



図 8-18 介護の仕事について語る野津さん

「最初のころ、まだ自分も人間的にできていない面もあり、利用者さんとのコミュニケーションがうまくいかず、『もう来ないでくれ』などと言われて、落ち込みました。その一方で、『来てくれて助かった、ありがとう』と言ってくれる方もいて、それが支えになり、きょうまで続けられました」。

■就労の選択肢に介護の仕事を—

「かいチャレは、介護施設などで1～5日間、実際にその現場を体験するインターンシップ。その経験が直接介護職の就労につながるものではないですが、仕事を探す人たちに介護職が選択肢のひとつになってもらうことが狙い」と話すのは東京都福祉保健局介護保険課課長代理（介護人材担当）の寺田靖子さん。



図 8-19 インターンシップを推進する都福祉保健局の職員らと寺田さん（中央）

都は昨年8月からインターンシップを進めており、これまでに都内の介護関連の266事業所が参加し、2023年2月末までに約300人（のべ数）が直接事業所に行ったり、オンラインでの研修を受けたりするなどインターンシップを経験している



図 8-20 都の「かいチャレ」じぎょうについて期待する寺田さん

「職探しをする際に、介護職を考えていなかった人たちにも、アピールすることがこの事業のコンセプト。今年度から開始した事業でもあり、介護の仕事を経験する人も参加事業所も増えていくことに期待したい」と寺田さんは語る。

■自分に適しているのかどうかを判断…参加者

都内の特別養護老人ホームで2日間のインターンシップに参加した、都内の女性会社員Aさん（40代）は「将来、地方に住む親と同居して介護する可能性があり、介護知識を得たいと思っていました。介護施設は全国にあり、資格を得れば親が住む地方でも働ける、とも考えました。自分が介護職に適しているかどうかを判断したいと思いました」と参加動機を語る。

現場を経験してAさんは、「介護のスペシャリストである主任さんがよく教えてくれました。認知症などの疾患や、上手なコミュニケーションのとり方など必要な知識の座学もあっという間に終わりました。昼食の配膳準備、リネン交換、部屋掃除、体重測定、散歩の手伝いを実際にしました。高齢者個々の体力や健康状態を意識して、『利用者の支援をすることの大切さ』を感じました。インターンシップの2日間に失敗した時も心温まる言葉をもらい、緊張が和らぎました」と話す。そのうえで、Aさんは「介護をする上での細かな配慮や知識を心得て取り組んでいくことに、介護はやり甲斐のある仕事だと感じました。参加者に熱心に教えてくださったことに感謝したい。誇りを持って働いている担当の主任ら介護スタッフの姿を知ることができ、いい企画だと思いました」と話した。

インターンシップでは、参加者全員にキャリアカウンセリングが実施される。その情報が受け入れ先にも伝えられ、双方にとって満足度の高いものとなることを目指す。オリエンテーションが事前に実施され、知識のない人の不安を解消するほか、1日あたり1事業所につき5000円の支援金も支払われる。都は令和5年度も事業を行う予定。

8.4.1 【ひとから】介護はドラマチックの連続

鹿児島県薩摩半島の南部に位置する南九州市川辺町にある介護事業所「ひらやまのお家」は、「小規模多機能型居宅介護」を運営する。地域に密着し、できる限り最期まで家での暮らしを支えるサービスを提供することをモットーとする。2022年7月15日付。



図 8-21 一軒家に人が集い、泊まり、ここからの訪問も受けられる「ひらやまのお家」

■地域の声に応える活動

「ひらやまのお家」に集うのは、介護の必要な高齢者だけではない。スタッフ、その子ども、その友達、不登校の少年…。さまざまな人の居場所になっている。

運営する株式会社「いろ葉」の代表、中迎（なかむかえ）聡子さん（47）は、「子どもたちには、ここが学校でも家でもない第3の居場所になれるといい」と言う。

南九州市の人口は約3万3千人。高齢化率は40%を超えた。「耕す人がいなくなった畑を使ってもらえないか」「誰も住まなくなった空き家を管理してもらえないか」。そんな声が寄せられ、請われるままに耕作放棄地を借り、農作物を植えたり、果樹を育てたりするようになった。広くて古い民家には手を入れて、定期的に風を入れる。その代わりにスタッフの研修施設や宿泊場所としても使う。

それぞれの「好き」や「得意」を生かして農作業をしていたが、地域産品を循環させるなどのために介護保険外の組織が必要になり、別会社を設けることに。今や有機農法の専門家も雇用し、「あったらいいな」の延長で介護タクシーを始めるなど、結果的に地元が多様な産業を起こしている。

最近、町づくりのモデルとして紹介されることも多い。しかし、中迎さんは「地域のためというより、目の前にいる人にできることをしてきただけ。事業のすべてに『あの人のため』というエピソードがある。それがお互いさまになっていくといい」と自然体だ。



図 8-22 高齢の犬もいる。ご相伴に預かれないかと目が訴える

■「介護事業所」の固定観念は壊したい

要介護の高齢者が、思いもつかぬことに心を寄せていることが分かる瞬間がある。中迎さんは、「そこだったの！ と秘密のカギが開く。そこがドラマチック」と目を輝かせる。普段は自分が誰なのか、どこにいるのかも分からない認知症の女性が突然、「今日は、いろ葉に行こう」と意思表示をする瞬間。「その言葉だけで生きていける。こんな素敵な日常が送れる仕事はない」。

中迎さんは「介護事業所って、こういうものー」という世の中の固定観念は壊したいとも言い、「年を取ると、心の中にある多種多様性がむきだしになる。そんな高齢者の多種多様性が許容され、学校にいけない子供も生きていけるよう、地域のベースも多種多様にしていきたい」と話した。



図 8-23 高齢者との交流について熱く語る中迎さん

8.4.2 【ひとから】口腔ケアを通して、関係性を築く

サービス付高齢者向け住宅（サ高住）のケアホーム西大井こうほうえん（東京都品川区）は、介護スタッフが歯科衛生士と連携した「口腔ケア」に力を入れている。現場を支えるスタッフに話を聞いた。2022年10月7日付。



図 8-24 入居者の口腔ケアを行う沼上さん（左）と指導する奈良さん（右）

■生活の質改善に口のケアは欠かせない

「食べて出す—というのは日常生活の基本ですが、その質の改善には口の中のケアは欠かせません」。こう強調するのはケアホーム西大井こうほうえんの施設長、田中とも江さん（73）。

週 2 回、非常勤で施設を訪れ、介護スタッフに口腔ケアを指導している歯科衛生士、奈良とみ子さん（68）がいう。

「田中施設長に口腔ケアのできる介護職員を育ててほしいと声をかけられ、こちらに勤務することを決めました。介護スタッフが、口腔ケアを継続することで誤嚥（ごえん）性肺炎の予防だけでなく、口腔の健康に直接つながっていることを理解することが肝心ですね」。さらに、「毎日の口腔ケアを積み重ねることで、利用者の歯ぐきからの出血がなくなり、誤嚥性肺炎にならなくなる経験を共有できたこと、スタッフ同士が切磋琢磨する姿勢があるのが、ここ（西大井こうほうえん）の強みでしょう」と話した。

■情報カードを日々の口腔ケアに活用

施設全体での口腔ケアの取り組みは 2016 年 4 月からスタート。自立の人には、正しいブラッシングや口腔トレーニングなどのセルフケアを継続してもらう。一部支援が必要な人にはスタッフが不足部分を補い、すべて支援が必要な人にはセルフケアを代行する。

介護スタッフが、歯や歯ぐき、セルフケアの状況などを「口腔アセスメントシート」に従ってチェックし、歯科衛生士と一緒に口腔ケアプランを作成。それを情報カードにして、各居室の洗面台に置き、スタッフが日々の口腔ケアを行う際に使っている。



図 8-25 ケースに入れ綴じられたカード

■技術向上だけでなく、入居者との関係性も…

奈良さんから指導を受ける介護福祉士の沼上久美子さん（34）は「介護職員が口腔ケアを行うといっても、単に『お口の掃除屋さん』になってはいけない、と思っています。別の介護施設で働いていたときにも口腔ケアの経験はありましたが、ここでは介護スタッフみんなで口腔ケアに取り組んでおり、感動したほど。口の中の状態が悪いと食事もとれなくなりますが、毎日のケアで口臭がなくなることもあります。食事、入浴、排せつと同様に重要なケアなんです」と強調する。

田中さんは「ケア技術の向上だけでなく、入居者との関係性もより築けるようになっていく」と言い、「入居者に誤嚥性肺炎の発症もなくなり、「職員、スタッフが口腔ケアに自信を持ち、仕事への自負もより育った」と話した。



図 8-26 施設長の田中さん（左）と介護福祉士の沼上さん

第9章 SNS

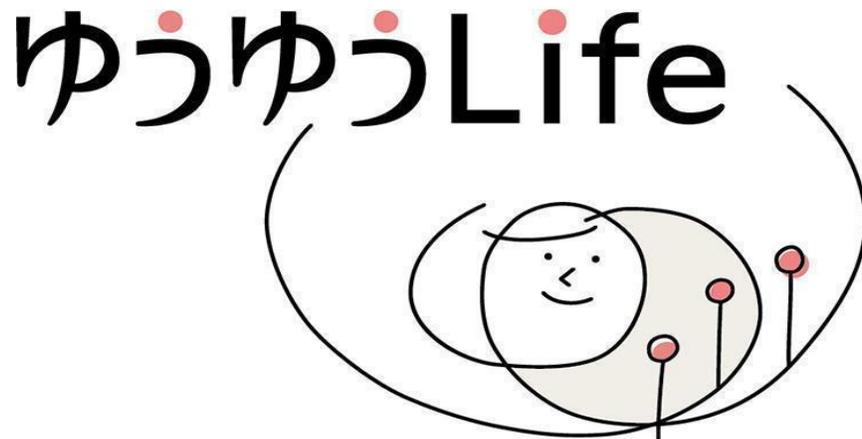


図9-1 公式サイト「ゆうゆう Life」ロゴ

9.1 SNS の活用

本プロジェクトのターゲットの中に介護無関心層もいることを視野に、その層が「ゆうゆう Life」のウェブサイトアクセスしやすい環境をつくるには工夫がいと考え、ターゲット層が普段から情報収集のために利用している SNS の活用を考えた。

今年度（令和4年）は、新たな取り組みとして、より幅広い層に情報発信をしたいと考え、公式サイト「ゆうゆう Life」の YouTube チャンネルを開設した。

SNS と無関心層は親和性が高いと見込み、それによる情報発信に努めた。コンテンツを投稿することで、イベントや記事コンテンツに興味や関心をもたせ、ウェブサイト「ゆうゆう Life」への誘導を目指した。SNS（Facebook、Twitter、YouTube、Instagram）によるアプローチで、ユーザーと交流し、ファンを増やすことを狙った。

9.1.1 ユーザーとの接点を増やし、認知拡大できる

企業の SNS 活用の最大のメリットは、SNS を通じてユーザーとの接点を増やし認知拡大ができることである。スマートフォンの普及によって、生活の中で SNS の利用者は増加し、社会の中で定着が進んでいる。

SNS で発信した情報はシェアなどで情報が拡散されると、さらなる認知拡大や新たな顧客獲得へ繋がることも期待できる。

商品やサービスの情報収集のために SNS を利用するという人も増えており、SNS 上での情報は購買行動も左右する重要な役割を担っている。

9.1.2 自社のファンを作ることができる

SNS を通じて自社のファン作り、育成ができるのもメリットとなる。企業とユーザーは SNS 上では直接コミュニケーションができる。コメントや「いいね」など企業側からの直接アプローチによって、ユーザーの参加意識の向上も見込める。

特に、企業がアカウントの人格を公開して、共感されるコミュニケーションを続けているアカウントは熱狂的なファンを作り、LTV (Life Time Value=顧客生涯価値) の高い顧客へと育成することに成功している。

9.1.3 ユーザーや他社と共創することができる

ユーザーはもちろん、業界を問わずに様々な企業と共にイベントや時流を作り出すことができる。SNS で行われる双方向なコミュニケーションでは、企業からの発信に対してユーザーからリアルタイムに反応が期待でき、生の声や意見を吸い上げられる。それによって吸い上げた意見を商品に反映した事例も少なくない。

9.2 SNS の運営

9.2.1 YouTube

今回取り組んだ YouTube は、世界で最も人気のある動画共有サイトの 1 つであり、以下のような特徴を持つ。

音楽、映画、TV 番組、ドキュメンタリー、コメディ、ビデオゲーム、チュートリアルなど、さまざまなジャンルのコンテンツがあり、この多様性は、視聴者が好みに合わせたコンテンツを見つけることを可能にし、独自のアルゴリズムを使用している。

このアルゴリズムは、視聴者の視聴履歴、関心事、検索クエリ、および他の要因を分析し、視聴者が興味を持つと思われるコンテンツを推奨することができる。

ゆうゆう Life の YouTube チャンネルの開設でも、より幅広いターゲット層へのアプローチを期待した。コンテンツとしては、介護関連の令和 3 (2021) 年度で実施したオンラインイベント「介護のおしごとのリアル DISCOVERY 介護～3 人のトップランナーを密着～」 「介護のおしごとのリアル～介護 DX のトップランナーに聞く～」ほか、令和 4 年度は BS フジの番組「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから【戸塚純貴】 #1～#6」、オンラインイベント「こどもヘルパー #1～#3」、トークイベント「介護のリアル【戸塚純貴】」、ニッポン放送でオンエアされた「ラジオゆうゆう Life #1～#2」などを配信し、反響を呼んだ。



図 9 - 2 YouTube 「ゆうゆう Life」チャンネル



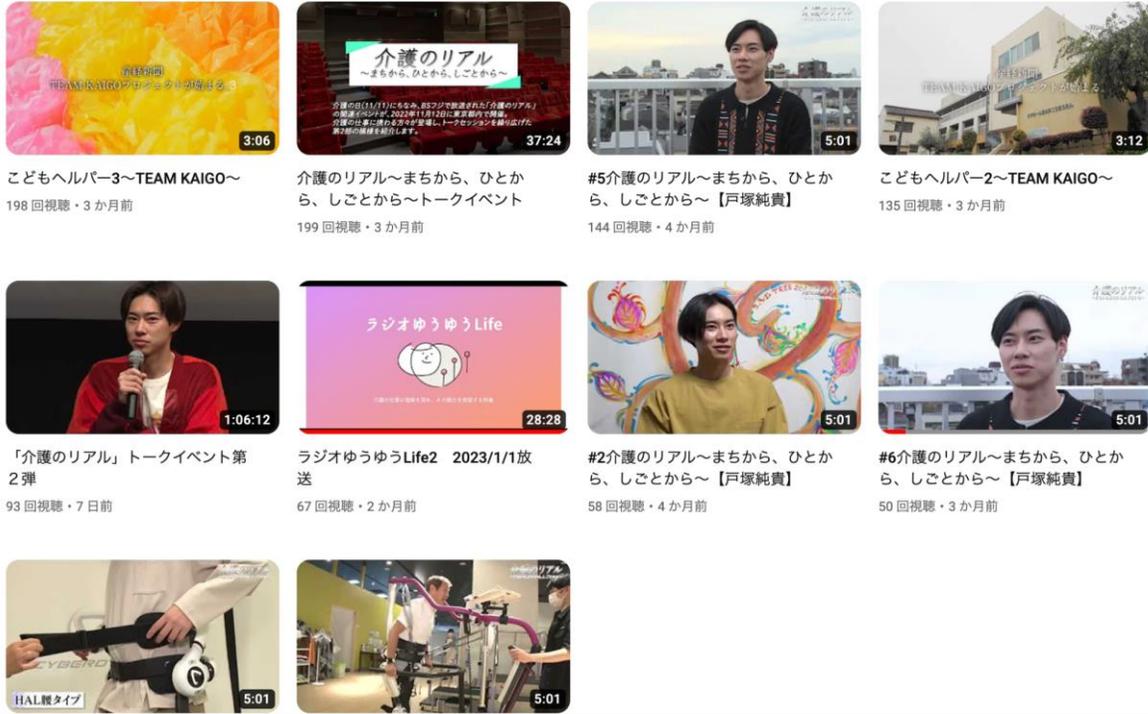


図 9 - 3 YouTube 「ゆうゆう Life」チャンネルで配信している各動画



総視聴回数 416,338
 総再生時間 1,693.6
 チャンネル登録者 100
 インプレッション数 12,917
 インプレッションのクリック率 6.4%

図 9 - 4 YouTube 「ゆうゆう Life」チャンネルの再生回数の推移

9.2.2 Facebook

Facebook はもともと、30代～50代のユーザーが最も多く、本プロジェクトのターゲット層も含まれている。オンラインイベントの開催を告知したり、周知するための媒体としても活用

した。投稿を読むことで、リンク先の情報の概要がつかめるような文章を心がけた。イベントの周知などにおいて、Facebook 広告も随時出稿した。

また、Facebook のコミュニティ機能を利用すると、フォロワー同士がグループ内で交流できるようになるので、属性ごとに交流して意見も吸い上げられる。



図 9 - 5 ゆうゆう Life 公式 Facebook

9.2.3 Twitter

Twitter は、Facebook に比べて若い世代の利用が多いが、情報拡散力は圧倒的に高い。

こちらも、オンラインイベントの開催を告知するなど、周知するための媒体として活用し、Twitter 広告も出稿した。Twitter は特にテキストが短文なため、画像で目を引くなど工夫した。イベント開催中も情報を発信し、介護の仕事の魅力を伝達するように努めた。

また、Twitter の企業アカウントの強みは、直接コミュニケーションを通じて企業アカウントとしての人格に好意を抱いてもらうこと、そして企業の存在を身近に感じてもらうことである。産経新聞社らしく、有益な情報をユーザーが比較的に来やすい時間帯に発信するように心掛けた。



図 9 - 6 ゆうゆう Life 公式 Twitter

9.2.4 Instagram

Instagram は写真や動画の共有に特化した SNS であり、以下のような特徴がある。

モバイルアプリケーションとしてリリースされているため、アプリの操作が簡単で、スマートフォンでの利用に最適化されている。

「インスタ」は若年層が活用するといわれるが、今回は、ゆうゆう Life チャンネルの「こどもヘルパー講習会」を PR したいと考え、同イベントの広告を動画で掲載し、反響を得た。



図 9 - 7 Instagram で掲載したイベントの動画広告

9.2.5 各 SNS 運営で気をつけていた注意点

SNS を利用した情報発信を行うことには、炎上リスクが伴う。炎上を未然に防ぎ、リスク回避をするために策定しておいたのが、ソーシャルメディアガイドラインである。

SNS は全世界に対して発信しているという自覚や心構えを明確にすることで、不用意な投稿の防止に繋がる。SNS はリアルタイム性が強いいため、問題発生後の対応を迅速に行えるかどうか、それが悪い影響を最小限に抑えるためのポイントとなる。

介護の世界はある意味、特殊な状況下にあるため、炎上しないよう細心の注意を払うと同時に、万が一の場合に備え、即対応できる態勢も整えていた。

9.2.6 ユーザーにとって魅力的な投稿が必須

SNS は自社の宣伝ができる無料ツールではなく、コミュニケーションによって生活者と関係を築いていくためのツールである。そのため、ユーザーにとって魅力的な投稿をしなければならない。SNS 上のトレンドをキャッチアップして、生活者と一緒に楽しみながら、イベント情報や自社の魅力などを発信した。

9.2.7 長期的に継続した運用を実施

SNS は関係構築がカギとなるが、そのためには継続的な更新が必要である。更新頻度が落ちたり、停止してしまったりするとコミュニティーの中で疎遠になってしまいがちとなる。「ユーザーとの関係値」という資産は、更新を続けているからこそ得ることができるものだ。

最初は週に2～3の更新から始め、だんだんと更新頻度を高め、長期的に継続可能な更新態勢を作るように努めた。ユーザーから「いいね」やリツイート、コメントをもらった際は、可能な限り反応、交流をし、ファン獲得にも努めた。

9.3 情報拡散

オンラインイベントなどの情報を幅広く発信するため、SNS 広告（Twitter、Facebook、YouTube、Instagram）、産経ニュース広告（おすすめ情報欄、インフィード欄）、Outbrain を駆使して拡散。クリック率が格段にあがった。

実施した中から抜粋すると、オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」では、Facebook 広告、Twitter 広告、Instagram 広告、YouTube 広告を出稿した。PR としては、オンラインイベント開催約1カ月前から各 SNS で掲載し、情報を拡散した。

また、全国の自治体による全国介護ポスター展開催の際は、Twitter、Facebook、YouTube 広告に出稿した。

← ツイート



ゆうゆうLife [公式]

@you_youlife

...

無料オンラインイベント『介護の日イベント こどもヘルパー講習会』～お年寄りとのコミュニケーションの基礎が学べる～

介護イベント動画 (YouTube) を視聴して、楽しく介護を学ぼう！youtu.be/Mm5c1fgXQNA



図 9 - 8 Twitter を活用し、告知

9.4 SNS 活用のまとめと今後の施策展開時の提案

単に SNS に告知を出すだけでなく、SNS 広告を活用することで、より広く情報を伝えることができた。これは SNS の特性でもあるが、twitter におけるリツイート等はある一定数を超えることで拡散効果が発生し、情報の伝達スピードが格段に上がる。

実際に SNS 広告を用いた前後では、クリック率など大きく変化していることが分かり、適切な SNS 広告の投入は有効であると考えられる。告知においては動画投稿の効果が大きいと考えられる。実際に動画投稿により多くアプローチができており、当日のオンラインイベントのイメージを伝える上でも効果的だったと考えられる。

また、今回の結果から、活用する媒体の種類には相性があることがより明確になった。これらを踏まえ、今後の施策展開時に有効なのは、以下が考えられる。

9.4.1 SNS だけに留まらないメディアの活用

イベント情報の提供においては、インターネット上のメディアツールである SNS の活用に留まらず、紙やラジオなどの他メディアを併せて活用することが、より強い広報効果を得られると予想される。今回のイベントの性質上、メインターゲット層に対して有効なメディアは顧客層に併せた戦略を立てることがより有効であると考えられる。

9.4.2 顧客層を広げ留めるための SNS の活用

顧客層の属性にかかわらず、SNS を活用した広報は一般に広くアプローチするために有効なツールだ。何かしらの機会に情報に触れていることで、関心が無かった層も見込み顧客に変わることが長期的には期待できる。また SNS はイベントへの入り口としても有効であり、情報を見た当人はイベントに関心を持たなくても、家族や友人に伝える効果も期待できると考えられる。

第10章 効果検証

本事業で実施した各種の記事、イベント、映像コンテンツ、入門的研修などに触れることを通じて、参加者の介護そのものに対する認識ならびに介護の仕事に対する認識がどのように変容したかについて、データを収集し、その結果をもとに本事業の効果検証を行った。第1節に調査の概要と検証の総括を、第2節に調査結果の詳細をとりまとめた。

10.1 調査の概要と効果検証の総括

10.1.1 調査の概要

(1) 効果検証の全体像

図10-1に効果検証の全体像を示す。本事業では表10-1で示す8つの事業（記事、イベント、映像コンテンツ、入門的研修）を実施しているが、事業毎にターゲット層と具体的なアプローチ方法を決定し、実施後に期待されるアウトカム（成果）を設定している。アウトカムを検証するために各種アンケート調査を実施した。

アンケート項目は事業横断で収集している設問項目と事業毎で異なる設問項目がある。事業横断で収集している設問（図10-1の共有設問の設定）は大きく2つに分かれ、一つは想定したターゲット層に適切にアプローチできているかを判断するための設問であり、いま一つは参加者の意識変容ならびに行動変容（ここでの行動変容とは具体的な行動に移すことではなく、行動を必要とするような意識変容があったかという意味合いで用いている）に関する設問である。

【事業対象者（ターゲット層）の設定】

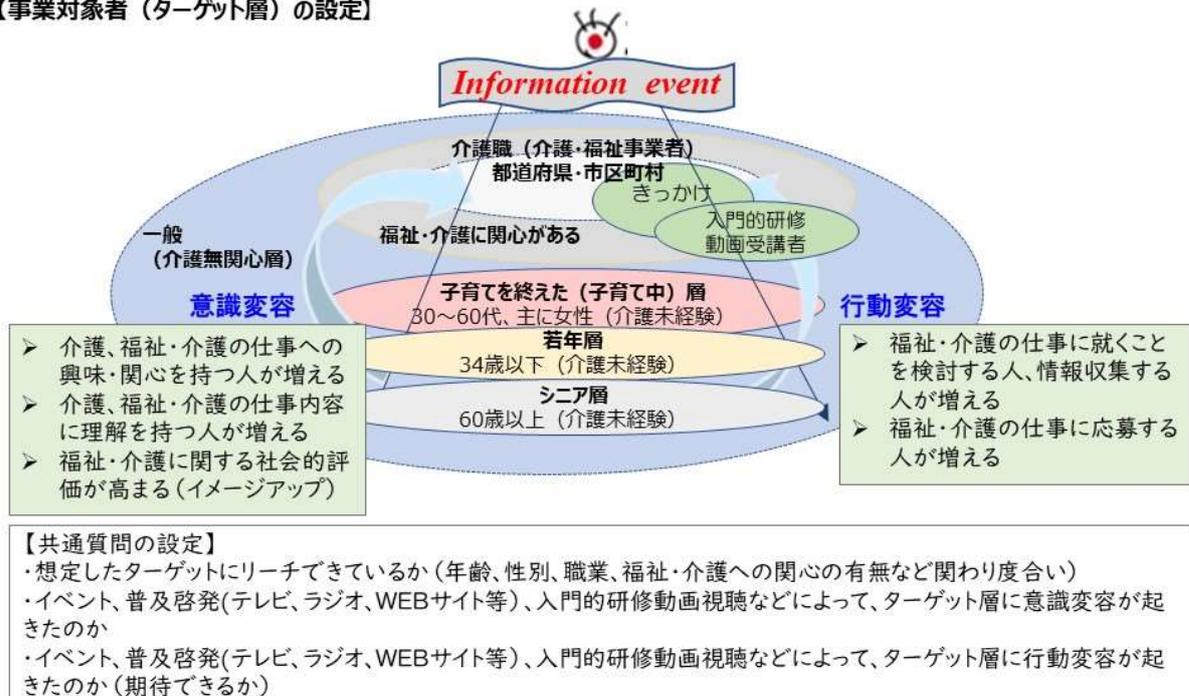


図 10-1 効果検証の全体像

意識変容ならびに行動変容の設問は、情報発信事業の公募時点において厚生労働省が実施主体に対して求めたアウトカムである「①福祉・介護の仕事への興味・関心を持つ人が増える」、「②福祉・介護の仕事に理解を持つ人が増える」、「③福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）」のほかに、「④就労や有償ボランティア、初任者研修への誘導ですそ野の拡大」を加えた。④は過年度より実施している入門的研修動画推進事業のアウトカムとして必要と判断して加えた。

表 10-1 各種事業のターゲット、アプローチ、アウトカム

事業名	ターゲット	アプローチ	アウトカム		
			内容	データ収集・指針	
① オウンドメディア・公式サイト 「ゆうゆうLife」	介護の仕事に無関心な層 ※特に子育てを終えた層、シニア層へのアプローチを重視	ウェブマガジン	①福祉・介護の仕事への興味・関心を持つ人が増える ②福祉・介護の仕事内容に理解を持つ人が増える ③福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）	「介護のしごと」に関する記事や情報によって、興味や気づきが拡大すること	ウェブコンテンツ閲覧前後アンケート調査 ・「介護のしごと」への理解度 「介護のしごと」に対する関心が向上した人の割合等
② 産経新聞への広告出稿	社会全体（介護の無関心層を含む）	新聞	①福祉・介護の仕事への興味・関心を持つ人が増える ③福祉・介護に関する社会的評価が高まる（イメージアップ）	新聞広告の閲覧者が「介護のしごと」への関心の有無によらず、介護に関する情報に触れること	広告閲覧者アンケート調査 ・広告接触率 ・広告理解度 ・広告好感度 ・広告の印象等
③ オンラインイベント 「こどもヘルパー講習会」	介護の仕事に無関心な層 子育て中の層	YouTube動画	①福祉・介護の仕事への興味・関心を持つ人が増える ②福祉・介護の仕事内容に理解を持つ人が増える	イベント参加者（動画視聴者）が、現場見学により、介護施設や介護の仕事に関する理解を深めること／興味関心が高まること	動画視聴者アンケート調査 ・「介護のしごと」への理解度 ・視聴前に比べて「介護のしごと」に対する関心が向上した人の割合等
④ イベント 「介護の日ポスター・チラシ展」	自治体の担当者 介護事業者	展示報告書	②福祉・介護の仕事内容に理解を持つ人が増える	手ごたえのあった取組を知り、事業検討の参考としてもらうことで、地方自治体等における取組を促進すること	担当者アンケート調査 ・出展への満足度 ・今後の出展意向等
	介護の仕事に無関心な層	展示ウェブ調査	①福祉・介護の仕事への興味・関心を持つ人が増える	都道府県事業と連携したイベントを実施することにより、介護の仕事に	ポスター・チラシ閲覧・評価者アンケート調査 ・見る前に比べ

				関する理解を深めること／興味関心が高まること	て「介護のしごと」に対する関心が向上した人の割合
⑤ BS フジ番組 連動企画ト ークライブ	介護の仕事に 無関心な層、 若年層	イベント	①福祉・介護の仕 事への興味・関心 を持つ人が増える	イベント参加者 が、現場の情報に 触れることによ り、介護の仕事に 関する興味関心 が高まること	イベント参加者 に対するアンケ ート調査 ・参加前に比べ て「介護のしご と」に対する関 心が向上した人 の割合
⑥-1 ニッポン放 送とのタイ アップ番組 「ラジオゆう ゆう Life」	社会全体（介 護の無関心層 を含む）	ラジオ	②福祉・介護の仕 事内容に理解を持 つ人が増える ③福祉・介護に関 する社会的評価が 高まる（イメージ アップ）	番組視聴（聴取） 者（動画視聴者） が「介護のしご と」への関心の有 無によらず、介護 に関する情報に触 れること 番組視聴（聴取） 者（動画視聴者） が、自分にできる 介護のしごと（周 辺業務）を理解す ること	YouTube 動画視 聴モニター調査 ・介護のイメ ージが向上した人 の割合 ・「介護のしご と」への理解度 等
⑥-2 BS フジとの タイアップ 番組 「介護のリア ル～まちか ら、ひとか ら、しごと から～」	社会全体（介 護の無関心層 を含む）	テレビ			
⑦ ファンコミ ュニティ・ きっかけ 「ゆうゆう Life コミュ ニティ」	介護の仕事に 無関心な層 介護経験者	ウェブコミ ュニティ	①福祉・介護の仕 事への興味・関心 を持つ人が増える ②福祉・介護の仕 事内容に理解を持 つ人が増える	ファンコミュニ ティ内での双方向 での情報交換等 で、介護の仕事 への興味や気づ きを広げること	ユーザー調査 ・記事閲覧前後 （サイトでの双 方向のやり取り） で、「介護のし ごと」への関 心が向上した人 の割合
⑧ 入門的研修 動画推進事 業	介護の仕事に 関心がある層 介護経験者	啓発ツール （動画）	②福祉・介護の仕 事内容に理解を持 つ人が増える ④就労や有償ボ ランティア、初任 者研修への誘導 ですそ野の拡大	入門的研修の受 講を通して、受 講者の介護の仕 事への関心が高 まること 介護の仕事に興 味がある人の掘 り起こしにつな げること 入門的研修動画 の活用を広げ ること	受講者、修了者 アンケート調査 ・入門的研修の 内容への理解度 ・福祉・介護へ の仕事に就くこ とを検討する人 、情報収集する 人の割合 等

(2) 調査項目（共通設問）

意識変容と行動変容に関する具体的な設問項目は表 10-2 に示す通りである。本年度は意識変容に関するアウトカムを求められたため、行動変容に関する質問項目を減らし、意識変容に関する項目を増やした。設問は全部で 18 項目あり、介護そのものに対する意識変容、介護の仕事に対する意識変容、行動変容の 3 つに分かれる。

介護そのものに対する意識変容、介護の仕事に対する意識変容は 1：大いにあてはまる、2：ほぼあてはまる、3：どちらでもない、4：ほぼあてはまらない、5：あてはまらない—の 5 件法で回答を求めた。行動変容は 1：積極的に実施したい、2：機会があれば実施したい、3：どちらでもない、4：あまり実施したくない、5：実施したくない—の 5 件法で回答を求めた。よって、ここでの行動変容とは、具体的な行動に移すことではなく、行動を必要とするような意識変容があったかという意味合いで用いているので、留意が必要である。

表 10-2 共通質問の調査項目

カテゴリー	設定内容
意識変容 介護	<事業関与>前に比べて「介護」のイメージが向上した
	<事業関与>前に比べて「介護」への興味関心が高まった
	<事業関与>前に比べて「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった
意識変容 介護の仕事	<事業関与>前に比べて「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった
	<事業関与>前に比べて「介護の仕事」への関心が高まった
	「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた
	「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった
	「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった
	「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった
	「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった
	「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった
	「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった
行動変容	「介護の仕事」をしている人と話す
	「介護」に関する記事や番組などを見る
	「介護」に関するイベントに参加する
	「介護」に関するボランティアをする
	あなた自身が「介護の仕事」に携わる
	「介護の仕事」を人に勧める

各調査の実施時期は表 10-3 に示す通りである。

表 10-3 調査内容及びスケジュール

調査内容	実施時期
事前調査「ライフスタイルに関するアンケート」	2022 年 9 月
⑧入門的研修動画 受講者／修了者アンケート	2022 年 9 月～10 月 2022 年 12 月～3 月
③オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」視聴者アンケート	2022 年 11 月～12 月
④「介護の日 ポスター・チラシ展」審査アンケート ④「介護の日 ポスター・チラシ展」出展自治体担当者アンケート	2022 年 11 月 2022 年 12 月～2023 年 1 月
⑤BS フジ番組「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」連動企画 トークライブ イベント参加者アンケート	2022 年 11 月 2023 年 3 月
⑦ファンコミュニティ・きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」ユーザー調査	2023 年 2 月
⑥YouTube チャンネル「ゆうゆう Life」動画視聴モニターアンケート	2023 年 3 月
②産経新聞紙面広告出稿後調査（新聞広告共通調査プラットフォーム）	2023 年 3 月
① ゆうゆう Life 記事閲読による意識変化調査	2023 年 3 月

10.1.2 調査結果

各事業の意識変容、行動変容に関わる共通設問の結果を次頁に示す。各数値は Positive 比率（5 件法で上位 2 件の占める割合）を指す。例えば、1：大いにあてはまる、2：ほぼあてはまる、3：どちらでもない、4：ほぼあてはまらない、5：あてはまらないの場合、1：大いにあてはまる、2：ほぼあてはまる—の二つの回答が占める割合が Positive 比率である。

事業によっては、ターゲット層に近い者を抽出した回答（例えば、①オウンドメディア・公式サイト「ゆうゆう Life」であれば、就労意向有層）も掲載している。なお、②産経新聞への広告出稿については、調査が実施できなかった。したがって次頁はそれ以外の 7 つの事業についての結果を掲載している。具体的な事業は以下の 7 つで、それぞれについて簡潔に調査結果を記述する。

- ①オウンドメディア・公式サイト「ゆうゆう Life」
- ③オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」
- ④イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」
- ⑤BS フジ番組連動企画トークライブ
- ⑥-1：ニッポン放送とのタイアップ番組「ラジオゆうゆう Life」
- ⑥-2：BS フジとのタイアップ番組「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」
- ⑦ファンコミュニティ・きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」
- ⑧入門的研修動画推進事業

カテゴリー	令和4年度	オウンドメディア・公式サイト「ゆづりLife」						オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」	イベント「介護の日ポスター・チラシ展」	BSフジ番組連動企画トークライブ				ニッポン放送とのタイアップ番組	BSフジとのタイアップ番組	まっかけ「ゆづりLife」コミュニティ	入門的研修動画
		一般記事①		一般記事②		一般記事③				第1回		第2回					
		全回答	就労意向有	全回答	就労意向有	全回答	就労意向有			全回答	若年層	全回答	若年層				
	n	1305	807	1305	807	1305	807	67	789	71	33	58	19	147	169	371	68
意識変容-介護	<事業関与> 前に比べて「介護」のイメージが向上した	47.8	49.2	46.1	47.2	52.4	54.2	68.7	66.0	94.4	93.9	91.4	94.7	63.3	73.4	37.7	73.5
	<事業関与> 前に比べて「介護」への興味関心が高まった	42.8	44.6	39.3	41.1	43.1	44.9	58.2	62.7	88.7	100.0	93.1	94.7	63.3	64.5	47.2	83.8
	<事業関与> 前に比べて「介護」の知識をもと得たいと思ふようになった	43.0	46.7	39.7	42.3	38.9	41.9	61.2	61.6	84.5	100.0	91.4	94.7	57.8	65.7	53.1	94.1
意識変容-介護の仕事	<事業関与> 前に比べて「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	37.6	40.3	35.6	37.7	40.8	43.4	59.7	55.4	94.4	97.0	87.9	89.5	58.5	62.7	45.3	77.9
	<事業関与> 前に比べて「介護の仕事」への関心が高まった	34.6	37.1	32.6	34.0	37.2	39.0	56.7	54.2	88.7	90.9	87.9	89.5	53.1	60.4	38.5	69.1
	「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないと感じた	32.7	37.7	23.8	28.5	27.0	32.3	68.7	39.3	84.5	81.8	79.3	68.4	47.6	49.7	31.8	72.1
	「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じようになった	23.2	27.4	20.8	24.2	25.9	29.7	46.3	29.3	82.9	81.8	69.0	63.2	32.7	41.4	19.1	57.4
	「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じようになった	64.1	63.9	75.7	75.6	67.1	66.4	74.6	70.1	73.2	63.6	70.7	57.9	70.7	58.0	59.0	94.1
	「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じようになった	30.0	33.8	28.1	31.4	34.0	38.0	46.3	43.3	85.9	90.9	81.0	73.7	41.5	41.4	23.7	63.2
	「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じようになった	54.3	57.6	48.9	52.3	48.7	52.0	50.7	63.1	95.8	93.9	94.8	94.7	71.4	63.9	42.0	88.2
	「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じようになった	17.9	19.6	19.7	21.6	20.3	21.9	40.3	21.9	56.3	54.5	53.4	57.9	17.0	15.4	27.2	29.4
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じようになった	54.0	55.1	50.4	51.9	51.0	53.5	53.7	56.5	90.1	97.0	87.9	78.9	59.9	59.8	43.7	91.2	
行動変容	「介護の仕事」をしている人と話す	48.0	52.5	51.5	51.5	51.0	54.5	56.7	62.4	85.9	84.8	82.8	78.9	66.7	60.4	45.3	85.3
	「介護」に関する記事や番組などを見る	60.8	63.3	59.2	59.2	57.7	59.5	61.2	67.3	95.8	93.9	81.0	63.2	74.8	72.8	55.5	97.1
	「介護」に関するイベントに参加する	33.6	38.0	37.7	37.7	34.2	38.3	52.2	45.8	88.7	84.8	84.5	73.7	51.0	50.3	29.9	73.5
	「介護」に関するボランティアをする	28.7	34.6	30.9	30.9	28.4	33.0	53.7	38.1	80.3	75.8	69.0	63.2	43.5	40.8	26.1	72.1
	あなた自身が「介護の仕事」に携わる	16.5	22.4	20.9	20.9	16.9	23.2	37.3	23.6	46.5	39.4	51.7	52.6	20.4	23.1	21.0	27.9
	「介護の仕事」を人に勧める	14.0	17.6	18.6	18.6	17.1	19.7	35.8	24.7	42.3	42.4	46.6	42.1	18.4	20.7	17.0	25.0

(1) ①オウンドメディア・公式サイト「ゆうゆう Life」

3つの記事を掲載し、有効回答数として全回答（n=1,305）、就労意向有回答（n=807）を収集した。3つの記事で数値に多少の差はあるもののPositive比率の傾向はほぼ同じであった。具体的には、高いPositive比率を示したのは、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は専門性が高い仕事であると感じるようになった」が63.1%～75.6%、「行動変容：介護に関する記事や番組などをみる」が57.7%～63.3%であった。低いPositive比率を示したのは、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」が17.9%～21.9%、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」が16.5%～23.2%、「行動変容：介護の仕事の人を勧める」が13.0%～19.7%であった。

(2) ②オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

有効回答数は67であった。内訳は高校生以下が30、彼らと一緒に視聴したと思われる親やそれ以外の大人が37である。①オウンドメディア・公式サイト「ゆうゆうLife」と比較するとPositive比率は高い。具体的には「意識変容-介護：前に比べて介護のイメージが向上した」が68.7%、意識変容-介護の仕事：介護の仕事について自分でもできるものがあるのではないかと感じた」が68.7%、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は専門性が高い仕事であると感じた」が74.6%であった。低いPositive比率を示したのは、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」が37.3%、「行動変容：介護の仕事の人を勧める」が35.8%、であった。

(3) ③イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

有効回答数は789であった。いずれも③オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」と同じ傾向であったが、いくつかの項目については低いPositive比率となった。具体的には、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事はおもしろい仕事であると感じるようになった」が29.3%、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」が21.9%、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」が23.6%、「行動変容：介護の仕事の人を勧める」が24.7%であった。

(4) ④BS フジ番組連動企画トークライブ

トークライブを2回開催した。有効回答数は1回目が71、2回目が58であった。うち若年層は1回目が33、2回目が19であった。Positive比率はいずれも、①オウンドメディア・公式サイト「ゆうゆうLife」、③オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」、④イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」より極めて高い。そのなかで相対的にPositive比率が低いのは、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」が53.4%～57.9%、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」が39.4%～52.6%、「行動変容：介護の仕事の人を勧める」が42.1%～46.6%であったが、他の事業と比べると極めて高い数値でもある。

(5) ⑤ニッポン放送とのタイアップ番組「ラジオゆうゆう Life」

(6) ⑥BS フジとのタイアップ番組「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」

ラジオとテレビで放送した番組をアーカイブ化しYouTubeチャンネルにて視聴してもらった。有効回答数はラジオが147、テレビが169であった。Positive比率は④イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」とほぼ同じで傾向であった。相対的にPositive比率が低いのは、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」が15.4%～17.0%、「行動変

容：あなた自身が介護の仕事に携わる」が20.4%～23.1%、「行動変容：介護の仕事人を人に勧める」が18.4%～20.7%であった。

(7) ⑦ファンコミュニティ・きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」

ファンコミュニティ「きっかけ」の登録者がファンコミュニティ内での双方向での情報交換を行っており、このユーザーに対して調査を実施した。有効回答数は371である。全般的にPositive比率は他の事業に比較して低い。「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」、「行動変容：介護の仕事人を人に勧める」が低い（それぞれ、27.2%、21.0%、17.0%）だけでなく、他の事業では比較的Positive比率が高い「意識変容-介護」に関する設問でもPositive比率が低い傾向にあった。

(8) ⑧入門的研修動画推進事業

入門的研修動画修了者にアンケートを行い、有効回答数は68であった。全般的にPositive比率は高い。具体的には「意識変容-介護：前に比べて介護の知識をもっと得たいと思うようになった」が94.1%、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は専門性が高い仕事であると感じた」が96.1%、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事はやりがいのある仕事であると感じた」が88.2%、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は将来性のある仕事であると感じた」が91.2%であった。一方、Positive比率が低いのは、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」が29.4%、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」が27.0%、「行動変容：介護の仕事人を人に勧める」が25.0%であった。

10.1.3 調査結果を踏まえた考察と評価

各事業のPositive比率の結果を踏まえて考察と評価を簡潔に述べる。

設問項目で比較してみると、Positive比率が高い項目とPositive比率が低い項目が明確に分かれた。Positive比率が際立って高いのは「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は専門性が高い仕事であると感じた」であり、これは本事業がこの点を強調してメッセージを発信しているからにほかならない。このほかには「意識変容-介護」に関する各設問もPositive比率が比較的高い。これに対してPositive比率が低いのは、「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」、「行動変容：介護の仕事人を人に勧める」の3点である。どんなに魅力的で面白そうで専門性のある仕事であっても、生計が立てられる仕事でなければ、自身が仕事として選択したり、他者に仕事として勧めるという真の行動変容には結びつかない。今後は、これらの点について情報発信をしていくことに重点を置く必要があると考える。もちろん、全事業に対してこれらの点の情報発信を強化していく必要はなく、次項で述べる事業別の特徴を踏まえた対応が肝要であろう。

事業別に比較してみると、⑧入門的研修動画推進事業、③オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」のように参加者が自ら働きかけ学ぶタイプの事業は、他の事業と比較すると「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」、「行動変容：介護の仕事人を人に勧める」のPositive比率がそこまで低くはない。また、⑧入門的研修動画推進事業よりも③オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」のほうが、上記3点のPositive比率が若干高い点にも着目すべきであろう。回答者の半数近くが18歳未満

の子どもであることが影響していると推察されるが、一方で、教育の場面で職業選択として介護の魅力をもっと発信していくことの可能性を感じさせる結果であるとも言えよう。

もう一点、触れておきたいのは⑤BSフジ番組連動企画トークライブでPositive比率がおしなべて極めて高かったことである。この事業は介護の仕事に無関心な層、若年層をターゲットにしたもので、若手の男性芸能人を起用したこともあり参加者の9割近くが女性であった。参加者介護に対する関心も高い（詳細は以降の第2節を参照されたい）。一方で、同じ番組内容は⑥-2：BSフジとのタイアップ番組「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」でも取り上げているのだが、こちらはPositive比率は全般的に下がり、とりわけ「意識変容-介護の仕事：介護の仕事は生計がたてられる仕事であると感じるようになった」、「行動変容：あなた自身が介護の仕事に携わる」、「行動変容：介護の仕事を人に勧める」の3点の低下が著しい。同じコンテンツであっても、⑤BSフジ番組連動企画トークライブのように届けたい層に適切にリーチできればPositive比率は高くなることを明快に示したものと見えよう。

実施主体である当社は、フジサンケイグループがメディア事業を総合的に手掛けている強みを生かして、マスメディアとして多くの人に介護の魅力を発信しながら全体を底上げしつつ、ターゲット層の明確化と適切なアプローチ方法を組み合わせたピンポイントでの情報発信の強化、その双方を推進していくことが効果的であることが明らかになったと考える。

10.2 調査結果の集計および分析

10.2.1 ウェブサイト「ゆうゆう Life」記事閲覧による意識変化

(1) 調査の目的と概要

本事業が目的とする、介護と地域づくりをめぐる「介護の仕事」に関する記事や情報によって、興味や気づきが拡大することがウェブサイト「ゆうゆう Life」によって実現されているか、ネットリサーチにより実施した。

全国の1902人に、「介護業界」「介護に関わる仕事」への就労意向を尋ねた上で、ウェブサイト掲載記事を読んでもらう。そののち、あらためて「介護業界」「介護に関わる仕事」への就労意向を尋ね、回答の変化量を測定した。

調査の概要は以下の通り。

- | | |
|-------|-----------------------------|
| ■調査方法 | インターネット調査 |
| ■実施機関 | 株式会社産経リサーチ&データ |
| ■実施期間 | 2023年3月15日(水)~2023年3月28日(火) |
| ■回収状況 | 有効回答1305人 うち今後の就労意欲がある807人 |

(2) 調査集計

■ 基本属性

調査対象807サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	468	58.0
女性	339	42.0
全体	807	100.0

年齢	人	%
20代	4	0.5
30代	40	5.0
40代	142	17.6
50代	259	32.1
60代	263	32.6
70代	91	11.3
80代以上	8	1.0
全体	807	100.0

職業	人	%
会社員	307	38.0
公務員	47	5.8
自営業・自由業	100	12.4
会社役員・経営者	33	4.1
パート・アルバイト	150	18.6
その他（有職）	26	3.2
専業主婦・主夫	62	7.7
学生（福祉系の大学・専門学校など以外）	2	0.2
無職	80	9.9
全体	807	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	330	40.9
自分が介護される立場（だったことがある）	12	1.5
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	66	8.2
介護の仕事をしている（したことがある）	48	5.9
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	84	10.4
自分の介護のことに興味がある	178	22.1
親や家族などの介護のことに興味がある	312	38.7
その他、介護との関わり・興味がある	101	12.5
該当するものはない	168	20.8
全体	807	100.0

■ 調査サンプルが閲読した「ゆうゆう Life」の記事コンテンツ

ゆうゆうLife



「昔からの品なり新よりの品なり品なり」といって中野裕子さん (左)

新スタンプ ひととき ひととき

介護はドラマチックの連続—いろ葉

2022/07/15

介護の現場には、その難関のドラマがある。前かがみの姿勢を覚え、それらが驚かす。恥を覚わって現場の覚えようになっていく。「涙まじりながらも、『おの人のため』だった」という言葉が、介護現場に響いた。

◆高齢者も子どもも青年も

鹿児島県薩摩半島の南部に位置する南九州市川辺町。その住宅地と農地が混在する。宅地の区画が切れたところから1軒の民家が建ち、高齢の男性と若い女性が暮らす。

介護事業所「ひらやまの家」は、「小規模多機能型居宅介護」と呼ばれる介護サービス。要介護の高齢者が住んでみて1日を過ごしたり、遊んだり。ここから毎朝に居宅介護は始まる。あたたかみのあること。地域に密着して、できる限り居宅で暮らすことを目指すサービスだ。



ゆうゆうLife



「ケアホーム西大井こうほうスル」の職員と利用者

新スタンプ ひととき

口腔ケアを通して、関係性を築く

2022/10/07

「全てはケア」というのは介護現場の原則だが、その原則を貫くには「ケアの心」が欠かせない。この原則を貫くのはケアホーム西大井こうほうスル（鹿児島県川辺町）の職員、戸田もも子さん（73）が、同施設は、介護スタッフが常駐する介護施設「しづり」を運営している。介護現場のスタッフも、関係性を築く。

○スタッフ同士がケアで切磋琢磨

18歳は介護士で働く。介護士としての経験がある戸田さんには、若い介護士も「ケア」が、2022年3月にオープンしたサービス（介護施設）が、2022年9月に開業した。

※2日、介護現場の現場、介護スタッフに、口腔ケアを指導している介護士、戸田もも子さん（左）が、右。

ゆうゆうLife



「おのの品なり新よりの品なり品なり」といって中野裕子さん (左)

新スタンプ ひととき ひととき

昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし

2022/07/08

鹿児島県南九州市川辺町にある「しづり」は、昭和の横丁と介護職の介護職が共存する。入所者の高齢者が増え、介護職も増える。2022年11月、介護職（デジタルトランスフォーメーション）と密着している。



■ 設問「今後のお仕事として、興味・関心がある就労先を教えてください」（いくつでも）

この設問を、「ゆうゆう Life」の記事を読む前と読んだ後の2回、繰り返した。

「福祉・介護」を選択した回答者は、読む前では105（13.0%）だったが、読んだ後では155（19.2%）に増加した。

興味・関心がある業種	「ゆうゆう Life」 記事閱讀前			「ゆうゆう Life」 記事閱讀前	
	人	%		人	%
(複数回答)					
水産・農林・鉱業	53	6.6		54	6.7
建設	46	5.7		53	6.6
製造業	166	20.6		155	19.2
卸（卸売り業）	45	5.6		51	6.3
小売業	113	14.0		100	12.4
通信・IT	147	18.2		136	16.9
病院・医療	105	13.0		116	14.4
福祉・介護 ★	105	13.0	→	155	19.2
不動産	72	8.9		58	7.2
金融・証券・保険	63	7.8		59	7.3
電気・ガス・水道	39	4.8		32	4.0
運送・運輸	59	7.3		58	7.2
放送・報道	57	7.1		63	7.8
広告・調査	83	10.3		69	8.6
官公庁	160	19.8		152	18.8
飲食/飲食サービス	81	10.0		76	9.4
アパレル/ファッション	31	3.8		36	4.5
コスメ/美容	22	2.7		24	3.0
学校/教育	175	21.7		187	23.2
娯楽	46	5.7		42	5.2
宿泊	49	6.1		55	6.8
上記以外のその他	165	20.4		178	22.1
全体	807	100.0		807	100.0

■ 設問「今後のお仕事として、興味・関心がある就労先や職種を教えてください」（いくつでも）

この設問を、「ゆうゆう Life」の記事を読む前と読んだ後の2回、繰り返した。

「福祉・介護」に関連する就労先を選択した回答者は、読む前では149（18.4%）だったが、読んだ後では210（26.1%）に増加した。

興味・関心がある就労先	「ゆうゆう Life」 記事閱讀前			「ゆうゆう Life」 記事閱讀前	
	人	%		人	%
(複数回答)					
ファミレス・レストラン・ファーストフード・カフェ	42	5.2		43	5.3
居酒屋	21	2.6		26	3.2
宅配・デリバリー・出前	12	1.5		14	1.7
食品製造・調理	67	8.3		63	7.8
その他の飲食業界	40	5.0		39	4.8
美容関連（エステ・ネイル・美容師・メイク）	14	1.7		16	2.0
介護職員（介護施設の職員・ホームヘルパーなど）★	60	7.4	→	86	10.7
その他の福祉・介護業界	89	11.0	→	124	15.4
看護師・准看護師	14	1.7		13	1.6
その他医療・医療事務	93	11.5		91	11.3
コンビニ・レジ・スーパー・ドラッグストア	62	7.7		54	6.7
家電量販店・携帯ショップ	17	2.1		18	2.2
アパレル関連	28	3.5		23	2.9
警備員・監視員	65	8.1		65	8.1
清掃員	55	6.8		58	7.2
パチンコスタッフ・カラオケスタッフ・アミューズメントスタッフ	7	0.9		4	0.5
スポーツ関連（ジムスタッフ・インストラクター・ゴルフ場キャディなど）	42	5.2		36	4.5
ホテル・ペンション・民宿スタッフ	64	7.9		60	7.4
イベントスタッフ・コンサートスタッフ	50	6.2		48	5.9
ドライバー（タクシーなど）	27	3.3		26	3.2
電話対応・コールセンター・テレアポ	46	5.7		47	5.8
事務・庶務	259	32.1		251	31.1
その他の事務（受付など）	112	13.9		105	13.0
塾講師・家庭教師	63	7.8		69	8.6
保育士・幼稚園教諭	19	2.4		20	2.5
その他教育（英会話など）	68	8.4		65	8.1
工場・倉庫内作業（検品・商品管理・仕訳・梱包など）	111	13.8		101	12.5
宅配便の配送・バイク便・新聞配達	20	2.5		20	2.5
データ入力・SE（システムエンジニア）・プログラマー	108	13.4		96	11.9
その他のIT・コンピュータ関連（ゲーム・ユーザーサポートなど）	68	8.4		67	8.3
上記以外のその他	186	23.0		166	20.6
興味・関心がある就労先・職種は特にない	56	6.9		59	7.3
全体	807	100.0		807	100.0

「ゆうゆうLife」の記事を読んだ後に、各記事への理解度や評価についての設問を繰り返した。各記事に対する回答は以下の通り。

■ 一般記事①「介護はドラマチックの連続—いろ葉」評価

「記事への興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、7割以上が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。

 上段：人 下段：% 単一回答	全体	非常に そう 思う	やや そう 思う	わ か ら な い	やや そう 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
	記事は、興味を持てた内容だった	807 100.0	181 22.4	409 50.7	148 18.3	59 7.3
記事の組み立て方（施設ごとの紹介、インタビューなど）は適切だった	807 100.0	181 22.4	465 57.6	137 17.0	21 2.6	3 0.4
記事の長さ（読む時間）は適切だった	807 100.0	248 30.7	407 50.4	79 9.8	69 8.6	4 0.5
記事の内容はわかりやすいものだった	807 100.0	288 35.7	430 53.3	51 6.3	34 4.2	4 0.5

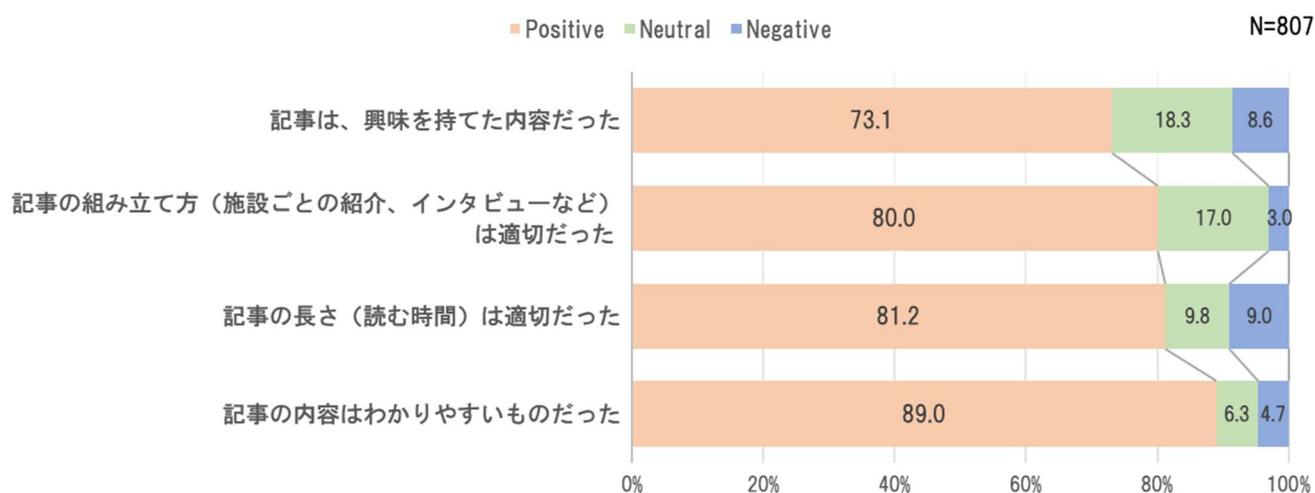
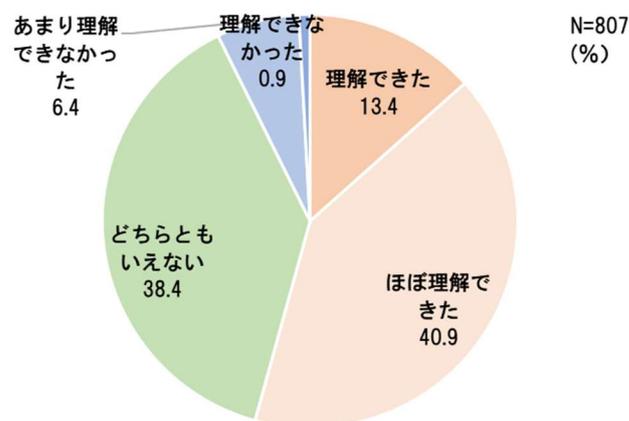


図 2-1-1 コンテンツ評価 一般記事①「介護はドラマチックの連続—いろ葉」

一般記事「介護はドラマチックの連続ーいろ葉」を読むことで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は108人（13.4%）。「ほぼ理解できた」とした330人（40.9%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は438人（54.3%）であった。



理解度	人	%
理解できた	108	13.4
ほぼ理解できた	330	40.9
どちらともいえない	310	38.4
あまり理解できなかった	52	6.4
理解できなかった	7	0.9
全体	807	100.0

図 2-1-2 「介護の仕事」への理解度 一般記事①「介護はドラマチックの連続ーいろ葉」

続いて、一般記事「介護はドラマチックの連続ーいろ葉」について、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

記事を読む前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は73人（9.0%）。「ほぼあてはまる」とした287人（35.6%）と合わせて、「介護」への関心が高まったのは360人（44.6%）であった。

	全体	大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼあてはまらない	全くあてはまらない
		人	人	人	人	人
記事を読む前に比べて、「介護」のイメージが良くなった	807	82	315	367	31	12
	100.0	10.2	39.0	45.5	3.8	1.5
記事を読む前に比べて、「介護」への興味関心が高まった	807	73	287	360	68	19
	100.0	9.0	35.6	44.6	8.4	2.4

記事を読む前に比べて、「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	807	71	306	321	79	30
	100.0	8.8	37.9	39.8	9.8	3.7

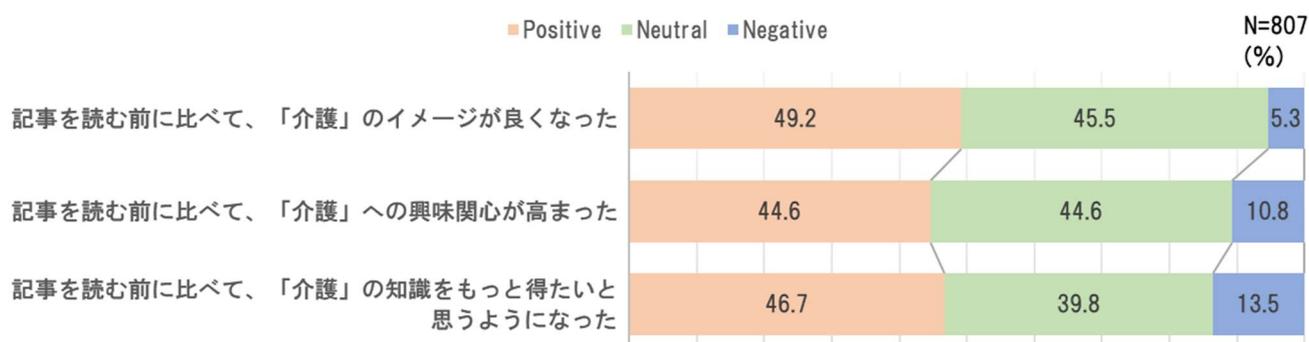


図 2-1-3 コンテンツ閲覧による意識変容 (介護) 一般記事①「介護はドラマチックの連続—いろ葉」

一般記事「介護はドラマチックの連続—いろ葉」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する 9 項目について、5 段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

記事を読む前に比べて「『福祉の仕事 (介護を含む)』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は 65 人 (8.1%)。「ほぼあてはまる」とした 260 人 (32.2%) と合わせて、「介護の仕事」への関心が高まったのは 325 人 (40.3%) であった。

項目	全体	意識変容の程度				
		大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼあてはまらない	全くあてはまらない
記事を読む前と比べて、「福祉の仕事 (介護を含む)」への関心が高まった	807	65	260	349	99	34
	100.0	8.1	32.2	43.2	12.3	4.2
記事を読む前と比べて、「介護の仕事」への関心が高まった	807	58	241	365	100	43
	100.0	7.2	29.9	45.2	12.4	5.3
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	807	48	256	314	133	56
	100.0	5.9	31.7	38.9	16.5	6.9
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	807	46	175	357	173	56
	100.0	5.7	21.7	44.2	21.4	6.9
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	807	163	353	212	61	18
	100.0	20.2	43.7	26.3	7.6	2.2
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	807	48	225	362	127	45
	100.0	5.9	27.9	44.9	15.7	5.6
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	807	114	351	260	54	28
	100.0	14.1	43.5	32.2	6.7	3.5
	807	21	137	429	160	60

「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	100.0	2.6	17.0	53.2	19.8	7.4
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	807	120	325	272	65	25
	100.0	14.9	40.3	33.7	8.1	3.1

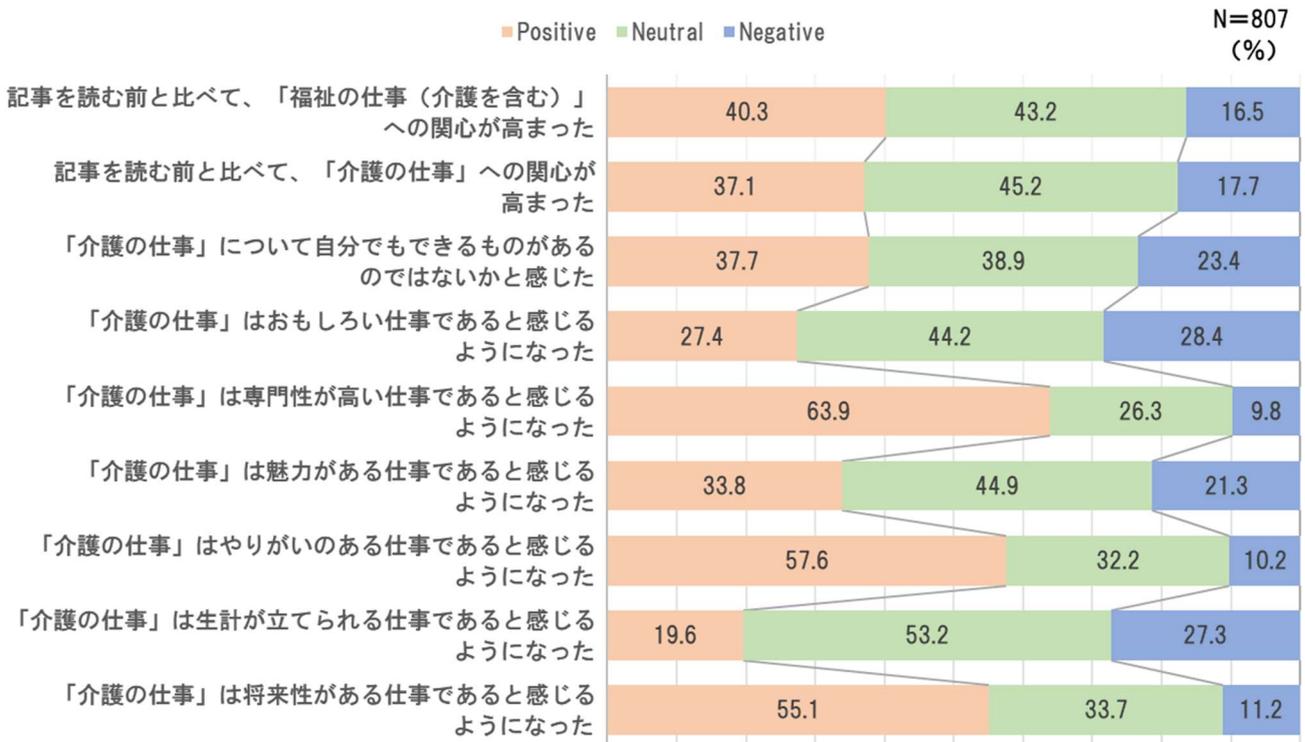


図 2-1-4 コンテンツ閲覧による意識変容（介護の仕事）

一般記事①「介護はドラマチックの連続—いろ葉」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的に実施したい	機会があれば実施したい	どちらでもない	あまり実施したくない	実施したくない	上段：人
							下段：% 単一回答
「介護の仕事」をしている人と話す	807	61	363	281	67	35	
	100.0	7.6	45.0	34.8	8.3	4.3	
「介護」に関する記事や番組などを見る	807	98	413	203	65	28	
	100.0	12.1	51.2	25.2	8.1	3.5	
「介護」に関するイベントに参加する	807	34	273	314	135	51	
	100.0	4.2	33.8	38.9	16.7	6.3	
「介護」に関するボランティアをする	807	28	251	286	161	81	

	100.0	3.5	31.1	35.4	20.0	10.0
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	807	24	157	297	199	130
	100.0	3.0	19.5	36.8	24.7	16.1
「介護の仕事」を人に勧める	807	16	126	412	150	103
	100.0	2.0	15.6	51.1	18.6	12.8

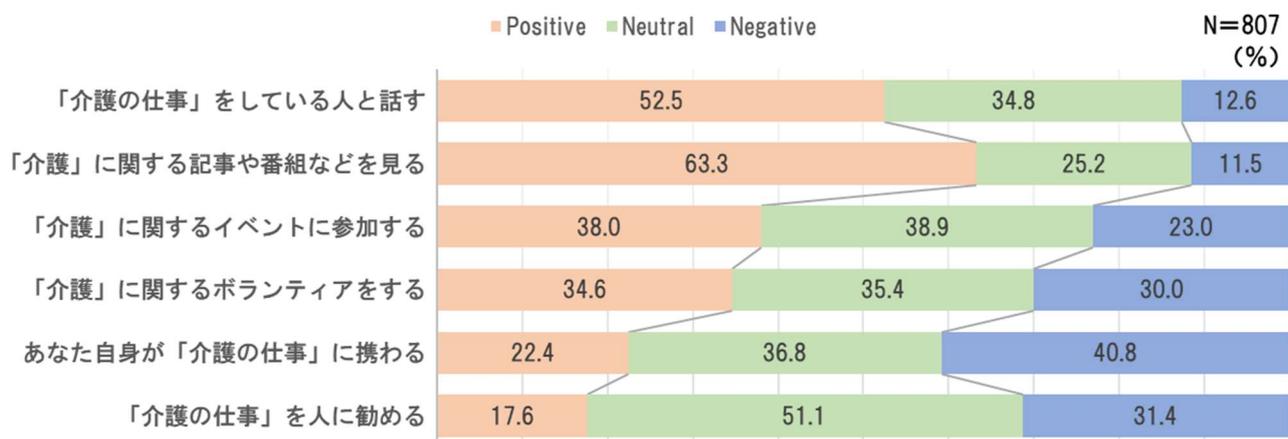


図 2-1-5 コンテンツ閲覧による行動変容 一般記事①「介護はドラマチックの連続ーいろ葉」

■ 一般記事②「口腔ケアを通して、関係性を築く」評価

「記事への興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、約8割が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。

 <small>上段：人 下段：% 単一回答</small>	全体	非常に そう 思う	やや そう 思う	わ か ら な い	や や さ う 思 わ な い	ま っ た く さ う 思 わ な い
	記事は、興味を持てた内容だった	807 100.0	208 25.8	432 53.5	89 11.0	68 8.4
記事の組み立て方（施設ごとの紹介、インタビューなど）は適切だった	807 100.0	211 26.1	448 55.5	126 15.6	19 2.4	3 0.4
記事の長さ（読む時間）は適切だった	807 100.0	240 29.7	436 54.0	79 9.8	48 5.9	4 0.5
記事の内容はわかりやすいものだった	807 100.0	256 31.7	461 57.1	61 7.6	26 3.2	3 0.4

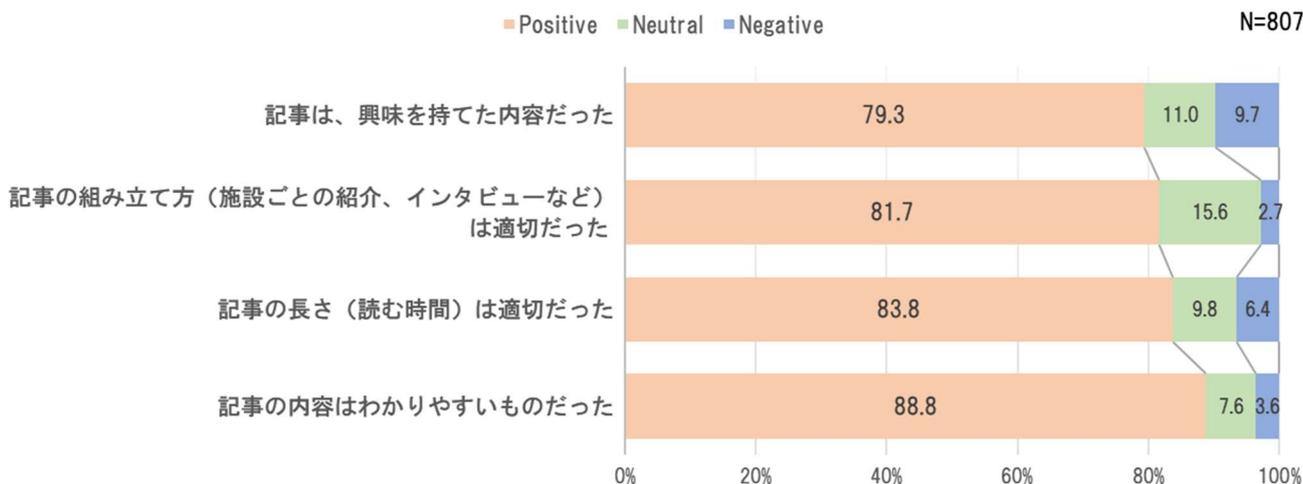
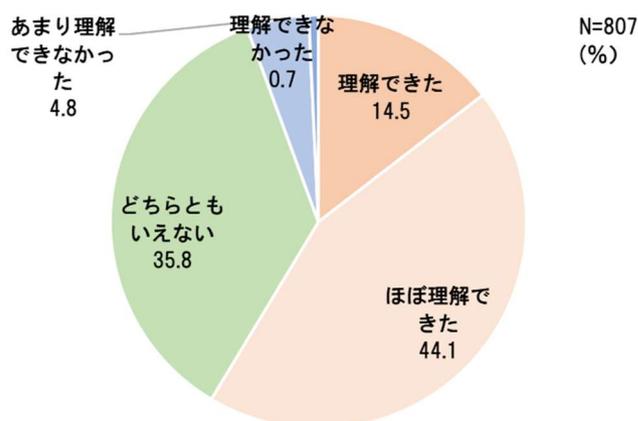


図 2-2-1 コンテンツ評価 一般記事②「口腔ケアを通して、関係性を築く」

一般記事「口腔ケアを通して、関係性を築く」を読むことで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は117人（14.5%）。「ほぼ理解できた」とした356人（44.1%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は473人（58.6%）であった。



理解度	人	%
理解できた	117	14.5
ほぼ理解できた	356	44.1
どちらともいえない	289	35.8
あまり理解できなかった	39	4.8
理解できなかった	6	0.7
全体	807	100.0

図 2-2-2 「介護の仕事」への理解度 一般記事②「口腔ケアを通して、関係性を築く」

続いて、一般記事「口腔ケアを通して、関係性を築く」について、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

記事を読む前に比べて『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は58人(7.2%)。「ほぼあてはまる」とした274人(34.0%)と合わせて、「介護」への関心が高まったのは332人(41.1%)であった。

	全体	大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない	全くあてはまらない	上段：人
							下段：%
記事を読む前に比べて、「介護」のイメージが良くなった	807	81	300	366	42	18	
	100.0	10.0	37.2	45.4	5.2	2.2	
記事を読む前に比べて、「介護」への興味関心が高まった	807	58	274	378	67	30	
	100.0	7.2	34.0	46.8	8.3	3.7	
記事を読む前に比べて、「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	807	68	273	360	75	31	
	100.0	8.4	33.8	44.6	9.3	3.8	

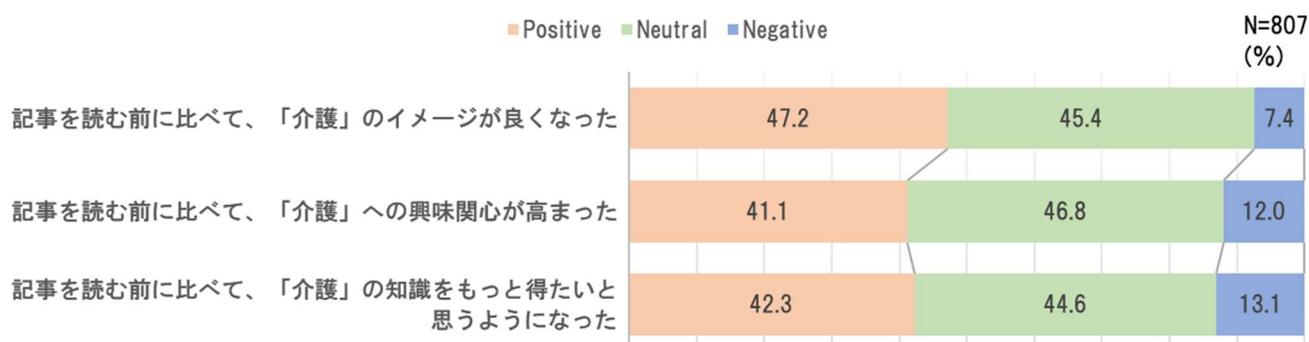


図 2-2-3 コンテンツ閲覧による意識変容 (介護) 一般記事②「口腔ケアを通して、関係性を築く」

一般記事「口腔ケアを通して、関係性を築く」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する9項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

記事を読む前に比べて『福祉の仕事 (介護を含む)』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は53人(6.6%)。「ほぼあてはまる」とした251人(31.1%)と合わせて、「介護のしごと」への関心が高まったのは304人(37.7%)であった。

上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いに あてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼ あてはまらない	全く あてはまらない
記事を読む前と比べて、「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	807	53	251	363	96	44
	100.0	6.6	31.1	45.0	11.9	5.5
記事を読む前と比べて、「介護の仕事」への関心が高まった	807	52	222	382	101	50
	100.0	6.4	27.5	47.3	12.5	6.2
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	807	40	190	336	163	78
	100.0	5.0	23.5	41.6	20.2	9.7
上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いに あてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼ あてはまらない	全く あてはまらない
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	807	40	155	390	150	72
	100.0	5.0	19.2	48.3	18.6	8.9
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	807	202	408	155	27	15
	100.0	25.0	50.6	19.2	3.3	1.9
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	807	52	201	384	121	49
	100.0	6.4	24.9	47.6	15.0	6.1
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	807	99	323	288	68	29
	100.0	12.3	40.0	35.7	8.4	3.6
「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	807	22	152	427	153	53
	100.0	2.7	18.8	52.9	19.0	6.6
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	807	107	312	299	64	25
	100.0	13.3	38.7	37.1	7.9	3.1

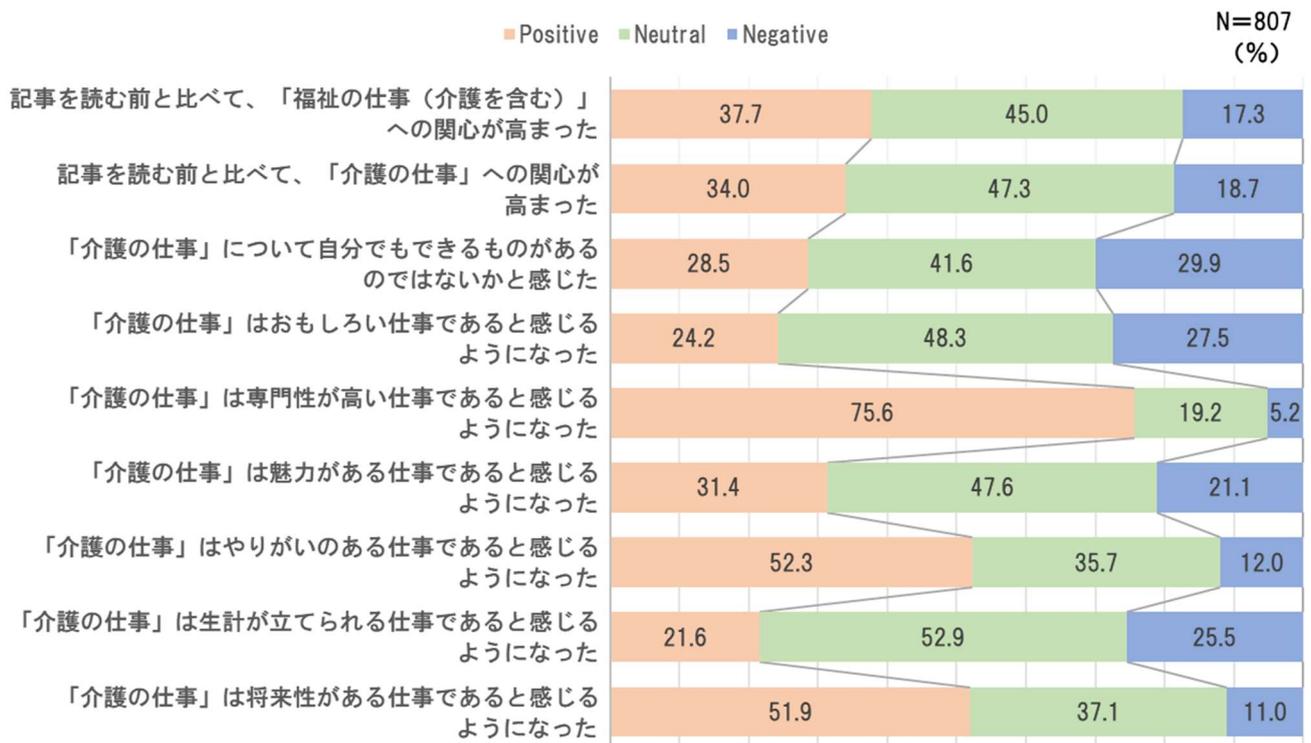


図 2-2-4 コンテンツ閲覧による意識変容（介護の仕事）一般記事②「口腔ケアを通して、関係性を築く」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的に 実施したい	機会があれば 実施したい	どちらでもない	あまり 実施したくない	実施したくない	上段：人
							下段：% 単一回答
「介護の仕事」をしている人と話す	807	53	363	268	86	37	
	100.0	6.6	45.0	33.2	10.7	4.6	
「介護」に関する記事や番組などを見る	807	76	402	219	72	38	
	100.0	9.4	49.8	27.1	8.9	4.7	
「介護」に関するイベントに参加する	807	29	275	279	147	77	
	100.0	3.6	34.1	34.6	18.2	9.5	
「介護」に関するボランティアをする	807	23	226	270	182	106	
	100.0	2.9	28.0	33.5	22.6	13.1	
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	807	24	145	280	220	138	
	100.0	3.0	18.0	34.7	27.3	17.1	
「介護の仕事」を人に勧める	807	21	129	405	148	104	
	100.0	2.6	16.0	50.2	18.3	12.9	

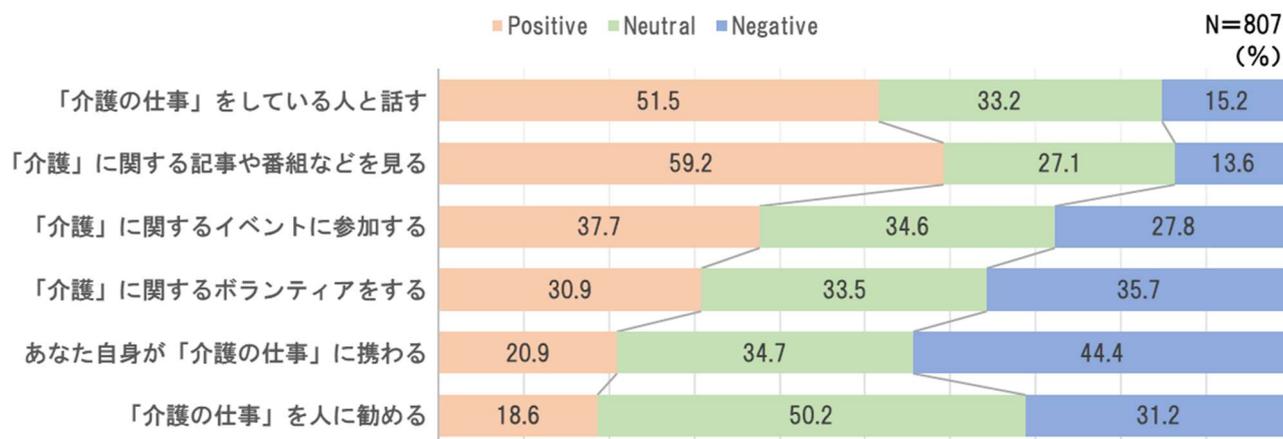


図 2-2-5 コンテンツ閲覧による行動変容 一般記事②「口腔ケアを通して、関係性を築く」

■ 一般記事③「昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし」評価

「記事への興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、8割以上が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。

 上段：人 下段：% 単一回答	全体	非常に そう 思う	やや そう 思う	わ か ら な い	やや そう 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
		807	221	432	110	36
記事は、興味を持てた内容だった	100.0	27.4	53.5	13.6	4.5	1.0
記事の組み立て方（施設ごとの紹介、インタビューなど）は適切だった	100.0	27.3	55.6	13.6	3.1	0.4
記事の長さ（読む時間）は適切だった	100.0	32.5	52.8	9.7	4.6	0.5
記事の内容はわかりやすいものだった	100.0	33.6	53.4	9.2	3.7	0.1

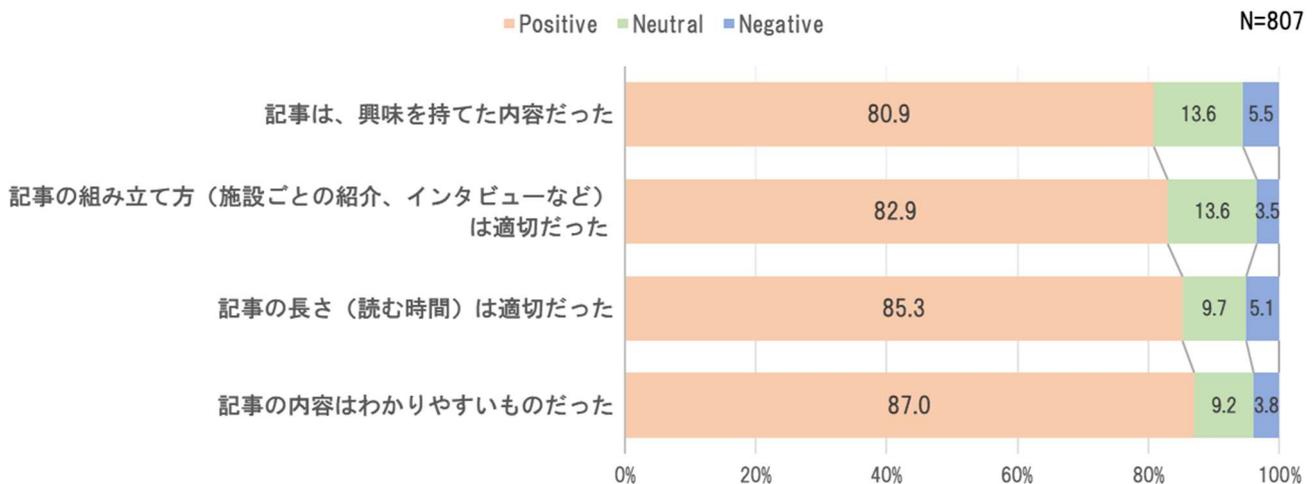


図 2-3-1 コンテンツ評価 一般記事③「昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし」

一般記事「昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし」を読むことで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は116人（14.4%）。「ほぼ理解できた」とした342人（42.4%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は458人（56.8%）であった。

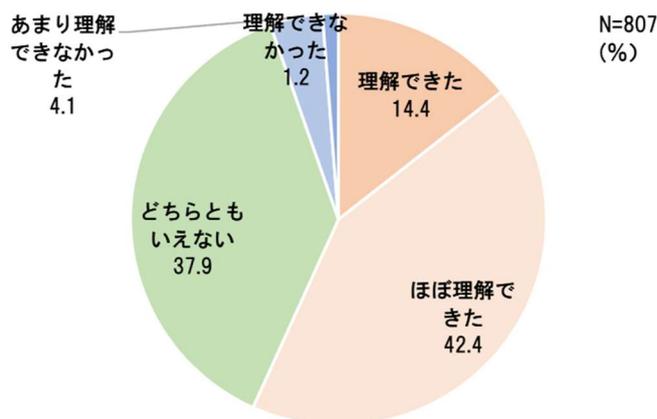


図 2-3-2 「介護の仕事」への理解度 一般記事③「昭和の横丁と介護DX = 入所者にも介護職にも快適な暮らし」

続いて、一般記事「昭和の横丁と介護DX = 入所者にも介護職にも快適な暮らし」について、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

記事を読む前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は85人(10.5%)。「ほぼあてはまる」とした277人(34.3%)と合わせて、「介護」への関心が高まったのは362人(44.9%)であった。

	上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない	全くあてはまらない
			114	323	312	43	15
記事を読む前に比べて、「介護」のイメージが良くなった	807	114	323	312	43	15	
	100.0	14.1	40.0	38.7	5.3	1.9	
記事を読む前に比べて、「介護」への興味関心が高まった	807	85	277	335	81	29	
	100.0	10.5	34.3	41.5	10.0	3.6	
記事を読む前に比べて、「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	807	79	259	354	81	34	
	100.0	9.8	32.1	43.9	10.0	4.2	

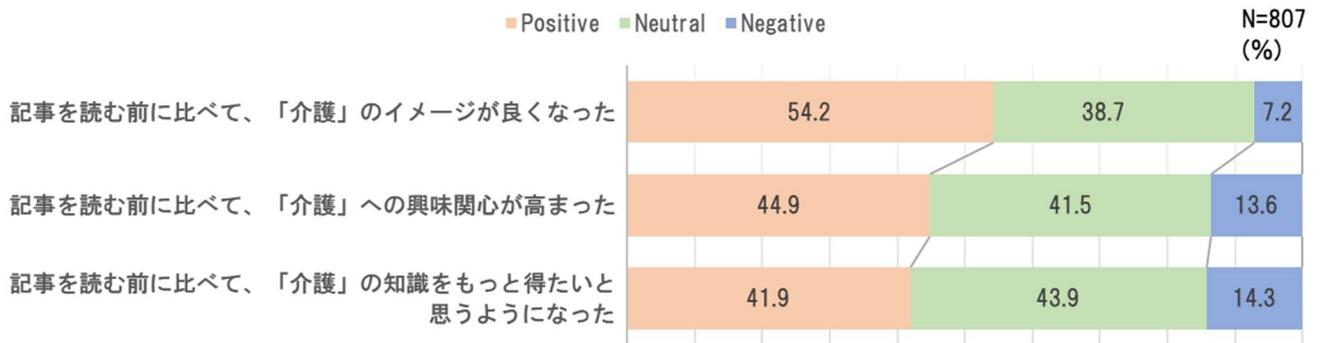


図 2-3-3 コンテンツ閲覧による意識変容（介護）一般記事③「昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし」

一般記事「昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する9項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

記事を読む前に比べて「『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は70人（8.7%）。「ほぼあてはまる」とした280人（34.7%）と合わせて、「介護の仕事」への関心が高まったのは350人（43.4%）であった。

	全体	大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼあてはまらない	全くあてはまらない
記事を読む前と比べて、「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	807 100.0	70 8.7	280 34.7	317 39.3	102 12.6	38 4.7
記事を読む前と比べて、「介護の仕事」への関心が高まった	807 100.0	60 7.4	255 31.6	344 42.6	106 13.1	42 5.2
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	807 100.0	53 6.6	208 25.8	333 41.3	146 18.1	67 8.3
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	807 100.0	49 6.1	191 23.7	364 45.1	144 17.8	59 7.3
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	807 100.0	161 20.0	375 46.5	213 26.4	41 5.1	17 2.1
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	807 100.0	72 8.9	235 29.1	336 41.6	121 15.0	43 5.3
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	807 100.0	103 12.8	317 39.3	268 33.2	86 10.7	33 4.1
「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	807 100.0	28 3.5	149 18.5	407 50.4	159 19.7	64 7.9
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	807 100.0	114 14.1	318 39.4	286 35.4	66 8.2	23 2.9

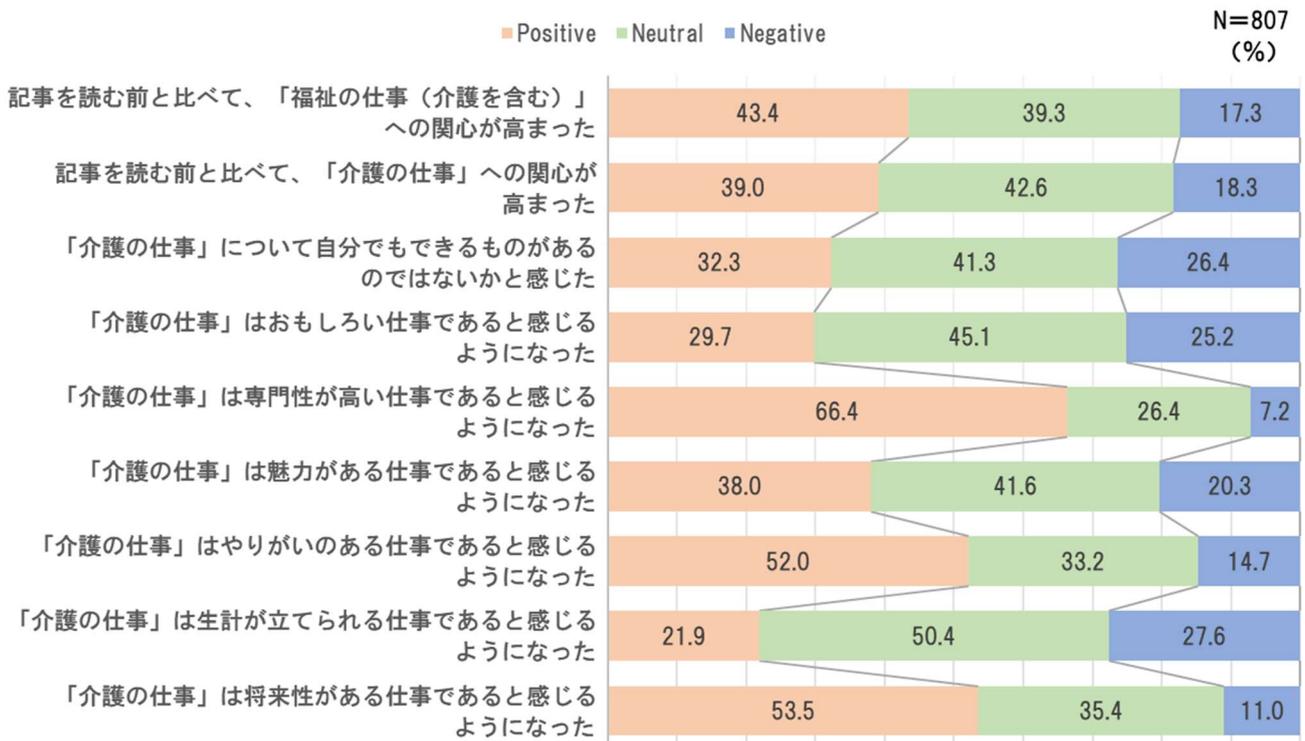


図 2-3-4 コンテンツ閲覧による意識変容（介護のしごと）
 一般記事③「昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的に 実施したい	機会があれば 実施したい	どちらでもない	あまり実施した くない	実施したくない	上段：人
							下段：% 単一回答
「介護の仕事」をしている人と話す	807	57	383	246	81	40	
	100.0	7.1	47.5	30.5	10.0	5.0	
「介護」に関する記事や番組などを見る	807	73	407	215	70	42	
	100.0	9.0	50.4	26.6	8.7	5.2	
「介護」に関するイベントに参加する	807	35	274	273	144	81	
	100.0	4.3	34.0	33.8	17.8	10.0	
「介護」に関するボランティアをする	807	28	238	262	168	111	
	100.0	3.5	29.5	32.5	20.8	13.8	
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	807	29	158	282	189	149	
	100.0	3.6	19.6	34.9	23.4	18.5	
「介護の仕事」を人に勧める	19	25	134	392	149	107	
	100.0	3.1	16.6	48.6	18.5	13.3	

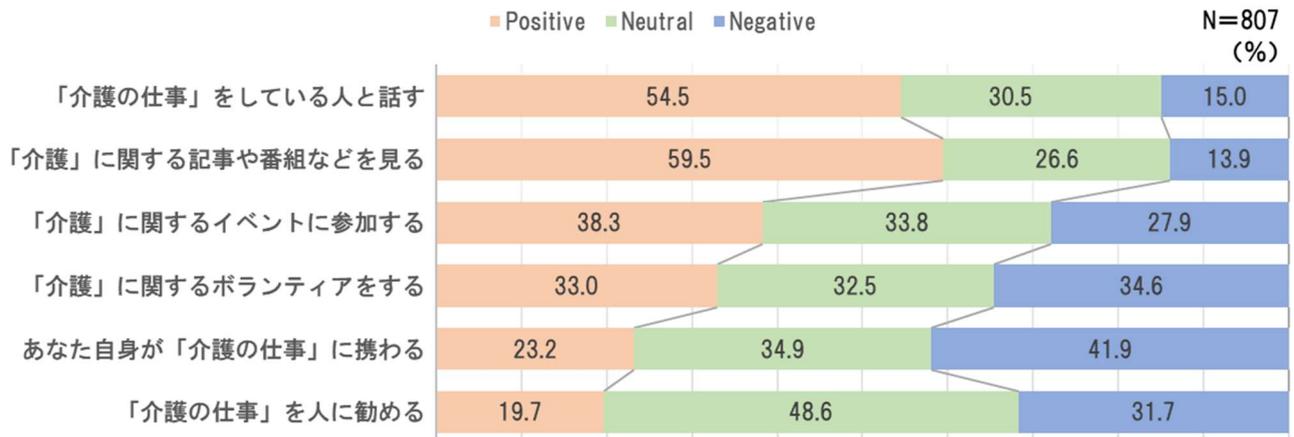


図 2-3-5 コンテンツ閲覧による行動変容

一般記事③「昭和の横丁と介護DX＝入所者にも介護職にも快適な暮らし」

いずれのコンテンツも記事を読むことで、「介護の仕事」について理解できた人は半数以上を占めた。また、記事を読む前に比べて「介護の仕事への関心が高まった」との回答も3分の1以上を占め、肯定的な評価を得た。

10.2.2 ウェブサイト「ゆうゆう Life」新聞全面広告出稿

(1) 調査の目的と概要

ウェブサイト「ゆうゆう Life」で「介護のしごとを伝えてます」という内容とともに、介護職のイメージアップを図る全面広告（全15段）を3月19日付で出稿した。本事業のターゲット層である「介護無関心層」への効果の検証を実施するため、新聞広告共通調査プラットフォーム「J-MONITOR（ジェイ・モニター）」を利用し、首都圏、近畿圏に居住する産経新聞を定期購読する15～69歳に対し、広告接触状況や広告評価などについて尋ねた。

調査の概要は以下の通り。

■調査方法	パソコンを利用したウェブ調査 (新聞紙面に関する設問は原則として新聞紙面を手元に用意回答する再認法)
■実施機関	株式会社ビデオリサーチ
■実施期間	2023年3月20日(月)
■調査地域	首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉) 近畿圏(大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県)
■調査対象者	調査対象地域に居住し、産経新聞を超夕刊セットで定期購読する15-69歳の男女個人

(2) 調査集計

■ 基本属性

調査対象 425 サンプル（当該広告掲載新聞保有者）の基本的な属性は以下の通り。

性別	首都圏		近畿圏		全国	
	人	%	人	%	人	%
男性	124	55.6	89	44.1	213	50.1
女性	99	44.4	113	55.9	212	49.9
全体	223	100.0	202	100.0	425	100.0

年齢	首都圏		近畿圏		全国	
	人	%	人	%	人	%
29歳以下	27	12.1	34	16.8	61	14.4
30代	26	11.7	9	4.5	35	8.2
40代	34	15.2	38	18.8	72	16.9
50代	70	31.4	55	27.2	125	29.4
60代	66	29.6	66	32.7	132	31.1
全体	223	100.0	202	100.0	425	100.0

職業	首都圏		近畿圏		全国	
	人	%	人	%	人	%
給料事務・研究職	42	18.8	27	13.4	70	15.6
給料労務・作業職	25	11.2	20	9.9	46	10.2
販売・サービス職	25	11.2	28	13.9	71	15.8
経営・管理職	14	6.3	7	3.5	22	4.9
専門職・自由業	20	9.0	20	9.9	43	9.6
商工自営業	7	3.1	8	4.0	11	2.4
農・林・漁業	1	0.4	0	0.0	2	0.4
学生	12	5.4	11	5.4	31	6.9
主婦	46	20.6	49	24.3	103	22.9
その他	7	3.1	14	6.9	19	4.2
無職	24	10.8	18	8.9	31	6.9
全体	223	100.0	202	100.0	449	100.0

■ 調査サンプルが閲読した「ゆうゆう Life」の記事コンテンツ

17 [企画広告] 12版

令和5年(2023年)3月19日 日曜日

産経新聞 朝刊 1版

第三種郵便物認可

支えられ、支える。

介護福祉士
杉本浩吉さん(45) 東京都在住
メディアカルケアサービス株式会社

介護職は利用者の思いを叶えるサポートだと思っています。その思いを大事に、交流を図っている中で、実は人間関係に悩める機会が多々あるんです。データ入力など、デジタル化が進む一方で、(介護の仕事は)人間味あふれるのが楽しいところですね。

介護福祉士
土屋美乃江さん(43) 東京都在住
株式会社アールエス

介護に携わり約17年。今の職場が専ら介護となりました。デイサービスながら、メンバー(利用者)さんが近隣の企業などに働きに出たり、モノづくりをしたりしています。悩みも話し合いで中間、という雰囲気です。こういう場所をもっと増やしたいですね。

介護福祉士
小林麗子さん(37) 富山県在住
株式会社アールエス

介護と障害福祉と両方の職場を経験しました。どちらも人を支える仕事で、根幹の部分には同じです。ご利用者さまの喜ぶ姿を見ると、自分自身のこともうれしく感じます。そんな仕事って、イヤには中々ないんじゃないかと思えます。

介護福祉士
榎本美生さん(33) 東京都在住
株式会社アールエス

歳たさりの方を支えたいと、約1年で歩けるようになられて…。暮らしの中でお手伝いさせていただき、人生に寄り添えるのは介護ならではのやりがいを感じます。ご高齢の方と話す、気づきや知識が増えます。若い人には介護に関心を持っていただけたら。

のんびり
いこうよ
赤羽みちえ
番外編

介護のしごと
ホント やりがい 待遇
伝えてます

世間からは、きつ、賃金が安いと思われがち「介護のしごと」。しかし、介護職自身はずいぶん異なる印象を持っている。人と関わる仕事だから、接客経験のある介護職も多い。だが、違うのは何よりも相手とのかかわりの深さ。ある介護職(初任者研修修了、31歳)は、「大抵の接客にはスピードと正確さが求められる。でも、介護はそれよりも、相手がどういう人で、どういう思いを抱くことの方が大切」と話す。

人の生き死にに伴走し、家族と一緒に突いたり、泣いたりもする。特別養護老人ホーム(特養)でアパレルの社長を看取った介護福祉士(47歳)は、「介護は、人が生き生きとお手伝いをすること。社長が、自身の仕立てたモーニングに身を包んで旅立った後、家族から、こう声をかけられた。「ここで過ごさせてよかった」。」 墓家の賃金も近年、顕著に改善している。

例えば特養で働く介護福祉士の賃金は、平均で月に35万6310円(令和3年度介護従事者処遇状況等調査)。「世間一般の賃金とそれほど変わらないと思う」(介護福祉士、30歳)と、世の中の先入観との差に首をひねる。もちろん働き方、資格、勤続年数、勤務先などによる賃金の差は大きい。資格を取り、経験を積み、働く先を選ぶべきなのは、どこの業界も同じだ。(年齢はいずれも取材当時)

ゆうゆうLife 産経新聞社のケアするウェブマガジン「ゆうゆうLife」は、介護を必要とする一人ひとりの人生に寄り添い、つながる関係や暮らしを提案します。 <https://youyoulife.jp/>

このページは、厚生労働省補助事業「令和4年度 介護のしごと魅力発信等事業(情報発信事業)」の一項として制作・掲載しています。

● アンケート結果のサマリー（要約）

■ 広告接触・注目状況

広告接触率は87.8%だった。新聞の定期広告調査結果によると、カラー全15段の広告接触率は82.8%であり、平均より5ポイント上回る接触状況だった。

※有効回答者<新聞購読者>ベース

	当該広告接触状況				当該刊閲読・保有状況		
	上段：人 下段：% 単一回答	広告接触率 (確かに+見 たような)	確かに見た	見たような 気がする	見た覚えが ない	当該刊を 読んだが 新聞を 用意 できない	当該刊を 読んで いない
全体	427	375	304	71	27	2	23
	100.0	87.8	71.2	16.6	6.3	0.5	5.4

■ 設問「あなたは『介護のしごと伝えてます』の広告をご覧になって、どのように感じましたか」

この設問を「広告が理解できた」「広告に興味を持った」「広告に好感を持った」「広告が信頼できる」という項目軸で、当該広告掲載新聞保有者に4段階評価で尋ねた。

※当該刊保有者ベース

		上段：人 下段：% 単一回答	まあまあ		まあいい	
			まあ は	まあ は	まあ は	まあ は
広告理解度	全体	425	209	180	28	8
		100.0	49.2	42.4	6.6	1.9
広告興味度	全体	425	150	185	63	27
		100.0	35.3	43.5	14.8	6.4
広告好感度	全体	425	163	190	54	18
		100.0	38.4	44.7	12.7	4.2
広告信頼度	全体	425	156	185	66	18
		100.0	36.7	43.5	15.5	4.2

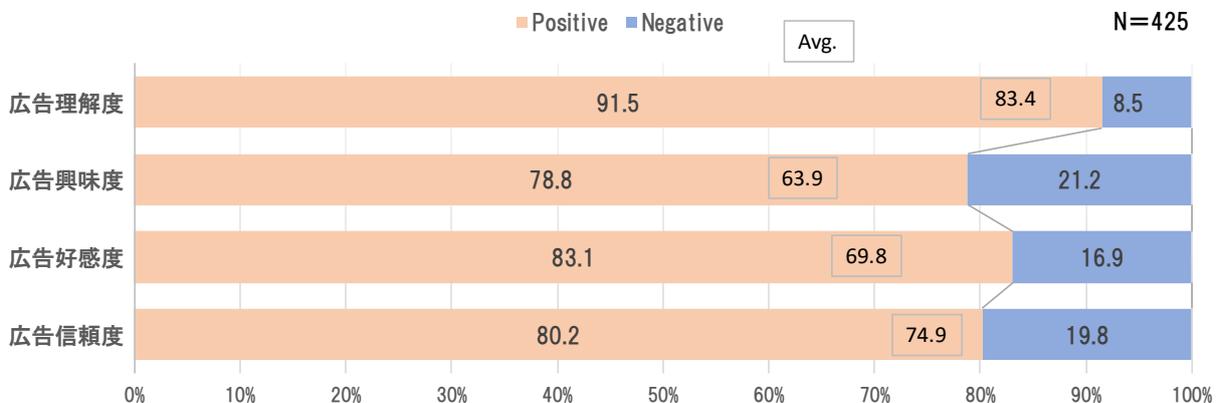


図 3-1 新聞広告評価 (当該刊保有者 n=425)

広告理解度 91.5%、広告興味度は 78.8%、広告好感度 83.1%、広告信頼度 80.2%という結果だった。新聞の定期広告調査結果によると、カラー全 15 段の平均値は広告理解度 83.4%、広告興味度 63.9%、広告好感度 69.8%、広告信頼度 74.9%であり、いずれの項目も平均以上の結果だった。

■ 設問「あなたは『介護のしごと伝えてます』の広告をご覧になって、どのような印象をお持ちになりましたか。あてはまるものをすべてお選びください」（複数回答）

広告の印象をデザイン、コピー、心理的受容度、関与度、オリジナリティ、タイミングの観点から尋ねた。

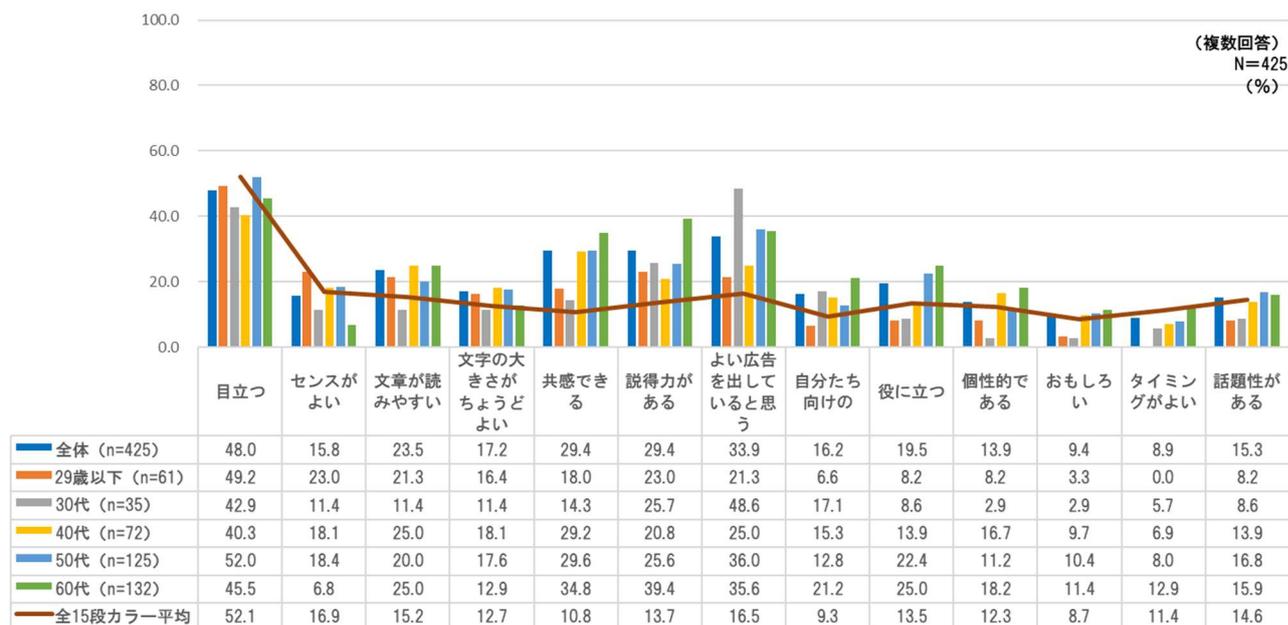


図 3-2 広告の印象（当該刊保有者 n=425）

新聞の定期広告調査結果によるカラー全 15 段の平均値と比べて数値が上回った項目は、「文字が読みやすい」は 23.5%（平均 15.2%）、「文字の大きさがちょうどよい」17.2%（同 12.7%）、「共感できる」29.4%（同 10.8%）、「説得力がある」29.4%（同 13.7%）、「よい広告を出していると思う」33.9%（同 16.5%）、「自分たち向けの」16.2%（同 9.3%）、「役に立つ」19.5%（同 13.5%）、「個性的である」13.9%（同 12.3%）、「おもしろい」9.4%（同 8.7%）、「話題性がある」15.3%（同 14.6%）の 10 項目であった。年代によりばらつきがあるものの、心理的受容度を測る「共感できる」「説得力がある」「良い広告を出していると思う」の 3 項目で平均を大幅に上回っていることから、広告は好意的に見られたといえる。

■ 設問「この広告をご覧になって、あてはまるものをすべてお選びください」（複数回答）

当該全面広告では、ウェブサイト「ゆうゆう Life」へ誘導した内容となっている。広告による態度変容を測る項目のうち、当該広告掲載新聞保有者が『介護のしごと伝えてます』のホームページを見たいと思った」を選択したかに注目する。

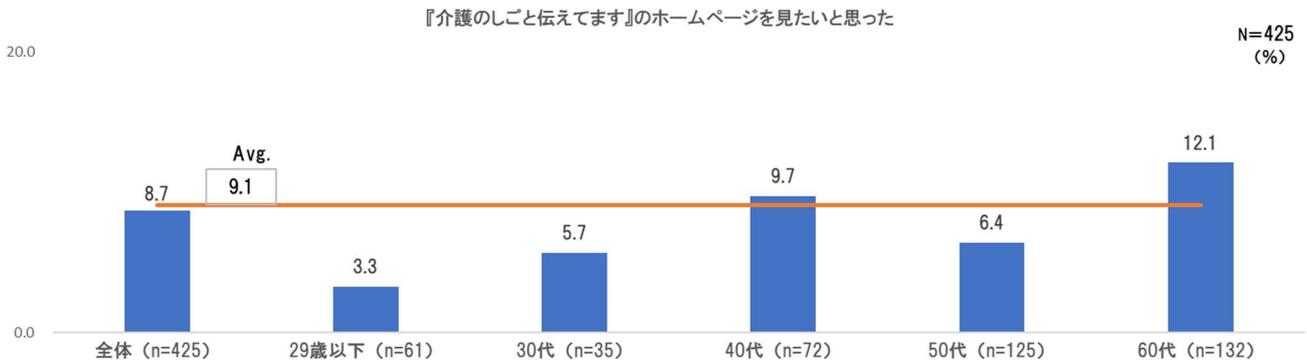


図 3-3 広告による態度変容（当該刊保有者 n=425）

「ホームページを見たいと思った」を選択した回答者は 8.7%。新聞の定期広告調査結果によるカラー全 15 段の平均値は 9.1%。平均より下回る結果となった。また年代別に見ても、介護というテーマから若年層の低さは想定されたものの、50代が平均より 2.7 ポイント低かった。

■ 設問「この広告についての感想や意見を自由にご記入ください」

当該広告に対する主な意見や感想は、以下の通りであった。

介護職のイメージアップ、介護に対する共感や回答者自身の介護を振り返るなど、心理的受容度は高く、「介護の仕事に興味を持った」という声も見られた。また、漫画の掲載について肯定的なコメントが多数見られた。他方、一部の回答者からは広告出稿主や、「ゆうゆう Life」がウェブマガジンであるということが分かりにくいと指摘する声も見られた。

回答内容

【デザインに関連する肯定的な意見】

- ・まんがと写真で興味をそそられた(女性 29 歳以下)
- ・実際活躍している介護福祉士の方の意見を見ることができるのが良いなと思いました。マンガを見てほっこりしました(女性 29 歳以下)
- ・色合いが綺麗で目を引く(女性 29 歳以下)
- ・四人の笑顔がいい。それに赤羽さんのほんわかした絵が介護の仕事を明るいものになっている(女性 29 歳以下)
- ・介護の現状について理解が深まった。写真付きの現場の声、漫画、記事風の文章とあって、取っ掛かりやすいのはいいと思った(男性 29 歳以下)
- ・介護の仕事と聞くと、どうしても大変な仕事というイメージが先行してしまうので、大変な中にもやりがいがあるということやリアルな現場の声がわかるのは良いことだと思った(男性 29 歳以下)
- ・真ん中に漫画が配置して目立つ広告になっていると思いました(男性 29 歳以下)
- ・実際に介護施設に行ったことはないけど、この広告の漫画と介護福祉士さんのコメントで介護施設でのお仕事についてほんの少し知れた気がする(女性 30 代)

- ・大きな写真や漫画を使ってあり、どの年代にも見やすいものであると思う(女性 30 代)
- ・読みやすい広告だと感じた。(男性 30 代)
- ・「のんびりいこうよ」のイラストが優しくてわかりやすく、手書きの文字もきれいで読みやすく、大変わかりやすくてよいと思いました(女性 40 代)
- ・分かりやすい内容だった(女性 40 代)
- ・一面でカラフルでわかりやすい広告です。介護の仕事について、良い側面がわかりやすく伝わってきます(男性 40 代)
- ・介護職はキツイイメージしかなかったので、やりがいを知って良かった(男性 40 代)
- ・新聞をめくった瞬間、まず介護福祉士さん達の笑顔が飛び込んできました。次に漫画を読んで、すぐく考えさせられました。とても良い広告を出していると思います。有難うございました(女性 50 代)
- ・全体的にカラフルな色合いで、大きな顔写真に漫画と…とても目立つ広告。高齢の両親と同居しており、今正に今後の介護等について考えていたので、とても興味深く読んだ(女性 50 代)
- ・同じ介護の仕事をしている自分としては、家族の人の想いを知る貴重な広告です。3Kと言われる介護の仕事の素敵な面を、漫画で示されていて効果的だと思う(女性 50 代)
- ・本日の新聞の中で一番インパクトが有り、印象に残る広告だと思います。広告の上の方の(桜色)の色使いが優しいですね。介護福祉士さん4人の大きな写真も自然で、嫌な感じがしません。何よりも(マンガ)を使ってらっしゃるのが面白いし、読者からすると読みやすいです。こういう感じの広告が【読ませる広告】というのかな?と思いました。とても面白かったです。次回を期待しています(女性 50 代)
- ・目を引くし、介護の仕事の良さが伝わって、いい広告だと思う(女性 50 代)
- ・目立つし、暗い話題になりそうなことでもこうして可愛らしい絵の漫画にしてあると読む気になります(女性 50 代)
- ・目立つ広告だが漫画の方に気がいってしまい全部読んでくれた人理解した人はどれくらいいたのだろうか。ただまずは目にとめてもらうことから始める意味ではいい広告だったと思います(女性 50 代)
- ・とても分かりやすい広告だと思います。桜のイラストや色合いが明るく綺麗で、マンガも分かりやすく可愛らしい絵でした。ホームページを見てみたいと思います(女性 50 代)
- ・イラストと写真で分かりやすい(男性 50 代)
- ・介護の仕事はとても大変だが、素晴らしい仕事だと思っている。この仕事に携わっている人たちを理解し、同時にその人たちの思いを伝える場があることはとても良いことだと思っている(男性 50 代)
- ・介護士の方の、生の声が伝わる良い機会と感じた(男性 50 代)
- ・介護福祉士を目指している人のためには、とても役に立つ広告なのではないかなと感じました(男性 50 代)
- ・今後も介護士の方々の仕事ぶりを紹介してください(男性 50 代)
- ・上段部分に爽やかな人物の写真で、とても好印象な感じで目を引き、また下段の部分では可愛らしい漫画のイラストを使って、ほのぼのとした雰囲気があり、良い広告だと思います。介護のイメージとして、少し辛く思い感じがするのですが、この広告では真逆のイメージで見やすかったです…(男性 50 代)
- ・色使いが良く、見易く読み易く感じた(男性 50 代)
- ・短編の漫画、まとめられていて、見やすく分かりやすかったです。伝わりやすかったです(男性 50 代)
- ・目立った広告で内容も共感が持てていい広告であると思いました(男性 50 代)
- ・介護の仕事をわかりやすくしめしているのがいい。漫画も親しみやすい(女性 60 代)
- ・現在、実家の親が介護職の方達にお世話になっています。一番下の、介護のしごと伝えてます、のところに、介護福祉士の平均賃金額が書かれていました。条件によって違いはあると思いますが、私も介護職＝賃金があまり高くないというイメージをもっていました。気持ちはあっても賃金が低いだろうから、と違う職種を選ぶ若い人は多いのでは?と思っています。誤解を解けるような良い広告だと思います。赤羽みちえさんののんびり行こうよ、は昔から知っています。このような漫

画の広告は、目を引くのでとても良いと思いました(女性 60 代)

- ・ 広告に掲載されている方々の感想と笑顔が良かったと思います。また介護施設を利用者の方々の感想なども取り上げていただけたらと思いました(女性 60 代)
- ・ 新聞広告の大きく分かりやすい説明が嬉しいです。優しいタイトルに目に留まる広告で興味を惹かれます(女性 60 代)
- ・ 明るくてわかりやすく、好感が持てる広告。(女性 60 代)
- ・ 理解しやすい広告だと思う(女性 60 代)
- ・ 良い広告と思う。介護施設での暴力などのニュースをみるにつけ介護士さんへの疑問があったが、しっかりした心ある介護士さんを紹介してもらえると安心できる(女性 60 代)
- ・ カラフルで目立っており、紙面構成がよく考えられている広告だと感じました。身近なことから、日曜日なので広告効果も高いことでしょう。何となく印象に残っていく広告ですね(男性 60 代)
- ・ 「介護」という重要なテーマ・内容を漫画と介護福祉士のコメントで的確に伝えている新聞 CM であると感じました。カラー版 CM であり、とても目立っていると思いました(男性 60 代)
- ・ 一面カラー広告で目立つ。かわいいイラストがあり内容も良い(男性 60 代)
- ・ 介護福祉士のコメントを活字ではなく、筆記体の文字で書かれていて、センスの良さが表れている。できれば、広告の中心に「支えられ、支える。」文字も筆記体で書かれてあるともっと親しみやすいように思う(男性 60 代)

【デザインに関連する否定的な意見】

- ・ 厚労省関連事業である事をもっと大きく取り上げて良いのではないかと思った(女性 29 歳以下)
- ・ もう少しデザインを考えたら良いと思った(女性 30 代)
- ・ 内容についてもう少し詳しい説明が必要(男性 40 代)
- ・ 自分も介護職ですが、この広告で介護の世界に入ろうとは思わないだろうな～と感じました。赤羽さんの漫画も介護ナウの時の漫画は興味を引かれる内容でしたが、今回の漫画は介護職を目指す方というより介護しているご家族向けのメッセージ性が強く、この広告の本質から逸れている気がします(女性 50 代)
- ・ 赤羽先生の「のんびりいこうよ。」は存じておりましたので、あらためて、ゆうゆう Life を注視しようとおもいました。紙面上半分の四人のかたのコメントが手書き文字風のフォントが細いので読みにくいです(女性 50 代)
- ・ しっかり読まないで、理解できない(男性 50 代)
- ・ 広告と思わなかったのか、隣の記事に食い付きそのまま次頁に進んだからなのか、いずれにせよスルーしていました。改めて見ると非常に良い広告だと感じました(男性 50 代)
- ・ 内容はとてもよいと思えたのですが、そもそもこれが記事なのか広告なのか、誰が載せているのか、等が（全てを読んでみないと）わかりにくい点が惜しく思われました。ゆうゆう Life とは何か、Web マガジンがあることなどをきちんと表現した方がむしろ信頼度が増すのではないかと感じました(男性 50 代)
- ・ 煩雑に画像や文字の情報が多く、最初何の広告か判別できなかった。「介護」に焦点を当てるなら、高齢者でも興味が湧くような入り口にしてくれれば良かったかと思います(男性 50 代)
- ・ 「支えられ支える」というタイトルが一瞬、何か内容が分かりにくいので自分としてはつい飛ばしてしまった。マンガもよく興味深く読む方だが、これも飛ばしてしまった。目立つ広告だとは思いますが、人物の顔も大きくとらえたのが却って逆効果だったのか？と感じました(女性 60 代)
- ・ カラー広告で目を引きませんが、ちょっとゴチャゴチャしてる感じがありますね(女性 60 代)
- ・ 介護の広告にしてはちょっと派手(女性 60 代)
- ・ 覚えてないのは、少しごちゃごちゃしていて新聞をめくった時、めんどくさくて飛ばしてしまっただんと思う(女性 60 代)
- ・ 久しぶりに、赤羽みちえさんの漫画を読めて、内容も良く伝わってきた。ただ、広告としてはやはりスポンサーがどこか気になるかわかりづらく、何を伝えたいのかピントがぼけている気がした(女性 60 代)
- ・ いまの社会に求められている介護のしごとについて何かを訴えたいということは理解できます。ただ、この広告を見た人に「どのような行動を期待しているのか」がまったく伝わってこないこと、

- そして、手書き文字、とくに登場人物のコメントを紹介している部分がとても読みづらく、文字を読む気になりません。文字周りに白枠を付けている処理は、作り手にとっては読みやすく工夫されたのだと思いますが、読み手にとっては逆に作用するように感じます。むしろ普通に白枠を設置して、その中に(手書き文字ではない)普通のフォントで文字を載せるのが良いと思います(男性 60 代)
- ・記事なのか広告なのかよくわからない。新しいテレビドラマの宣伝のような印象(男性 60 代)
 - ・最初はよく分かりませんでした。よく読んだら分かりました。赤羽みちえさんの漫画は以前よく見ていたので懐かしかったです(男性 60 代)
 - ・桜色のきれいな全面広告、一瞬目が留まったことを覚えています。軽く全体を見てスルーしたことを覚えています。全体的に情報の詰め込みすぎで、見にくく、読みにくいです。広告は、読み手に商品や対象物に対して、好印象のイメージを醸成し、興味、共感、購入意欲等を持たせることが目標であるべきだと思います。そのような意味から見て、この広告はどうでしょうか(中略)。広告は逆に見た目がすべてのような気がします。そういった意味で、この広告は好きになれません。それがそのまま介護という仕事のイメージにつながりかねないことを危惧しますね(男性 60 代)
 - ・主張が前面に出過ぎており、少し引いてしまう(男性 60 代)

【漫画に関連する肯定的な意見】

- ・マンガがあり思わず読み入った。素敵なお仕事だなあと感じた(女性 29 歳以下)
- ・小さいマンガもあって見やすかった(男性 29 歳以下)
- ・赤羽さんの漫画が懐かしかったです、もっと読みたい!(女性 30 代)
- ・赤羽みちえさんのマンガが良いです(女性 30 代)
- ・漫画あるのがわかりやすい(女性 30 代)
- ・まんがが読みやすくてよかったです(女性 40 代)
- ・下の漫画が1番気になりました。もうすぐ私も直面するであろう問題です。介護について調べてみたいと思いました(女性 40 代)
- ・私にも高齢の母がいるのでマンガを読んで泣きそうになりました。友人や親戚に介護士をしている方がいますが、大変な仕事でもあり、すごくやりがいを感じる仕事でもあると聞かされています。私も今後お世話になるかもしれないので知りたい情報であると思います(女性 40 代)
- ・赤羽みちえさんの介護漫画が見られてよかった(女性 40 代)
- ・この手の広告は現役の方の話だけで構成される事が多いのですが、下段の漫画が温かみを感じました(男性 40 代)
- ・私も高齢の両親がおり、母は認知症の関係で施設、父は実家で1人暮らしなので色々と思悩むことが多いです。赤羽さんの漫画も妻が購入していた雑誌に載っていたので親しみやすかったです(男性 40 代)
- ・のんびりいこうよ、久しぶりに読んでほっこりしました。いま、介護をしていますが、こういった広告はどんどん出していくべきだと、思います(女性 50 代)
- ・下段の「のんびりいこうよ」の漫画にグッと来ました。介護が必要な親を「重たい」と思う気持ちが正にそうで、その気持ちへの後ろめたさのあまり認められない自分が居るからです。その思いを受け止めて日々接して下さる介護福祉士の方には感謝の気持ちしかありません(女性 50 代)
- ・介護の漫画の内容が良く、つい読んでしまう広告です(女性 50 代)
- ・今まさに、自分の父と母の介護真っ最中の私。赤羽みちえさんの漫画が本当に良く理解出来ます(女性 50 代)
- ・赤羽みちえさんの漫画を見て、私は母の介護をしており、最近亡くしたばかりなので共感しながら泣いてしまった(女性 50 代)
- ・明るい賑やかな漫画が目について広告をじっくりみました。わかりやすい内容で広告を見て楽しかった(女性 50 代)
- ・「のんびりいこうよ」を読んで亡き両親のことを思い出して涙が出てしまった。介護職の本音や裏事情までもっと知りたいと思った。とても素晴らしい広告だと思う(男性 50 代)
- ・正に最近施設に入った親がいる。個人的にとってもタイムリーな内容で興味が持てる内容だった。特に下半分にある漫画には心にジーンときた(男性 50 代)
- ・赤羽みちえさんの「のんびりいこうよ」がとても良かった(男性 50 代)
- ・漫画で介護の仕事について読むと、広告全体を読みたくるのでとても良いと思った(男性 50 代)

- ・マンガの内容が感動的。じーんとしました。私の母もサ高住にお世話になっています。感謝しています(女性 60 代)
- ・下段の漫画を描かれている、赤羽みちえさんの本は読んだことがあるので、目を引きました(女性 60 代)
- ・赤羽みちえさんのアニメが優しくて印象に残る。今は元気だが、その時がきたら参考にしてみたい(女性 60 代)
- ・「のんびりいこうよ」の漫画は切り抜いて保存していたので、介護のしごとと共に懐かしく拝見しました(男性 60 代)
- ・漫画も掲載され、興味深く読ませてもらいました(男性 60 代)

【漫画に関する否定的な意見】

- ・漫画のタッチがあまり好みじゃなく、伝えたいことも少しわかりにくい気がしました(女性 29 歳以下)
- ・下段の漫画に、目が行って、「なあんだ、漫画か」と思って、内容をほとんど見なかった。桜が背景になっていて、色使いが明るいので、目を引く(女性 60 代)

【広告印象に関する肯定的な意見】

- ・とても良い広告だと思った(女性 29 歳以下)
- ・温かみのある良い広告だと思った(女性 29 歳以下)
- ・介護福祉士さんについて明るく、優しく紹介しているのがとても良いと思いました。介護は辛いというイメージが先行してしましますが、こうしてささやかな幸せを感じながら寄り添う大切さを感じました(女性 29 歳以下)
- ・介護福祉士の温かさをより感じやすい記事だと思った(女性 29 歳以下)
- ・カラーで、介護の仕事の素晴らしさを伝えており良い広告を出してると思いました(男性 29 歳以下)
- ・なにげなく読んでいたらほっこりとなる話しに温かくなりました。介護の世界は遠いようで身近になる可能性もあるので家族と話してみたいです(男性 29 歳以下)
- ・介護業界は大変な人材不足のようで、でもなくてはならない重要な仕事。この広告を見て介護の世界を目指す人が増えたらいいなと思いました。介護福祉士さんの笑顔が明るくていい広告だと思います(男性 29 歳以下)
- ・とても大切な内容が詰め込まれた広告、テーマが重いだけに明るく伝えようとする姿勢が素晴らしいと思った。何度も読み返したくなる広告だと思う(女性 30 代)
- ・悪い人ばかりじゃないんだと、介護のイメージが少しだけよくなった(女性 40 代)
- ・介護は大切ながらも 3K イメージがあるのでそのイメージをくつがえすのに良いと思います(女性 40 代)
- ・良い広告だと思う(女性 40 代)
- ・イラスト、文章共に大変好感を持ってました。ネットで詳しく調べてみようと思いました(男性 40 代)
- ・とてもいいですね(男性 40 代)
- ・とても素晴らしい広告です。団塊の世代が一斉に高齢化し、少子高齢化社会へと突き進む現代において本当の意味で意義のある広告です。厚労省事業の一環として作成された広告だそうですが、頁下半分の漫画はとてもわかりやすくやさしい気持ちになり、改めて介護事業のことを考えさせてもらえます。昨今、介護事業者やその職員による虐待などの犯罪も報道されていますが、それらはほんの一欠けらの方たちだという認識を強くさせてくれる良い広告です。資金や予算の関係もあるでしょうが、このような時代だからこそたまにで良いので再掲載して欲しい広告です(男性 40 代)
- ・わかりやすくいい広告だ(男性 40 代)
- ・手作り感があって親しみやすい広告だと思う(男性 40 代)
- ・心温まる内容でした(男性 40 代)
- ・いまや身近になった介護というものにたいして、色々と考えられるいい広告だ(女性 50 代)
- ・とてもいい広告だと思った。自分のこと、親の事、色々な立場から考えました(女性 50 代)
- ・ピンクが基調で暖かい印象の広告だと思います。「のんびりいこうよ。」は誌面でずっと見ていたの

で親近感が湧きます(女性 50 代)

- ・介護の現場でイキイキと働いてる人の言葉とお顔がいい印象(女性 50 代)
- ・介護の仕事に対して良い印象を与えてくれる(女性 50 代)
- ・今の時代に合っている。関心を持ちたい内容。マンガで爽やかに描かれていて良い(女性 50 代)
- ・これからの時代に必要である。漫画もよかった(男性 50 代)
- ・わかりやすくていい内容だと思います(男性 50 代)
- ・良い広告ですね(男性 50 代)
- ・タイムリーな広告内容でした(女性 60 代)
- ・とても良い広告だと思いました!(女性 60 代)
- ・ほっこりする(女性 60 代)
- ・介護の仕事はとてもたいへんな仕事だと思います。人と人の相性もあるし言葉づかいが悪い人とはコミュニケーションをとるのはむずかしい。優しくわかりやすく話すコミュニケーション理解しあえる話し方が大切。支えられ支える。これを大切にされてる広告です(女性 60 代)
- ・今の時代に大切な仕事を伝えてくれた広告だと思います(女性 60 代)
- ・春らしく、目を引く広告だと思います。介護職の皆さんの温かい寄り添う気持ちが伝わりました。漫画の部分もほのぼのとして、堅苦しくなく楽しく読めました(女性 60 代)
- ・笑顔が良いと思う(女性 60 代)
- ・親を世話していた経験から介護のお仕事をされている方の変さもわかります。また、志しを高く維持していくにも職場の雰囲気も重要かと思います。紙面ではプラスの部分が多く感じられました。自分も含め高齢者となった今は施設でロボットであり、ベッドであり、車椅子などハード面で充実されている所がいいなおもいます。少しでもスタッフの体力的な仕事の部分は減らして余裕ある気持ちで高齢者に接して頂ける施設が増える事を願っています(女性 60 代)
- ・1 ページの全面広告で、注目度が高い。自分も今年で 70 歳になり、介護が気にかかる。いまや社会的にも改めて介護の重要性が指摘されている折でもあり、時宜にかなった広告であると感じているし、極めて好感が持てる広告である(男性 60 代)
- ・流石、産経良い広報だと思う(男性 60 代)
- ・良く読むと良い広告と思った。(男性 60 代)

【広告印象に関する否定的な意見】

- ・4 人のインタビューが手書きに似せたみんな同じフォントを使っていて騙された気分になりました(女性 29 歳以下)
- ・まあ普通の広告という印象(女性 29 歳以下)
- ・まず、この紙面が広告なのかがひと目で分からず、特集記事かのような表現に疑問を感じた。その上で、「賃金は顕著に改善されており、きつく低収入の仕事ではなくなった」という結論に世論を誘導するための(女性 29 歳以下)
- ・どこが主体の団体なのか分からない。名乗らなければ怪しむのが今日の常だと思う(男性 29 歳以下)
- ・華やかで明るい未来のようですが、現実とのギャップが不自然に感じられます。介護福祉士以外の人達の環境をもっと変えていかなければいけないと思いますが?!(女性 30 代)
- ・介護についての全ての人への理解はこのような広告ではあまり意味がない気がする(女性 40 代)
- ・知らない人が興味を持つきっかけには良いと思いましたが経験からすると、介護の現実と正直あまりあっていない印象を受けました(女性 40 代)
- ・本当に新聞は高齢者を言い方は悪いが不安をあおり、騙して買わせに来ているなあと、本当に迷惑してる(男性 40 代)
- ・介護を綺麗事にして欲しくない。この広告の「笑顔」だらけの薄っぺらさに腹が立った。ぼくは実母の介護をして 15 年。この苦しみを他人ごときの笑顔でごまかして欲しくない。知ったつもりで広告はやめてもらいたい。介護の苦しみを前提とした広告を出して欲しい。孤立無援の当事者にしてみれば、このような明るい介護を謳う広告は、私にとっては毒以外のなにものでもない。止めていただきたい。商売の介護の広告は、止めてくれ(男性 50 代)
- ・関心、興味ある読者には響く程度かと思う(男性 50 代)
- ・介護職への理解を啓蒙する広告と理解したが、本当にそうだったのか、という疑問もあります(男

性 60 代)

【回答者自身に関する感想】

- ・わかりやすく、興味を持った(女性 29 歳以下)
- ・介護サービス事業所で勤務しているので一通り読んだ(女性 29 歳以下)
- ・大切なことだとおもった(女性 29 歳以下)
- ・もっと情報を得たいと感じた(男性 29 歳以下)
- ・介護の現場のことが少し理解できた(男性 29 歳以下)
- ・介護の仕事がよくわかった(男性 29 歳以下)
- ・時期的に良い広告だと思います(男性 29 歳以下)
- ・家族に介護をしなければいけない人がいるので、お話を読んで泣けました。前向きな介護福祉士さんの言葉に励まされそうです(女性 30 代)
- ・介護問題は何れ自分も関係することですが自分の中でまだまだ漠然としているなと思いました(女性 30 代)
- ・素晴らしい仕事だなと思った(女性 30 代)
- ・介護の仕事に興味を持ちました(男性 30 代)
- ・尊敬しました(男性 30 代)
- ・同じ業界ですので、知っていました(男性 30 代)
- ・いろいろ考えてみたい(女性 40 代)
- ・介護の仕事の中身はもっと厳しいのではないかと思う(女性 40 代)
- ・現在、親の介護に関わっていますので、捉え方や実際、起こったことなどを伝えていて、学びの機会をいただきました(女性 40 代)
- ・仕事へのやりがいや存在意義に共感しました(女性 40 代)
- ・写真に写っておられる方たちは、いかにも素敵なお方たちばかりだが、そのような方たちばかりでもないと思うので、そこは、怖いといつも感じている(女性 40 代)
- ・誰もが今後向き合うことになるであろう介護について、考えるきっかけになった(女性 40 代)
- ・娘が福祉の勉強をしているので、参考になることがたくさんありました(女性 40 代)
- ・友人との話題も親の介護のことが出てくるようになり、身近に感じ、情報を集めたいと思った(女性 40 代)
- ・こういう世代だから参考になりました(男性 40 代)
- ・こうした広告によって、少しでも世の中が好転すればと思います。私自身も、学ぶことの多い広告でした(男性 40 代)
- ・改めて介護の仕事の重要性を痛感する広告だと思います(男性 40 代)
- ・興味なし(男性 40 代)
- ・思っていた介護の仕事と違うような気がしました(男性 40 代)
- ・自分の親も要介護となり、正直言ってどうしたらよいか悩んでいるので、興味を持った(男性 40 代)
- ・身近な問題として見ることができた(男性 40 代)
- ・是非ネットで検索してみたいと思った(男性 40 代)
- ・大変な仕事だと思う。心から応援する(男性 40 代)
- ・これから必要になる人がますます増えるので、介護をする方には頭が下がります(女性 50 代)
- ・父も、脳梗塞でなくなりました。この広告をみていると、こんなふうに、施設で、暮らせば幸せだっただろうなと、羨ましく思います(女性 50 代)
- ・とても共感できました(女性 50 代)
- ・とても興味深く読ませて頂いた。とても興味ある分野だったので(女性 50 代)
- ・よい介護士さんとの出会いがあればとてもラッキーであると思います。残念ながらその確率はあまり高くないので、そこが大きな問題(女性 50 代)
- ・介護の仕事をしている方には感謝しかありません。この広告でその気持ちがより一層強くなりました(女性 50 代)
- ・介護福祉士さんがいるおかげでいろいろと助けていただけてとても助かります。このような広告、とても良いと思います。(女性 50 代)

- ・興味がない(女性 50 代)
- ・私も介護者を抱え色々な困難に出会っている。この様な話を読むと身につまされる部分とホッとする部分がある(女性 50 代)
- ・自分もいつかは介護をする側になるだろう。その時、本当に自分にできるだろうかと思う。こういう経験されている方の言葉は頼りにもなるし、励みにもなる(女性 50 代)
- ・将来の家族や自身の姿を想像できる、リアルな実感があった(女性 50 代)
- ・色々考える(女性 50 代)
- ・団塊の世代が介護を受ける世の中になり周囲をみて建築中の建物はほぼほぼ介護施設です。50 年前じゃ考えられないです(女性 50 代)
- ・いずれはご厄介になる事なのでよくよく読ませていただきました(男性 50 代)
- ・とても考えさせられる広告でした(男性 50 代)
- ・まさに自分と立場が一緒なので共感する(男性 50 代)
- ・もっと読みたくなった(男性 50 代)
- ・介護という仕事に関心を持てた(男性 50 代)
- ・介護という身近な話を聞いて充実した思いである。またかつて産経新聞に長期連載されていた「のんびりいこうよ」の番外編が読むことができ、嬉しかった(男性 50 代)
- ・今後必要になってくる最大の仕事だと思いますが、今はあまり興味が湧かないです(男性 50 代)
- ・参考にしたい(男性 50 代)
- ・自身の周辺でも高齢化社会を実感することが増えており、いろいろ考えさせられます(男性 50 代)
- ・身近な問題なので、関心を持って読みました(男性 50 代)
- ・大事な仕事だと再認識した(男性 50 代)
- ・余り興味ある広告とは思いませんでした(男性 50 代)
- ・赤羽みちえさんの「のんびりいこうよ」は、以前楽しみに読んでいたので、懐かしい。幼馴染の両親とお母さんの性格が似ていて、もうご両親は亡くなっているが、独身の彼女は、当時 1 人で介護に向き合っていて頑張っていた。お母さんが入っていた施設に恩返しのもりでご両親が亡くなってから介護の資格をとり仕事を始めたが、おっとりした性格の彼女は現場でかなりいやみを言われたりして気持ちが落ち込んで結局辞める事にした。介護の仕事は、外からではわからないストレスがあるのだと思うが、気の弱そうな人にぶつけられるのかなと切なくなった。私の母も亡くなった時に、それまで関わってくれた訪問診療の方々や看護婦さんに亡くなった事を伝えに言ったが「そうですか」の一言だったので、それまで「お母さん、大好き」とよく言っていたのはリップサービスだったのかと悲しくなった。こんな仕事に関わる人は人が亡くなる事に対して気持ちがマヒしてるのかなとも思った。もちろんほとんどの方はこの広告にあるようにりっぱな考えをもつ介護士さんだと信じたいです(女性 60 代)
- ・これからお世話になるのかと思うと切実です。そろそろ夫の介護を考えないといけませんね(女性 60 代)
- ・もしかしたら介護のお世話になる年齢になりました。介護士のみなさんの存在をありがたく思います(女性 60 代)
- ・ゆうゆう Life を初めて知った。私も介護をしているので店で見たいと思った(女性 60 代)
- ・介護に従事されている方には、本当に頭が下がります(女性 60 代)
- ・介護の仕事の大変なのはわかります。両親もお世話になりました。この仕事についておられる方に感謝しています(女性 60 代)
- ・介護の仕事をされている人たちには、本当にありがとうございます。と母がお世話になったので、伝えたいです(女性 60 代)
- ・介護は自分にも直近する課題です。参考になりました(女性 60 代)
- ・介護は大変です(女性 60 代)
- ・関心が高く興味深い(女性 60 代)
- ・既に生活の一部となっている介護について・改めて認識させてくれる一助となった(女性 60 代)
- ・興味深く読みました(女性 60 代)
- ・現在進行形で母の介護をしていますので身につまされました(女性 60 代)
- ・今、介護の真っ只中で、興味深く、少し気が楽になりました(女性 60 代)

- ・今時の話題で良かった(女性 60 代)
- ・初めて知りました。自分も以前介護の仕事をしていたし、実際介護を継続中なのでとても共感を受けました。父(他界)の介護の時も、ケアマネさんがいなかったらどうなっていた事か。本当にお世話になって一人だったら一家心中していたのではないかと思います。もちろん人間なので相性があり色々ご苦労があるようです。でも、全般的に志の素晴らしい人がほとんどでした。赤羽さんの漫画も、懐かしくてじっくり読んでしまいました(女性 60 代)
- ・笑顔の介護士さん達が素敵です。他人事ではなく私も主人もいつかお世話になるかもしれない。こういう笑顔の人達に出会えたらいいと思った(女性 60 代)
- ・友人も介護職をしており大変な事をよく聞いている。仕事に対しての対価は厳しいと思う(女性 60 代)
- ・どちらかと言うと裏方さんの仕事ですが改めて気付く点が多々ありました(男性 60 代)
- ・為になりました(男性 60 代)
- ・介護のお仕事に就いている方々には頭が下がります(男性 60 代)
- ・自分も介護してるので改めて頑張ろうと思った(男性 60 代)
- ・親の介護もあるので、また興味持って見ます(男性 60 代)
- ・世間の印象と、介護士自身が持っている印象とが異なることを初めて知った(男性 60 代)
- ・多くの人がいつかはお世話になると思うので、「今は関係ない」で終わることのないような気持ちになりました(男性 60 代)
- ・大切なことだと思う(男性 60 代)
- ・大変参考になりました(男性 60 代)
- ・大変良い広告だと思いました。ありがとうございます(男性 60 代)
- ・知らなかった存在だが、介護者不足や不祥事があるので興味を持った(男性 60 代)
- ・必要な仕事と感じる(男性 60 代)

【介護・広告に関する意見】

- ・資格を持って、勉強をして、介護の仕事につきたいと就いた方達はやりがいも感じられていいのかなと思います。そうではなく、他の仕事をしていたが、介護職についてみるかと考えた方が辞めやすかったりするのかなと思いました。給与が他の職種平均と変わらないならばまだ安いと思います。親世代のことでお世話になることもあります。やはり仕事内容はきついのではないかと思います。他の職種平均と同じ給与なら他の仕事を選ぶ方が多いのではと感じます。他の職種平均の1.5倍ぐらいないと介護職を選ぶ人は増えないのではと思いました(女性 30 代)
- ・家族が要介護状態なので、介護に関する話題は注目している。必要な仕事なのでどんどんと広めて欲しい(男性 30 代)
- ・いろいろと話題になってますが、実際のところどうなのか?といったことが伝わってきました。平均賃金も思っていた以上に高いと知りました。どのような仕事にも当てはまりますが良いところ悪いところがあると思います。情報は伝え手が、どちらかに強調していると思います。介護は良い面をもっと強調したほうが、心温まる話になって良いと思います(男性 40 代)
- ・介護の仕事はしんどいのに賃金が安い、というイメージがどうしてもある。これからものすごく重要になってくるであろう職種なので、もっともっとアピールしボランティアではなくちゃんと従事する若者を育ててほしい(男性 40 代)
- ・もっと介護の仕事は評価されるべきお給料をあげられるように国や地方自治体が支援していかなければならないと思います(女性 50 代)
- ・これからの社会に必要な内容だと思います(女性 50 代)
- ・これから介護の需要は増えるので受ける際の手続き等が知りたい(女性 50 代)
- ・高齢化社会が進むにつれ、今後ますます介護職が注目されると思う。介護の在り方と介護職の専門性を深く掘り下げないといけない。虐待がある介護施設のニュースを見聞きする中で、安心して、預けられる施設の在り方もしっかり考察していく必要がある(女性 50 代)
- ・私も介護福祉士で、訪問介護をしています。私の職場も人手不足のようです。それぞれの具体的な仕事内容を、漫画か何かでアピールできたら、わかりやすいのではないかと思います(女性 50 代)
- ・これから介護の需要が高まるなか、人手が足りない状況を改善しないと、質が悪くなり、虐待など

- の問題が多くなると思う。低賃金体質を改善する必要がある(男性 50 代)
- ・介護の仕事について、良い面を伝えることは大切だけれど、それ以上に過酷な現場であることも周知する必要があるように思う。離職率が高い理由をしっかりと伝えるべき(男性 50 代)
 - ・少子高齢化で子どもの数が減る一方、高齢者は増え続ける現状で日本を支える仕事になると思う(男性 50 代)
 - ・介護は長い間生きていたら誰もが多かれ少なかれお世話になる事だと思います。人を扱う仕事って大変な仕事だと思うので私には到底出来かねます。優しいだけやきれいごとだけでは難しいし介護に携わる方々には本当に頭の下がる思いでいっぱいです。これから先自分が介護される立場にならないように日々健康には留意しているつもりですが、限度はあります。人としての尊厳を無くした時に自らの命を決められるような法律が出来ればと思います(女性 60 代)
 - ・介護現場の仕事に従事されている方々に感謝、尊敬。体力的、精神的にも大変な業務ですし、適性もあると思います。昨今、現場についての暗い話題も多いですが、福祉と人間関係を大切に考え、良い人間性を信じて志高くこの仕事に従事しようとしている方々も多数おられると信じています。そんな方々が良いモチベーションを保って働ける職場環境が徹底的に整うことを願います(女性 60 代)
 - ・介護福祉士になるには経験や勉強が必要と聞いた事があります。介護士さんとの収入も開きがあると思います。これからの社会には必要な職種であり、たくさんの人手があれば、一人一人の負担が減ると思います。私も介護の仕事に興味がありますが腰痛なので体力的に出来ないと考えています。シニアでも働ける箇所があれば世の役に立ちたいという思いがある方はいると思います(女性 60 代)
 - ・高齢化社会において介護職は貴重である。介護を必要とする一人ひとりの人生に自信を持って寄り添えるよう、介護職に適切な職の地位資格等を授与する社会であっても良いのではないかなと思う(女性 60 代)
 - ・高齢化社会になくってはならない大切な仕事で支え、支えられている(女性 60 代)
 - ・私も介護士です。募集しても人が来ない。もっともっと大変だけどやりがいのある仕事であることを年齢関係なくわかってほしい。介護の仕事は施設だけではない。訪問介護にも目を向けてほしい(女性 60 代)
 - ・大切な仕事なのに、見聞きする所では軽視されがち。勿論！介護職に着いている方々にも誇りを持って従事して頂きたいし、そうする為の理解も必要だと思います(女性 60 代)
 - ・これからの時代非常に大切な仕事になってくると思う(男性 60 代)
 - ・もう少し辛い、キツイ、低賃金等の現実を踏まえた、やりがいや社会の役割が伝えられると良いかな(男性 60 代)
 - ・一般的に難しい事業分野に入る。人の介護とは動物の介護とは違い個々人の考え、価値観、人生観等相当な神経を使うものであると思う。何が入所者にとり必要で、親切な行動にあたるのか、又その反対の行動とは。事業者にとり赤字経営ではならず、一定の利益も確保したいであろう、過去にも運営企業が株式上場を株式の非公開に踏み切り非難を浴びたが、平気な行動をとり永らえている。今後高齢化社会の到来で益々必要になるであろう分野である。海外からの人材登用も一時盛んに行われたが、資格取得に難題が有り計画通りには進んでいないようです、官民連携で取り組むべき課題の一つでしょう(男性 60 代)
 - ・我々もいつかはお世話になる身なので更なる介護福祉士の待遇を向上してほしいです(男性 60 代)
 - ・介護の仕事は、今の世の中では絶対と言ってよいほど重要な仕事ですが、あまりにも賃金、環境などで恵まれていないと思います。高齢化社会と言われるようになって久しいですが、政府の対応が最も遅れている部分ではないかと思えます。もっと真剣に取り組むべき事柄ではないでしょうか。思い切った改善が必要です(男性 60 代)
 - ・介護は、これが正しいという答えはない(男性 60 代)
 - ・介護職に就く人員が減っていると聞いたことがあります。賃金面、仕事のキツさ等々に問題があるようですが誰もいつかはお世話になる介護の方々です。魅力のある職業になってほしいと書くのは能天気すぎ？(男性 60 代)
 - ・介護福祉士と言えばきつい・安い仕事のイメージがありなかなか人員集まらないと思いますが働きがいがある職業を目指し将来明るい未来があればいい(男性 60 代)

- ・所々あれって思う言葉が出てきますが、この広告が世のため人のためになる良い広告を出していると感じました。十人十色と言うように相手や家族がどう思うか？そんな中「ありがとう」と言ってもらえることは、おおきな「やりがい」だと感じます。ただ、番外編で「のんびりいこうよ」とは理解できなくもないが、現実には日本は世界に比べて大きく遅れています、原因は「ゆとり教育」、馬鹿な政策のせいです。直ぐにやらなければならない政策は多いはず、のんびりしてられません(男性 60代)
- ・少しでも介護がやっかいなものでなくなることを望みますね(男性 60代)
- ・日本は高齢化が進んでいます。改めて自分の年齢と重ねて広告を見ました。新聞広告を見た年配者は身近に感じたのではと思います。介護に携わる人の苦労はマスコミ情報でよく聞きます。日本の介護をどのように今後導くのか国の政策がもっと厚くするよう期待したいものです(男性 60代)

10.2.3 オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

(1) 調査の目的と概要

地域の住民（親子）に介護のしごと現場を体験してもらう親子体験会の開催予定から、新型コロナウイルスの影響により、子ども向けオンラインイベントへ変更した。

オンラインイベント開催によって、当事業のターゲットである「介護の仕事に無関心な層、子育て中の層」が「動画を見る機会を作ることで、現場見学により、介護施設や『介護の仕事』に理解を深め、興味関心が高めることができたか」についての効果検証のため、動画視聴者へ視聴後のアンケート調査を実施し、その結果を分析することとした。

(2) 調査集計

イベント視聴可能期間中にイベント視聴者を対象にした事後アンケートをウェブ調査で実施した。調査の概要は以下の通り。

- 調査方法 インターネット調査
- 実施機関 株式会社産経リサーチ&データ
- 実施期間 2022年11月10日(木)~2022年12月31日(土)
- 回収状況 有効回答 67人

■基本属性

調査対象 67 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	41	61.2
女性	26	38.8
全体	67	100.0

学齢	人	%
小学1年生	4	6.0
小学2年生	1	1.5

小学3年生	4	6.0
小学4年生	2	3.0
小学5年生	5	7.5
小学6年生	0	0.0
中学1年生	5	7.5
中学2年生	3	4.5
中学3年生	2	3.0
高校1年生	0	0.0
高校2年生	1	1.5
高校3年生	3	4.5
その他	37	55.2
全体	67	100.0

職業	人	%
会社員	12	32.4
公務員	1	2.7
自営業・自由業	5	13.5
会社役員・経営者	1	2.7
パート・アルバイト	3	8.1
専業主婦・主夫	3	8.1
学生（福祉系の大学・専門学校など）	1	2.7
学生（上記以外）	3	8.1
無職	8	21.6
全体	37	100.0

同居家族に要介護者がいる	人	%
いる	9	18.0
いない	41	82.0
全体	50	100.0

要介護者とのふれあい	人	%
よくある	7	10.4
たまにある	16	23.9
あまりない	18	26.9
したことはない	26	38.8
全体	67	100.0

イベント視聴者内訳は、男性 41 人(61.2%)、女性 26 人(38.8%)。学齢は小学生 16 人 (23.9%)、中学生 10 人 (14.9%)、高校生 4 人 (8.0%) だった。その他 37 人の職業のうち、学生は 4 人 (8.0%)。

また「同居家族に要介護者がいる」人が9人（18.0%）。「要介護者とふれあい」が「よくある」人は7人（10.4%）。「たまにある」16人（23.9%）と合わせて、要介護者とのふれあいがある人は23人（34.3%）だった。

●アンケート結果のサマリー（要約）

オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」の動画を見た人に、「介護のしごと」への理解度や評価についての設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」評価

「番組への興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、3分の2以上が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。

 <small>こどもヘルパー講習会とは… 介護士の1日や、入居されている皆さんと一緒に 行っている体験、認知症クイズなどなど 内容盛りだくさんで介護のお仕事を紹介する、 オンライン配信による講習会です。</small>	上段：人 下段：% 単一回答	全体	とても	やや	わ	や	ま
			そう	そう	か	や	ま
			思う	思う	ら	や	ま
			う	う	な	さ	た
					い	い	く
						な	く
						い	く
番組は、興味を持てた内容だった	67	14	37	11	4	1	
	100.0	20.9	55.2	16.4	6.0	1.5	
番組の組み立て方（出てくる人の説明、お話などのタイミング）はぴったりだった	67	17	33	13	2	2	
	100.0	25.4	49.3	19.4	3.0	3.0	
番組の長さ（〇分）はぴったりだった	67	14	31	14	6	2	
	100.0	20.9	46.3	20.9	9.0	3.0	
番組の内容はわかりやすいものだった	67	25	31	9	0	2	
	100.0	37.3	46.3	13.4	0.0	3.0	

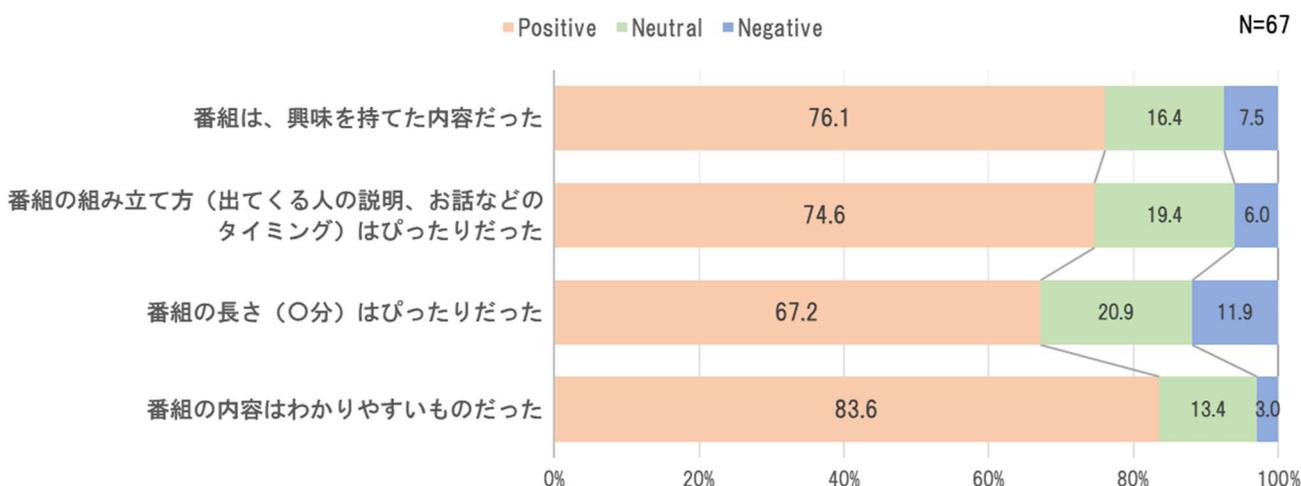
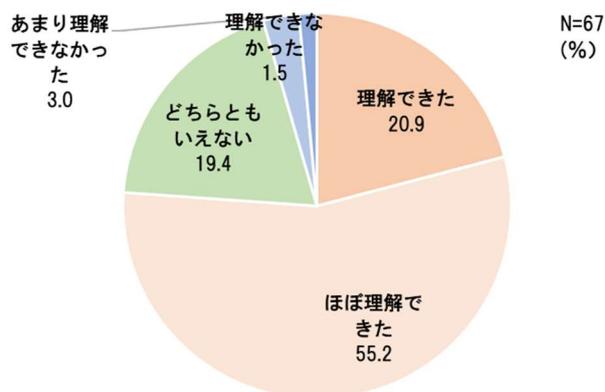


図 4-1 コンテンツ評価 オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」を見ることで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は14人（20.9%）。「ほぼ理解できた」とした37人（55.2%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は51人（76.1%）であった。



理解度	人	%
理解できた	14	20.9
ほぼ理解できた	37	55.2
どちらともいえない	13	19.4
あまり理解できなかった	2	3.0
理解できなかった	1	1.5
全体	67	100.0

図 4-2 「介護の仕事」への理解度 オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

続いて、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

番組を見る前に比べて「『かい護』への興味関心が高まった」との項目は、「とてもにあてはまる」と答えた人は12人（17.9%）。「ほぼあてはまる」とした27人（40.3%）と合わせて、「介護」への関心が高まったのは39人（58.2%）であった。

	全体	とてもあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼあてはまらない	まったくあてはまらない
		人	人	人	人	人
番組を見る前に比べて、「かい護」のイメージが良くなった	67	11	35	17	3	1
	100.0	16.4	52.2	25.4	4.5	1.5
番組を見る前に比べて、「かい護」への興味関心が高まった	67	12	27	24	2	2
	100.0	17.9	40.3	35.8	3.0	3.0
番組を見る前に比べて、「かい護」の知識をもっと得たいと思うようになった	67	14	27	23	2	1
	100.0	20.9	40.3	34.3	3.0	1.5

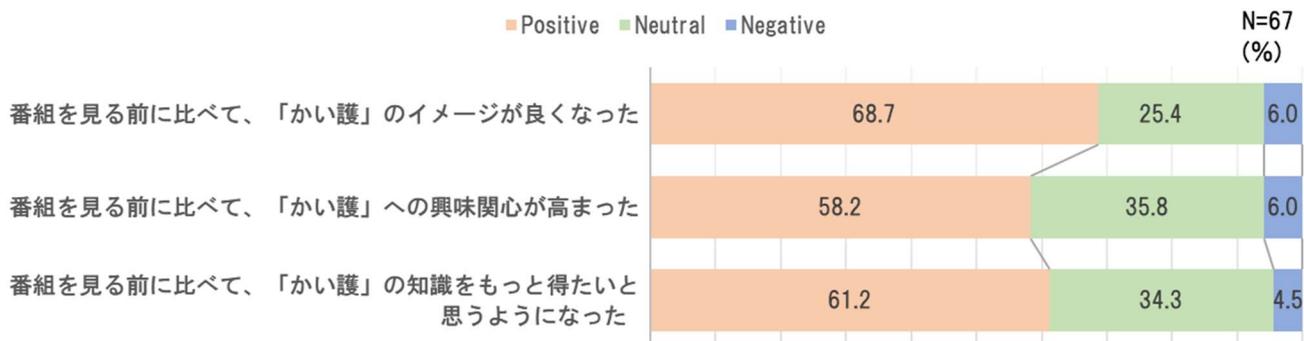


図 4-3 コンテンツ閲覧による意識変容（介護）オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護のしごと」に対する意識変容に関する 9 項目について、5 段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

番組を見る前に比べて『ふくし（福祉）の仕事（かい護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「とてもあてはまる」と答えた人は 14 人（20.9%）。「ほぼあてはまる」とした 26 人（38.8%）と合わせて、「介護の仕事」への関心が高まったのは 40 人（59.7%）であった。

項目	全体	意識変容の程度				
		とてもあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない	まったくあてはまらない
番組を見る前と比べて、「ふくし（福祉）の仕事（かい護を含む）」への関心が高まった	67	14	26	23	1	3
	100.0	20.9	38.8	34.3	1.5	4.5
番組を見る前と比べて、「かい護の仕事」への関心が高まった	67	12	26	25	2	2
	100.0	17.9	38.8	37.3	3.0	3.0
「かい護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	67	11	35	13	5	3
	100.0	16.4	52.2	19.4	7.5	4.5
「かい護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	67	9	22	27	6	3
	100.0	13.4	32.8	40.3	9.0	4.5
「かい護の仕事」はせん門性が高い（知識や経験がたくさん必要な）仕事であると感じるようになった	67	16	34	14	1	2
	100.0	23.9	50.7	20.9	1.5	3.0
「かい護の仕事」はみりよくがある仕事であると感じるようになった	67	10	21	30	4	2
	100.0	14.9	31.3	44.8	6.0	3.0
「かい護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	67	16	18	27	3	3
	100.0	23.9	26.9	40.3	4.5	4.5

「かい護の仕事」は生計が立てられる (生活に必要なものを買うお金を稼ぐことができる) 仕事であると感じるようになった	67	8	19	28	9	3
	100.0	11.9	28.4	41.8	13.4	4.5
「かい護の仕事」はしょう(将)来性 がある仕事であると感じるようになった	67	12	24	26	2	3
	100.0	17.9	35.8	38.8	3.0	4.5

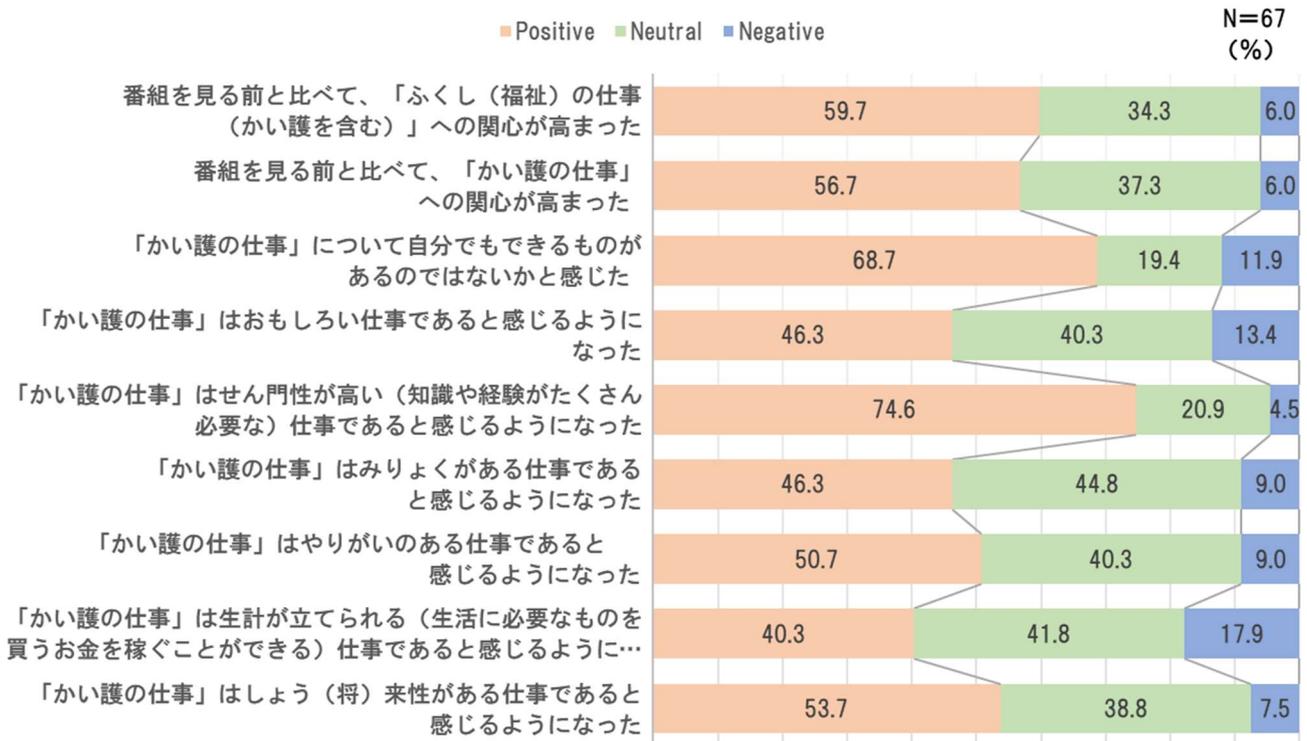


図 4-4 コンテンツ閲覧による意識変容(介護の仕事) オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的に してみたい	機会があれば してみたい	どちらでもない	あまり したくない	したくない
		上段:人 下段:% 単一回答				
「かい護の仕事」をしている人と話す	67	6	32	24	3	2
	100.0	9.0	47.8	35.8	4.5	3.0
「かい護」に関する記事や番組などを見る	67	8	33	20	5	1
	100.0	11.9	49.3	29.9	7.5	1.5
「かい護」に関するイベントに参加する	67	4	31	24	6	2
	100.0	6.0	46.3	35.8	9.0	3.0

「かい護」に関するボランティアをする	67	4	32	21	9	1
	100.0	6.0	47.8	31.3	13.4	1.5
あなた自身が「かい護の仕事」に深く関係する	67	3	22	30	11	1
	100.0	4.5	32.8	44.8	16.4	1.5
「かい護の仕事」を人にすすめる	67	3	21	33	7	3
	100.0	4.5	31.3	49.3	10.4	4.5

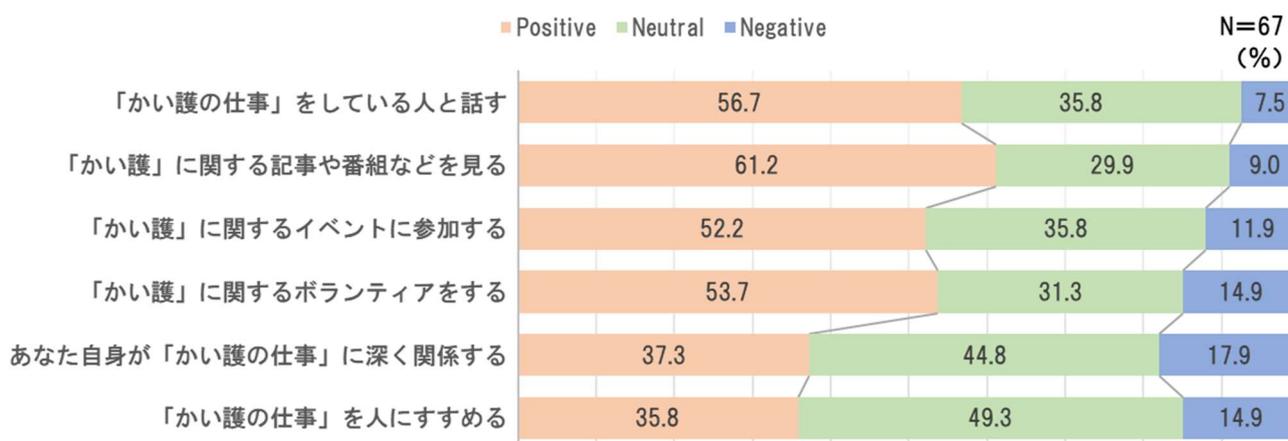


図 4-5 コンテンツ閲覧による行動変容 オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

イベント内容について、「満足」から「不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「満足」が18人(26.9%)で、「やや満足」の33人(49.3%)と合わせて、全体の4分の3以上が満足感を得ていた。

満足度	人	%
満足	18	26.9
やや満足	33	49.3
どちらともいえない	14	20.9
やや不満	1	1.5
不満	1	1.5
全体	67	100.0

図 4-6 満足度 オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」

■ 設問「今回の番組について、ご意見ご感想がありましたら、教えてください」

オンラインイベント「こどもヘルパー講習会」に対する主な意見や感想は、以下の通りであった。

回答内容
・楽しかった(小学1年生女子)
・かい護のイメージが良くなりました。かい護の事が良くわかり知識が増えました。かい護の仕事に就いてみたいと思いました(中学1年生男子)
・頑張って下さいね。応援してますよ(中学2年生女子)
・辛い場面や困難な課題も少し入れられたら良いと思う(専業主婦)
・内容はわかりやすかったです(学生(福祉系の大学・専門学校など)男性)

10.2.4 イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

(1) 調査の目的と概要

展示会の開催によって、①自治体の担当者、介護事業者が手ごたえのあった取組を知り、今後の事業検討の参考とすることで、都道府県等における取組を促進すること、②「介護の仕事に無関心な層」が全国で「介護の日」(11月11日)を中心に開催されるイベントのポスターやチラシを見る機会を作り、評価することで、介護や介護のしごとへの意識変容や行動変容を明らかにすることを目的として、来場者、アンケートモニターにポスター・チラシ閲覧後のアンケート調査を実施した。

調査の概要は以下の通り。

- | | |
|-------|------------------------------|
| ■調査方法 | インターネット調査 |
| ■実施機関 | 株式会社産経リサーチ&データ |
| ■実施期間 | 2022年11月8日(火)~2022年11月15日(火) |
| ■回収状況 | 回答者1109人のうち有効回答789人 |

(2) 調査集計

■ 基本属性

調査対象789サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	482	61.1
女性	307	38.9
全体	789	100.0

年齢	人	%
20代以下	17	2.2
30代	47	6.0
40代	110	13.9
50代	210	26.6
60代	252	31.9
70代	137	17.4
80代以上	16	2.0
全体	789	100.0

回答者のうち、展示会に来場しポスター・チラシを実際に見た人は45人(5.7%)。

男性482人(61.1%)、女性307人(38.9%)。世代は60代(31.9%)を中心に、50代(26.6%)、70代(17.4%)と続く。

職業	人	%
会社員	264	33.5
公務員	39	4.9
自営業・自由業	73	9.3
会社役員・経営者	20	2.5
パート・アルバイト	97	12.3
専業主婦・主夫	83	10.5
学生（福祉系の大学・専門学校など以外）	3	0.4
無職	210	26.6
全体	789	100.0

子どもの有無&末子の学齢	人	%
子どもはいない	287	36.4
末子（未就学児）	23	2.9
末子（小学校低学年（1～3年生））	9	1.1
末子（小学校高学年（4～6年生））	17	2.2
末子（中学生）	20	2.5
末子（高校生・高専生）	29	3.7
末子（大学生・大学院生・短大生・専門学校生などの学生）	47	6.0
末子（社会人・その他）	357	45.2
全体	789	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	318	40.3
自分が介護される立場（だったことがある）	24	3.0
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	73	9.3
介護の仕事をしている（したことがある）	56	7.1
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	79	10.0
自分の介護のことに興味がある	163	20.7
親や家族などの介護のことに興味がある	279	35.4
その他、介護との関わり・興味がある	123	15.6
該当するものはない	169	21.4
全体	789	100.0

職業は会社員 264 人（33.5%）、無職 210 人（26.6%）、パート・アルバイト 97 人（12.3%）の順。有職者は 493 人（62.5%）だった。

子どもがいる人は 502 人（63.6%）で、うち約 7 割の末子は社会人・その他と、子育てを終えたといえる層が大半を占めた。

また、「自分の親や家族などの介護をしたことがある」人は約 4 割（40.3%）、「親や家族などの介護のことに興味がある」（35.4%）と続き、何らかの介護経験のある人が多い結果となった。介護に関わりがない層は 169 人（21.4%）だった。

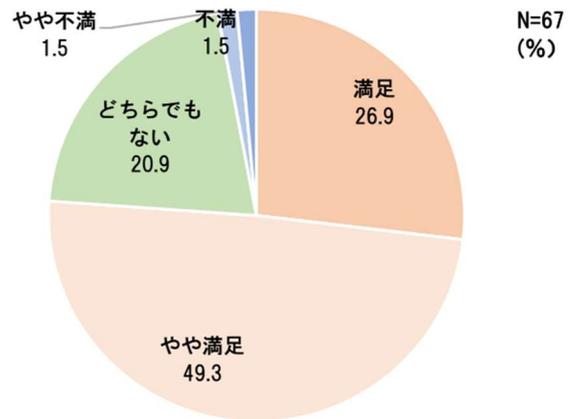
●アンケート結果のサマリー（要約）

「介護の日 ポスター・チラシ」を見て評価した人に、満足度や評価などについての設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■設問「あなたの現在の気持ちとして、最もあてはまるものをそれぞれ教えてください」

この設問を、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

「介護の日 ポスター・チラシ」を見る前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「とてもあてはまる」と答えた人は98人（12.4%）。「ほぼあてはまる」とした397人（50.3%）と合わせて、「介護」への関心が高まったのは495人（62.7%）であった。



	全体	上段：人 下段：% 単一回答				
		あてはまる とても	あてはまる ほぼ	どちらでもない	あてはまらない ほぼ	あてはまらない まったく
ポスター・チラシを見る前に比べて、「介護」のイメージが良くなった	789 100.0	132 16.7	389 49.3	244 30.9	19 2.4	5 0.6
ポスター・チラシを見る前に比べて、「介護」への興味関心が高まった	789 100.0	98 12.4	397 50.3	256 32.4	27 3.4	11 1.4
ポスター・チラシを見る前に比べて、「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	789 100.0	103 13.1	383 48.5	252 31.9	37 4.7	14 1.8

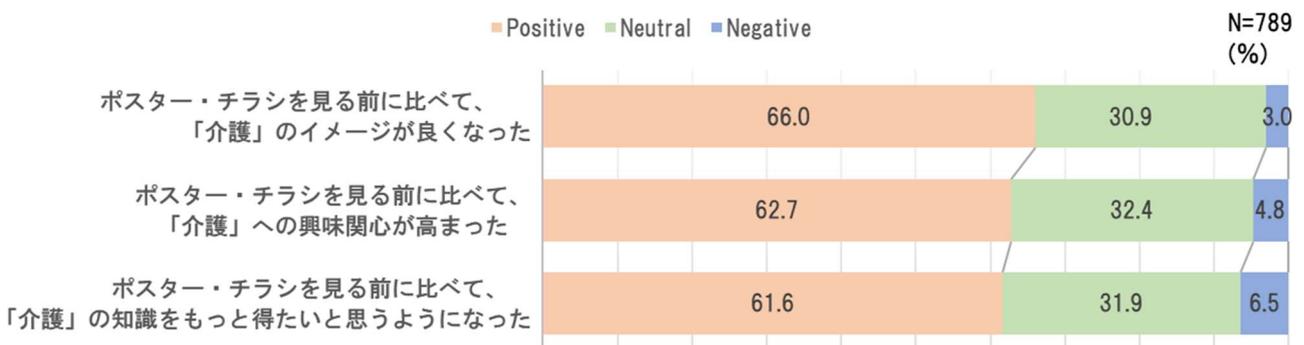


図 5-1 コンテンツ閲覧による意識変容（介護） イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する9項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

「介護の日 ポスター・チラシ」を見る前に比べて「『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「とてもあてはまる」と答えた人は95人（12.0%）。「ほぼあてはまる」とした342人

(43.3%) と合わせて、「介護の仕事」への関心が高まったのは 437 人 (55.4%) であった。

	全体	あてはまる とても	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない ほぼ	まったくあてはまらない	上段：人 下段：% 単一回答
ポスター・チラシを見る前と比べて、「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	789	95	342	282	49	21	
	100.0	12.0	43.3	35.7	6.2	2.7	
ポスター・チラシを見る前と比べて、「介護の仕事」への関心が高まった	789	78	350	289	49	23	
	100.0	9.9	44.4	36.6	6.2	2.9	
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	789	63	247	319	113	47	
	100.0	8.0	31.3	40.4	14.3	6.0	
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	789	41	190	379	130	49	
	100.0	5.2	24.1	48.0	16.5	6.2	
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	789	172	381	197	30	9	
	100.0	21.8	48.3	25.0	3.8	1.1	
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	789	71	271	350	70	27	
	100.0	9.0	34.3	44.4	8.9	3.4	
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	789	124	374	236	35	20	
	100.0	15.7	47.4	29.9	4.4	2.5	
「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	789	38	135	428	138	50	
	100.0	4.8	17.1	54.2	17.5	6.3	
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	789	104	342	278	47	18	
	100.0	13.2	43.3	35.2	6.0	2.3	

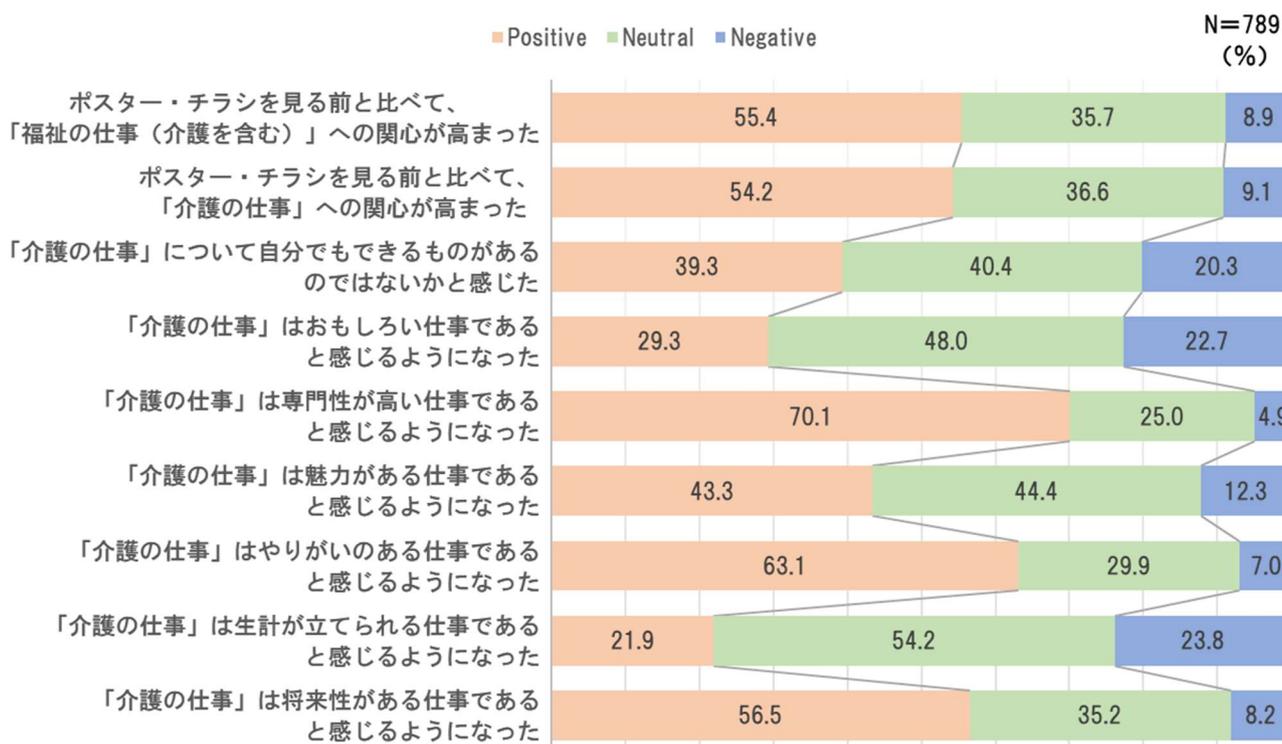


図 5-2 コンテンツ閲覧による意識変容（介護の仕事） イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

■ 設問「あなたの今後の行動として、最もあてはまるものをそれぞれ教えてください」

この設問を、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する 6 項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで 5 段階に分けて尋ねた。

それぞれに対する回答は以下の通り。

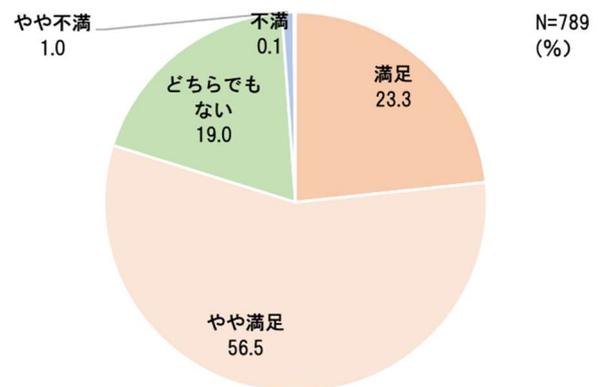
上段：人 下段：% 単一回答	全体	積極的に してみたい	機会があれば してみたい	どちらでもな い	あまり したくない	したくない
「介護の仕事」をしている人と話す	67	79	413	253	28	16
	100.0	10.0	52.3	32.1	3.5	2.0
「介護」に関する記事や番組などを見る	67	110	421	205	34	19
	100.0	13.9	53.4	26.0	4.3	2.4
「介護」に関するイベントに参加する	67	56	305	303	85	40
	100.0	7.1	38.7	38.4	10.8	5.1
「介護」に関するボランティアをする	67	44	257	286	133	69
	100.0	5.6	32.6	36.2	16.9	8.7
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	67	33	153	319	154	130
	100.0	4.2	19.4	40.4	19.5	16.5
「介護の仕事」を人に勧める	67	35	160	410	112	72
	100.0	4.4	20.3	52.0	14.2	9.1



図 5-3 コンテンツ閲覧による行動変容 イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

■ 設問「あなたは『介護の日 ポスター・チラシ』を見て、総合的にどのくらい満足していますか」

この設問を、「満足」から「不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「満足」が184人（23.3%）で、「やや満足」の446人（56.5%）と合わせて、全体の約8割が満足感を得ていた。



満足度	人	%
満足	184	23.3
やや満足	446	56.5
どちらともいえない	150	19.0
やや不満	8	1.0
不満	1	0.1
全体	789	100.0

図 5-4 満足度 イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

■ 設問「介護の日ポスター・チラシ、または展示会について、ご意見ご感想があれば教えてください」

「介護の日 ポスター・チラシ」、展示会に対する主な意見や感想は、資料「介護の日 ポスター・チラシ展 実施報告書」に記載。

●出展自治体担当者アンケート結果のサマリー（要約）

「介護の日 ポスター・チラシ」を出展した自治体の担当者に、資料「介護の日 ポスター・チラシ 展 実施報告書」を配布するとともに、今回の出展目的や今後の出展意向、満足度や評価などについてのアンケート調査を実施した。

調査の概要は以下の通り。

■調査方法	インターネット調査、郵送調査（調査票のメール配布・回収）
■実施機関	産経リサーチ&データ
■実施期間	2022年12月8日(木)~2023年1月17日(火)
■回収状況	20人

■ 出展自治体担当者の基本属性

基本的な属性は以下の通り。

所属部署
医療介護人材課、健康福祉局医療介護基盤課介護人材グループ、健康福祉部介護高齢課、健康福祉部健康福祉指導課、健康福祉部厚政課、健康福祉部長寿社会課、厚生部厚生企画課、県社会福祉協議会 福祉人材センター、東京事務所、福祉医療部、福祉局高齢福祉課、福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課、福祉部 地域福祉推進室 福祉人材・法人指導 人材確保グループ、福祉部高齢者福祉課、福祉部高齢政策課介護人材対策班、福祉保健企画課、福祉保健部 高齢福祉保健課 介護人材確保係、福祉保健部長寿社会課、保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課、保健福祉部長寿社会課

役職	人	%
主事	9	45.0
主査	3	15.0
主任	3	15.0
主幹兼副課長	1	5.0
副主査	1	5.0
主幹	1	5.0
主任主事	1	5.0
主任企画員	1	5.0
全体	20	100.0

「介護の日 ポスター・チラシ」を出展した 20 自治体の担当者全員から回答を得られた。

■ 「介護の日 ポスター・チラシ」出展目的

今回出展した目的について複数回答で尋ねたところ、「自治体の PR をするため」「介護の仕事の PR をするため」と回答した人が各 14 人（70.0%）。次いで、「介護の日の PR をするため」11 人（55.0%）、「介護の日の PR をするため」10 人（50.0%）の順となった。

出展目的 (複数回答)	人	%
自治体のPR をするため	14	70.0
介護の仕事のPR をするため	14	70.0
介護の日のPR をするため	11	55.0
介護のイベント・プログラムのPR をするため	10	50.0
当社・関係団体などから依頼を受けたため	9	45.0
介護全般のPR をするため	6	30.0
来場者からフィードバックを受けるため	3	15.0
介護人材・取引先（潜在的を含む）などを得るため	2	10.0
他県のPR 状況を知るため	1	5.0
全体	20	100.0

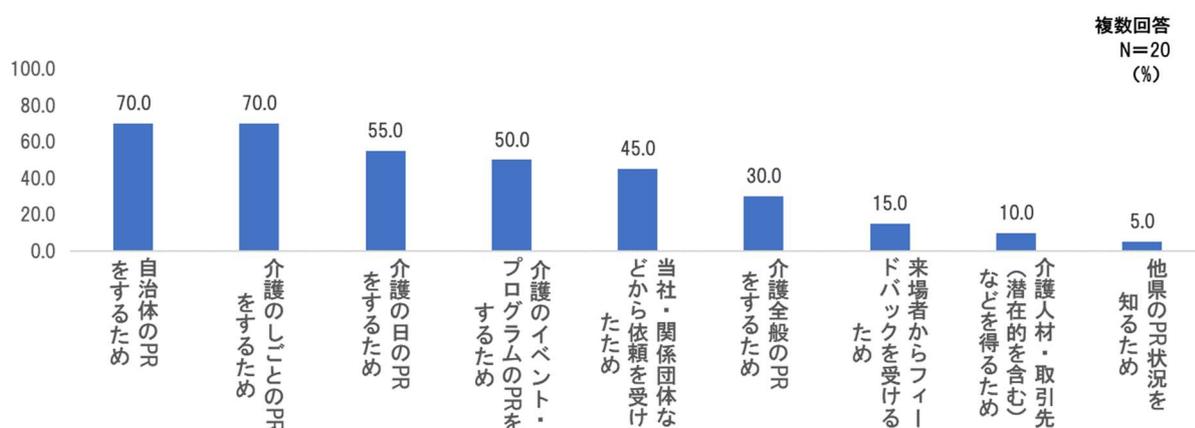
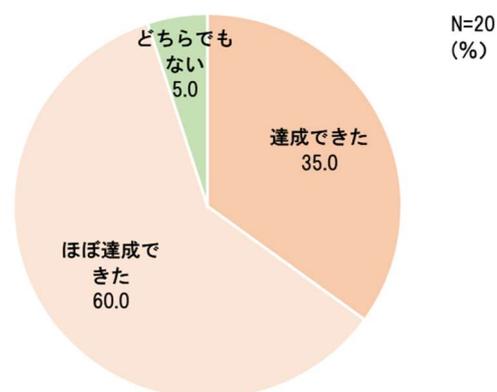


図 5-5 イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」出展目的

今回の出展目的が達成されたかどうか「達成できた」から「達成できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「達成できた」が7人（35.0%）で、「ほぼ達成できた」の12人（60.0%）と合わせて、全体の95%が達成感を得ていた。



達成度	人	%
達成できた	7	35.0
ほぼ達成できた	12	60.0
どちらでもない	1	5.0
やや達成できなかった	0	0.0

達成できなかった	0	0.0
全体	20	100.0

図 5-6 出展目的の達成度 イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

さらに、出展目的の達成度をそのように評価した理由について尋ねたところ、以下の通りであった。

回答内容
<p>「達成できた」と回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの方にポスターを見ていただけたため ・ 多くの人に見ていただいたため ・ 他の道府県の取組や来場者からのフィードバックは、大変参考になりました ・ 他の都道府県のものと一緒に展示されることで、介護人材確保のための情報発信が効果的に行うことができたものと考えられるため ・ イベントPRのポスター掲示は県内のみでの予定だったので、県外の方の目にも触れるところに展示していただいたことで本県の取組みをより広くアピールできたと感じるためです
<p>「ほぼ達成できた」と回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者の反応を知れたため ・ 来場者のコメントを見て、「介護」について考えてもらうためのPRコンセプトが概ね正しいと認識できた ・ 本道の取り組みの特徴等を来場者に伝えられた上、介護のしごと全体のPRにもつながったと感じたため ・ ポスターを掲出することで、取組事業の周知になったため ・ 多くの方に閲覧いただいたことで、県の取組を知っていただいたとともに、介護のしごとや介護の日自体のPRにもつなげることができた ・ 多くの方の目に触れる場で展示を行うことができた ・ 多くの人に対する介護への関心が得られた ・ 他県のポスターやチラシの内容や、展示会に来た人のフィードバックを得ることができ、今後の参考となったため ・ 審査いただいた方々の年齢層が40代～70代であったため、メインターゲットにしていた若年層にはあまりPR出来ませんでした。789人の方々に見ていただくことが出来たので一定の効果があったと思います ・ 社協独自で周知する以外の方法をとれたため ・ 県及び関係団体の介護の日関連イベントについて周知する機会になったため ・ アンケートで、「介護に興味を惹かれる」「イメージが向上する」といった意見が複数見受けられたため
<p>「どちらでもない」と回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な効果測定の手法がないため

■ 設問「今回の出品について、総合的にどのくらい満足していますか」

この設問を、「大変満足」から「大変不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「大変満足」が7人(35.0%)で、「満足」の12人(60.0%)と合わせて、全体の95%が「満足」と回答した。

満足度	人	%
大変満足	7	35.0
満足	12	60.0
どちらでもない	1	5.0
不満	0	0.0
大変不満	0	0.0
全体	20	100.0

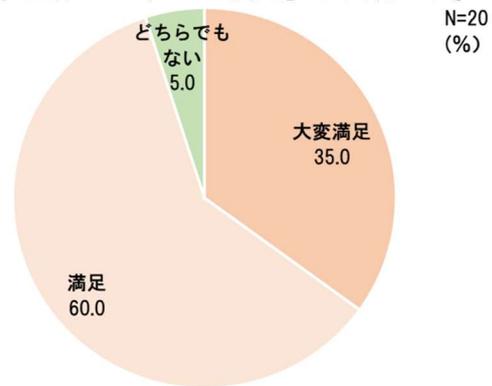
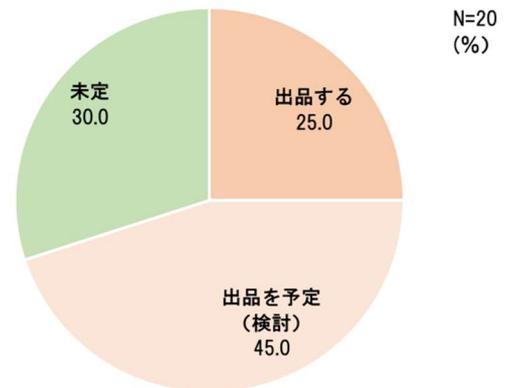


図 5-7 満足度 イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

■ 設問「次回の「介護の日ポスター・チラシ展」(開催未定)への出品について、どのようにお考えですか」

この設問を、4段階に分けて聞いたところ、「出品する」が5人(25.0%)で、「出品を予定(検討)」の9人(45.0%)と合わせて、全体の7割が次回の出展を希望した。



次回出展意向	人	%
出品する	5	25.0
出品を予定(検討)	9	45.0
出品しない	0	0.0
未定	6	30.0
全体	20	100.0

図 5-8 次回出展意向 イベント「介護の日 ポスター・チラシ展」

10.2.5 イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

(1) 調査の目的と概要

当事業のターゲット層である「介護の仕事に無関心な層、若年層」が、「イベントに参加し、現場の情報に触れる機会を作ることによって『介護のしごと』に理解を深め、魅力を感じてもらえることができたか」についての効果検証のため、イベント参加者へアンケート調査を実施し、その結果を分析することとした。

調査の概要は以下の通り。

■調査方法	会場調査（調査票（紙）の配布・回収）	
■実施機関	産経リサーチ&データ、BSフジ	
■実施期間	第1回；2022年11月12日(土)	第2回；2023年3月4日(土)
■回収状況	第1回：有効回答71人	第2回：有効回答人

(2) 集計および効果の分析

「介護の仕事のリアルと魅力」をテーマとし、芸能人らを起用したトークイベントを2回、開催した。イベント当日に現地で参加者に調査票（紙）を配布し回答してもらった。

■ 第1回イベント参加者の基本属性

調査対象71サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	5	7.0
女性	66	93.0
全体	71	100.0

年齢	人	%
19歳以下	6	8.5
20代	24	33.8
30代	6	8.5
40代	14	19.7
50代	17	23.9
60代	4	5.6
全体	71	100.0

職業	人	%
会社員	31	43.7
公務員	4	5.6
自営業・自由業	2	2.8
会社役員・経営者	1	1.4
パート・アルバイト	12	16.9
専業主婦	8	11.3

学生（福祉系の大学・専門学校など以外）	8	11.3
無職	1	1.4
不明	4	5.6
全体	71	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	17	23.9
自分が介護される立場（だったことがある）	1	1.4
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	9	12.7
介護の仕事をしている（したことがある）	9	12.7
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	11	15.5
自分の介護のことに興味がある	22	31.0
親や家族などの介護のことに興味がある	42	59.2
その他、介護との関わり・興味がある	17	23.9
該当するものはない	3	4.2
全体	71	100.0

回答者の内訳は、女性 66 人 (93.0%)、男性 5 人 (7.0%)。世代は 20 代 (33.8%) を中心に、50 代 (23.9%)、40 代 (19.7%) と続く。母娘での参加が見られた。

「親や家族などの介護のことに興味がある」人が約 6 割 (59.2%)、「自分の介護のことに興味がある」人が約 3 割 (31.0%) を占めた。

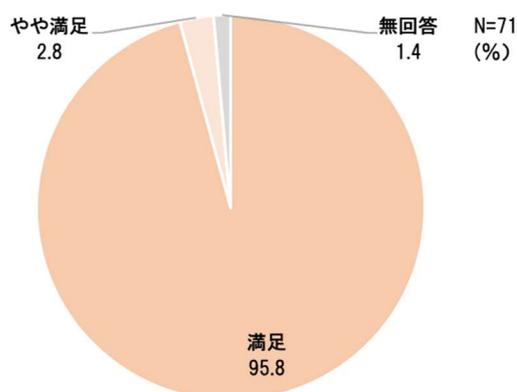
また、「自分の親や家族などの介護をしたことがある（している）」は 17 人 (23.9%)。

●アンケート結果のサマリー（要約）

第 1 回イベントに参加した人に、イベント内容についての評価や満足度についての設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■ 第1回イベント評価

イベント内容について、「満足」から「不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「満足」が68人(95.8%)で、「やや満足」の2人(2.8%)と合わせて、回答者全員が満足感を得ていた。



満足度	人	%
満足	68	95.8
やや満足	2	2.8
どちらともいえない	0	0.0
やや不満	0	0.0
不満	0	0.0
無回答	1	1.4
全体	71	100.0

図 6-1-1 満足度 第1回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

またイベントについて「イベントへの興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、9割以上が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。

	全体	非常に そう思う	やや そう思う	わから ない	やや そう思 わない	い ま つ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
イベントは、興味を持てた内容だった	71 100.0	61 85.9	9 12.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.4
イベントの組み立て方(施設ごとの紹介、トークなど)は適切だった	71 100.0	46 64.8	21 29.6	1 1.4	1 1.4	0 0.0	2 2.8
イベントの長さ(〇分)は適切だった	71 100.0	47 66.2	19 26.8	1 1.4	2 2.8	0 0.0	2 2.8
イベントの内容はわかりやすいものだった	71 100.0	61 85.9	7 9.9	1 1.4	0 0.0	0 0.0	2 2.8

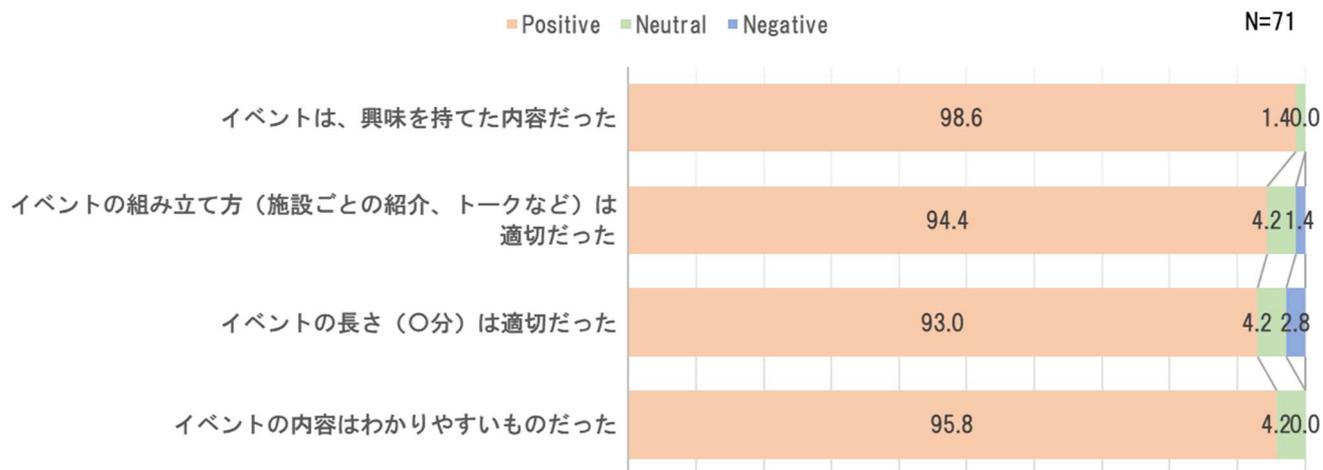
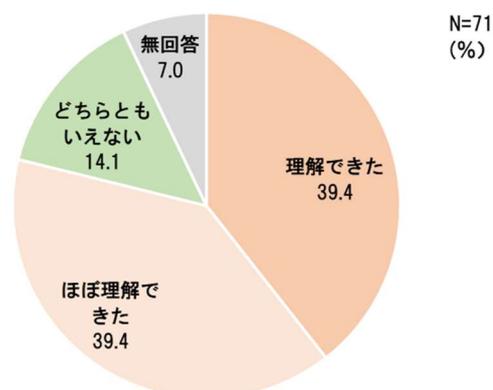


図 6-1-2 コンテンツ評価 第 1 回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

第 1 回イベントに参加することで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで 5 段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は 28 人（39.4%）。「ほぼ理解できた」とした 28 人（39.4%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は 56 人（78.9%）であった。



理解度	人	%
理解できた	28	39.4
ほぼ理解できた	28	39.4
どちらともいえない	10	14.1
あまり理解できなかった	0	0.0
理解できなかった	0	0.0
無回答	5	7.0
全体	71	100.0

図 6-1-3 「介護の仕事」への理解度 第 1 回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

■ 設問「今回のイベントについて、ご意見ご感想、満足したこと、不満なこと、印象に残ったことなど、お気づきの点をご自由に記入してください」

第1回イベントに対する主な意見や感想は、以下の通りであった。

回答内容

感想

- ・今まで1度も介護の事を考えたことが無かったのですが、VTR や実際に働いている方のお話を聞いてとてもきょうみを持つことができました。私もいつか認知症になるかもしれないし、もしそうなくても最後まで楽しみたいので、デイサービスに入りたいと思いました。介護は当たり前という言葉がすごくひびきました。見方が変わりました。参加できて良かったです(19歳以下女性/パート・アルバイト)
- ・介護(平和学や社会学の観点から)について学んでいますが、戸塚さんもおっしゃっていたように、文献などを読んで学ぶよりリアルを学ぶほうがずっと明るくてあたたかいものがあるなどとも感じました。この経験も自分の学びのかたにして、介護の未来、そして今からくる社会変動へのあり方を見直していきたいと思いました。ケアニンシリーズ、私も介護福祉士のおぼも大号泣でした。戸塚さんの活躍をきたいしてます!介護の未来と共に!!(19歳以下女性/学生(福祉系の大学・専門学校など以外))
- ・介護はマイナスのイメージが多かったけど、みなさんのお話を聞いてたら明るい気持ちになれたので良かったです(20代女性/会社員)
- ・テクノロジーの側面から介護を考えたことがなかったが、技術の進歩に目をみはった。技術者が考えたものが現場に出て思わぬ広がりをもつのも興味深かった。イベント全体がとても面白く、介護に対して明るく楽しい未来が見えた気がする。特別なことじゃなくてもできることを!! 心にしました。戸塚くん、これからも介護のお仕事にどんどんたずさわってほしいです!!(20代女性/会社員)
- ・戸塚くん目当てでしたが、杉本さんのお話にとっても興味を持ちました。妹を介護しているのですが、寝たきりなのであまりリハビリも思う様に進まないのですがプロテイン取り入れたいと思います。(20代女性/会社員)
- ・有償の仕事をしに行くデイサービスがあるという事にとっても驚きました。物づくりだけでなく、一般企業に行き働くという事に衝撃を受けました。私は福祉の仕事をしていたので、娘も知識や興味など多少ありましたが、戸塚さんが好きなのも大きなきっかけになり、今回参加させてもらいました。きっかけは人それぞれですが、こうしてお話を聞いて良かったです。とても勉強になりました。ありがとうございました(20代女性/会社員)
- ・充実の内容でした。貴重なお話をありがとうございました。また第2回があればぜひ参加したいです。よろしく願い致します。(20代女性/公務員)
- ・またやってほしい!(20代女性/パート・アルバイト)
- ・タンパク質をおじいちゃん・おばあちゃんにもすすめてみようと思いました。このイベントを通して介護のイメージが明るいものになるだけでなく、すぐできることを知ることができたり、自分のできることを大切にしていきたいと思うことができました。ありがとうございました(20代女性/学生(福祉系の大学・専門学校など以外))
- ・「介護=大変なこと」というイメージが今回のイベントでかなり変わりました。毎日プロテインをのんでいるので、両親や親せきにもすすめます。貴重なお話をありがとうございました(20代女性)
- ・来年4月から介護の現場スタッフとして働き始めます。初任者研修も修了し、今回のお話を通してさらに介護の印象がかわりました。今回は貴重なお時間をありがとうございました(20代女性)
- ・貴重なお話、イベントありがとうございました。その人のできることを続けてもらう、当たり前のことを続ける社会とつながるといってお話をきいて、前向きな気持ちになりました。介護士として8年働いていますが、こうした機会が増えたら嬉しいです(30代女性/会社員)
- ・ポジティブなイメージが持てた。身内に生かしていきたい。戸塚さんが明るくて良かった(30代女性/会社員)

- ・今回介護のリアルという番組に大好きな戸塚純貴くんがでるということで興味を持ち、TVを観ました。今年の1月に祖母が亡くなり、介護をして、介護について深く考えさせられた経験があったので、またもっと明るく地域のお年よりに声をかけていきたい(30代女性/会社員)
- ・とても良い内容で感動しました。親が認知症ですが楽しくやっています！ありがとうございました(40代男性/会社役員・経営者)
- ・今回参加する事が出来て良かったです(40代女性/会社員)
- ・本当に貴重なためになるお話をありがとうございました！自分のなかでやりたいことやこれからのことについても希望が持てましたし、行動にうつしていきたいと思えました。また機会がありましたら、ぜひ参加かかせていただきたいと思います。出演者様、スタッフの皆様、おつかれ様でした！ありがとうございました！(40代女性/会社員)
- ・今まで「介護」や「福祉」とは縁がなく遠い存在に感じていましたが、そうではなく当たり前であること、身近であることを改めることができました。明るい部分はもちろん暗い部分も知って勉強したいと思います(40代女性/会社員)
- ・大変勉強になりました。質問時手を挙げていたのですが、最後スルーされてしまい…！残念でした…。祖母、祖母の妹がヘルパーさんに来ていただいて、介護の仕事が近いけど遠いなと感じる部分が多く…今回のイベントを通して、今度帰省した際はお話を伺おうと思いました(40代女性/会社員)
- ・今日は沢山の話をありがとうございました。祖母が軽い認知症で会う度、忘れられていて悲しくなっていました。それはどこかで祖母のこと、自分のこと、両方かわいそうと思っていたのだと思いました。偏見を変える良い時間となりました。ありがとうございました(40代女性/自営業・自由業)
- ・介護は大変だという自分の中の固定概念が一気に無くなりました。フィルターをかけた見方ではなく、一人の人として接することや、お互いを認めあって共存するところが、世の中にもっと広がれば、これからの未来がますます明るいものになると感じた。戸塚さんをはじめ、どんどん発信して欲しいと思います。体に気をつけ、皆様のご活躍を願っています！戸塚さんかっこよかったです♡♡(40代女性/専業主婦)
- ・介護職で働かれている先輩方のお話は、今後仕事していく中でとても役立つものだと感じました。私は来年1月の介護福祉士資格取得に向けて現在勉強中です。合格目指して頑張ろうとパワーをいただきました。今回はきちょうなお時間をありがとうございました。戸塚さんのご活躍を祈っています。(40代女性/専業主婦)
- ・介護について、知る機会、企画通り、「リアル」生の声を聞ける時間が、本当に勉強になります。自分は何もできないけど、”知らないこと”を”知る”ために、たくさんの声を聞いていきたいです(40代女性/パート・アルバイト)
- ・介護ロボットでサイボーグが介護の手助けをしているのにびっくりしました。ありがとうございました(40代女性)
- ・「認知症の〇〇さんではなく料理が得意な〇〇さん」という言葉にハッとさせられました。ミーティングをして今日の仕事を決め、お給料も…目からウロコでした。仕事をしていると社会に必要とされていると思え、本人の向上にもなると思いました。義父も守屋さんの施設に行けていたら、もっと違っていたかなと思いました。全ての施設にヘルプできる機械が提供できると良いと思いました。介護の未来は明るい。と思う一方で、介護職の方の待遇が良くなるようになるといいですね。今日はとても勉強になりました。ありがとうございました(50代女性/公務員)
- ・とてもよかったです。明るい気持ちになりました(50代女性/公務員)
- ・HALのことを知り、目からうろこが落ちました。介護する側をサポートするツールがあることを知りました。自分にできることもあるのではと感じました。仕事、ボランティアではなくても何かできることを考えてみたい(50代女性/専業主婦)
- ・いろんな立場の方から意見がきけてよかった。質問がとてもよかった。また企画してほしい(50代女性/専業主婦)
- ・みなさんの話がとても参考になりました。またこれからどんどん必要とされる介護業界なので介護を身近な生活の一部と理解されるよう戸塚さんが俳優業でこの分野を広めてくれるよう応援しています(50代女性/専業主婦)

- ・出演者の人のタイプがみんな違って、発信の仕方も違って、見方がそれぞれで良かったです(50代女性/パート・アルバイト)
- ・ロボットの事、プロテインの事を知る事ができて良かったです。ありがとうございました(50代女性/パート・アルバイト)
- ・戸塚さんと、三人の方々それぞれ視点が違って、とても充実した時間でした。戸塚さんに会いにうきうき参加しましたが、それだけではなく、前向きに今の訪問介護の仕事をがんばっている！！と思えました。買物支援、はヘルパーが行っている事がほとんどなので、一緒に行けたらいいなと心から思います(50代女性/パート・アルバイト)
- ・本日は両親が既に他界していることから質問をさせていただき、戸塚さんはじめ登壇していただいた方に回答いただいて、うれしく、本当に貴重なお話が聞けてありがとうございました。また次回開催をたのしみにしております。すばらしい企画だったと思います(50代女性/パート・アルバイト)
- ・介護される側、する側両方にサイバーダインの機器があることを知り、進化していると思った。身近にどこまで導入されているのか、今後の介護の進化に期待したいと思う(60代女性/パート・アルバイト)
- ・介護ビジネスの未来に期待ができると感じた。収入源が利用者の自己負担と支エンだけでは従事者の給与は上がらず、利用料も高いでは成立しないと思っていました。利用者が仕事をしている八王子の施設はオドロキました。高齢者が社会の負担ではなく利益を生める日本となって欲しいです(60代女性/無職)

意見

- ・質疑応答の時間をもっと長く設けて欲しいです。出演者の方だけでなく、よりいろいろな意見や体験、質問が聞けたらとてもうれしいと思えました。本当にたくさんの方のことを学ばさせていただきました。このような機会がよりたくさん増えてほしいなと願っています。ありがとうございました！(19歳以下女性・学生(福祉系の大学・専門学校など以外))
- ・日本の医療崩壊が防げたカギは介護職にある！？(杉本さん) コロナ禍での活動の継続について(福本さん) 街を巻き込む、地域との連携(杉本さん) 専門性くたのしさ、笑顔になれる、人間らしさ、学び。今回のイベントは介護経験の有無、介護者・被介護者、年齢問わずのイベントでしたが、同等の内容で学生向けのイベントも開催してほしいと思えました(19歳以下女性/学生(福祉系の大学・専門学校など以外))
- ・高齢者の介護に関するお話がメインだったので、40代の妹を介護しているので、若年層の介護に関するお話もあれば良かったかなと思います。楽しく勉強になる時間をありがとうございました。(50代女性/会社員)
- ・とてもためになる話でした。またイベントかいさいしてください。(20代女性/会社員)
- ・私の周りで介護を受けている人、している人がいないため、生の声を聞くことができ、大変貴重な機会をいただきありがとうございました。ぜひ次は介護を受けられている側の声を聞きたいと感じました(20代女性/会社員)
- ・介護の「仕事」に焦点があって、「仕事」に関しては理解ができました。介護自体の問題点や不安な要素などがもう少し解消されるような内容を次回に期待したいです(20代女性/会社員)
- ・戸塚さん出演ということで参加させていただきました。介護の理解が少し深まりました。プロテインを飲むというのは知らなかったです。私も祖母・両親にすすめたいと思えました。次回のイベントも期待しています。ぜひ戸塚さんも出演してほしいです。(20代女性/会社員)
- ・今まで聞いたことのない話をたくさん知れたので大変良かったです。少し介護への不安も取れました。これを機に色々介護についてしらべてみたいと思えます。ぜひこのイベントも何度かやってほしいですし、番組化するといいなと思っていますので、フジテレビさんお願いします(20代女性/会社員)
- ・介護の現場で活やくする方々や、どちらかというと私のように介護について勉強中の戸塚くんのようなゲストと一緒に話すイベントで分かりやすかったです。次回があれば、介護される側の方の生声がきけたり、今回は高齢の方ばかりでしたが、40代・50代などすこし若い世代の介護される方の声がききたいです(20代女性/パート・アルバイト)
- ・技術面(HAL)が発達して医療やリハビリに役立っている事を初めて知った。また、地域の人たち

との関わり（八王子）がステキだと思いました。番組を見たいのですがBSなので、ぜひ地上波でやって頂きたいなと思いました。知らない事が多かったので、色んな人にみてもらって、知ってほしいなと思いました(30代女性/会社員)

- ・介護の現場が進歩していることがわかり、「利用者と助け合いながら生活をしていく」ことを考えて、働かれていること、利用者目線でサービスの提供がされており全国でそのような取り組みがどこの施設でも行なわれるようになる未来になるといいなと思いました。お金に関することが、もうすこし聞きたいなと思いました(40代女性/会社員)
- ・ゲストの方の三者三様で、いろいろな話が聞けてよかった。地域で、あまり関わりたくない、実家の母が心配になった。最後、Q&Aの時間がもっとほしかった。その時の戸塚さんのフォローがすばらしかった(40代女性)
- ・またぜひこういう企画を持っていただきたいです。とてもすばらしい内容でした。ありがとうございました(50代男性/会社員)
- ・もう少し時間があっても良かったかなと思いました。介護事業は地域特性が色濃く出るように思った(50代女性/パート・アルバイト)
- ・介護の仕事はなくなる、これから更に必要な仕事になっていくということを今日のイベントで実感した。自分の周囲（家族を含めて）にはまだ介護を必要としている人はいないが、色々知識として得ておいた方がよいことも多々あると思うので、またこのようなイベントがあれば参加してみたい。実際に経験できるような体験コーナーなどがあると良いと思った（介護をする側、される側両方とも）(50代女性/パート・アルバイト)
- ・参加者のダイアログなどがあるとさらに深まると思いました(60代女性/会社員)

■ 第1回イベント「若年層」の基本属性

イベント参加者アンケート有効回答 71 サンプルのうち、本事業のターゲット層である「介護の仕事に無関心な層、若年層（39歳以下）」を絞り込んだ。基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	1	3.0
女性	32	97.0
全体	33	100.0

年齢	人	%
19歳以下	6	18.2
20代	22	66.7
30代	5	15.2
全体	33	100.0

職業	人	%
会社員	16	48.5
公務員	2	6.1
自営業・自由業	1	3.0
パート・アルバイト	3	9.1
専業主婦	2	6.1
学生（福祉系の大学・専門学校など以外）	7	21.2
不明	2	6.1
全体	33	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	5	15.2
自分が介護される立場（だったことがある）	1	3.0
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	4	12.1
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	5	15.2
自分の介護のことに興味がある	9	27.3
親や家族などの介護のことに興味がある	20	60.6
その他、介護との関わり・興味がある	7	21.2
該当するものはない	2	6.1
全体	33	100.0

●アンケート結果のサマリー（要約）

第1回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」に参加したターゲット層に、イベント内容の評価や、「介護のしごと」への理解に関する設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■ 第1回イベント「若年層」評価

イベント参加について、介護のどのようなことに役立つと思うかと複数回答で尋ねたところ、「自分の親や家族、知人などの介護」がトップ（71.9%）。次いで「介護経験者（出演者）への理解」（59.4%）、「介護関連のボランティア」「介護職（出演者）への理解」（同 34.4%）の順となった。

イベント実用度 (複数回答)	人	%
介護業界への就職・転職	6	18.2
介護職員としてのスキルアップ	2	6.1
自分の親や家族、知人などの介護	23	69.7
介護関連のボランティア	11	33.3
介護に関する資格取得	4	12.1
介護職（出演者）への理解	11	33.3
介護経験者（出演者）への理解	19	57.6
特に無い	0	0.0
全体	33	100.0

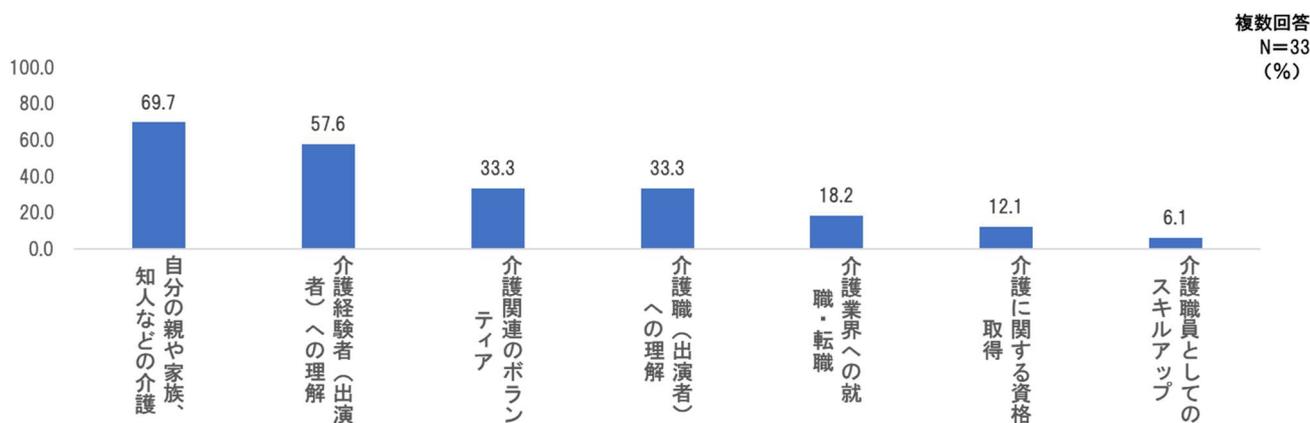


図 6-1-4 【若年層】実用度 第1回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

続いて、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

イベント参加前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は19人(57.6%)。「ほぼあてはまる」とした14人(42.4%)と合わせて、「介護」への関心が高まったのは33人(100.0%)であった。

	全体	大いに あてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼあてはまらない	全くあてはまらない	上段：人 下段：% 単一回答
イベント参加前に比べて「介護」のイメージが向上した	33	22	9	2	0	0	
	100.0	66.7	27.3	6.1	0.0	0.0	
イベント参加前に比べて「介護」への興味関心が高まった	33	19	14	0	0	0	
	100.0	57.6	42.4	0.0	0.0	0.0	
イベント参加前に比べて「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	33	20	13	0	0	0	
	100.0	60.6	39.4	0.0	0.0	0.0	

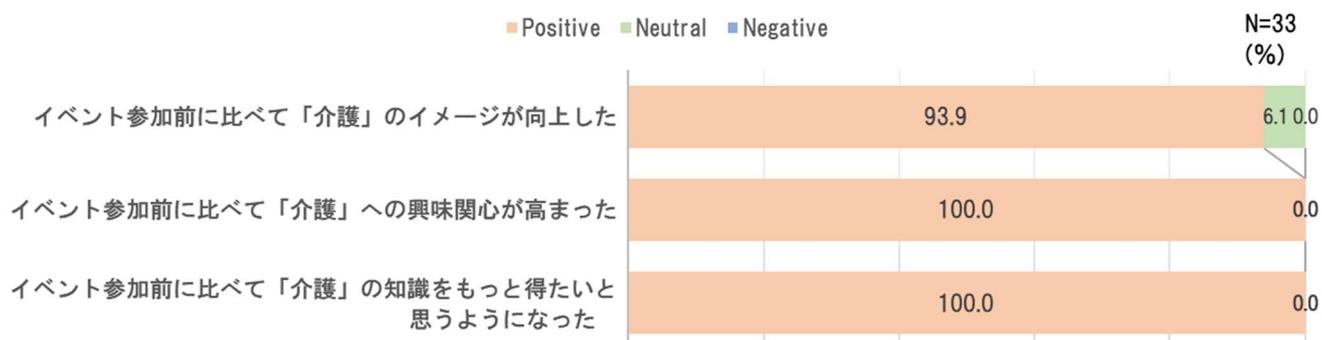


図 6-1-5 【若年層】コンテンツ閲覧による意識変容（介護）
第1回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

イベントについて、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する9項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

イベント参加前に比べて「『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は16人(48.5%)。「ほぼあてはまる」とした16人(48.5%)と合わせて、「介護の仕事」への関心が高まったのは32人(97.0%)であった。

上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いに あてはまる	ほぼ あてはまる	どちらでもない	ほぼ あてはまらない	全く あてはまらない
イベント参加前に比べて「福祉の仕事 (介護を含む)」への関心が高まった	33	16	16	1	0	0
	100.0	48.5	48.5	3.0	0.0	0.0
イベント参加前に比べて「介護の仕 事」への関心が高まった	33	17	13	3	0	0
	100.0	51.5	39.4	9.1	0.0	0.0
上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いに あてはまる	ほぼ あてはまる	ど ちらでも ない	ほぼ あてはまら ない	全く あてはまら ない
「介護の仕事」について自分でもでき るものがあるのではないかと感じた	33	14	13	6	0	0
	100.0	42.4	39.4	18.2	0.0	0.0
「介護の仕事」はおもしろい仕事であ ると感じるようになった	33	15	12	6	0	0
	100.0	45.5	36.4	18.2	0.0	0.0
「介護の仕事」は専門性が高い仕事で あると感じるようになった	33	10	11	6	4	2
	100.0	30.3	33.3	18.2	12.1	6.1
「介護の仕事」は魅力がある仕事であ ると感じるようになった	33	14	16	3	0	0
	100.0	42.4	48.5	9.1	0.0	0.0
「介護の仕事」はやりがいのある仕事 であると感じるようになった	33	20	11	2	0	0
	100.0	60.6	33.3	6.1	0.0	0.0
「介護の仕事」は生計が立てられる仕 事であると感じるようになった	33	11	7	11	3	1
	100.0	33.3	21.2	33.3	9.1	3.0
「介護の仕事」は将来性がある仕事で あると感じるようになった	33	20	12	1	0	0
	100.0	60.6	36.4	3.0	0.0	0.0

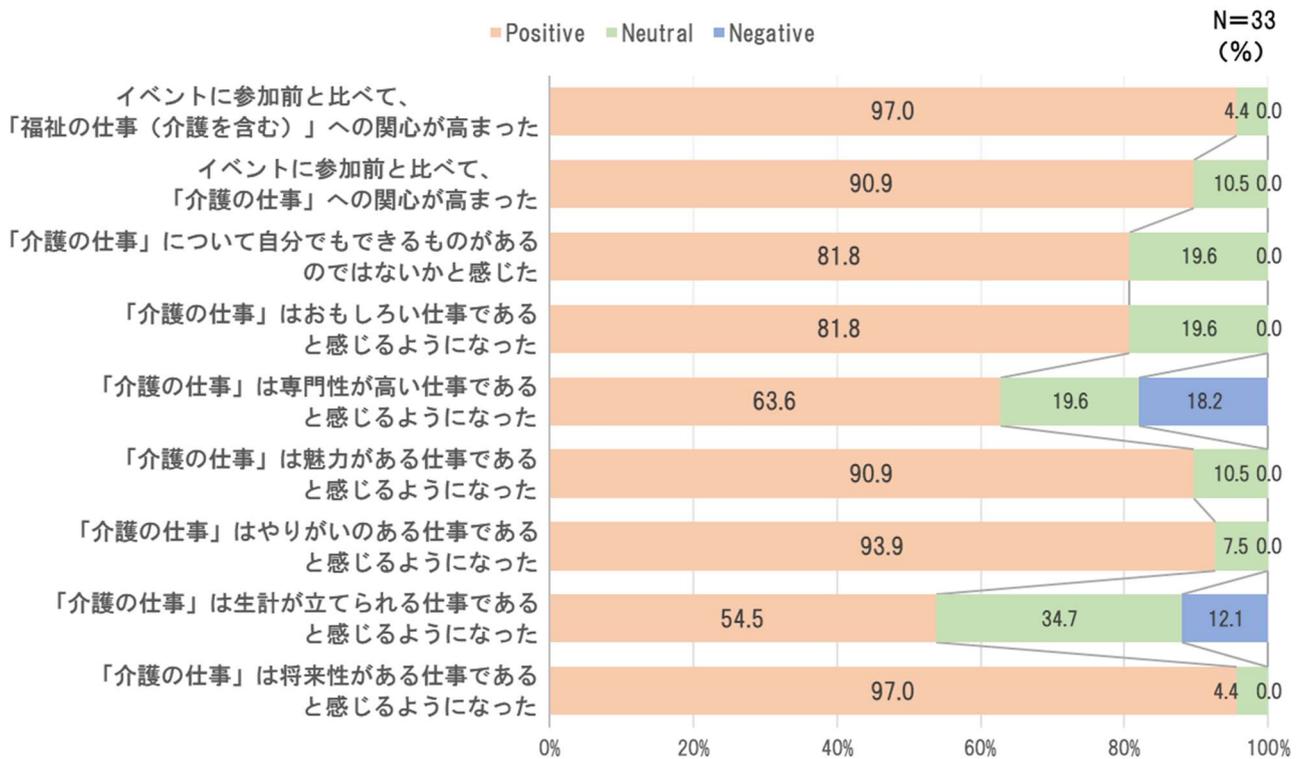


図 6-1-6 【若年層】コンテンツ閲覧による意識変容（介護の仕事）
第 1 回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的に 実施したい	機会があれば 実施した	どちらでもない	あまり 実施したくない	実施したくない	上段：人
							下段：%
「介護の仕事」をしている人と話す	33	8	20	4	0	0	
	100.0	24.2	60.6	12.1	0.0	0.0	
「介護」に関する記事や番組などを見る	33	12	19	2	0	0	
	100.0	36.4	57.6	6.1	0.0	0.0	
「介護」に関するイベントに参加する	33	13	15	5	0	0	
	100.0	39.4	45.5	15.2	0.0	0.0	
「介護」に関するボランティアをする	33	6	19	8	0	0	
	100.0	18.2	57.6	24.2	0.0	0.0	
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	33	3	10	19	1	0	
	100.0	9.1	30.3	57.6	3.0	0.0	
「介護の仕事」を人に勧める	33	5	9	15	2	0	
	100.0	15.2	27.3	45.5	6.1	0.0	

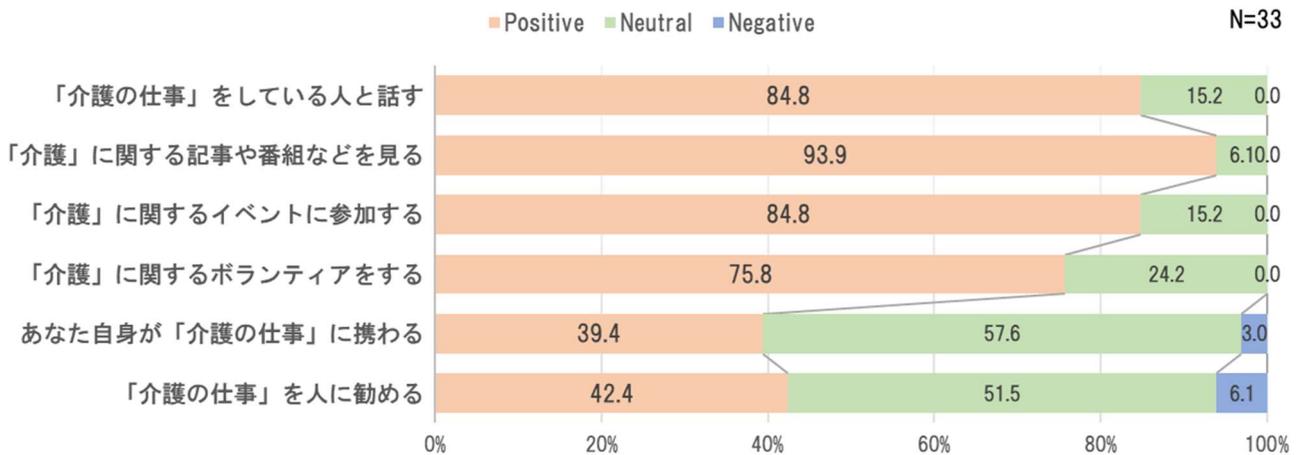


図 6-1-7 【若年層】コンテンツ閲覧による行動変容
第1回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

■ 第2回イベント参加者の基本属性

調査対象 58 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	8	13.8
女性	47	81.0
不明	3	5.2
全体	58	100.0

年齢	人	%
19歳以下	5	8.6
20代	11	19.0
30代	4	6.9
40代	10	17.2
50代	17	29.3
60代	4	6.9
70代	3	5.2
80代以上	1	1.7
不明	3	5.2
全体	58	100.0

職業	人	%
会社員	23	39.7
公務員	4	6.9
自営業・自由業	5	8.6
会社役員・経営者	0	0.0
パート・アルバイト	9	15.5
専業主婦	7	12.1
学生（福祉系の大学・専門学校など）	1	1.7
学生（上記以外）	4	6.9
無職	3	5.2
その他	1	1.7
不明	1	1.7
全体	58	100.0

回答者の内訳は、女性 47 人 (81.0%)、男性 8 人 (13.8%)。世代は 50 代 (29.3%) を中心に、20 代 (19.0%)、40 代 (17.2%) と続く。職業は会社員 23 人 (39.7%)、パート・アルバイト 9 人 (15.5%)、専業主婦 7 人 (12.1%) の順。

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	16	27.6
自分が介護される立場（だったことがある）	1	1.7
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	8	13.8
介護の仕事をしている（したことがある）	5	8.6
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	10	17.2
自分の介護のことに興味がある	16	27.6
親や家族などの介護のことに興味がある	32	55.2
その他、介護との関わり・興味がある	11	19.0
該当するものはない	6	10.3
全体	58	100.0

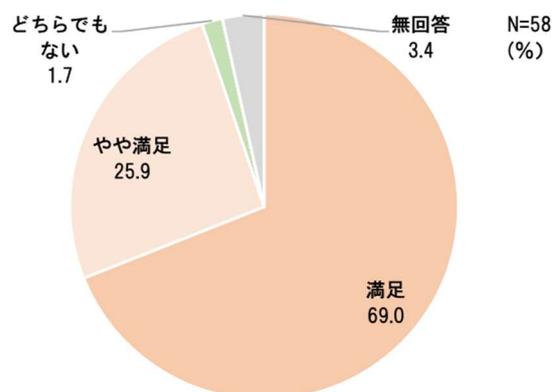
「親や家族などの介護のことに興味がある」人が全体の約半分を占めた（55.2%）。「自分の親や家族などの介護をしたことがある（している）」「自分の介護のことに興味がある」人は各16人（27.6%）。

● アンケート結果のサマリー（要約）

第2回イベントに参加した人に、イベント内容についての評価や満足度についての設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■ 第2回イベント評価

イベント内容について、「満足」から「不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「満足」が40人（69.0%）で、「やや満足」の15人（25.9%）と合わせて、「満足」と回答したのは55人（94.8%）。



満足度	人	%
満足	40	69.0
やや満足	15	25.9
どちらでもない	1	1.7
やや不満	0	0.0
不満	0	0.0
無回答	2	3.4
全体	58	100.0

図 6-2-1 満足度 第2回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

またイベントについて「イベントへの興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、全体としておおむね肯定的な評価となった。

	全体	非常に そう思う	やや そう思う	わから ない	やや そう 思わ ない	ま った く そ う 思 わ な い	無 回 答
	上段：人 下段：% 単一回答						
イベントは、興味を持てた内容だった	58	47	7	2	0	0	2
	100.0	81.0	12.1	3.4	0.0	0.0	3.4
イベントの組み立て方（施設ごとの紹介、トークなど）は適切だった	58	39	16	1	0	0	2
	100.0	67.2	27.6	1.7	0.0	0.0	3.4
イベントの長さ（〇分）は適切だった	58	37	14	3	0	1	3
	100.0	63.8	24.1	5.2	0.0	1.7	5.2
イベントの内容はわかりやすいものだった	58	47	7	1	0	0	3
	100.0	81.0	12.1	1.7	0.0	0.0	5.2

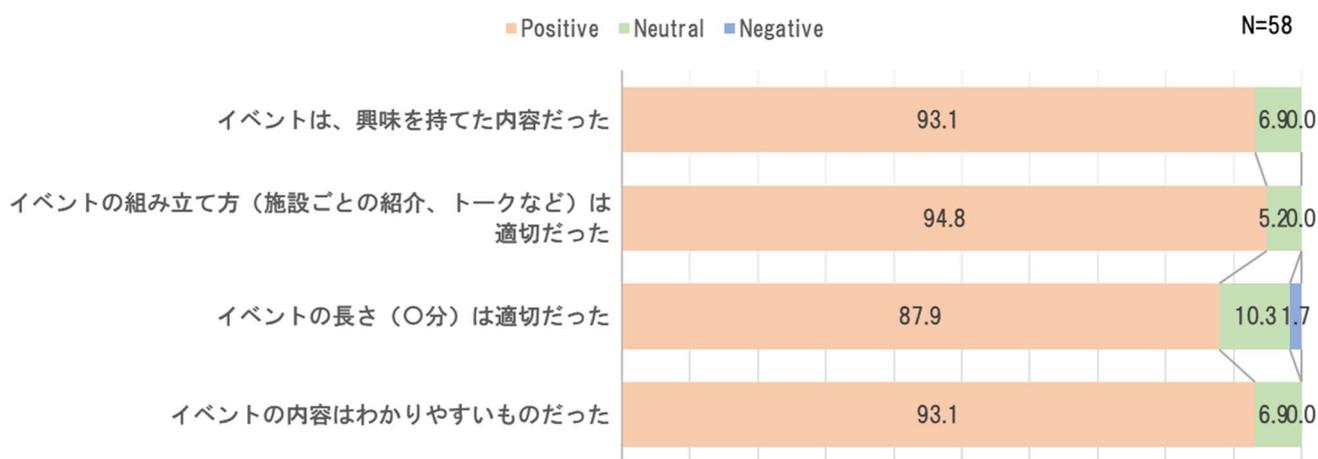


図 6-2-2 コンテンツ評価 第2回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

第2回イベントに参加することで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は15人（25.9%）。「ほぼ理解できた」とした27人（46.6%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は42人（72.4%）であった。

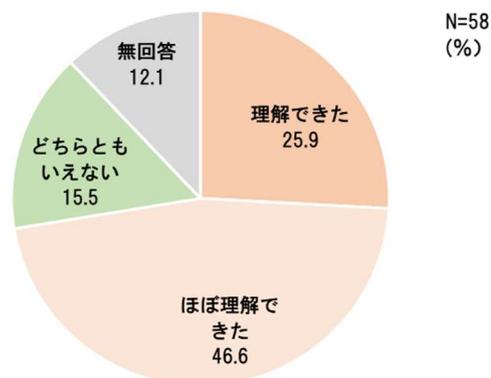


図 6-2-3 「介護の仕事」への理解度 第2回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

■ 設問「今回のイベントについて、ご意見ご感想、満足したこと、不満なこと、印象に残ったことなど、お気づきの点をご自由に記入してください」

第2回イベントに対する主な意見や感想は、以下の通りであった。

回答内容
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日はありがとうございました。戸塚さんのファンとして参加しましたが、私自身、祖父が利用者だということもあり、とても勉強になりました。祖父にはコロナ禍で会えていませんが、会えた際には、しっかり音を聞いて、接したいと思いました(19歳以下女性/学生(福祉系の大学・専門学校など以外)) ・介護されている側の人も、1人の人間なのだ。また、それに適した行動をとるのが分かった。今まで視界に介護というのはなかったけど、1つの大事な仕事として、将来に向けて視野にいれたい。今回は、戸塚さんが好きで見にきました。想像以上に介護について深く知ることができ、また好印象だったので、参加してよかったです。ありがとうございました(19歳以下女性/学生(福祉系の大学・専門学校など以外)) ・銭湯でデイサービスをやっているところがあることに驚きました。祖母が施設に入っていて、細かくどういったサービスをやっているのか見ることはできないのですが、新しい技術を使った施設があることを知ることができて、面白かったです。でもどんな技術が進んだり、素晴らしい施設であっても結局は人と人の関わりがすべてなのだと改めて感じました(20代女性/会社員) ・前回は参加させていただきました。介護について、とても興味を持つことができました。戸塚くん

- が出ている介護の番組を全部チェックしています。とても勉強になる話が多く、感動したので、次回も、イベントをやってほしいと思います(20代女性/会社員)
- ・新生湯は私にとってすごく身近な銭湯でしたので(まさに850mの中です)、今回お話を聞いて良かったです! 介護サービスを行っているのをあまり存知上げなかったのですが、それは同時に自分がいかに介護についての意識や当事者性がなかったことに気付きました。現在別の仕事についていますが、別の職業に就いている人に話を聞く機会はなかなかないので、今後もぜひ聞いていただきたいです!(20代女性/会社員)
 - ・介護はやはりマイナスイメージがあることが強く、知る機会もなかなかないため、第1回に引き続き、このような機会をいただきありがとうございました。人のお話を聴くだけではなく、体験できるようなイベント(コロナもあるので難しいとは思いますが…)があるとより興味を持つことができるかも!と思いました。ぜひ第3回目の開催を期待しております!(20代女性/会社員)
 - ・介護についてまだまだ知らないことが沢山あると感じたのと、イメージしているものだけではなく介護のカタチが沢山あることも知れて良かったです。戸塚さんきっかけでしたが、介護について知ることができて良い機会になりました。ありがとうございました(20代女性/会社員)
 - ・参加する前とした後でイメージが変わった事は確かです。もっと改善されてる事を伝えた方がいいと感じました。介護職の未来が明るくなるといいなと思います(30代女性/会社員)
 - ・介護職の方がとても熱い気持ちで取り組んでいることが伝わり、このような方々に介護されるのは、とても安心だと思いました。楽しいイベントをありがとうございました(30代女性/会社員)
 - ・テクノロジーを介護に活用したら記録 etc.の負担が70%程度も減ったということにおどろいた。昔、病院で働いていた頃手作業がメインだったので、やはり記録などに時間をとられていたのが介護の世界では今もそのままのところが多いのだなと思った。これからIT活用して、こうりつ化して付ずいする業ムの負担が軽くなっていけるとよいと感じた(40代女性/会社員)
 - ・時間も適切で出演者様の暑い気持ちにとっても関心、尊敬の念を持ちました。自分自身ももっと興味を持ってボランティアなどもして行きたいと思います。次回も又参加したいです。本日はありがとうございました(40代女性/会社員)
 - ・介護について、もっと知りたいと思った。最近は素晴らしいシステムがあるのだと、ビックリした。近所にもせんとうがあったら良かった(40代女性/会社員)
 - ・「介護は施設でなく人柄」なんだとすごく感じるイベントでした。みなさんのエピソードが深く心に残りました。何か小さな事でも、1人1人が積みかさねていくと世の中は少し生きやすく幸せになるのかなと思いました。私の母も80才をすぎて、いつ介護になるかわかりません。自身の知識も増やして支えていければと思います。本日はありがとうございました(40代女性/公務員)
 - ・2回目の参加です。前回のイベントがきっかけで介護の資格を取得しようと3月から講座に通います。気になっていた介護職への不安が今回のイベントで軽くなりました。またいろいろ深められて良かったです(40代女性/パート・アルバイト)
 - ・これまでに身近に介護との関わりがなく、介護などについて考えたり、自ら情報を知ろうとするような機会もなく、たずさわる方からお話を聞く機会などもなく、今回、戸塚さんをきっかけに、娘にさそわれなんとなく参加しただけだったのですが、いろいろ知らないお話や、イメージがくつがえるようなお話を聞いて、思っていたより楽しそうでやりがいのあることだなと感じました。自分自身も、もう少し関心を持ち、知ることから始め、私のように知るきっかけが増えていくと、介護への理解やイメージも変わるのではと身をもって思いました(40代女性/専業主婦)
 - ・介護のハイテク化にはただ驚くばかりでした。おっかけて行きたくなりました。自分自身まだ一昔前の介護のイメージが根強く残っているようです。最後に1つだけ。また参加させて頂ければ幸いです。ありがとうございました!(50代男性/パート・アルバイト)
 - ・前回に続き2回目の参加をさせていただきました。介護の仕事に対するイメージがさらにアップしました。何かできることを考えたいと思いました(50代女性/会社員)
 - ・介護の仕事はカウンセラーのような仕事だとお話を聞いて思いました。仕事に対するマインドが似ていると感じ、とても感動する話を聞かせていただき、ありがとうございました(50代女性/会社員)
 - ・介護に関しての見識を広げることができました。このような機会を与えて頂き、ありがとうございました(50代女性/会社員)

- ・お風呂を嫌がる高齢者が多いことを理解できた。IT等の利用は機械的（冷たい）に感じていたが、高度は技術は有効だと思えた(50代女性/公務員)
- ・とても楽しめてためになる内容だった。戸塚さんのお話がおもしろかった(50代女性/自営業・自由業)
- ・娘が戸塚さんのファンで今回当たったのでさそわれて来ました。戸塚さん、ステキな方でした。私はフルタイムで仕事をしているので介護の仕事はできませんがとても必要ですばらしい仕事だと思います。やはり人に対する”思い”が大切ですよね。今日はありがとうございました(50代女性/パート・アルバイト)
- ・知らなかったことばかりでした。勉強になりました。ありがとうございました。今日の事を友達にも話していこうと思います(50代女性/専業主婦)
- ・介護現場のリアルが世の中に知られていないことを実感しました。(60代女性/専業主婦)
- ・人生100年。人事ではない。身近に考える機会になった(70代男性/無職)
- ・介護の話、ありがとうございます。細かく観察して下さるとは思い付かなかったです。私は家内も施設介護に預かってもらっています。先の対応が不安で日々過しています(80代以上男性/その他)

意見・苦情

- ・こんなに早く第2回を実施していただき、ありがとうございます。介護の分野の情報発信はまだまだと感じております。このようなイベントをひき続き実施していただくことを願っています。※戸塚さん主演でフジテレビでドラマとかどうでしょうか!!(40代女性/専業主婦)
- ・前回に引き続き2回目の参加です。時期的に今日会場に来られなかった方々も多くいるようですので、是非、地上波等の放送もしていただけると有難いかなと思います。介護の現場の方のお話はとてもリアルなので次回以降もし開催があれば、また違った角度からの職種の方々のお話を聞きたいと思いました。私もボランティアとして施設でアロマハンドトリートメントの施術をはじめました。介護される方、する側の方々に少しでも寄り添うことができればと活動しています。俳優さんが直接、このようなイベントでお話されることも少ないかと思しますので、ずっと続けてほしいイベントです。ありがとうございました(50代不明/公務員)
- ・もっと長くてOKです！とても満足。良子さん脳ベルSHOWがみれず、ざんねん。会えてよかった。戸塚くんについていきます！ス Copp? のこと、最初は、アプリ入力では、その人の事が自分の頭にとどまらない。文字に書いてこそ、ではないか。と思ったのですが、話をきくにつれて、介護の専門性に特化したものだと感じました。一般では出来ない介護職だから出来る事。だから、介護職の価値を上げられるものなんだと気持ちが変わりました。今日、きてよかったです(50代女性/会社員)
- ・介護のスタッフの定着率の良い施設の取りくみを取り上げて欲しい。私は3年スタッフが辞めないグループホームを作りました(50代女性/会社員)
- ・後ろの席の子どもが脚を組んで、ずっと、こちらの座席?背もたれに、ドンドンとしてきて、不愉快でした。最初に言って頂きたかったです(50代女性/パート・アルバイト)

■ 第2回イベント「若年層」の基本属性

イベント参加者アンケート有効回答 58 サンプルのうち、本事業のターゲット層である「介護の仕事に無関心な層、若年層（39歳以下）」を絞り込んだ。基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
女性	18	94.7
不明	1	5.3
全体	19	100.0

年齢	人	%
19歳以下	5	26.3
20代	10	52.6
30代	4	21.1
全体	19	100.0

職業	人	%
会社員	10	52.6
自営業・自由業	1	5.3
パート・アルバイト	2	10.5
学生（福祉系の大学・専門学校など）	1	5.3
学生（上記以外）	4	21.1
無職	1	5.3
全体	19	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	1	5.3
自分が介護される立場（だったことがある）	1	5.3
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	3	15.8
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	2	10.5
自分の介護のことに興味がある	2	10.5
親や家族などの介護のことに興味がある	10	52.6
その他、介護との関わり・興味がある	4	21.1
該当するものはない	4	21.1
全体	19	100.0

●アンケート結果のサマリー（要約）

第2回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」に参加したターゲット層に、イベント内容の評価や、「介護の仕事」への理解に関する設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■第2回イベント「若年層」評価

イベント参加について、介護のどのようなことに役立つと思うかと複数回答で尋ねたところ、「介護経験者（出演者）への理解」「介護経験者（出演者）への理解」（同 52.6%）が半数を占めた。

イベント実用度 (複数回答)	人	%
介護業界への就職・転職	1	5.3
介護職員としてのスキルアップ	1	5.3
自分の親や家族、知人などの介護	7	36.8
介護関連のボランティア	7	36.8
介護に関する資格取得	0	0.0
介護職（出演者）への理解	10	52.6
介護経験者（出演者）への理解	10	52.6

特に無い	1	5.3
全体	19	100.0

複数回答
N=19
(%)

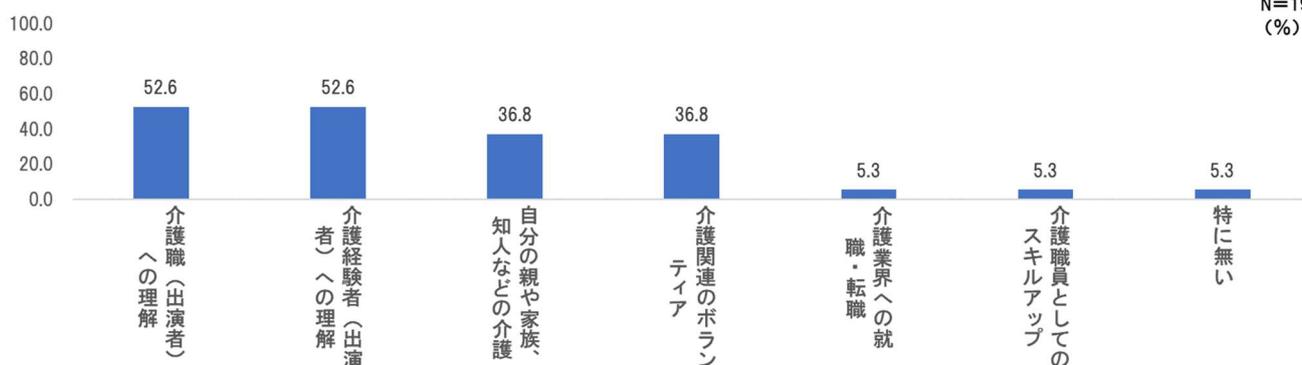


図 6-2-4 【若年層】実用度 第2回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

続いて、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

イベント参加前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は11人(57.9%)。「ほぼあてはまる」とした7人(36.8%)と合わせて、「介護」への関心が高まったのは18人(94.7%)であった。

	全体	評価				
		大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼあてはまらない	全くあてはまらない
イベント参加前に比べて「介護」のイメージが向上した	19 100.0	12 63.2	6 31.6	1 5.3	0 0.0	0 0.0
イベント参加前に比べて「介護」への興味関心が高まった	19 100.0	11 57.9	7 36.8	1 5.3	0 0.0	0 0.0
イベント参加前に比べて「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	19 100.0	13 68.4	5 26.3	1 5.3	0 0.0	0 0.0

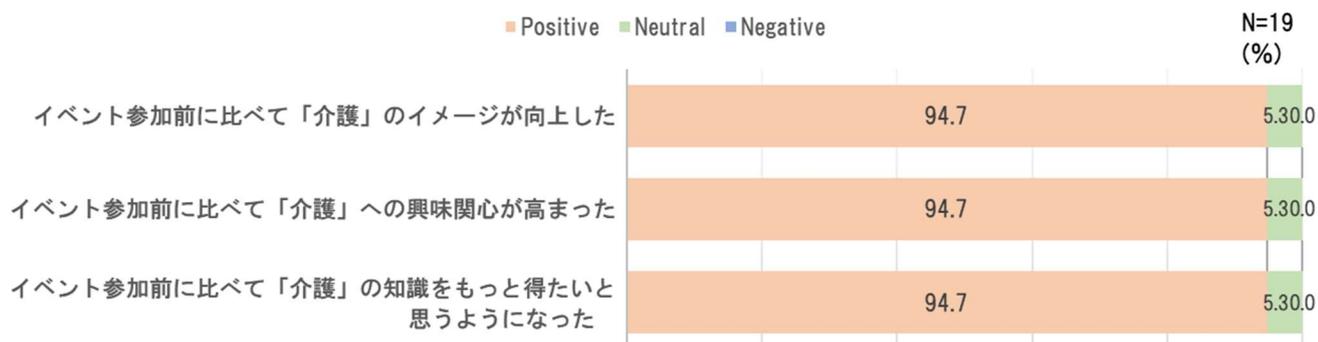


図 6-2-5 【若年層】コンテンツ閲覧による意識変容（介護）

第 2 回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

イベントについて、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する 9 項目について、5 段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

イベント参加前に比べて「『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は 9 人（47.4%）。「ほぼあてはまる」とした 8 人（42.1%）と合わせて、「介護のしごと」への関心が高まったのは 17 人（89.5%）であった。

	全体	大いに あてはまる	ほぼ あてはまる	どちらでもない	ほぼ あてはまらない	全く あてはまらない	無回答
上段：人 下段：% 単一回答							
イベント参加前に比べて「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	19 100.0	9 47.4	8 42.1	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3
イベント参加前に比べて「介護の仕事」への関心が高まった	19 100.0	9 47.4	8 42.1	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3
	全体	大いに あてはまる	ほぼ あてはまる	どちらでもない	ほぼ あてはまらない	全く あてはまらない	無回答
上段：人 下段：% 単一回答							
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	19 100.0	6 31.6	7 36.8	5 26.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	19 100.0	7 36.8	5 26.3	6 31.6	0 0.0	0 0.0	1 5.3
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	19 100.0	6 31.6	5 26.3	7 36.8	0 0.0	0 0.0	1 5.3
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	19 100.0	9 47.4	5 26.3	4 21.1	0 0.0	0 0.0	1 5.3
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	19 100.0	11 57.9	7 36.8	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	19 100.0	4 21.1	7 36.8	6 31.6	1 5.3	0 0.0	1 5.3
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	19 100.0	9 47.4	6 31.6	3 15.8	1 5.3	0 0.0	0 0.0

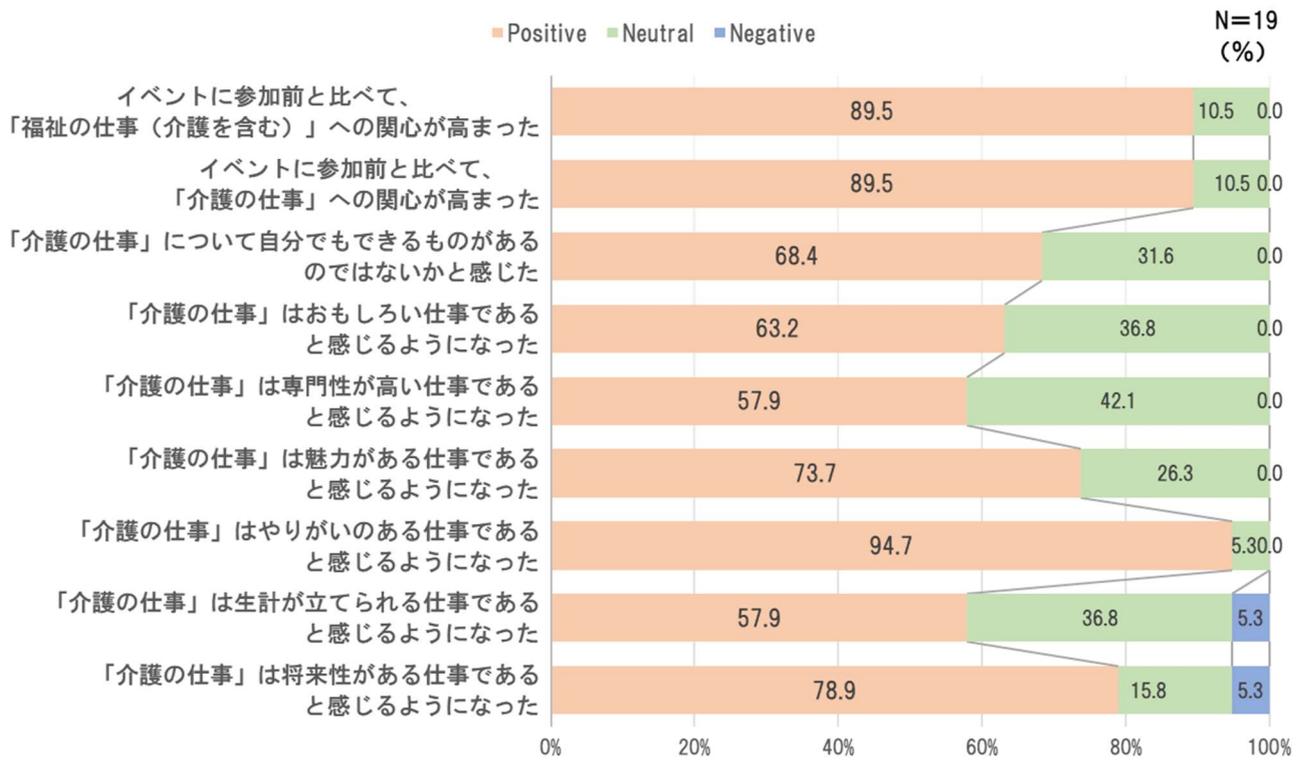


図 6-2-6 【若年層】コンテンツ閲覧による意識変容（介護の仕事）
第 2 回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的に 実施したい	機会があれば 実施した	どちらでもない	あまり 実施したくない	実施したくない	無回答
「介護の仕事」をしている人と話す	19	9	8	1	0	0	1
	100.0	47.4	42.1	5.3	0.0	0.0	5.3
「介護」に関する記事や番組などを見る	19	9	8	1	0	0	1
	100.0	47.4	42.1	5.3	0.0	0.0	5.3
「介護」に関するイベントに参加する	19	6	7	5	0	0	1
	100.0	31.6	36.8	26.3	0.0	0.0	5.3
「介護」に関するボランティアをする	19	7	5	6	0	0	1
	100.0	36.8	26.3	31.6	0.0	0.0	5.3
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	19	6	5	7	0	0	1
	100.0	31.6	26.3	36.8	0.0	0.0	5.3
「介護の仕事」を人に勧める	19	9	6	3	1	0	0
	100.0	47.4	31.6	15.8	5.3	0.0	0.0

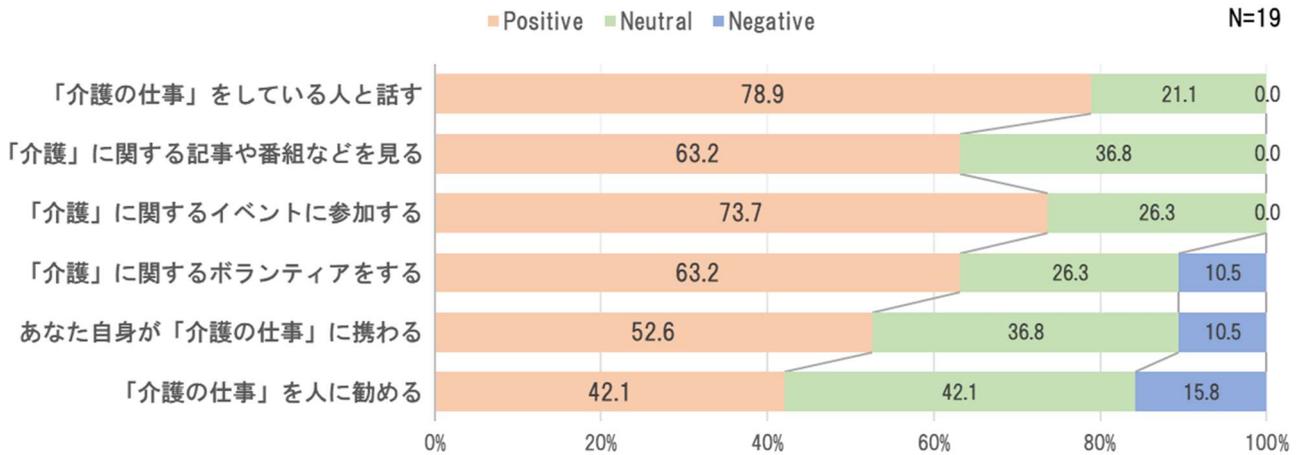


図 6-2-7 【若年層】コンテンツ閲覧による行動変容
第1回イベント「BS フジ番組連動企画トークライブ」

10.2.6 YouTube チャンネル「ゆうゆう Life」

(1) 調査の目的と概要

本事業のターゲット層である「社会全体（介護の無関心層を含む）」にラジオ、テレビで放送したアーカイブ動画番組を見る機会を作ることで、「介護の仕事」への関心の有無によらず、「自分にできる介護のしごと（周辺業務）を理解してもらうことができたか」についての効果検証のため、ネットリサーチを実施した。

調査の概要は以下の通り。

■調査方法	インターネット調査
■実施機関	産経リサーチ&データ
■実施期間	2023年3月15日(水)~2023年3月22日(水)
■回収状況	有効回答 273人

(2) 集計および効果の分析

YouTube チャンネル「ゆうゆう Life」にアップされている動画を視聴するモニターを募り、モニターを希望した人にラジオ番組、テレビ番組のいずれか1つ以上のアーカイブ動画を視聴してもらう。その後、アンケート調査を実施し、その結果を分析することとした。

■ 回答者属性

調査対象 273 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	164	60.1
女性	109	39.9
全体	273	100.0

年齢	人	%
20代	4	1.5
30代	14	5.1
40代	43	15.8
50代	76	27.8
60代	78	28.6
70代	49	17.9
80代	9	3.3
全体	273	100.0

回答者の内訳は、男性 164 人(60.1%)、女性 109 人(39.9%)。60代 (28.6%) を中心に、50代 (27.8%)、70代 (17.9%) だった。

職業	人	%
会社員	94	34.4
公務員	10	3.7
自営業・自由業	27	9.9
会社役員・経営者	9	3.3
パート・アルバイト	33	12.1
専業主婦	30	11.0
無職	70	25.6
全体	273	100.0

要介護者家族	人	%
いる	42	15.4
いない	231	84.6
全体	273	100.0

子どもの有無&末子の学齢	人	%
子どもはいない	119	43.6
末子（未就学児）	4	1.5
末子（小学校低学年（1～3年生））	5	1.8
末子（小学校高学年（4～6年生））	6	2.2
末子（中学生）	5	1.8
末子（高校生・高専生）	2	0.7
末子（大学生・大学院生・短大生・専門学校生などの学生）	15	5.5
末子（社会人・その他）	117	42.9
全体	273	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	93	34.1
自分が介護される立場（だったことがある）	6	2.2
介護の現場でボランティアや実習などをしている（したことがある）	15	5.5
介護の仕事をしている（したことがある）	11	4.0
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	22	8.1
自分の介護のことに興味がある	57	20.9
親や家族などの介護のことに興味がある	95	34.8
その他、介護との関わり・興味がある	42	15.4
該当するものはない	85	31.1
全体	273	100.0

また子どもがいる人は154人（56.4%）。「家族に要介護者がいる」人は42人（15.4%）。「自分の親や家族などの介護をしたことがある」人は93人（34.1%）だった。

● アンケート結果のサマリー（要約）

ラジオ番組、テレビ番組のアーカイブ動画を同じページに配置し、視聴状況を尋ねたところ、「テレビ番組アーカイブ動画のみ視聴」した人が126人（46.2%）。「ラジオ番組アーカイブ動画のみ視聴」した人は104人（38.1%）であった。

視聴状況	人	%
ラジオ番組アーカイブ動画のみ視聴	104	38.1
テレビ番組アーカイブ動画のみ視聴	126	46.2
両方視聴	43	15.8
全体	273	100.0

■ ニッポン放送とのタイアップ番組「ラジオゆうゆう Life」聴取者の基本属性

調査対象 147 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	92	62.6
女性	55	37.4
全体	147	100.0

年齢	人	%
20代	2	1.4
30代	6	4.1
40代	27	18.4
50代	39	26.5
60代	40	27.2
70代	27	18.4
80代	6	4.1
全体	147	100.0

職業	人	%
会社員	45	30.6
公務員	6	4.1
自営業・自由業	15	10.2
会社役員・経営者	7	4.8
パート・アルバイト	14	9.5
専業主婦	17	11.6
無職	43	29.3
全体	147	100.0

聴取者の内訳は、男性92人（62.6%）、女性55人（37.4%）。60代（27.2%）を中心に、50代（26.5%）、40代、70代（同17.9%）だった。

要介護者家族	人	%
いる	23	15.6
いない	124	84.4
全体	147	100.0

子どもの有無&末子の学齢	人	%
子どもはいない	67	45.6
末子（未就学児）	1	0.7
末子（小学校低学年（1～3年生））	3	2.0
末子（小学校高学年（4～6年生））	2	1.4
末子（中学生）	2	1.4
末子（高校生・高専生）	0	0.0
末子（大学生・大学院生・短大生・専門学校生などの学生）	9	6.1
末子（社会人・その他）	63	42.9
全体	147	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	54	36.7
自分が介護される立場（だったことがある）	2	1.4
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	9	6.1
介護の仕事をしている（したことがある）	7	4.8
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	15	10.2
自分の介護のことに興味がある	31	21.1
親や家族などの介護のことに興味がある	56	38.1
その他、介護との関わり・興味がある	28	19.0
該当するものはない	37	25.2
全体	147	100.0

また子どもがいる人は80人（54.4%）。「家族に要介護者がいる」人は23人（15.6%）。「自分の親や家族などの介護をしたことがある」人は54人（36.7%）だった。

■ 調査サンプルが聴取した「ラジオゆうゆう Life」のコンテンツ



「ラジオゆうゆうLife」 介護とお笑い二足のわらじ 安藤なつさん 12月30日放送



ニッポン放送でオンエアされた介護の仕事に理解を深め、その魅力を発信する特番。

お笑いコンビ「メイプル超合金」の安藤なつさんをゲストに迎え、介護の現場で働く方々の生の声も伝える。

バラエティーや女優でも活躍する安藤さん。介護現場との縁は幼いころ。伯父さんが経営していた小規模の施設に遊びに行き、入居者とごはんを食べたり、公園に行ったりして「友達のような感覚」で接していたという。

進行役は、介護の世界に詳しいフリーアナウンサー、町亞聖さんが担当。

● アンケート結果のサマリー（要約）

「ラジオゆうゆう Life」を聴取した人に、「介護の仕事」への理解度や評価についての設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■ ラジオ番組評価

「番組への興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、「長さ」を除き、9割以上が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。「長さ」（30分）については全体の約2割（20.4%）が否定的な評価だった。

	全体	非常に そう思う	やや そう思う	わからない	やや そう思わない	まったく そう思わない
		上段：人 下段：% 単一回答				
番組は、興味を持てた内容だった	147	54	80	3	8	2
	100.0	36.7	54.4	2.0	5.4	1.4
番組の組み立て方（介護の仕事の紹介、トークなど）は適切だった	147	74	63	4	5	1
	100.0	50.3	42.9	2.7	3.4	0.7
番組の長さ（30分）は適切だった	147	40	65	12	25	5
	100.0	27.2	44.2	8.2	17.0	3.4
番組の内容はわかりやすいものだった	147	92	46	3	4	2
	100.0	62.6	31.3	2.0	2.7	1.4

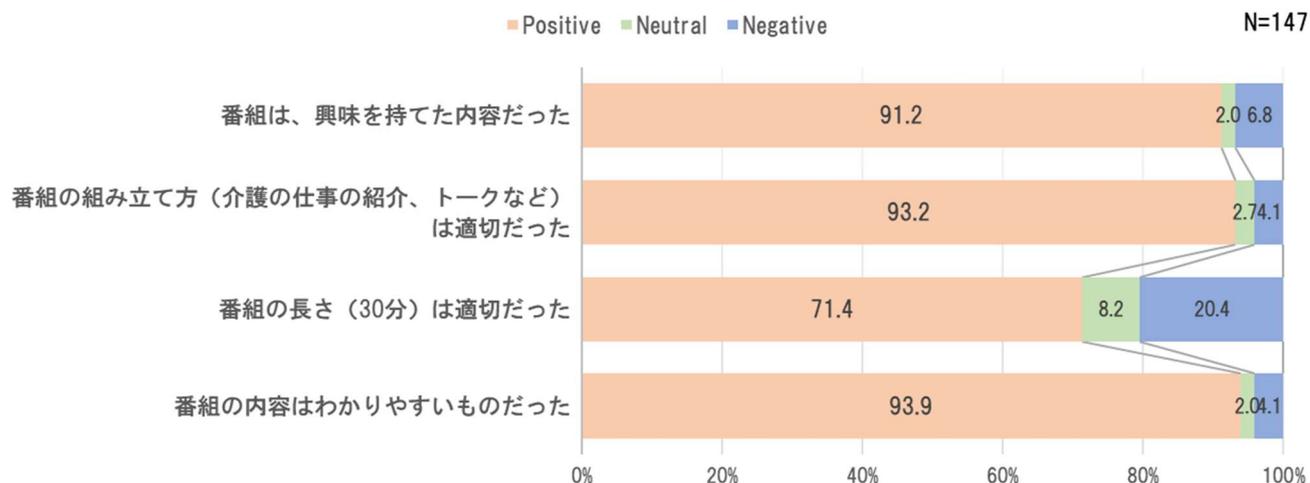
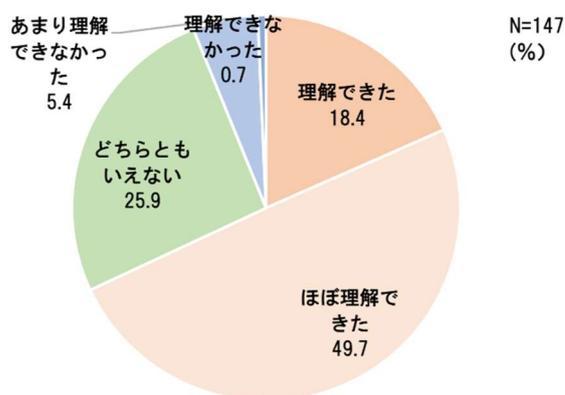


図 7-1-1 コンテンツ評価 「ラジオゆうゆう Life」

ラジオ番組を聴くことで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は27人（18.4%）。「ほぼ理解できた」とした73人（49.7%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は100人（68.0%）であった。



理解度	人	%
理解できた	27	18.4
ほぼ理解できた	73	49.7
どちらともいえない	38	25.9
あまり理解できなかった	8	5.4
理解できなかった	1	0.7
全体	147	100.0

図 7-1-2 「介護の仕事」への理解度 「ラジオゆうゆう Life」

続いて、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

番組を聴く前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は19人（12.9%）。「ほぼあてはまる」とした74人（50.3%）と合わせて、「介護」への関心が高まったのは93人（63.3%）であった。

	全体	意識変容				
		大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼあてはまらない	全くあてはまらない
番組を聴く前に比べて、「介護」のイメージが良くなった	147	19	74	49	4	1
	100.0	12.9	50.3	33.3	2.7	0.7
番組を聴く前に比べて、「介護」への興味関心が高まった	147	19	74	49	4	1
	100.0	12.9	50.3	33.3	2.7	0.7
番組を聴く前に比べて、「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	147	22	63	47	13	2
	100.0	15.0	42.9	32.0	8.8	1.4

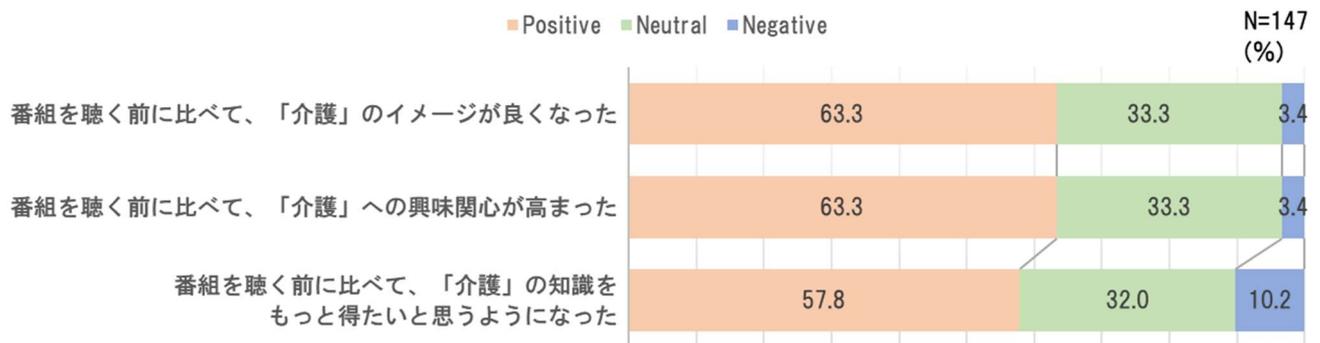


図 7-1-3 コンテンツ聴取による意識変容（介護） 「ラジオゆうゆう Life」

「ラジオゆうゆう Life」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する 9 項目について、5 段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

番組を聴く前に比べて「『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は 22 人（15.0%）。「ほぼあてはまる」とした 64 人（43.5%）と合わせて、「介護の仕事」への関心が高まったのは 86 人（58.5%）であった。

上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない	全くあてはまらない
		人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数
番組を聴く前と比べて、「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	147	22	64	45	13	3
	100.0	15.0	43.5	30.6	8.8	2.0
番組を聴く前と比べて、「介護の仕事」への関心が高まった	147	20	58	55	12	2
	100.0	13.6	39.5	37.4	8.2	1.4
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	147	13	57	52	16	9
	100.0	8.8	38.8	35.4	10.9	6.1
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	147	6	42	69	24	6
	100.0	4.1	28.6	46.9	16.3	4.1
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	147	43	61	31	11	1
	100.0	29.3	41.5	21.1	7.5	0.7
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	147	13	48	67	15	4
	100.0	8.8	32.7	45.6	10.2	2.7
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	147	27	78	32	8	2
	100.0	18.4	53.1	21.8	5.4	1.4

「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	147	5	20	80	27	15
	100.0	3.4	13.6	54.4	18.4	10.2
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	147	26	62	48	9	2
	100.0	17.7	42.2	32.7	6.1	1.4

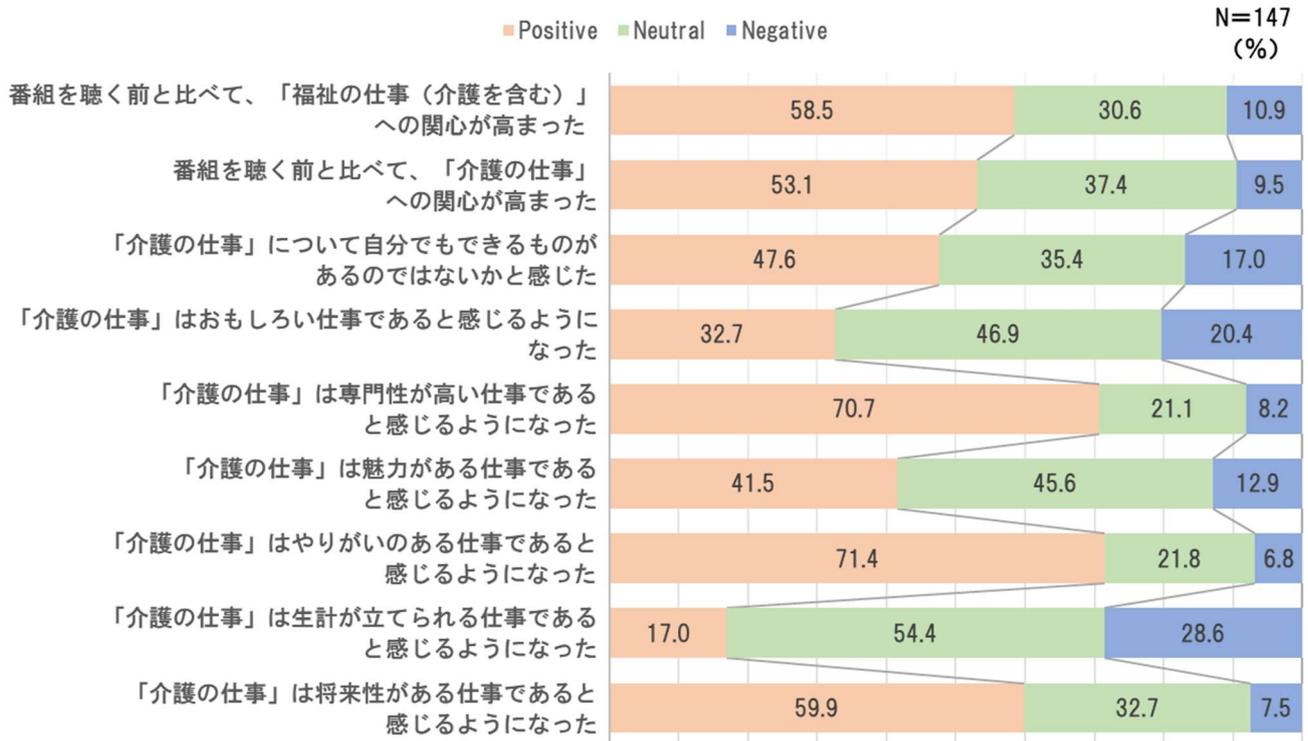


図 7-1-4 コンテンツ聴取による意識変容（介護のしごと） 「ラジオゆうゆう Life」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

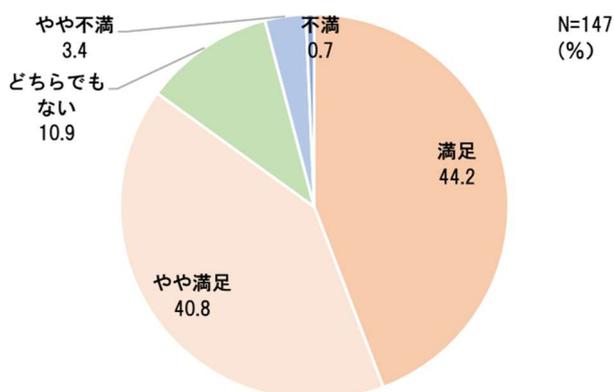
	全体	積極的に してみたい	機会があれば してみたい	どちらでもない	あまり 実施したくない	実施したくない
「介護の仕事」をしている人と話す	147	11	87	37	11	1
	100.0	7.5	59.2	25.2	7.5	0.7
「介護」に関する記事や番組などを見る	147	25	85	27	8	2
	100.0	17.0	57.8	18.4	5.4	1.4
「介護」に関するイベントに参加する	147	4	71	45	22	5
	100.0	2.7	48.3	30.6	15.0	3.4

「介護」に関するボランティアをする	147	1	63	42	30	11
	100.0	0.7	42.9	28.6	20.4	7.5
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	147	2	28	60	37	20
	100.0	1.4	19.0	40.8	25.2	13.6
「介護の仕事」を人に勧める	147	4	23	81	27	12
	100.0	2.7	15.6	55.1	18.4	8.2



図 7-1-5 コンテンツ聴取による行動変容 「ラジオゆうゆう Life」

ラジオ番組を聴いたことについて、「満足」から「不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「満足」が18人（26.9%）で、「やや満足」の33人（49.3%）と合わせて、全体の4分の3以上が満足感を得ていた。



満足度	人	%
満足	65	44.2
やや満足	60	40.8
どちらともいえない	16	10.9
やや不満	5	3.4
不満	1	0.7
全体	147	100.0

図 7-1-6 満足度 「ラジオゆうゆう Life」

■ 設問「今回の番組について、ご意見ご感想がありましたら、教えてください」

「ラジオゆうゆう Life」に対する主な意見や感想は、以下の通りであった。

回答内容

- ・小学生から介護に携わっていたとは驚きでした。幼い頃の体験であれば、色眼鏡なく見れる…学校現場にも取り入れてほしいですね(30代女性/会社員)
- ・刺激が大事というのはこちらにも刺激になりました(30代男性/無職)
- ・安藤なつさんが、介護という仕事をごく自然に捉えてらっしゃることがすごいなと思いました(すごいという怒られるかもしれませんが…)とても好感の持てる番組でした(30代女性/会社員)
- ・前提条件として介護の仕事が悪のような印象を受けたのが、大変な仕事なのはある程度理解している意識はあるものの、なんとなく残念だった(30代男性/会社員)
- ・気負わずに始めたことが良かったのだろうなと思った。お笑いのイメージからは想像できない懐の深さを感じた(40代女性/自営業・自由業)
- ・介護しなければならぬ立場がいずれのタイミングで来るかは本当に分からない中、何処かで自分の中に意識を高めて介護についての知識を蓄え、心構えをしていかないとある日突然その時が来たときに何も出来ないということがあり得ると改めて感じたと同時に、気付きをいただけたと思っております(40代男性/会社員)
- ・本当に貴重なお話を聞いてよかったです。なつさんが介護の仕事を楽しんでいることに人の良さを感じました。私も優しく人を助けられるようになりたいです(40代男性/公務員)
- ・利用者と身近な立ち位置での仕事である介護は、気軽な気持ちでできるものではない。安全、安心を提供するには気配り、目配りが欠かせない。もっと専門性を高めて、給料アップされるといいなと思います(40代女性/専業主婦)
- ・やりがいのある仕事だなあ(40代男性/無職)
- ・介護は向き不向きがあると思います。イメージ作戦で誘導するのではなく、相応の待遇や環境改善をし、介護に向いている人材が他の職へ流出しないように、手厚い環境づくりをする事が大切だとおもいます。(40代女性/会社員)
- ・障害児の親であることと親の介護があるかもしれないことがあり、興味深く視聴した。どちらも時間がとても短く感じられた。やり甲斐だけでなく、待遇面などの情報もあれば、もっと良かったと思う(40代男性/パート・アルバイト)
- ・知らないことだったので すごいなと感心しました。忙しい今でも資格を取り頑張っているのがすごいなと思ったし。子どもの頃から介護の現場にいたことが大変だという気持ちではなく楽しんで接しているなと感じました(40代女性/パート・アルバイト)
- ・本当に介護の仕事をしておられる人には頭が下がります(40代男性/無職)
- ・今まで介護職に対して持っていたネガティブイメージが払拭されました(40代男性/無職)
- ・安藤なつさんはつかみどころのない方だと思っていたが人間味にあふれている場面が垣間見れた(40代男性/会社役員・経営者)
- ・町さんの語りは良かったが、安藤さんの話が薄っぺらくて、あまり共感できなかった。全体的に介護の良い面ばかりを強調している。もちろん、それは大事なことだが、つらい現実や大変なことも触れなくてはいけないと思う(50代男性/会社員)
- ・子どもの頃から特別な事としてとらえず、自然な思いで介護に接してこられた安藤さんの人柄が伝わってきました(50代女性/公務員)
- ・町さんのお話の方が参考になりそうだと思います(50代女性/専業主婦)
- ・なつさんの経験に基づいた話という点では良かったが、介護現場の実際はそう甘いものではない(50代男性/会社員)
- ・安藤なつさんのイメージが変わった。介護職は人間性なんだと思う。彼女のような見栄で合ったり情性でない損得無しに仕事に従事できる人間性に憧れる(50代女性/専業主婦)
- ・資格も取り素晴らしいと思いました。楽しいから始まる介護を多くの方に広めて頂きたいし1人じゃないよと伝えて欲しいです(50代女性/パート・アルバイト)
- ・子どもの頃から介護に携わっていたので、介護職にスッと入って行けたと思うので、今の子ども達にも小さい頃から高齢者や要介護者と接する機会をもっと与える事によって介護職に進む人も増え

- ると思います(50代男性/自営業・自由業)
- ・何だか色々気が楽になりました。先日、実家に帰ったら父が調子悪くなって病院に連れて行くだけで大変でした。介護ってこれが続くんだなと実感。少しでも情報を得て楽しく親の介護、できたら幸せだなと感じました(50代女性/パート・アルバイト)
 - ・なつさんが言われたように、介護の現場を経験するだけでなく、介護に関する勉強も行うことで知識が増え、いろんな考え方ができるようになると思います(50代男性/会社員)
 - ・お笑いの仕事との両立されていてタフな方であると思いました(50代男性/会社員)
 - ・内容もよく飽きない話だった(50代男性/無職)
 - ・なつさんのように、若いうちから介護を身近に感じる体験があると、介護への心理的なハードルが下がると思いました(50代女性/パート・アルバイト)
 - ・これからも介護の現場の話をしてほしい(50代女性/公務員)
 - ・なつさんが介護の仕事に関わっていたのは意外でした。もっとTV番組とかでアピールしてもいいのではないですか?(50代男性/会社員)
 - ・知らなかった一面を知れた(50代男性/会社役員・経営者)
 - ・色々な行動へ、とても感心しました。頑張りも、感じました。すごいと思います(50代女性/パート・アルバイト)
 - ・安藤なつさんが介護の仕事をしていたことなど全く知らなかったし、テレビのお笑いのイメージしかないで、少し意外に思いました。魅力ある介護の現場という言葉がとても印象的でした(50代女性/パート・アルバイト)
 - ・テレビで見ていたイメージがガラッと変わりました!楽しい面白いだけでなく、本当に心から尊敬します(50代女性/専業主婦)
 - ・参考にさせていただきます(50代男性/会社員)
 - ・安藤なつさんが資格を持ってるとは思いませんでした。小さい頃から自然に介護が身についていたんですね(50代女性/会社員)
 - ・お笑いタレントとしか知りませんでしたので、意外な面を知りました(50代男性/会社員)
 - ・同じ人間だし何か特別な事をする必要も無いのかなと思う(60代男性/無職)
 - ・看護師として介護の現場で働いていて介護職の方の仕事をみていましたが、入浴や抱える姿勢など腰に負担もかかり、肉体的・精神的にもきついそうで離職者も多かったです。安藤なつさんが、介護を楽しく生き甲斐をもって働ける環境とはどのような環境なのか知りたいと思いました(60代女性/無職)
 - ・向上心を持って生活されていたので感心しました(60代男性/自営業・自由業)
 - ・常に勉強されること、それを喜びとされることで向上心をお持ちの方なのだとも再認識しました(60代女性/会社員)
 - ・知らなかったで、とても新鮮に聞かせていただきました(60代男性/自営業・自由業)
 - ・亜聖さんや安藤さんという親しみやすいキャラクターの経験から、まだ実感できない介護について聞くのは、とてもわかりやすくよかった(60代男性/無職)
 - ・安藤なつさんの意外な一面を見て興味深い。介護に関して理解が深まった(60代男性/会社員)
 - ・実際に介護とかかわりが深いことを知って驚きました。親戚が介護事業者というのはいい環境なんですね(60代男性/自営業・自由業)
 - ・安藤なつさんが介護の仕事をしている事を初めて知りました。彼女の人間性に触れてますますファンになりました(60代男性/会社役員・経営者)
 - ・楽しく介護をしている姿勢に感服した(60代男性/会社員)
 - ・素晴らしい人だと思った。もの心の付かないうちから、自然と介護が必要な人と触れ合うことが人間形成に繋がることを痛感する。応援したくなる(60代男性/会社員)
 - ・介護とお笑い二足のわらじは、子どものころからの経験が生かされていると思う(60代男性/無職)
 - ・二足のわらじとは思いがけず驚きました。安藤なつさんは心身ともに頼もしい方だと思いました(60代女性/無職)
 - ・ご本人の経験と現状は分かりましたが、対応策を聞きたかった(60代男性/自営業・自由業)
 - ・何事も経験だと感じました(60代男性/無職)
 - ・実務も取られたとかで今後も活動を続けて欲しいです(60代女性/専業主婦)

- ・「ラジオゆうゆう Life」という番組を今まで知らなかった。もっと皆さんに周知して頂きたい(60代男性/会社役員・経営者)
- ・お笑いのセンスはかなりある安藤なつさんの意外な一面を知る事が出来ました。人の人生に関わるという事に対して、真摯な発言内容に勉強させられました(70代男性/自営業・自由業)
- ・老々介護が終了し、今後老後の生活介護を受ける者へのサジェスションに欠けている、と思う(70代男性/無職)
- ・楽しんでやってたら、楽しそうだね、と言われそうだ、という安藤なつさんのご意見と、その人の人生に拘わる生き方に頷いておられたのが印象的でした。そして楽しいなと思える介護という言葉が印象に残りました(70代男性/無職)
- ・感心し尊敬もしました(70代男性/無職)
- ・介護は辛いイメージが先行している！確かに私自身そう思っていました。なつさんが言う、楽しい体験をする事って大切だと思いましたね。それは介護にかかわらず、どんな仕事でも同じことが言えるのではないのでしょうか。納得です(70代男性/無職)
- ・そのようなことをしていないと思っていたので意外に感じた(70代男性/無職)
- ・安藤なつさんの介護についてはなんかで読んだことがある。そっちの方が今回よりすごいなと思いました(70代女性/会社員)
- ・当事者との関わりの中での逸人(70代男性/無職)
- ・なつさんの人生の素晴らしいところがいっぱい素敵と思う(70代男性/無職)
- ・小さい時から、介護の現場に触れることができていたので、自然にその道へ進むことができたのだと思う。成人になってから介護に携わる人の意見も聞いてみたいと思う(70代男性/自営業・自由業)
- ・仕事がきつい、給料が安いなどの話をよく聞きますが不満は？話ができない、難しい入居者が多い印象があります。殺したいと思うことなどありませんか？(70代男性/公務員)
- ・えらいなあと思いました(70代男性/自営業・自由業)
- ・介護に対し真剣に取り組んでいる姿勢に敬意を表します(70代男性/無職)
- ・安藤さんが介護の仕事にかかわっていることを初めて知りました。家族以外の他人と関われる魅力ある仕事だと番組から感じました(70代男性/無職)
- ・安藤なつさんは体力もありそうだし、中学生の頃からオジさんの施設で自然に介護に接していたと言っていました。そしてその介護をするのが楽しいとも言っています。素晴らしい感性の持ち主の方ですね(70代女性/専業主婦)
- ・小学生低学年から介護の仕事に興味をもてる環境にあったことが幸いしたかもしれない(80代男性/無職)
- ・折り鶴のエピソードは感銘を受けました。肩ひじを張らない介護というものに興味を持つとともに、自分にもできるのではないかと思わせてくれたことに感謝します(80代女性/専業主婦)

■ BS フジとのタイアップ番組「介護のリアル～まちから、ひとから、しごとから～」視聴者の基本属性

調査対象 147 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	97	57.4
女性	72	42.6
全体	169	100.0

年齢	人	%
20代	3	1.8
30代	10	5.9
40代	25	14.8
50代	47	27.8

60代	55	32.5
70代	25	14.8
80代	4	2.4
全体	169	100.0

視聴者の内訳は、男性 97 人(57.4%)、女性 72 人(42.6%)。60代(32.5%)を中心に、50代(27.8%)、40代、70代(同14.8%)だった。

職業	人	%
会社員	61	36.1
公務員	4	2.4
自営業・自由業	16	9.5
会社役員・経営者	7	4.1
パート・アルバイト	26	15.4
専業主婦	17	10.1
無職	38	22.5
全体	169	100.0

要介護者家族	人	%
いる	24	14.2
いない	145	85.8
全体	169	100.0

子どもの有無&末子の学齢	人	%
子どもはいない	72	42.6
末子(未就学児)	4	2.4
末子(小学校低学年(1~3年生))	3	1.8
末子(小学校高学年(4~6年生))	5	3.0
末子(中学生)	3	1.8
末子(高校生・高専生)	2	1.2
末子(大学生・大学院生・短大生・専門学校生などの学生)	9	5.3
末子(社会人・その他)	71	42.0
全体	169	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	53	31.4
自分が介護される立場（だったことがある）	4	2.4
介護の現場でボランティアや実習などをしている（したことがある）	7	4.1
介護の仕事をしている（したことがある）	7	4.1
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	12	7.1
自分の介護のことに興味がある	35	20.7
親や家族などの介護のことに興味がある	54	32.0
その他、介護との関わり・興味がある	22	13.0
該当するものはない	59	34.9
全体	169	100.0

また子どもがいる人は97人（57.4%）。「家族に要介護者がいる」人は24人（14.2%）。「自分の親や家族などの介護をしたことがある」人は53人（31.4%）だった。

■ 調査サンプルが視聴したテレビ番組「介護のリアル」のコンテンツ

◆介護のリアル #1～まちから、ひとから、しごとから～【戸塚純貴】10月31日放送



BSフジで放送された、映画で介護福祉士を演じた経験を持つ俳優・戸塚純貴さんが、実際の福祉・介護の現場などを訪れ、体験したこと、感じたことを綴っていくドキュメント番組。

日本人の約2割が後期高齢者になると言われている2025年を目前に、それぞれ異なる視点で福祉・介護に向き合う3つの事業者は、介護の未来にどんなビジョンを描いているのか。そして、戸塚さんは介護の仕事のリアルにどんな想いを抱くのか…。

<取材先>

■ BLG八王子：東京・町田市にある「NPO 町田市つながりの開」が運営する地域密着型通所介護事業所。社会とのつながり、地域での役割、一般企業との連携など、メンバー同士だけでなく、地域や社会ともつなぐハブ機能を持った、人の想いを実現するデイサービス。

●アンケート結果のサマリー（要約）

テレビ番組「介護のリアル」を視聴した人に、「介護の仕事」への理解度や評価についての設問をした。各項目に対する回答は以下の通り。

■ テレビ番組評価

「番組への興味」「全体構成」「長さ」「わかりやすさ」の4つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、9割以上が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。

	上段：人 下段：% 単一回答	全体	非常に そう思う	やや そう思う	わからない	やや そう思わない	まったく そう思わない
番組は、興味を持てた内容だった		169	79	76	8	4	2
		100.0	46.7	45.0	4.7	2.4	1.2
番組の組み立て方（施設の紹介、トークなど）は適切だった		169	73	87	5	3	1
		100.0	43.2	51.5	3.0	1.8	0.6
番組の長さ（5分）は適切だった		169	114	39	8	6	2
		100.0	67.5	23.1	4.7	3.6	1.2
番組の内容はわかりやすいものだった		169	114	45	6	3	1
		100.0	67.5	26.6	3.6	1.8	0.6

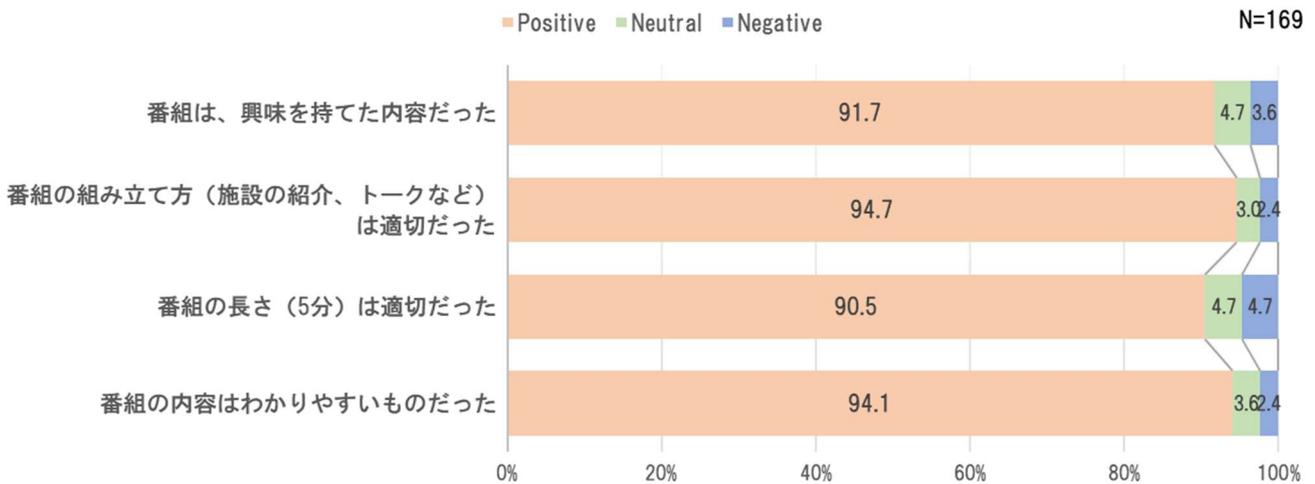
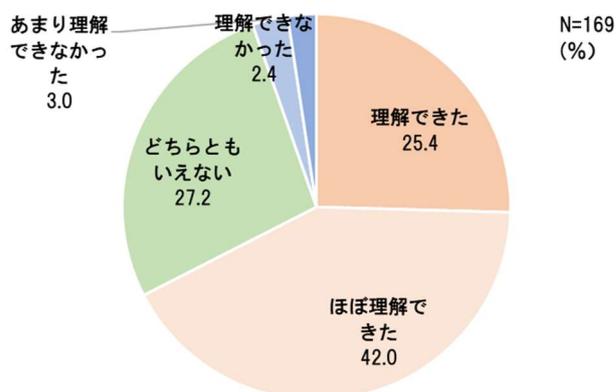


図 7-2-1 コンテンツ評価 テレビ番組「介護のリアル」

テレビ番組を見ることで、「介護の仕事」について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は43人（25.4%）。「ほぼ理解できた」とした71人（42.0%）と合わせて、「介護の仕事」を理解できた人は114人（67.5%）であった。



理解度	人	%
理解できた	43	25.4
ほぼ理解できた	71	42.0
どちらともいえない	46	27.2
あまり理解できなかった	5	3.0
理解できなかった	4	2.4
全体	169	100.0

図 7-2-2 「介護の仕事」への理解度 テレビ番組「介護のリアル」

続いて、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

番組を見る前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は34人（20.1%）。「ほぼあてはまる」とした75人（44.4%）と合わせて、「介護」への関心が高まったのは109人（64.5%）であった。

	全体	5段階評価				
		大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない	全くあてはまらない
番組を見る前に比べて、「介護」のイメージが良くなった	169	47	77	39	3	3
	100.0	27.8	45.6	23.1	1.8	1.8
番組を見る前に比べて、「介護」への興味関心が高まった	169	34	75	47	8	5
	100.0	20.1	44.4	27.8	4.7	3.0
番組を見る前に比べて、「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	169	30	81	44	9	5
	100.0	17.8	47.9	26.0	5.3	3.0

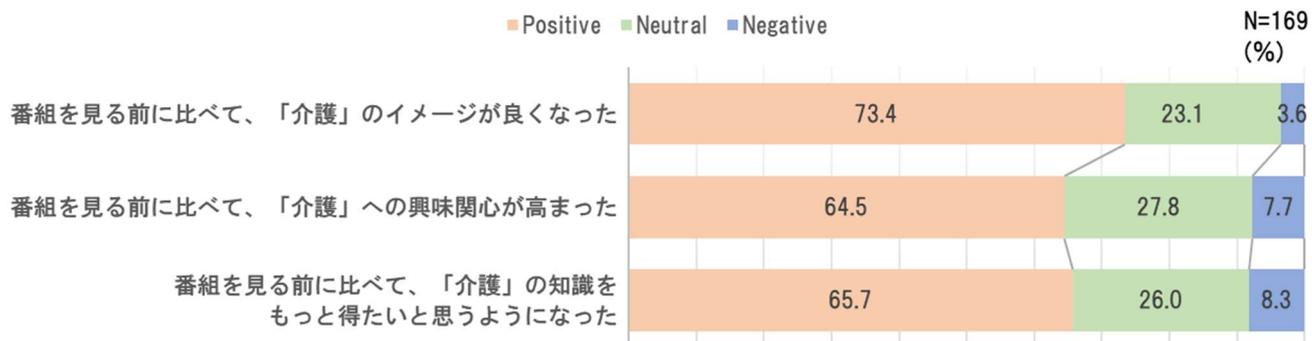


図 7-2-3 コンテンツ視聴による意識変容（介護） テレビ番組「介護のリアル」

テレビ番組「介護のリアル」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護のしごと」に対する意識変容に関する 9 項目について、5 段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

番組を見る前に比べて『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は 28 人（16.6%）。「ほぼあてはまる」とした 78 人（46.2%）と合わせて、「介護のしごと」への関心が高まったのは 106 人（62.7%）であった。

上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない	全くあてはまらない
		人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数
番組を見る前と比べて、「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	169	28	78	46	11	6
	100.0	16.6	46.2	27.2	6.5	3.6
番組を見る前と比べて、「介護の仕事」への関心が高まった	169	27	75	51	10	6
	100.0	16.0	44.4	30.2	5.9	3.6
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	169	22	62	56	18	11
	100.0	13.0	36.7	33.1	10.7	6.5
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	169	16	54	68	19	12
	100.0	9.5	32.0	40.2	11.2	7.1
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	169	33	65	55	11	5
	100.0	19.5	38.5	32.5	6.5	3.0
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	169	15	55	73	18	8
	100.0	8.9	32.5	43.2	10.7	4.7
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	169	31	77	46	11	4
	100.0	18.3	45.6	27.2	6.5	2.4

「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	169	5	21	101	27	15
	100.0	3.0	12.4	59.8	16.0	8.9
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	169	29	72	48	14	6
	100.0	17.2	42.6	28.4	8.3	3.6

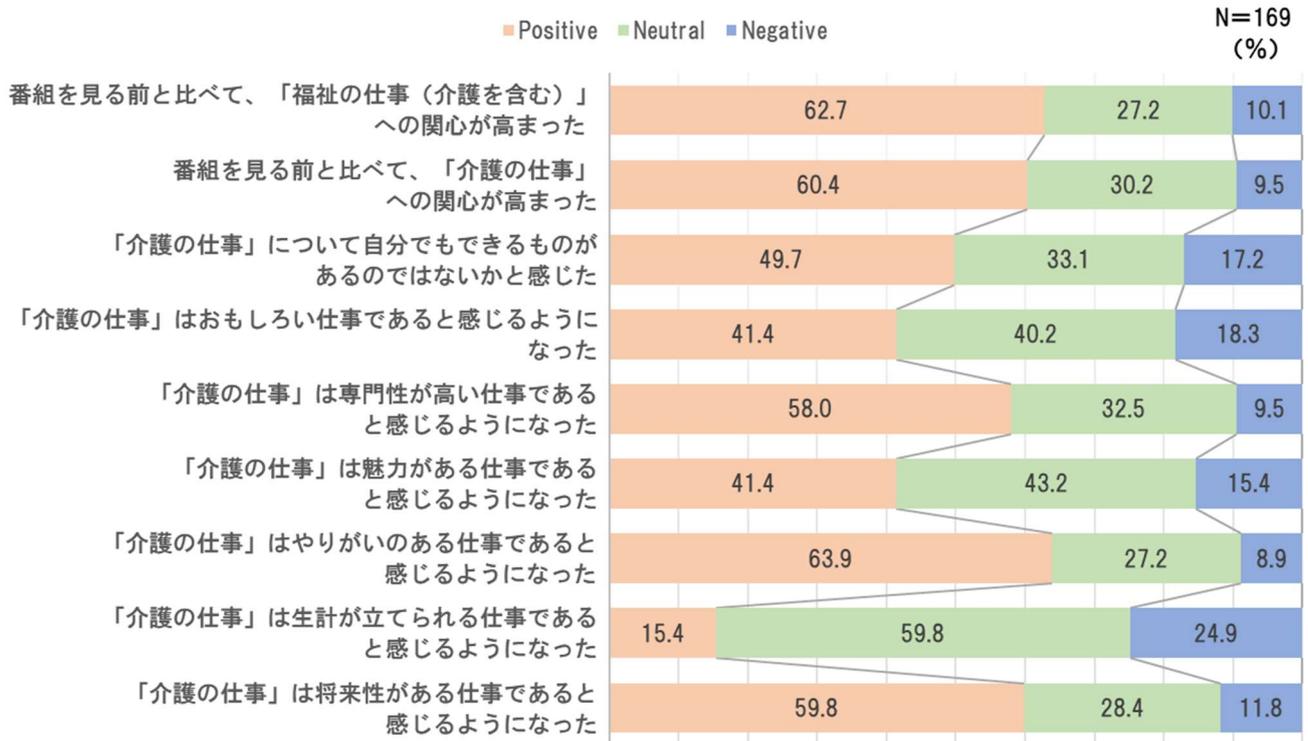


図 7-2-4 コンテンツ視聴による意識変容（介護のしごと） テレビ番組「介護のリアル」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護のしごと」に関わることまで、行動変容に関する6項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで5段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的にしてみたい	機会があればしてみたい	どちらでもない	あまり実施したくない	実施したくない	上段：人
							下段：% 単一回答
「介護の仕事」をしている人と話す	169	14	88	54	9	4	
	100.0	8.3	52.1	32.0	5.3	2.4	
「介護」に関する記事や番組などを見る	169	20	103	34	9	3	
	100.0	11.8	60.9	20.1	5.3	1.8	
「介護」に関するイベントに参加する	169	9	76	51	25	8	
	100.0	5.3	45.0	30.2	14.8	4.7	

「介護」に関するボランティアをする	169	3	66	58	25	17
	100.0	1.8	39.1	34.3	14.8	10.1
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	169	7	32	68	33	29
	100.0	4.1	18.9	40.2	19.5	17.2
「介護の仕事」を人に勧める	169	6	29	93	21	20
	100.0	3.6	17.2	55.0	12.4	11.8

■ Positive ■ Neutral ■ Negative

N=169
(%)

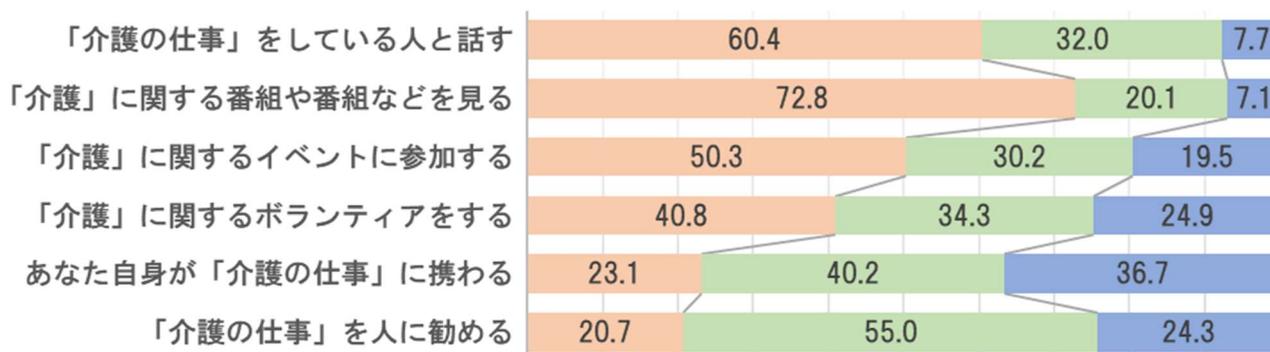


図 7-2-5 コンテンツ聴取による行動変容 テレビ番組「介護のリアル」

テレビ番組を見たことについて、「満足」から「不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「満足」が74人(43.8%)で、「やや満足」の69人(40.8%)と合わせて、「満足」と回答した人は143人(84.6%)。

満足度	人	%
満足	74	43.8
やや満足	69	40.8
どちらともいえない	23	13.6
やや不満	2	1.2
不満	1	0.6
全体	169	100.0

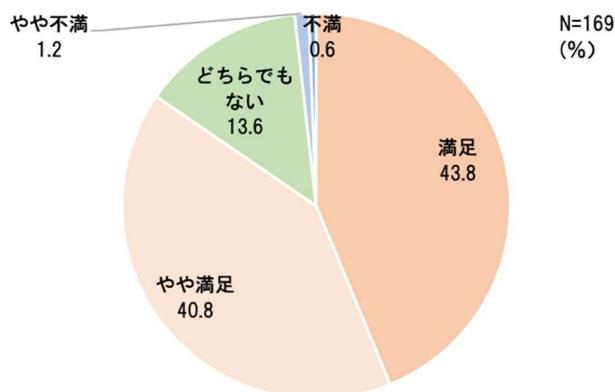


図 7-2-6 満足度 テレビ番組「介護のリアル」

■ 設問「今回の番組について、ご意見ご感想がありましたら、教えてください」

テレビ番組「介護のリアル」に対する主な意見や感想は、以下の通りであった。

回答内容

- ・介護という何から何までお世話して、入居者の人たちも決まったことしか出来ないというイメージがあったのですが、こんなにもイキイキして認知症とは思えない姿に驚きました。認知症だからといって幅を狭めてはいけないと感じました(20代女性/パート・アルバイト)
- ・普段は興味がない分野の動画でも、5分と比較的短い動画であること、知っている俳優さんが出ていることから、みてみたいという気持ちに変わりました(30代女性/会社員)
- ・介護施設と一口に言っても、いろんな取り組みをしているところがあるのだと知ることが出来て、

- とても勉強になりました(30代女性/会社員)
- ・介護という単に身の回りのお世話をするということというイメージが強かったが、この番組を見て「介護される人の可能性を信じてできることに挑戦してもらおう」という介護の仕方・考え方があり、それを実践している施設が実際にあるということを知れて勉強になった(30代女性/会社員)
 - ・面白い番組だなと思いました。ケアマネをしている母と一緒に見たいです(40代女性/パート・アルバイト)
 - ・「介護」のテーマに対し、何を伝えたいのかが分からなかった(40代男性/自営業・自由業)
 - ・内容が薄いと感じた(40代男性/無職)
 - ・最後の笑顔が物語っていると思いました(40代男性/無職)
 - ・認知症の年配の方を、屋外で従事していただくのを管理するのは並大抵の能力を要するのではないかと思います。急な体調不良や、徘徊等…への対応。年配の方へ生き甲斐を持っていただくのはとても良いことだと思います。しかし、それを補助する方は、多大なる配慮と専門性が必要だと思います(40代女性/会社員)
 - ・短いのもあって、一面的すぎるかなとも感じた(40代男性/パート・アルバイト)
 - ・有償＝社会とのつながり わかる気がします。施設に行ってみると会話したり散歩したり喫茶店に行ったりと外に出るのは違い 仕事してお金をもらってという責任感もでき楽しそうな皆さんの笑顔が印象的でした(40代女性/パート・アルバイト)
 - ・認知症の人もそうでない人も同じように働き、自然に認知症を意識しないでお仕事されていることに共感しました(40代女性/会社員)
 - ・非常に興味深いデイサービスの取り組みだったが、まだこのような意欲的なデイサービスは少数派と思うので、デイサービスの基本的な内容から紹介したほうが、このデイサービスの素晴らしさが際立ったのではと思う。一般的なデイサービスと思われてしまうと、かえって現実との差に落胆する人も出てきてしまうように思う(40代女性/会社員)
 - ・非常に見やすかったし、満足しているが…これで介護の知識が増えるかということとは違うのではないか。もちろん番組時間の制約などもあって伝えたい内容を中心に構成しているとは思いますが、「介護」という大きな枠から考えるとこれで介護の知識が増えたり理解が進んだりということは考えにくいと思う。また内容自体も全体から考えれば非常にレアなケースだろう(40代男性/自営業・自由業)
 - ・認知症のデイケアがあることを初めて知った。短い動画だが入り口として十分に興味を持てた。次はもっと突っ込んで内容を知りたいと思った(50代男性/会社員)
 - ・認知症の方たちが仕事をしている事には驚くが、ほとんどの人が軽度だから出来る事だと思いました。実際に売り物を傷つけてしまったり、事故があったらどうなるのか心配になります(50代女性/専業主婦・主夫)
 - ・とてもわかりやすい内容で、認知症の方も自分の出来る事を仕事に出来るのはとても素晴らしい事だと思いました(50代女性/専業主婦・主夫)
 - ・長さや番組の空気感(軽快さ)が無理なく聞くことが出来ていい番組と思えた(50代女性/パート・アルバイト)
 - ・いろんな介護の方法があることがわかった(50代男性/公務員)
 - ・働くデイサービスを見て、高齢でも社会とつながり充実して働いておられるのが、素晴らしいと思いました。認知症であっても、何も変わらないと私も感じました。人と企業や地域が連携してるのも良いと思いました(50代女性/自営業・自由業)
 - ・介護福祉施設で行われるメニューにこういったものがあるのを知り、とてもよいプログラムだと思いました。ボランティアだけど有償というのもとてもよいです。お年寄りを年寄り扱いしないよい例だと思います(50代女性/自営業・自由業)
 - ・介護現場で仕事をしているのを初めて知った良い取り組みだと思いました(50代女性/専業主婦・主夫)
 - ・戸塚さんのようなスタッフがいるといいですね(50代女性/会社員)
 - ・介護とは、動けない人の動けない部分をサポートすることだけだと思っていたので、目からうろこの内容でした。自分が将来受けたい介護だと思いました(50代女性/会社員)
 - ・まず戸塚さんについてのイメージが変わりました。ドラマではおちゃらけたような役をされている

のを拝見したことがあったので今回の番組を見てだいぶイメージが変わりました。今回の番組の施設の方達は明るい人が多いなと感じました。スタッフさんも利用者さんもやりがいのある毎日をごさされている様子を、どこの施設もこんなにいい雰囲気だと思いいなと思いました。車の販売店の方が、お客さんにあの人達は誰と聞かれて、「スタッフです」と答えているとおっしゃったのが印象的でした。長過ぎない番組でしたので、こんな施設もあるんだということを知ることが出来て良かったです(50代女性/パート・アルバイト)

- ・とても意外だったし驚いた(50代男性/会社役員・経営者)
- ・戸塚純貴さんは好きな俳優さんの一人なので、楽しく見る事が出来ました。5分は少し短く感じました。利用者の方は認知症とは思えない仕事ぶり、このような取り組みがあることも初めて知りました(50代女性/パート・アルバイト)
- ・介護の現場という感じがなく、お仕事を楽しんで頑張っている自信のお顔が、見られた所が素晴らしいです(50代女性/パート・アルバイト)
- ・人との携わりに関わりたい人には良い仕事と思う(50代男性/会社員)
- ・気づきが大事ですね(50代男性/会社員)
- ・感銘を受けました(50代男性/会社員)
- ・見やすい長さで自然な感じで良かったです(50代女性/パート・アルバイト)
- ・以前、勤めていたデイサービスで、チャリティーバザーがありました。それに出品する作品を利用者さんに作って貰い、収益を寄付出来た事を思い出しました。高齢者の方も役に立つ事が嬉しいのだと感じました(50代女性/専業主婦・主夫)
- ・とても良い番組であった。ただ、これ一つが介護のリアルというわけではなく、明るい側面にフォーカスした番組だったと思う。こちらの施設の取り組みは大変いいものであるのは事実。施設を利用されている方々の生き生きとした様子を見られたのはうれしかった。但し全部がそのようにはいかない現実もあると思う。この番組の全体の紹介のしかたやナレーション、戸塚純貴さんの役割はとてもよいと思う(50代女性/会社役員・経営者)
- ・介護される方が社会とつながる機会を持つことに大きな意味があると思った。人と会話し、社会の役に立つ場を設けることはその人にとって生きる力になると感じた(50代女性/専業主婦・主夫)
- ・デイサービスで仕事を普通に行っているのを見て新しいなと思った(50代女性/専業主婦・主夫)
- ・特別な接し方はしなくても良いのかなと思う(60代男性/無職)
- ・デイサービスで仕事をして対価を得ることはIKIGAIにも通じて大変良いことだと思います(60代女性/会社員)
- ・介護というと、介護される人と介護する人っていうイメージでとらえてしまっていますが、この動画を見て、働く意義のあるお仕事を見つけると一緒に働くといった新しいイメージをつかむことができました。これから自分も老後に向かっていく中で、こうした介護の世界が広がっていくと、暗くない未来が見えてきそうです(60代男性/自営業・自由業)
- ・元気な人ならだれでも参加できそうだなと思った(60代女性/会社員)
- ・作業を仕事として報酬をもらうことはいいことだなと思った(60代男性/会社員)
- ・番組テーマの設定や施設のコンセプトが優れており、また主張を1つに絞っているために伝わりやすい、誤解の少ない番組となっている。有ったのかもしれないが、認知症の方々の意見(毎日の張り合いができた、生活に潤いができた、生き甲斐になっている、認知状況に改善が感じられる等)もあると、なおよいと思いました(状況的に難しいのであれば、仕方ありません)(60代男性/自営業・自由業)
- ・介護現場では、一般的に言って『大変なこと』も多々あると思うので、その辺りも紹介して欲しかったです(60代女性/パート・アルバイト)
- ・知らない世界を知る機会となりました(60代男性/自営業・自由業)
- ・面白い取り組みだとは思(60代男性/無職)
- ・最近のドラマでも、心のケアをする役を演じていたので、今回の紹介役にぴったりだと思いました(60代女性/会社員)
- ・認知症と聞くと、何もできなくなってしまうように思いがちですが、ちゃんと報酬をもらえるくらいのお仕事をなさる方もあるのだなと驚きました。当人にとっても嬉しいでしょうし、このような活動が全国に広がればよいなと思いました(60代女性/パート・アルバイト)

- ・戸塚さんのコメントが作られていないのか（無理をしていないのか）が少し気になった(60代男性/会社員)
- ・やってあげるだけでなく、やらせる、一緒にやるのが大切だと感じた(60代男性/会社員)
- ・社会との繋がりを持ち事がとても大切な事だという事が良く分かりました(60代男性/会社役員・経営者)
- ・認知症の人にも社会とのつながりを感じさせることで、治療に有効な手段だと思う(60代男性/会社員)
- ・日常生活の中に介護の仕事を溶け込ませる(60代男性/自営業・自由業)
- ・社会と関わること、生き甲斐や喜びの大切さを感じました(60代男性/自営業・自由業)
- ・将来 社会と関わりが持てたらいいと思う。何歳でも。出来ることから(60代女性/パート・アルバイト)
- ・介護関係者と戸塚純貴君の自然な関わり方が、良かった(60代女性/専業主婦・主夫)
- ・今回視聴した取り組みは初めて知る内容で、今後高齢化が更に進む中であって、自らもその対象としては、非常に魅力的で有益な手法であると実感した(60代男性/無職)
- ・チャレンジングです。継続が共感を呼び、各地に同様の「仕事・社会参加・人間の尊厳」の輪が広がることを期待します(60代女性/無職)
- ・自動車販売会社との仕事化交渉経過や危機管理を知りたかった。(60代男性/自営業・自由業)
- ・楽しく介護をする話も良いですが、難しい問題点（排泄介助、入浴介護他）についても知りたいと思います(60代男性/無職)
- ・認知症の方への思いやりが伝わり、仕事を持ってもらうことで体を動かして自分らしく生きていて欲しいと思いました(60代女性/専業主婦・主夫)
- ・専門性の高い仕事が介護の仕事であるという認識がこの番組で崩れた 誰でも参加できるということが分かってよかったと思う(60代男性/会社員)
- ・全く福祉を知らない若者が経験するという動画で面白かった(60代男性/会社役員・経営者)
- ・このようなユニークな仕事があるとは思わなかった(70代男性/自営業・自由業)
- ・認知症の方々が楽しそうに働いているのを見て、あ～、介護というのは思っていた以上に広範囲の仕事なんだなと思いました(70代男性/無職)
- ・番組は、認知症があっても動ける人、何をしたいか判断できる人を対象としています。でも実際に認知症の方を介護している人のご苦労はそんなものではありません。啓発用の番組として「こんなのでいいのかな」と疑問を持ちました(70代男性/無職)
- ・夫が要介護1のアルツハイマー型認知症でデイサービスに通所している 記憶力がだめだが見守っていれば何でもできるのでこのような仕事ができると生活にメリハリができて喜ぶだろうと羨ましく思った。動画では通所者の声や介護者の話も少なくもっと聞きたかった(70代女性/専業主婦・主夫)
- ・私も後わずかで後期高齢者に仲間入り。どんな世界が待っているか。当然認知症に罹患するかもしれません。番組内で認知症のお年寄がお給金を頂いた時の晴れやかな笑顔が、とっても印象的でした。これなんです。自分の力で稼ぎ、死ぬまで生きる、これは人間に備わった本能ではないでしょうか。結果的に社会参加することとなり、生甲斐となり、認知症の進行も緩慢になるのではないのでしょうか。少なくとも、当番組を視聴して「死ぬまで働くぞ」と認識を新たにしました(70代男性/パート・アルバイト)
- ・介護現場の見方が変わりました(70代男性/無職)
- ・洗車のように、認知症でもできることが、探せばあるのではないかと思った(70代女性/専業主婦・主夫)
- ・このようなことが介護施設で行われていたこと自体知らず、初めて知り驚きました。(感心した)(70代男性/無職)
- ・何事もやってみる(80代男性/無職)

10.2.7 入門的研修動画事業

(1) 調査の目的と概要

本動画の制作にあたりターゲット層とした「子育てを終えた（子育て中を含む）層」（主に30代～60代女性）を中心に、介護の仕事に関心がある、家族などの介護経験がある層に「入門的研修の受講を通して、福祉・介護の仕事内容に理解を持つ人が増えること」が実現されているか、効果の検証をネットリサーチにより実施した。

介護に関する入門的研修（横浜市）受講者基礎データおよび入門的研修修了レポート（アンケート）結果は以下の通り。

■調査方法	インターネット調査
■実施機関	横浜市（公益社団法人かながわ福祉サービス振興会）
■実施期間	2022年9月12日(月)～2023年3月31日(金)
■回収状況	介護に関心があり介護に関する入門的研修受講を希望した横浜市民 102人 入門的研修修了者 68人

(2) 調査集計

■ 受講者基礎データ

調査対象 102 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	14	13.7
女性	87	85.3
その他	1	1.0
全体	102	100.0

年齢 (生年月日から算出)	人	%
10代	1	1.0
20代	3	2.9
30代	1	1.0
40代	23	22.5
50代	46	45.1
60代	15	14.7
70代	10	9.8
80代以上	2	2.0
不明	1	1.0
全体	102	100.0

受講者内訳は、女性 87 人(85.3%)、男性 14 人(13.7%)。世代は 50 代(45.1%)を中心に、40 代(22.5%)、60 代(14.7%)と続く。子どもの有無に関する設問を設定してないため子育て経験は不明。

職業	人	%
会社員	28	27.5
公務員	1	1.0
自営業・自由業	2	2.0
パート・アルバイト	28	27.5
専業主婦・主夫	23	22.5
学生（福祉系の大学・専門学校など以外）	1	1.0
無職	16	15.7
その他	3	2.9
全体	102	100.0

「介護」との関わり	(複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしている（したことがある）		31	30.4
自分が介護されている（されていたことがある）		1	1.0
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）		3	2.9
介護の仕事をしている		1	1.0
過去に介護の仕事をしたことがある		3	2.9
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）		6	5.9
自分の介護のことに興味がある		21	20.6
親や家族などの介護のことに興味がある		76	74.5
これまで介護と関わりがなかった		5	4.9
その他		1	1.0
全体		102	100.0

職業は「会社員」「パート・アルバイト」が共に 28 人（27.5%）、「専業主婦・主夫」23 人（22.5%）。

「親や家族などの介護のことに興味がある」人が約 4 分の 3（74.5%）を占めた。次いで、「自分の親や家族などの介護をしたことがある（している）」（30.4%）、「自分の介護のことに興味がある」（20.6%）と続く。

今年度も動画制作時に想定していたターゲット層に合致したといえる。

● アンケート結果のサマリー（要約）

■ 設問「あなたが介護に関する入門的研修を受けようとする理由は何ですか。あてはまるものをすべて教えてください」（複数回答）

入門的研修の受講理由を尋ねたところ、「介護に関する知識を身に付けるため」が 68 人（66.7%）、「自分の親や家族、知人などの介護のため」が 47 人（46.1%）だった。また昨年度からの受講希望者は 4 人（3.9%）だった。

受講理由	(複数回答)	人	%
介護業界への就職・転職のため		9	8.8
介護職員としてのスキルアップのため		2	2.0
自分の親や家族、知人などの介護のため		47	46.1
介護関連のボランティアに参加するため		10	9.8
介護に関する知識を身に付けるため		68	66.7
資格取得のため		12	11.8
時間に余裕があったため		10	9.8
昨年度受講したが、修了することができなかったため		1	1.0
昨年度受講しようとしたが、募集が締め切られていたため		4	3.9
その他		1	1.0
全体		102	100.0

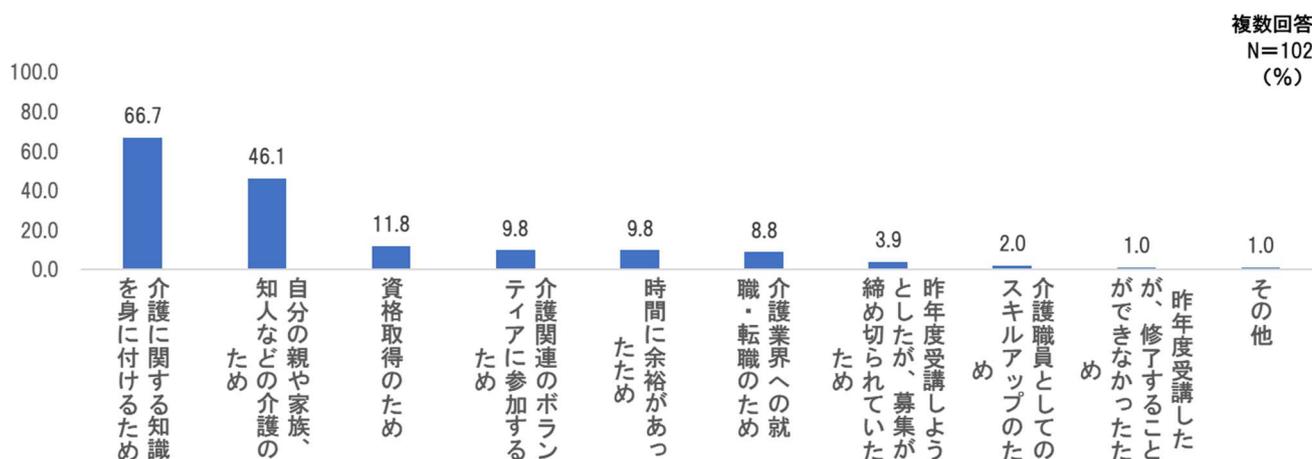


図 8-1 受講理由 「入門的研修」

■ 設問「あなたが今回の『入門的研修』を知ったきっかけとして、あてはまるものを教えてください」(複数回答)

入門的研修を知ったきっかけを尋ねたところ、「横浜市の広報紙（広報よこはま）」がトップで 85 人（83.3%）次いで、「横浜市のウェブサイト（ホームページ）」（9.8%）の順であった。横浜市の広報紙での募集が非常に有効的だった。

研修を知ったきっかけ	(複数回答)	人	%
横浜市の広報紙（広報よこはま）		85	83.3
横浜市のウェブサイト（ホームページ）		10	9.8
横浜市のライン（LINE）		1	1.0
産経新聞の紙面		2	2.0
SNS上の投稿を見て		1	1.0
知人・友人からの紹介		2	2.0
その他		2	2.0
全体		102	100.0

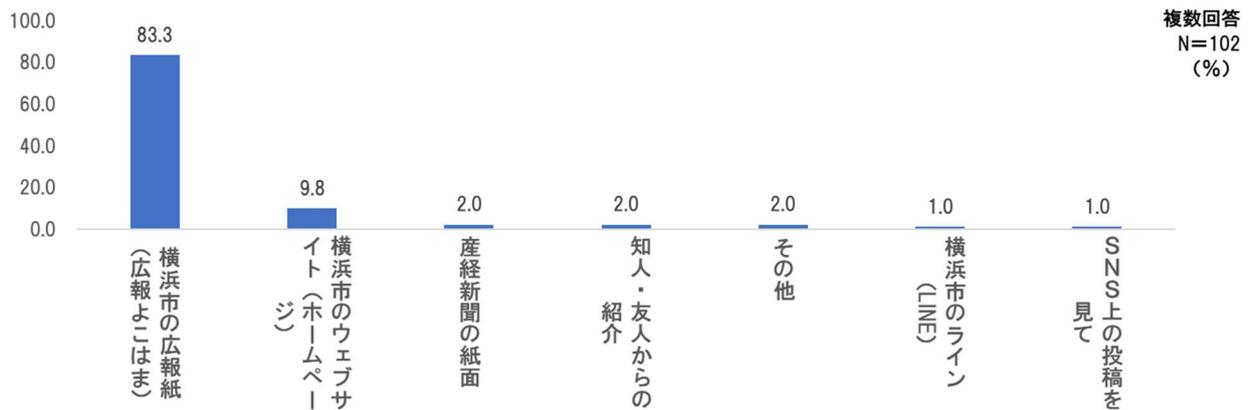


図 8-2 研修を知ったきっかけ 「入門的研修」

■ 設問「あなたが今回の『入門的研修』を選んだ理由として、あてはまるものをすべて教えてください」(複数回答)

介護の研修の中から今回の「入門的研修」を選んだ理由を尋ねたところ、「オンラインでどこからでも受講できるから」が90人(88.2%)。次いで「無料で受講できるから」(71.6%)、「横浜市からの修了証明書の発行が受けられるから」(35.3%)の順となった。無料でオンライン受講できることが大きな理由となっている。

入門的研修を選んだ理由 (複数回答)	人	%
横浜市から修了証明書の発行が受けられるから	36	35.3
他の研修(生活援助従事者研修・介護職員初任者研修など)に比べて内容が易しそうだから	6	5.9
他の研修(生活援助従事者研修・介護職員初任者研修など)に比べて研修時間数が少ないから	6	5.9
無料で受講できるから	73	71.6
動画での研修だから	27	26.5
オンラインで受講できるから	90	88.2
その他	7	6.9
全体	102	100.0

複数回答
N=102
(%)

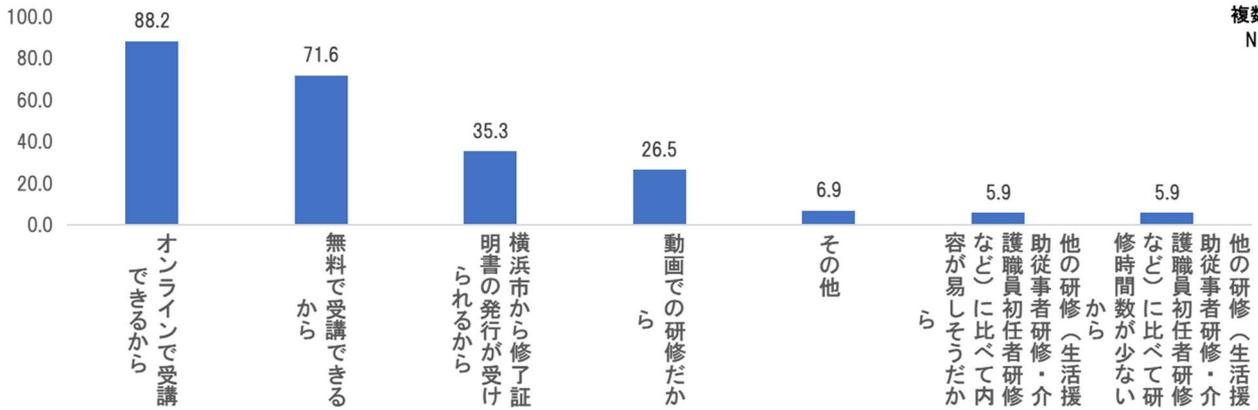


図 8-3 介護の研修の中から入門的研修を選んだ理由 「入門的研修」

■ 入門的研修修了者の属性

研修終了後の修了レポート（アンケート）に 68 人が回答した。回答者属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	8	11.8
女性	58	85.3
不明	2	2.9
全体	68	100.0

年齢 (生年月日から算出)	人	%
20代	1	1.5
30代	1	1.5
40代	15	22.1
50代	32	47.1
60代	9	13.2
70代	7	10.3
不明	3	4.4
全体	68	100.0

職業	人	%
会社員	19	27.9
公務員	1	1.5
自営業・自由業	1	1.5
パート・アルバイト	19	27.9
専業主婦・主夫	17	25.0
無職	7	10.3
その他	2	2.9
不明	2	2.9
全体	68	100.0

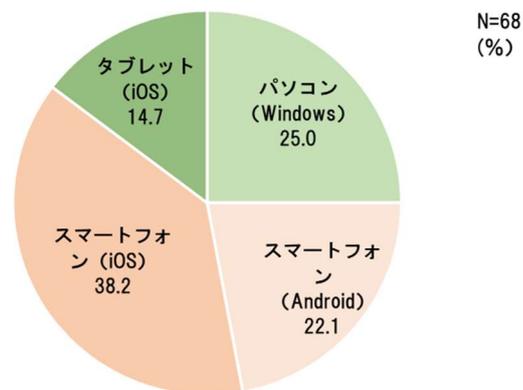
「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしている(したことがある)	20	19.6
介護の現場でボランティアや実習などを行っている(したことがある)	3	2.9
介護の仕事をしている	1	1.0
過去に介護の仕事をしたことがある	2	2.0
介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	4	3.9
自分の介護のことに興味がある	14	13.7
親や家族などの介護のことに興味がある	52	51.0
これまで介護と関わりがなかった	2	2.0
全体	102	100.0

修了者内訳は、女性 58 人(85.3%)、男性 8 人(11.8%)。世代は 50 代(47.1%)を中心に、40 代(22.1%)、60 代(13.2%)と続く。子どもの有無に関する設問を設定してないため子育て経験は不明。職業は「会社員」「パート・アルバイト」(同 27.9%)、「専業主婦・主夫」(25.0%)の順。

「親や家族などの介護のことに興味がある」人が約 5 割(51.0%)を占めた。また、「自分の親や家族などの介護をしたことがある(している)」(19.6%)、「介護の仕事をしている(したことがある)」(3.0%)となっており、介護経験がない人が多かった。

■ 入門的研修 受講状況

修了者に主に受講に使用した端末を尋ねたところ、「スマートフォン(iOS)」が 26 人(38.2%)、「スマートフォン(Android)」15 人(22.1%)。「スマートフォン」を主に使用した人が全体の約 6 割を占めた(60.3%)。



使用端末	人	%
パソコン (Windows)	17	25.0
スマートフォン (Android)	15	22.1
スマートフォン (iOS)	26	38.2
タブレット (iOS)	10	14.7
全体	68	100.0

図 8-4 使用端末「入門的研修」

また、オンラインで入門的研修を順調に受講できたかどうかを尋ねたところ、「順調に進めることができた」人は12人（17.6%）。「ほぼ順調に進めることができた」と回答した40人（58.8%）を合わせると、「順調に進めることができた」と回答した人は52人（76.5%）

受講状況	人	%
順調に進めることができた	12	17.6
ほぼ順調に進めることができた	40	58.8
あまり順調に進めることができなかった	11	16.2
順調に進めることができなかった	4	5.9
その他	1	1.5
全体	68	100.0

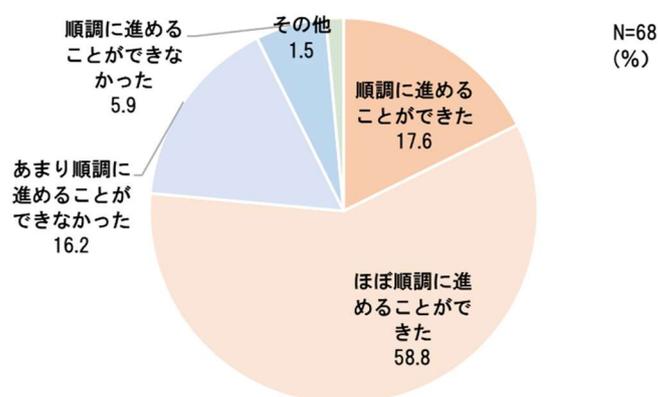


図 8-5 受講状況 「入門的研修」

■ 入門的研修の評価

入門的研修の受講について、介護のどのようなことに役立つと思うかと複数回答で尋ねたところ、「自分の親や家族、知人などの介護」がトップ（83.8%）。次いで「介護関連のボランティア」（47.1%）、「介護に関する資格取得」（39.7%）（同 34.4%）の順となった。
「介護業界への就職・転職」と回答した人は17人（25.0%）。

研修実用度 (複数回答)	人	%
介護業界への就職・転職	17	25.0
介護職員としてのスキルアップ	4	5.9
自分の親や家族、知人などの介護	57	83.8
介護関連のボランティア	32	47.1
介護に関する資格取得	27	39.7
その他	5	7.4
全体	68	100.0

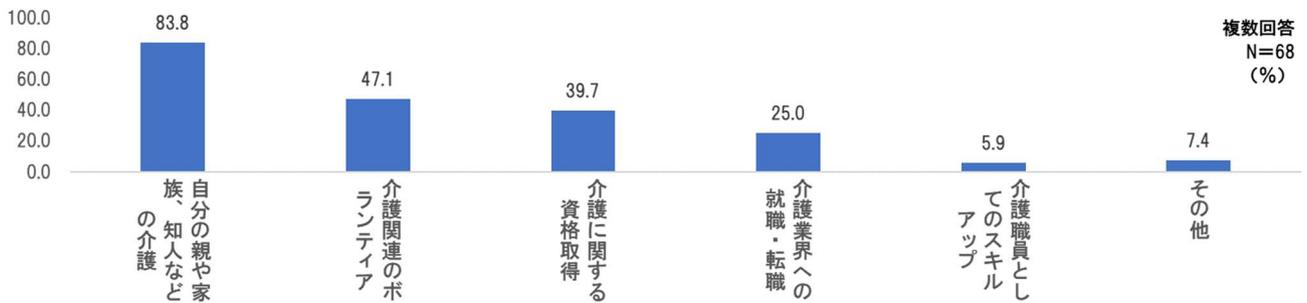


図 8-6 実用度 「入門的研修」

入門的研修について「目的達成度」「動画のわかりやすさ」「1本あたりの長さ」の3つの項目軸について、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価をしてもらったところ、8割以上が肯定的となっており、全体としておおむね肯定的な評価となった。

「1本あたりの長さ」に「ややそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した5人に、1話30分は「長い」と感じたのか「短い」と感じたのかと尋ねたところ、「1話30分は長いと感じた」との回答が得られた。

	上段：人 下段：% 単一回答	全体	非常に そう思う	やや そう思う	わからない	やや そう思 わない	ま ったく そ う 思 わ な い
研修は、自分の目的を達成させるような内容だった		68	30	31	5	2	0
		100.0	44.1	45.6	7.4	2.9	0.0
研修動画の内容はわかりやすいものだった		68	39	27	2	0	0
		100.0	57.4	39.7	2.9	0.0	0.0
研修動画1本あたりの長さ（30分）は適切だった		68	33	25	4	5	1
		100.0	48.5	36.8	5.9	7.4	1.5

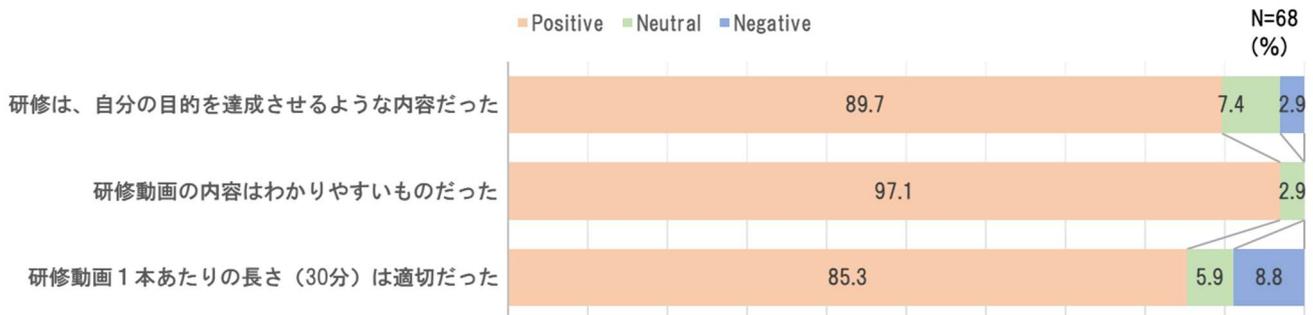


図 8-7 コンテンツ評価 「入門的研修」

入門的研修を受講することによって、研修の内容について「理解できた」から「理解できなかった」まで5段階に分けて聞いたところ、「理解できた」と答えた人は14人(20.6%)。「ほぼ理解できた」とした50人(73.5%)と合わせて、研修の内容を理解できた人は64人(94.1%)であった。

理解度	人	%
理解できた	14	20.6
ほぼ理解できた	50	73.5
どちらともいえない	3	4.4
あまり理解できなかった	1	1.5
理解できなかった	0	0.0
全体	68	100.0

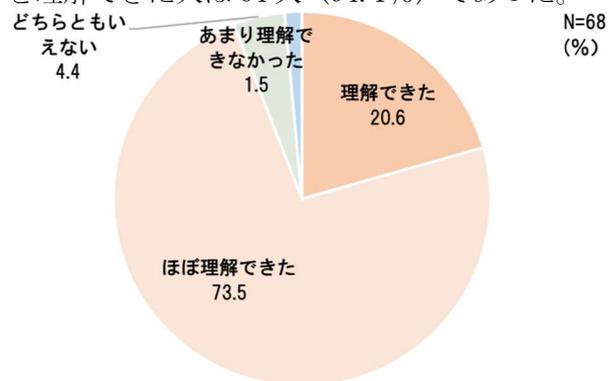


図 8-8 研修の内容への理解度 「入門的研修」

続いて、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

研修前に比べて「『介護』への興味関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は24人(35.3%)。「ほぼあてはまる」とした26人(38.2%)と合わせて、「介護」への関心が高まったのは人(63.3%)であった。

	全体	上段：人 下段：% 単一回答				
		大いにあてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	あてはまらない	全くあてはまらない
研修前に比べて、「介護」のイメージが良くなった	68	24	26	18	0	0
	100.0	35.3	38.2	26.5	0.0	0.0
研修前に比べて、「介護」への興味関心が高まった	68	22	35	11	0	0
	100.0	32.4	51.5	16.2	0.0	0.0
研修前に比べて、「介護」の知識をもっと得たいと思うようになった	68	27	37	4	0	0
	100.0	39.7	54.4	5.9	0.0	0.0

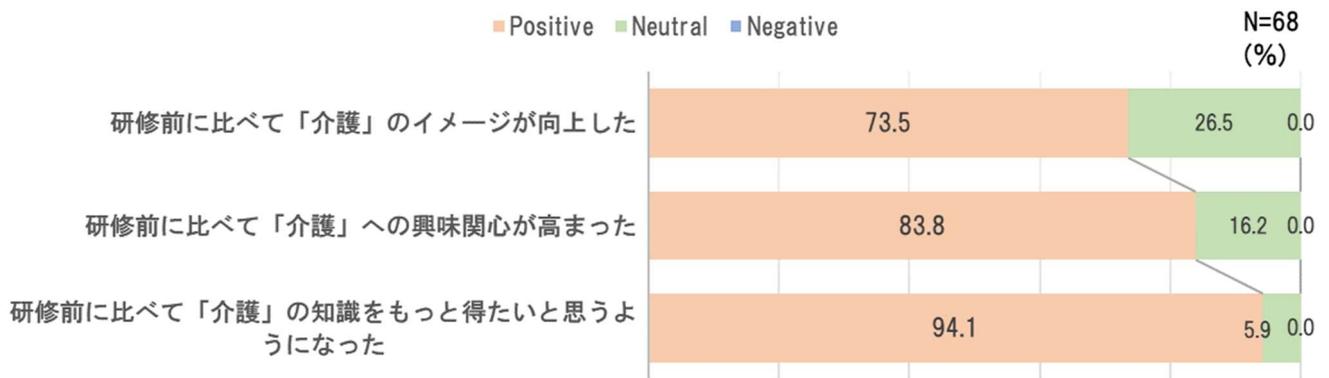


図 8-9 研修による意識変容（介護） 「入門的研修」

「入門的研修」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する 9 項目について、5 段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

研修前に比べて『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は 18 人（26.5%）。「ほぼあてはまる」とした 35 人（51.5%）と合わせて、「介護のしごと」への関心が高まったのは 53 人（77.9%）であった。

	全体	大いに あてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼ あてはまらない	全く あてはまらない	上段：人 下段：% 単一回答
研修前と比べて、「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	68	18	35	15	0	0	
	100.0	26.5	51.5	22.1	0.0	0.0	
研修前と比べて、「介護の仕事」への関心が高まった	68	19	28	20	1	0	
	100.0	27.9	41.2	29.4	1.5	0.0	
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じた	68	12	37	17	1	1	
	100.0	17.6	54.4	25.0	1.5	1.5	
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	68	7	32	26	2	1	
	100.0	10.3	47.1	38.2	2.9	1.5	
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	68	36	28	4	0	0	
	100.0	52.9	41.2	5.9	0.0	0.0	
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	68	13	30	25	0	0	
	100.0	19.1	44.1	36.8	0.0	0.0	
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	68	22	38	8	0	0	
	100.0	32.4	55.9	11.8	0.0	0.0	
「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	68	6	14	38	8	2	
	100.0	8.8	20.6	55.9	11.8	2.9	
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	68	26	36	6	0	0	
	100.0	38.2	52.9	8.8	0.0	0.0	

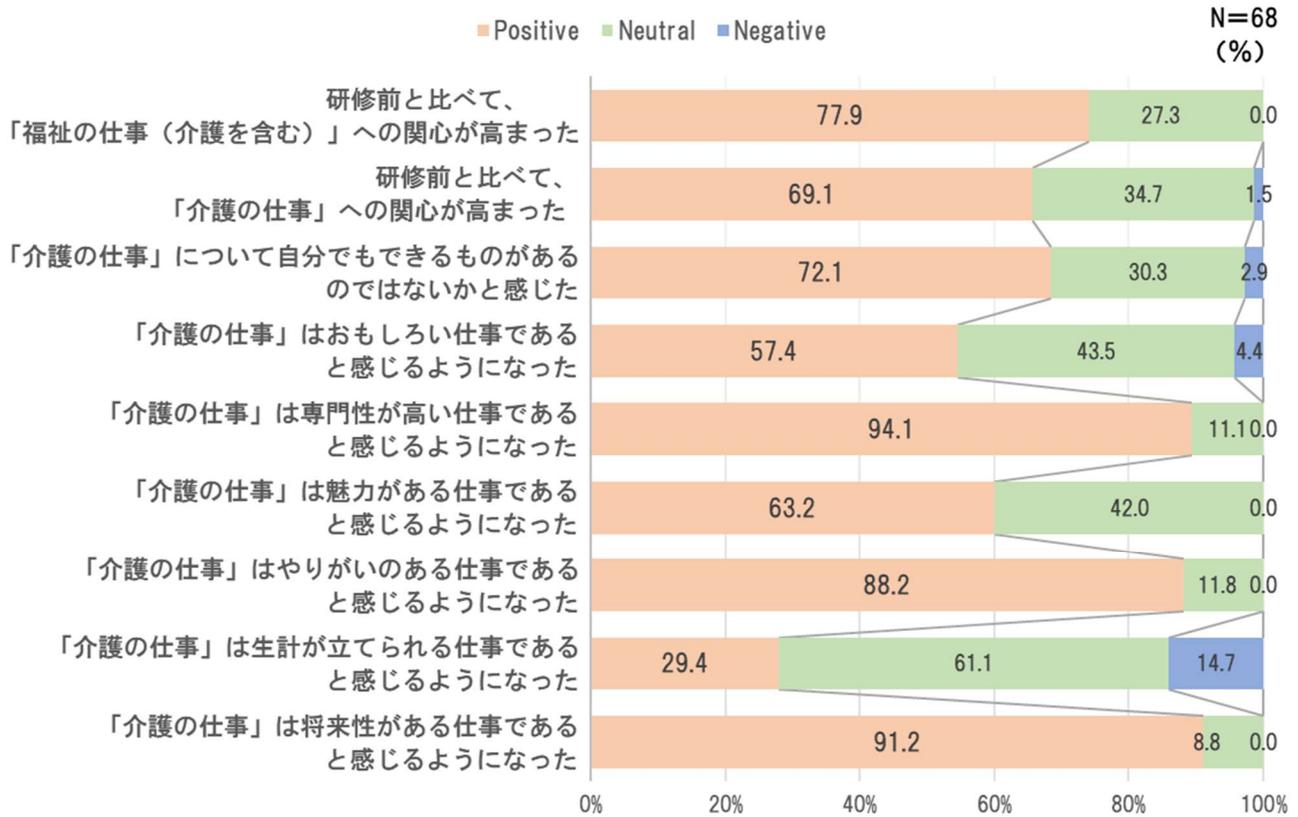


図 8-10 研修による意識変容（介護の仕事） 「入門的研修」

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する 6 項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで 5 段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	い し て み た	積 極 的 に み たい	機 会 が あ れ ば し て	も ど ち ら で も な い	く な い 実 施 し た	あ ま り く な い 実 施 し た
自分の親や家族、知人などへの介護に携わる	68	37	26	5	0	0	
	100.0	54.4	38.2	7.4	0.0	0.0	
自分の親や家族、知人などと、将来の介護に備えて話し合いをする	68	34	32	2	0	0	
	100.0	50.0	47.1	2.9	0.0	0.0	
「介護の仕事」をしている人と話す	68	18	40	10	0	0	
	100.0	26.5	58.8	14.7	0.0	0.0	
「介護」に関する記事や番組などを見る	68	28	38	2	0	0	
	100.0	41.2	55.9	2.9	0.0	0.0	
「介護」に関するイベントに参加する	68	8	42	17	1	0	
	100.0	11.8	61.8	25.0	1.5	0.0	
「介護」に関するボランティアに参加する	68	6	43	16	3	0	
	100.0	8.8	63.2	23.5	4.4	0.0	

	全体	上段：人 下段：% 単一回答				
		い して みた 積 極 的 に	み た い れ ば し て 機 会 が あ る	も ど ち ら で な い	く な い 実 施 し た あ ま り	く な い 実 施 し た
別の介護の研修（生活援助従事者研修・介護職員初任者研修など）	68	16	33	13	4	2
	100.0	23.5	48.5	19.1	5.9	2.9
「介護の仕事」に関する情報を集める	68	12	31	18	5	2
	100.0	17.6	45.6	26.5	7.4	2.9
「介護の仕事」関連の就職説明会や就職フェアなどに参加する	68	5	18	31	8	6
	100.0	7.4	26.5	45.6	11.8	8.8
介護事業所を見学する	68	5	33	23	4	3
	100.0	7.4	48.5	33.8	5.9	4.4
介護事業所の求人へ応募する	68	5	33	23	4	3
	100.0	7.4	48.5	33.8	5.9	4.4
「介護の仕事」を人に勧める	68	3	14	48	1	2
	100.0	4.4	20.6	70.6	1.5	2.9

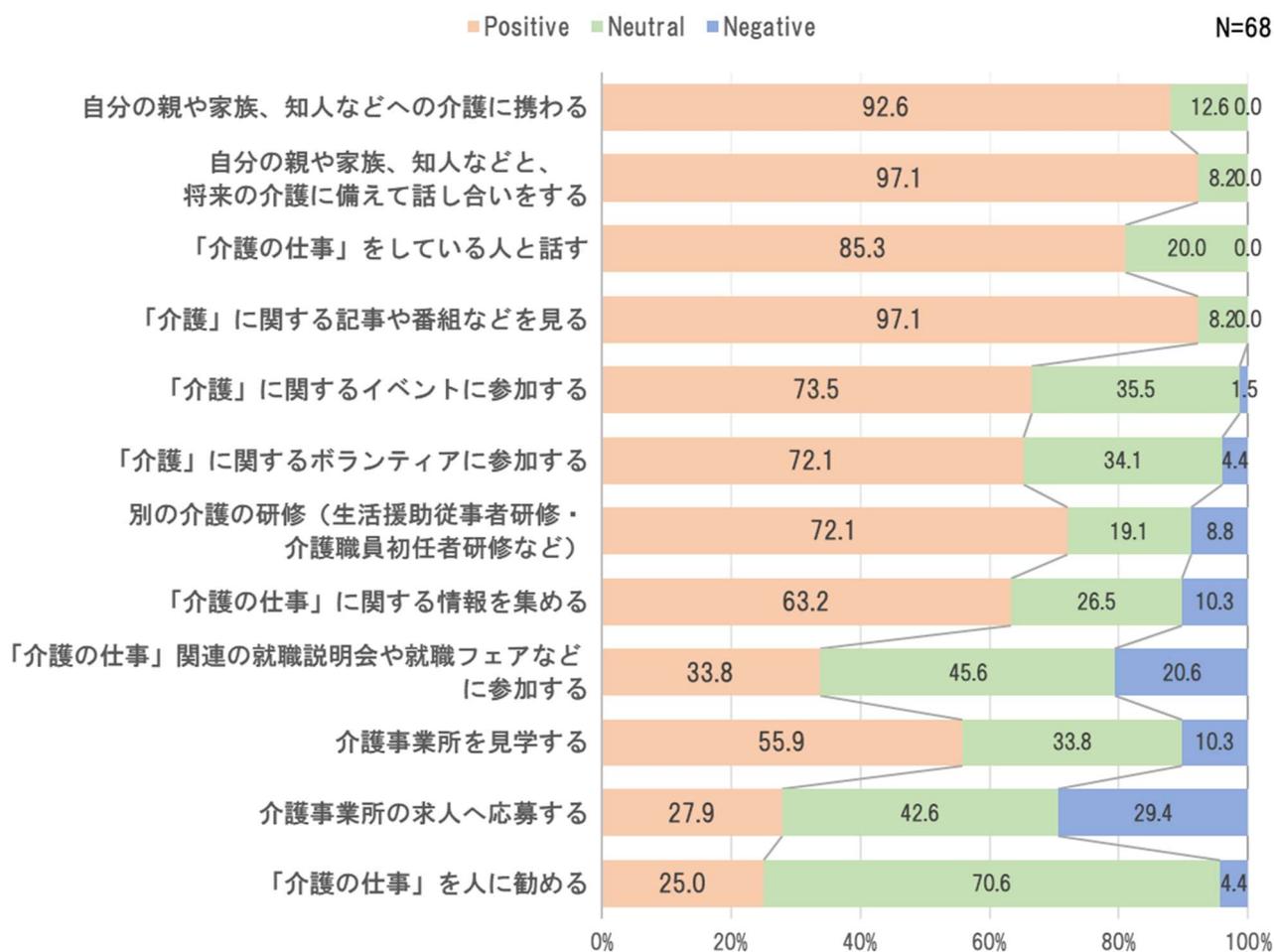
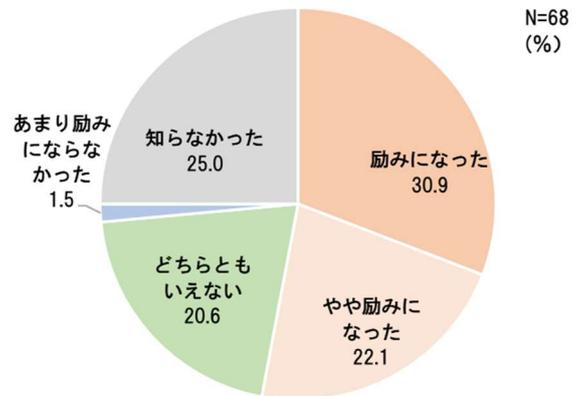


図 8-11 研修による行動変容 「入門的研修」

■ 設問「ファンコミュニティ「ゆうゆう Life (※)」は受講の励みになりましたか」

「ゆうゆう Life コミュニティ」は入門的研修の受講の励みになったか尋ねたところ、「励みになった」と答えた人は21人(30.9%)。「やや励みになった」15人(22.1%)を合わせると、受講の励みになったと回答した人は36人(52.90%)だった。



「ゆうゆう Life コミュニティ」は受講の励みになったか	人	%
励みになった	21	30.9
やや励みになった	15	22.1
どちらともいえない	14	20.6
あまり励みにならなかった	1	1.5
励みにならなかった	0	0.0
知らなかった	17	25.0
全体	68	100.0

図 8-12 「ゆうゆう Life コミュニティ」は受講の励みになったか

■ 設問「あなたは同じ研修を受けている受講者と交流ができるコミュニティサイト「ゆうゆう Life」があったことについて、どのように思いましたか」(自由回答)

「ゆうゆう Life コミュニティ」に対する主なコメントなどは、以下の通りであった。

回答内容

「励みになった」「やや励みになった」と回答

- ・良いと思いました(40代女性/会社員)
- ・心強い(40代女性/パート・アルバイト)
- ・今のところ交流するまでには至っていないので、特には何も感じていませんが、その時が来たら支えになるかもしれません(40代女性/専業主婦)
- ・とてもいいと思う、もう少し早く知っていれば(40代女性/無職)
- ・思っていた介護の現場とはことなり、介護する側、される側が負担の無いように工夫がされているのがわかり、よかったです(40代女性/その他)
- ・息抜きにもなったし、実際に行ってる様子を見ることができて、わかりやすかった(50代女性/会社員)
- ・介護の仕事をする橋渡し役になってると、思います。現場に対して、きついイメージがありますが、働く人と現場のイメージが変わりました(50代女性/会社員)
- ・ほっとできるのではないかと(50代女性/パート・アルバイト)
- ・お互いの励みになりそう(50代女性/パート・アルバイト)

- ・励みになります(50代女性/専業主婦)
- ・情報交換や共有ができるという点で、価値あるものだと思った(50代女性/専業主婦)
- ・正直、交流ができるというより体験談としてしか認識ができなかったがモチベーションにはなると思う(50代女性/無職)
- ・今回の研修でこのようなコミュニティサイトがある事を知って良かったです(60代女性/専業主婦)
- ・同じ研修を受けている方々の考えなども共有出来るのはとても有益な情報でとても良いと思いました(70代男性/パート・アルバイト)
- ・まだウェブサイトを確認しておりませんが、良いことだと思います。余裕があるときに見てみたいと思っております(70代女性/専業主婦)
- ・マイペースで進めていたので利用しなかった(70代女性/専業主婦)
- ・何らかの形でサポートになることはいいことだと思います。漫画がとてもよくて、心に伝わります(50代女性/会社員)
- ・とても良い交流場所だと思います。webにて介護現場、資格取得等の情報も確認できて、ありがたいと思います(50代女性/パート・アルバイト)
- ・そういう場があるのはいいことだと思った(50代女性/パート・アルバイト)
- ・初めて知りました。実体験を聞く機会は大変参考になりました(50代女性/専業主婦)
- ・介護についてわからないことがたくさんある中色々な方面から色々な方の声が聞けるのはとても良かったです(50代女性/無職)
- ・これからサイトをゆっくり読んでみたい(60代男性/公務員)
- ・介護職に就くまで様々な経緯や人物が居ると感じました。介護職に就いている人も多く感じます(60代男性/無職)
- ・誇りを持っている方がいらっしゃるのによく分かりました(60代女性/会社員)
- ・合間に流れるマンガを見ていて、同じ感情を持ってしまったことがあったな、と思ったところもあり、自分だけではないのだと知ることができました。もういちど、ゆっくりとサイトを見てみたいと思います(60代女性/専業主婦・主夫)
- ・今後なにか相談したいときに利用できることを知っておけるのは有意義だと思った(70代女性/専業主婦)

「どちらともいえない」と回答

- ・情報交換の場として良いと思う(20代女性/無職)
- ・悩み事など相談できていいと思う(40代女性/会社員)
- ・なかなか介護について話し合う場はなかったので、よいと思った(50代男性/会社員)
- ・話を聞く分にはいいと思うが、自身が経験者でないため、中々ハードルが高かった(50代女性/会社員)
- ・実際に交流サイトを利用していないが、情報交換等ができることは、励みにもなり良いと思う(50代女性/会社員)
- ・活用できたらよいと思いました(50代女性/自営業・自由業)
- ・そういったものがあると励みになるとは思いました(50代女性/パート・アルバイト)
- ・困難や迷いが生じたときに励みになる。モチベーションの維持継続に役立つ(50代女性/専業主婦)
- ・研修動画の合間に、実際の現場の声を1分程度入れてくださっていたことで、介護されている方の気持ちを聞けたり、介護者の前向きに取り組んでいる姿を見てすごく励みになりました。そのような記事を書いているサイトなのだと思っておりました。同じ研修を受けている受講生と交流ができるコミュニティサイトであることは、今初めて知りました。メールの文面で読み取れなかった私が悪いのですが、研修動画でもそのように紹介していただけたら、次年度の研修生は、よりやる気を出して受講できると思いました(60代男性/パート・アルバイト)
- ・対面講習と違い、WEB講習は一方通行になりがちになる可能性が高いので、「ゆうゆう Life」があることで色々な思いを共有することができるという点でとても良いと思います(60代女性/パート・アルバイト)
- ・みんなが置かれている状況が違うので、必要不必要に関わらず、情報交換が出来る場を設けることは非常に大切だと思う(70代男性/無職)
- ・余裕がなく利用できませんでした。もっと知りたかったです(不明女性/会社員)

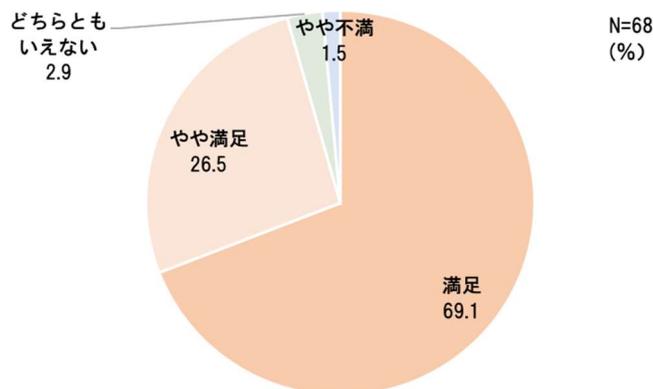
「あまり励みにならなかった」「励みにならなかった」と回答

- ・まだサイトをよく活用していないので、分からない。これから参考にしたい

「知らなかった」と回答

- ・介護の仕事への興味がわく内容でした(30代女性/その他)
- ・孤立感がなく、とても良いと思います(40代女性/会社員)
- ・挫けそうになったとき、はげみになると思う(40代女性/パート・アルバイト)
- ・実践に入る際や入ってからの参考になる場と想像します(40代女性/専業主婦)
- ・あまり関心はありません(50代女性/会社員)
- ・知っていたら親しみ持てて受講できたような気がします。きっと(50代女性/パート・アルバイト)
- ・画面ロックばかりで、そもそも「ゆうゆう Life」自体を見る余裕がなかったので思いつかない(50代女性/パート・アルバイト)
- ・知らなかったなので、交流出来なかったが、特に困らなかった(50代女性/専業主婦)

入門的研修に参加したことについて、「満足」から「不満」まで5段階に分けて聞いたところ、「満足」が47人(69.1%)で、「やや満足」の18人(26.5%)と合わせて、全体の9割以上が満足感を得ていた。



満足度	人	%
満足	47	69.1
やや満足	18	26.5
どちらともいえない	2	2.9
やや不満	1	1.5
不満	0	0.0
全体	68	100.0

図 8-13 満足度 「入門的研修」

■ 設問「今回の研修について、ご意見ご感想がありましたら、教えてください」（自由回答）

「入門的研修」に対する主なコメントなどは、以下の通りであった。

回答内容

- ・実務経験豊富な方々からの分かりやすい解説で、最後まで受講することができました。ありがとうございました。もっとこの研修とゆうゆう Life の存在を周知してほしいです(40代女性/会社員)
- ・家族で介護が必要になった時期だったのでとても役に立ちました。またやりたいなと思っていた介護の仕事への意欲を後押ししてもらえました。ありがとうございました(40代女性/会社員)
- ・両親が存命中に学びたかった。年齢的に制約もあると思いますが、何らかの形で役立てればと思いました。ありがとうございました(40代女性/パート・アルバイト)
- ・今回の研修で学んだ内容は、いずれ誰にでも降りかかる問題なので、義務教育のカリキュラムに取り組んで欲しい(子ども達にも学ばせるべき)と思った(40代女性/パート・アルバイト)
- ・オンラインで自分の好きな時間に勉強できて、効率良く楽しく学べてよかった(40代女性/専業主婦)
- ・介護の仕事の素晴らしいイメージは、今回の研修前から抱いていたものと変わりありません。介護関連の活動は自分自身の残りの人生に積極的に生かせるものと、改めて確信しています。今後は是非活かしたいと思います。良い研修の場を用意いただき有難うございました(40代女性/専業主婦)
- ・更に勉強してみたいと思います(40代女性/無職)
- ・別のオンライン講義をいつも受けていますが、講師が話すだけであったので今回の対話が新鮮で逆に頭に入りやすかった部分が多くありました。また、多少なりとも医療に関わっているので当たり前と思っていたことが、講師への質問などを聞くとそこが疑問になるのか！と思わされる事が多々あり、今後の患者さんとの対話の注意点として参考になりました。即実践できたのは車椅子の操作方法でした。ご家族がうまく操作できなかつたところに遭遇し、操作方法を伝えることが出来ました(40代女性/その他)
- ・現在親の介護をしているため、興味深い内容が多く、ためになった。得られた知識を元に介護に取り組んで行きたいと考える(50代男性/会社員)
- ・顔認証ができず、止まってしまうことが多かったので、時間がかかってしまうストレスを感じました。また動画内で介護補助の仕方やストレッチを教えてくださいなのに、一緒に行おうとすると、やはり止まってしまうので、全然見ながらできなかつたので、顔認証の制度はどうかと思いました(50代女性/会社員)
- ・とても貴重な学ぶ機会を頂きありがとうございました。今後家族などの介護に役立てたいと思います。また、近い未来、自身の時間が余裕ができたときには、何かボランティアなどを行えればと思います。ありがとうございました(50代女性/会社員)
- ・動画に視聴期限がありますが、特に実技的な回は後で見返したいと思いました(50代女性/会社員)
- ・専門的な内容を、初心者でも分かりやすく親しみやすくお話して下さった全ての先生方に感謝しています。また、テキストの充実度は想像以上の驚きでした。介護する・されるは、誰でも何歳でも起こりうることを再認識できて、とても有意義な研修でした。ありがとうございました(50代女性/会社員)
- ・デバイスがひとつだけというのが不便でした。顔認証が横向きだと機能しなくて、不便でした。介護の仕事からみた介護の世界を見ることができたのは新鮮でした(50代女性/自営業・自由業)
- ・想像よりも遥かに奥が深く勉強になった(50代女性/パート・アルバイト)
- ・母を自宅でワンオペ介護しています。日々の介護に少しでも役立てたいと思い受講し、大変勉強になりました。仕事もあるので、自宅で受講できるのはありがたかったです(50代女性/パート・アルバイト)
- ・大変勉強になりました、特に認知症の知識。また高齢者だけでなく、障害者の介護についても触れていて、よかったと思います。テキストにポイント、重要点等を記載され、色分けでとても分かりやすいです。『プロのテクニック』のような介助実践、介護現場をもう少し動画映像があればありがたいと思います。このようなオンライン研修機会を設けて頂きまして、本当にありがとうございました。介護に関することをもっと勉強していきます(50代女性/パート・アルバイト)
- ・実際に学んでみると何となくしかわからなかつたことや実際にこうすれば良いのかととてもために

- なったし参考にもなりました。こういった機会がありとても良かったです。もう少し学んでみたいとおもいました。ありがとうございました(50代女性/パート・アルバイト)
- ・引き続き介護の知識について、機会があれば、情報収集したいとは、思っています(50代女性/パート・アルバイト)
 - ・このような機会を与えてもらい感謝しています。介護について皆さん何らかの関心があると思いますので、今回のような研修を積極的にPRしてほしいです。レベルアップの研修もお願いいたします(50代女性/パート・アルバイト)
 - ・研修させていただきありがとうございました。多くの学びがありました。今後活かしていければと思います。また再度機会があれば学び続けたいです(50代女性/専業主婦)
 - ・基本的知識の修得ができ、親の介護や将来の自分のときに役立てそうです。価値あるご指導をどうもありがとうございました。折角の視聴覚教養ですので、講師や受講生の御姿映像よりフリップを多用するなど、視覚を活用できるものになると効果が高いと思います。視聴中、音声を聴きながらテキストを見ていると、映像が度々停止してしまいます。何か改善策があると良いですね。今後、生活援助従事者研修も受講したいのですが、いろいろ開催状況を探すもその機会が少ないようです。開催頻度の向上について、どうかご検討をお願いします(50代女性/専業主婦)
 - ・長さですが、1本20分程度が適切かと思いました。そうすれば気になった場所に戻り部分再視聴する余裕があったかもしれません。寝る前の深夜視聴がメインだったので、同日にふりかえり視聴する余裕がありませんでした。また、進行役との対話形式よりも先生の講義のみの方が私にとっては講義に集中できるように思いました(50代女性/専業主婦)
 - ・介護職員による暴行で、知人が亡くなりました。粗暴な人間が介護現場にもぐりこんでいるとしか思えません。介護の現場には人手不足のせいで適性のない人まで入り込んでいるように思いながら、受講していました(50代女性/専業主婦)
 - ・研修を受ける動機は、自宅での妻の介護をより良くしてあげるためにです。受講しながら思ったことは、もっと早くこの様な研修を受けとけばよかった。そして自分の今までの介護の仕方が根本的に間違っている事に気づかされ、とても悔しい思いをしております。この研修を受けて介護を受ける身になって対応する様に心がけるようになりました。受講当初は、まずは一日最低15分テキストを予習しその後研修動画をみて、次の日にその復習をする流れで行きました。最後まで受講できるかなと不安でしたが、何とか最後まで受講出来ました。復習の為これからも研修動画を繰り返し見ていきたいと思えます。講師の皆様中村さんスタッフのみなさんありがとうございました
 - ・皆がこの研修の知識を持つ事で住みやすい暮らしができてくるのではないかと。北欧の福祉を羨ましがらるだけではなく、自分達も築いていける国になって欲しい。10歳若ければ仕事を探したかもしれません、残念(60代男性/公務員)
 - ・介護の制度から、高齢の体のこと、介護補助動作の仕方など、多岐に渡って知ることができ、大変勉強になりました。受講が思うように出来ず、遅くなってしまいましたが、期間を延ばして視聴させて下さりありがとうございました。1点だけ、研修についての意見があります。顔がしっかりカメラに映らないと視聴できない事が少し大変でした。家事をしながら聞くことができなかつたり、少し画面が遠いと反応してくれなかつたり、先生方のお言葉のメモを取っていると、動画が何度も止まってしまったことが少し大変でした。研修の向上に役立てて下さればと思います。一昨年の冬から母が介護が必要な状態であり、どうサポートしたら良いのか、自分なりのやり方しか分かりませんでしたが、今回の研修をさせていただいたおかげで介護の基礎が分かったので、これから活かしていきたいと思えます。山出先生が、「生命活動をしていることは『できること』だと考えていい。介護される方でも『できること』はたくさんあるんだ。」とお話されていたことに、とても感銘を受けました。どうしても『できなくなったこと』がどんどん多くなり、母も落ち込んでいたので、その話をしたところ、「介護のお仕事をされている方はそうやって考えてくれているんだ。自分もそう考えていいんだ。まだまだ『できること』たくさんあったわ」と感動してました。研修を受けられてとても良かったです。ありがとうございました。(60代男性/パート・アルバイト)
 - ・コロナ禍で、一般企業に勤めながら、土日に高齢両親のサポートをしてきて、かなりいっぱいっぱいの部分があり、そんな時、横浜の広報誌でこの講習会をみて応募しました。12月は仕事の関係で中々進めることができなかつたのですが、一回一回進めていくうちに、自分が疑問におもって

- いたこと、悩んでいたことが自分の中で解決でき、両親のサポートも別の感覚でとらえる事ができるようになった気がします。今回のテキストは、大切にし、煮詰まった時等読み直したいと思いません。良い機会をいただき大変ありがとうございました(60代女性/パート・アルバイト)
- ・研修内容はテキストだけでなく映像でも学べるので隙間時間で学習出来たのでとても良かった。昨年母が倒れ要介護3になり、今は特別養護老人ホームに入所して状況で自分には何が出来るのかと考える中この研修を受ける事出来て介護についてとても前向きな考えが生まれ、これからもし機会があれば介護に関わる仕事に関われたと思っています(60代女性/専業主婦)
 - ・介護への印象が大きく代わり私でも出来ることからやってみようと考えられました(70代男性/パート・アルバイト)
 - ・さらなる資格取得出来る様なプログラムを作って動画でアップしてもらいたいです。今回の研修は私にとって新しい発見でもあり、世の中に介護、福祉をひろめてやりがいのある仕事とアピールしていきたいです(70代男性/パート・アルバイト)
 - ・仕事をしながらの視聴だったので、オンラインでの研修は非常に有意義でした。時間や場所も気にせず、隙間時間などに視聴できるのがとても便利でした。資格取得とは関係なく、いつでもこのような動画を見ることが出来たら、理解を深められるのではないかと思います。今まで、介護や認知症はイメージでしか理解できていませんでしたが、今回の動画の視聴で実際にようやく理解でき、大変勉強になりました
 - ・動画を見ながらメモを取ろうと下を向くと動画が止まってしまう、煩わしかったです。また、聞き逃したところを再度聞きたくても動画を戻すことができず、最初から通して見直さなければならず、大変不便だと思いました。改善いただけると、更にストレスなく勉強できるように思いました(70代女性/専業主婦)
 - ・最初の章から頭で考える正解を求めるのでは無く高齢者の立場に立って寛容な回答で目から鱗でした。現在高齢の母を今後どの様な選択肢の中で介護を進めていけるのか分かり早速地域支援センターへ出向き介護申請が出来ました。そして現在入居中の高齢者住宅への理解にも繋がりました。誰もが避けて通れない高齢化に対して様々な専門職の方々が関わりて手助けしてくださっている事に勇気を頂きました(70代女性/専業主婦)
 - ・介護について、自分が知らな過ぎたことを実感する良い機会となりました。なんでもやってあげることが介護ではなく、自分でできるように助けてあげること、これが介護などだということが、私にとっての一番の学びでした(70代女性/専業主婦)
 - ・福祉・介護に関わる多岐にわたる内容が散りばめられていて、大変勉強になりました。中村さん、先生が温かく楽しい研修でした。みちえさんの漫画も楽しみでした(不明女性/会社員)
 - ・先述しましたが自分は高齢者で介護受けることもそう遠い時期でもないと思います。しかし介護受ける身であっても、介護する立場の方の知識を少しでも持っていれば介護はそれなりに順調に捗るのではないかと思います。この研修は介護を行う事を目指している方のみならず、一般人にも学生にも役立つ研修です…とと思いました。高齢化が進みますます介護を要する人が増えるようですが、介護する方される方、大いに知識を持つべきであると思いました
 - ・軽い好奇心で(勉強になれば)と思い、受講したが、テキストはわかりやすく、これからも大事に読んでいこうと思う。このような研修の存在も知らなかったのもっとアピールしても良いと思う。今後、介護職員初任者研修を希望しているが、今回の修了が(単位としては)あまり活かさない印象があるのが残念。最後に、キャスター?の方の言葉遣いは気になった。講師の方に対しての、ため口等、態度はいかがなものかと思った
 - ・介護の全体像が見えて分かり易かった。(20代女性/無職)
 - ・親の介護に備えて研修を受講しました。制度や実際の介護方法?など、とても有益でした(40代女性/会社員)
 - ・各研修の最後の部分はいつも同じで、でもそれを見ないと終わらないのは、不便(40代女性/パート・アルバイト)
 - ・今すぐ介護の業務に携わらなくても役に立つ幅広い内容でした。受講して良かったと思いました(50代男性/会社員)
 - ・とても幅広い内容でした。介護職のみならず、すべての人に見ていただきたい内容だと思います。特に前半の講義です。家族の介護が必要になる前のある程度の知識は必要ですがこの研修の最初の

ところは必要になる前に知っておきたい内容でした(50代女性/会社員)

- ・余談ですが、バックに流れていた音楽のボリュームが大きかった為、会話の内容が聞き取りづらい回がありましたので、改善をお願い致します(50代女性/会社員)
- ・介護を受ける側のわがままと思われることが、実は老化や認知症が原因となってることも多いと知りました。わが身の事として考えなければならぬ事が多そうです(50代女性/会社員)
- ・やりがいのある仕事だということ、他分野の専門家がタッグを組んで初めて成り立つ世界だということがよく分かった。体力のない自分にも出来ることがあるかもしれないので考えてみたい(50代女性/無職)
- ・介護に携わる多方面の職種の方の講習が受けられてとても良かったです。今回受講が始まってすぐに介護の仕事を始めることになったのですが、まだまだ知らない事もたくさんありとても役に立ちました。今後さらに勉強していきたいと思いました。動画に関しては、スマホを手持ちで受けていたので顔認証でたびたび動画が止まってしまっていて少しもどかしかったです。受講生役の方が的外れなコメントをしたり先生の話の遮ったりするのが気になりました。スライドと先生のお話だけの方が集中できて良いような気がしました(50代女性/無職)
- ・現在、訪問歯科の歯科衛生士として高齢者施設で口腔ケアや診療補助の仕事をしています。日々、高齢者と接するので仕事の一助となればと思い受講しました。特に移乗や寝返り、ストレスについての講座が興味深かったです
- ・受講生役の方が、軽い受け答えなのが気になりました。介護のイメージを軽く捉えて欲しい狙いなのかわかりませんが、笑う所ではないところでへらへら笑ったりしているのを見ると、少し不快でした。実際家族が認知症で、こちらは真剣に悩んでいる中、こういった研修を見つけて受講に至ったわけで、知らない事とはいえ、笑われていると、馬鹿にされている気分になりました。講師の方のご意見は、体験談も含め、とても参考になりました(60代女性/会社員)
- ・介護に関する情報を家族で共有したいと思います(60代女性/パート・アルバイト)
- ・自分の親の介護に、もっとやれるべきこともあったかな、と考えました(60代女性/専業主婦)
- ・夫の介護に直面する前に受けておきたかった(70代女性/無職)
- ・今回の研修とても有難かったです。講師の先生方が素晴らしく、人としての生き方を教えて頂きました。ゆうゆう Life では、全国で介護に関わる人の、生活や環境なども覗かせて頂き、皆さんと繋がっているという元気を頂きました。人との繋がりはとても大切で、私も積極的に関わっていきたくと思いました。最初の設定で、戸惑ったり、講座の途中全く繋がらなくなったりして思うように進まなかった時がありました。Webでのこういう講座は初めてでしたが、色々、経験していこうと思います。ありがとうございました(50代女性/会社員)
- ・オンラインでは何も学習出来なかったもので、テキストでやり直します。そんな中、システム設定でお世話になりました。また、画面ロックの相談などありがとうございました。システム不信に陥り辛い42話でした。次回は性善説に則ったシステム構築をお願いします(50代女性/パート・アルバイト)

10.2.8 きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」

(1) 調査の概要と目的

ファンコミュニティ「きっかけ」の登録者がファンコミュニティ内での双方向での情報交換などにより、『介護の仕事』への興味や気づきを広げることができたか』についての効果検証のため、ユーザーを対象にしたウェブ調査を実施し、その結果を分析することとした。

調査の概要は以下の通り。

- 調査方法 インターネット調査
- 実施機関 クオン株式会社
- 実施期間 2023年2月8日(水)~2023年2月16日(木)
- 調査対象 きっかけコミュニティ登録者 有効回答 558人

(2) 調査集計

■ 回答者属性

調査対象 558 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	213	38.2
女性	343	61.5
無回答	2	0.4
全体	558	100.0

年齢	人	%
10代以下	3	0.5
20代	24	4.3
30代	136	24.4
40代	110	19.7
50代	122	21.9
60代	100	17.9
70代	55	9.9
80代以上	8	1.4
全体	558	100.0

職業	人	%
会社員	192	34.4
公務員	15	2.7
自営業・自由業	38	6.8
会社役員・経営者	10	1.8
パート・アルバイト	108	19.4
専業主婦・主夫	86	15.4
学生（上記以外）	19	3.4
無職	84	15.1
その他	6	1.1
全体	558	100.0

子どもの有無&末子の学齢	人	%
子どもはいない	222	39.8
末子（未就学児）	52	9.3
末子（小学校低学年（1～3年生））	59	10.6
末子（小学校高学年（4～6年生））	15	2.7
末子（中学生）	11	2.0
末子（高校生・高専生）	19	3.4
末子（大学生・大学院生・短大生・専門学校生などの学生）	22	3.9
末子（社会人・その他）	158	28.3
全体	558	100.0

「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	204	36.6
自分が介護される立場（だったことがある）	17	3.0
介護の現場でボランティアや実習などを行っている（したことがある）	54	9.7
介護の仕事をしている（したことがある）	33	5.9
介護に関する勉強をしている（勉強したことがある）	61	10.9
自分の介護のことに興味がある	97	17.4
親や家族などの介護のことに興味がある	241	43.2
その他、介護との関わり・興味がある	56	10.0
該当するものはない	123	22.0
全体	558	100.0

回答者の内訳は、女性 343 人 (61.5%)、男性 213 人 (38.2%)。世代は 30 代 (24.4%) を中心に、50 代 (21.9%)、40 代 (19.7%) と続く。職業は「会社員」(34.4%)、「パート・アルバイト」(19.4%)、「専業主婦・主夫」(15.4%) の順。子どもがいる人は 381 人 (60.2%)。

介護との関わりについては「自分の親や家族などの介護をしたことがある」人が 204 人 (36.6%)、「自分や家族などの介護のことに興味がある」人が 241 人 (43.2%)。なお、介護との関わりがない人は 123 人 (22.0%)。

●アンケート結果のサマリー（要約）

■きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」評価

きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」への満足度や評価について、本アンケートに回答する前から、きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」に参加していたユーザー（既存ユーザー）371人から回答を得られた。

きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」に参加して満足しているかどうか、「非常に満足している」から「全く不満していない」まで5段階に分けて聞いたところ、「非常に満足している」が59人（15.9%）で、「満足している」の149人（40.2%）と合わせて、半数以上が満足感を得ていた。

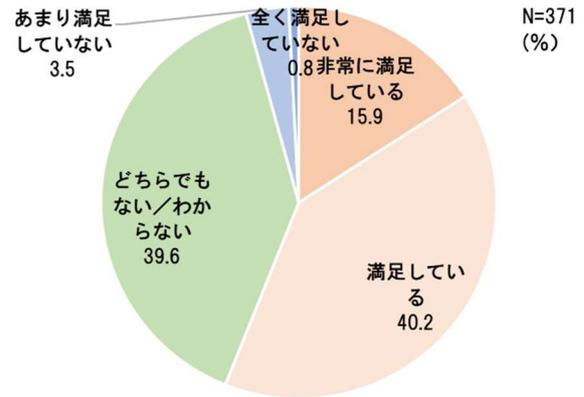


図 9-1 満足度 「ゆうゆう Life コミュニティ」 (既存ユーザー n=371)

続いて、介護へ関心の高まり、介護への理解の深まりなど「介護」に対する意識変容に関する3項目について、5段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

既存ユーザーのうち、きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」に参加することによって、『介護』について、興味関心が高まった』との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は51人

(13.7%)。「ほぼあてはまる」とした124人(33.4%)と合わせて、「介護」への関心が高まったのは175人(47.2%)であった。

	全体	大いに あてはまる	ほぼ あてはまる	どちら でもない	あてはまらない	
					ほぼ	全く
上段：人 下段：% 単一回答						
「介護」について、イメージが向上した	371	39	101	192	20	19
	100.0	10.5	27.2	51.8	5.4	5.1
「介護」について、興味関心が高まった	371	51	124	160	20	16
	100.0	13.7	33.4	43.1	5.4	4.3
「介護」について、知識をもっと得たい と思うようになった	371	61	136	140	20	14
	100.0	16.4	36.7	37.7	5.4	3.8

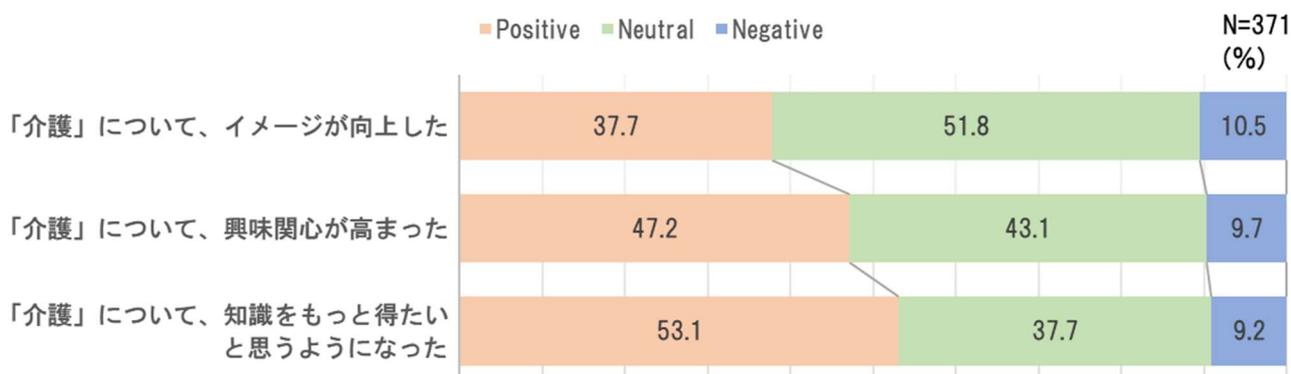


図 9-2 コミュニティ参加による意識変容（介護）「ゆうゆう Life コミュニティ」（既存ユーザー n=371）

きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」について、福祉・介護の仕事へ関心の高まり、福祉・介護の仕事への理解の深まりなど「介護の仕事」に対する意識変容に関する 9 項目について、5 段階評価で尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

きっかけ「ゆうゆう Life コミュニティ」に参加することによって、『福祉の仕事（介護を含む）』への関心が高まった」との項目は、「大いにあてはまる」と答えた人は 22 人（15.0%）。「ほぼあてはまる」とした 64 人（43.5%）と合わせて、「介護のしごと」への関心が高まったのは 86 人（58.5%）であった。

上段：人 下段：% 単一回答	全体	大いに あてはまる	ほぼあてはまる	どちらでもない	ほぼ あてはまらない	全く あてはまらない
		ま あては まる	ま あては まる	い でも なら ない	ら ない ま あ	ら ない ま あ
参加前に比べて「福祉の仕事（介護を含む）」への関心が高まった	371	45	123	157	28	18
	100.0	12.1	33.2	42.3	7.5	4.9
参加前に比べて「介護の仕事」への関心が高まった	371	40	103	164	44	20
	100.0	10.8	27.8	44.2	11.9	5.4
上段：人	全体	ま あては まる	ま あては まる	い でも なら ない	ら ない ま あ	ら ない ま あ
「介護の仕事」について自分でもできるものがあるのではないかと感じるようになった	371	36	82	177	46	30
	100.0	9.7	22.1	47.7	12.4	8.1
「介護の仕事」はおもしろい仕事であると感じるようになった	371	17	54	194	71	35
	100.0	4.6	14.6	52.3	19.1	9.4
「介護の仕事」は専門性が高い仕事であると感じるようになった	371	84	135	125	15	12
	100.0	22.6	36.4	33.7	4.0	3.2
「介護の仕事」は魅力がある仕事であると感じるようになった	371	32	56	200	54	29
	100.0	8.6	15.1	53.9	14.6	7.8
「介護の仕事」はやりがいのある仕事であると感じるようになった	371	45	111	171	27	17
	100.0	12.1	29.9	46.1	7.3	4.6
「介護の仕事」は生計が立てられる仕事であると感じるようになった	371	26	75	196	48	26
	100.0	7.0	20.2	52.8	12.9	7.0
「介護の仕事」は将来性がある仕事であると感じるようになった	371	52	110	162	27	20
	100.0	14.0	29.6	43.7	7.3	5.4

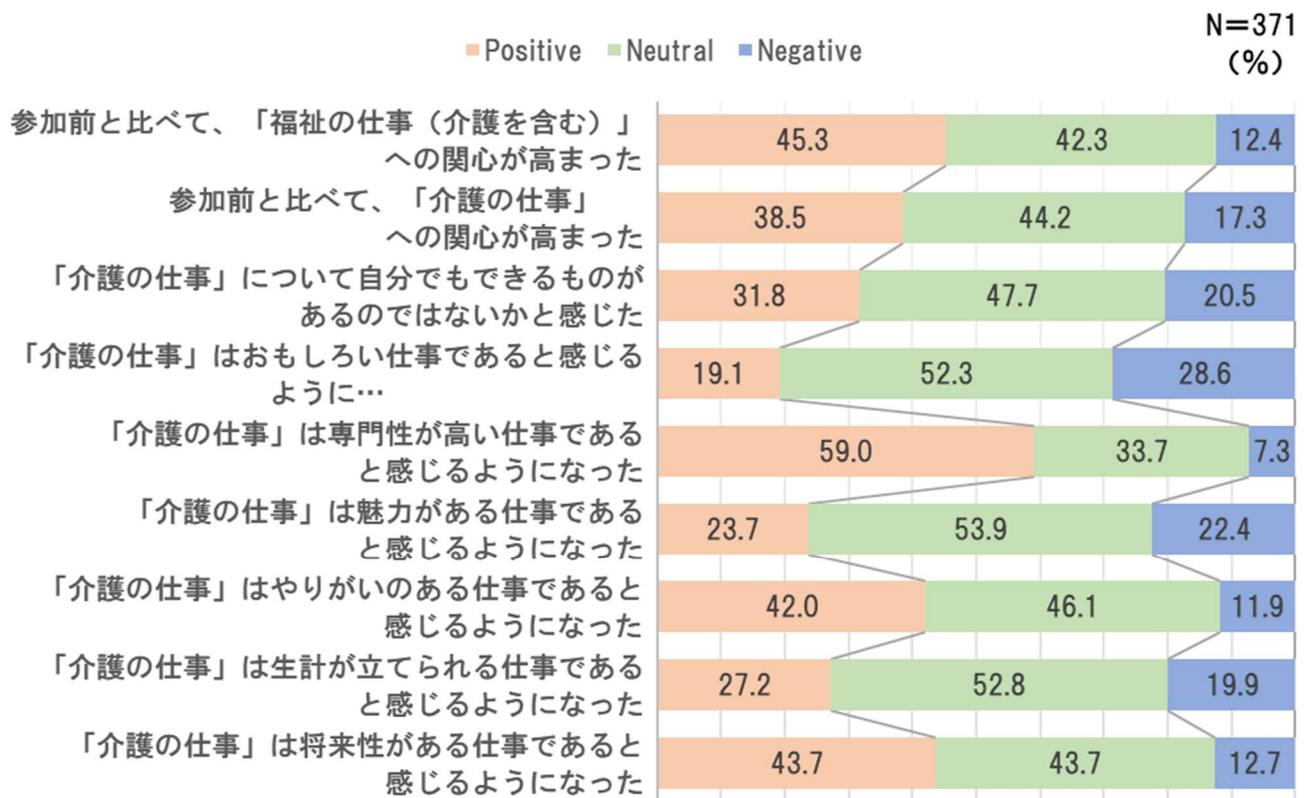


図 9-3 コミュニティ参加による意識変容（介護の仕事） 「ゆうゆう Life コミュニティ」（既存ユーザー n=371）

次いで、介護に関わる身近なことから「介護の仕事」に関わることまで、行動変容に関する 6 項目について、「積極的に実施したい」から「実施したくない」まで 5 段階に分けて尋ねた。それぞれに対する回答は以下の通り。

	全体	積極的に してみたい	機会があれば してみたい	どちらでもない	あまり 実施したくない	実施したくない
		上段：人 下段：% 単一回答				
「介護の仕事」をしている人と話す	371	56	112	115	41	47
	100.0	15.1	30.2	31.0	11.1	12.7
「介護」に関する記事や番組などを見る	371	61	145	98	35	32
	100.0	16.4	39.1	26.4	9.4	8.6
「介護」に関するイベントに参加する	371	34	77	152	54	54
	100.0	9.2	20.8	41.0	14.6	14.6
「介護」に関するボランティアをする	371	29	68	149	60	65
	100.0	7.8	18.3	40.2	16.2	17.5
あなた自身が「介護の仕事」に携わる	371	26	52	137	68	88
	100.0	7.0	14.0	36.9	18.3	23.7

「介護の仕事」を人に勧める	371	18	45	156	64	88
	100.0	4.9	12.1	42.0	17.3	23.7

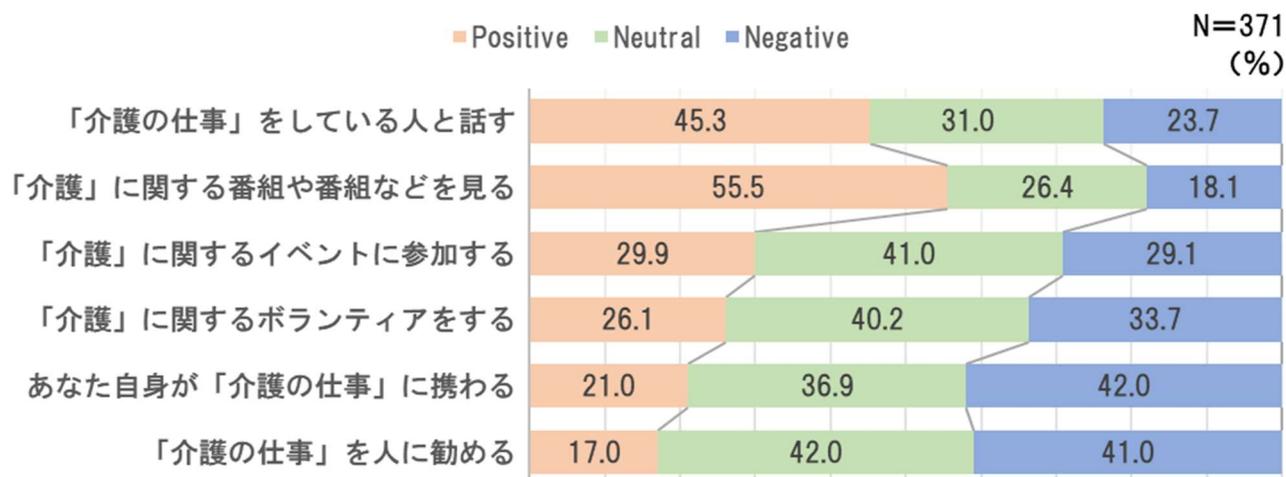


図 9-4 コミュニティ参加による行動変容 「ゆうゆう Life コミュニティ」(既存ユーザー n=371)

10.2.9 事前調査

(1) 調査の目的と概要

本事業に付随する活動として、事前調査を行なうことを目的に、産経 iD くらする一むの会員を対象とした「ライフスタイルに関するアンケート」を実施した。

全国の 2976 人に、就労状況や就労意識、コロナ禍での働き方、今後の就労意向などを尋ねた。調査の概要は以下の通り。

- | | |
|-------|-------------------------|
| ■調査方法 | インターネット調査 |
| ■実施機関 | 株式会社産経リサーチ&データ |
| ■実施期間 | 2022 年月日(木)~2022 年月日(火) |
| ■調査対象 | 産経 iD くらする一む会員 |

(2) 調査集計

調査対象 2976 サンプルの基本的な属性は以下の通り。

性別	人	%
男性	61.2	61.2
女性	38.8	38.8
全体	2976	100.0

年齢	人	%
20 代以上	38	1.3
30 代	123	4.1
40 代	349	11.7
50 代	751	25.2
60 代	982	33.0
70 代	610	20.5
80 代以上	123	4.1
全体	2976	100.0

働いたことがある業種 (複数回答)	人	%
水産・農林・鉱業	46	1.5
建設	299	10.0
製造業	845	28.4
卸（卸売り業）	228	7.7
小売業	548	18.4
通信・IT	332	11.2
病院・医療	305	10.2
福祉・介護	201	6.8
不動産	154	5.2
金融・証券・保険	429	14.4
電気・ガス・水道	93	3.1
運送・運輸	248	8.3
放送・報道	80	2.7
広告・調査	115	3.9
官公庁	471	15.8
飲食/飲食サービス	406	13.6
アパレル/ファッション	110	3.7
コスメ/美容	39	1.3
学校/教育	460	15.5
娯楽	46	1.5
宿泊	83	2.8
その他サービス業	506	17.0
上記に働いたことがある業種はない	119	4.0
全体	2976	100.0

現在の就労状況	人	%
現在就労している	1770	59.5
現在就労していない	1206	40.5
全体	2976	100.0

現在の就業形態	人	%
正社員	794	44.9
契約社員	152	8.6
パート・アルバイト	361	20.4
嘱託社員	71	4.0
経営者（自営業・フリーランスを含む）	262	14.8
派遣社員	65	3.7
その他就業形態	65	3.7
全体	1770	100.0

今後の就労希望	人	%
今後就労したい	1881	63.2
今後就労したくない	1095	36.8
全体	2976	100.0

今後、就労したいと考えている人は1881人（63.2%）

今後就労したい理由 (複数回答)	人	%
家計・生活費のため	1171	62.3
子どもの教育費のため	232	12.3
住宅資金・住宅ローンのため	242	12.9
自分が使えるお金を稼ぐため	1156	61.5
時間に余裕がある、または余裕ができるから	547	29.1
自分の趣味・興味を深めるため	593	31.5
社会との関わりを持つため	953	50.7
社会に貢献する行動をしたいため	527	28.0
知識や技術、資格を身に付けるため	262	13.9
知識や技術、資格を活かすため	480	25.5
自分らしさを発揮するため	370	19.7
交友関係を広げるため	305	16.2
その他	77	4.1
特に理由は無い	17	0.9
全体	1881	100.0

今後の就労意向がある1881人に、就労したい理由を尋ねたところ、「自分が使えるお金を稼ぐため」と回答した人の割合は61.5%。次いで、「家計・生活費のため」（62.3%）、「社会との関わりを持つため」（50.7%）の順であった。

何歳くらいまで働きたいか	人	%
30歳くらいまで	2	0.1
40歳くらいまで	5	0.3
45歳くらいまで	4	0.2
50歳くらいまで	12	0.6
55歳くらいまで	24	1.3
60歳くらいまで	143	7.6
65歳くらいまで	440	23.4
70歳くらいまで	485	25.8
75歳くらいまで	321	17.1
80歳くらいまで	262	13.9
わからない	183	9.7
全体	1881	100.0

今後の就労意向がある1881人に何歳まで働きたいと思っているかを尋ねたところ、「70歳くらいまで」と回答した人の割合が25.8%。次いで「65歳くらいまで」（23.4%）、「75歳くらいまで」（17.1%）の順であった。

今後の希望の就労形態	人	%
正社員	710	37.7
契約社員	125	6.6
パート・アルバイト	537	28.5
嘱託社員	113	6.0
経営者（自営業・フリーランスを含む）	289	15.4
派遣社員	44	2.3
その他就業形態	63	3.3
全体	1881	100.0

今後の就労意向がある 1881 人に、今後希望する就労形態を尋ねたところ、「正社員」と回答した人は 710 人（37.7%）。「パート・アルバイト」と回答した人は 537 人（28.5%）であった。

興味・関心がある業種	(複数回答)	人	%
水産・農林・鉱業		125	6.6
建設		102	5.4
製造業		310	16.5
卸（卸売り業）		93	4.9
小売業		255	13.6
通信・IT		245	13.0
病院・医療		208	11.1
福祉・介護		247	13.1
不動産		124	6.6
金融・証券・保険		123	6.5
電気・ガス・水道		63	3.3
運送・運輸		130	6.9
放送・報道		106	5.6
広告・調査		141	7.5
官公庁		287	15.3
飲食/飲食サービス		229	12.2
アパレル/ファッション		50	2.7
コスメ/美容		59	3.1
学校/教育		413	22.0
娯楽		141	7.5
宿泊		134	7.1
上記以外のその他		414	22.0
全体		1881	100.0

今後の就労意向がある 1881 人に、今後のお仕事として興味・関心がある業種を尋ねたところ、「学校/教育」（22.0%）がトップ。次いで「製造業」（16.5%）、官公庁（15.3%）の順となった。「福祉・介護」と回答した人は 247 人（13.1%）

興味・関心がある就労先や職種 (複数回答)	人	%
ファミレス・レストラン・ファーストフード・カフェ	102	5.4
居酒屋	84	4.5
宅配・デリバリー・出前	50	2.7
食品製造・調理	192	10.2
その他の飲食業界	84	4.5
美容関連（エステ・ネイル・美容師・メイク）	40	2.1
介護職員（介護施設の職員・ホームヘルパーなど）	132	7.0
その他の福祉・介護業界	204	10.8
看護師・准看護師	35	1.9
その他医療・医療事務	174	9.3
コンビニ・レジ・スーパー・ドラッグストア	119	6.3
家電量販店・携帯ショップ	37	2.0
アパレル関連	41	2.2
警備員・監視員	147	7.8
清掃員	106	5.6
パチンコスタッフ・カラオケスタッフ・アミューズメントスタッフ	17	0.9
スポーツ関連（ジムスタッフ・インストラクター・ゴルフ場キャディなど）	85	4.5
ホテル・ペンション・民宿スタッフ	172	9.1
イベントスタッフ・コンサートスタッフ	134	7.1
ドライバー（タクシーなど）	81	4.3
電話対応・コールセンター・テレアポ	106	5.6
事務・庶務	553	29.4
その他の事務（受付など）	192	10.2
塾講師・家庭教師	155	8.2
保育士・幼稚園教諭	42	2.2
その他教育（英会話など）	178	9.5
工場・倉庫内作業（検品・商品管理・仕訳・梱包など）	224	11.9
宅配便の配送・バイク便・新聞配達	68	3.6
データ入力・SE（システムエンジニア）・プログラマー	210	11.2
その他のIT・コンピュータ関連（ゲーム・ユーザーサポートなど）	124	6.6
上記以外のその他	397	21.1
興味・関心がある就労先・職種は特になし	187	9.9
全体	1881	100.0

今後の就労意向がある 1881 人に、今後の仕事として興味・関心がある就労先や職種を尋ねたところ、「事務・庶務」と回答した人の割合は 29.4%。「介護職員（介護施設の職員・ホームヘルパーなど）」と回答した人の割合は 7.0%、「その他の福祉・介護業界」と回答した人は 10.8%だった。

今後の仕事を選ぶ際の重要点 (3つまで)	人	%
より収入が多い	437	23.2
自分に都合のよい時間(日)で働ける	1179	62.7
勤め先までの距離が短い	850	45.2
仕事のやりがいを感じられる	791	42.1
自分が身につけた知識や技術、資格が活かせる	650	34.6
指示されず、自分の責任で決められる(仕事内容や責任範囲が明確)	193	10.3
職場の人間関係	509	27.1
人とのコミュニケーションが多い	94	5.0
安定して長く働き続けられる	299	15.9
その他()	17	0.9
全体	1881	100.0

今後の就労意向がある 1881 人に、今後の仕事を選ぶ際の重要点を 3 つまで選んでもらったところ、「自分の都合のよい時間(日)で働ける」(62.7%)、「勤め先までの距離が短い」(45.2%)、「仕事のやりがいを感じられる」(42.1%)の順であった。

子どもの有無&末子の学齢	人	%
子どもはいない	1020	34.3
末子(未就学児)	73	2.5
末子(小学校1~3年生)	46	1.5
末子(小学校4~6年生)	50	1.7
末子(中学生)	64	2.2
末子(高校生・高専生)	90	3.0
末子(大学生・大学院生・短大・専門学校生などの学生)	187	6.3
末子(社会人・その他)	1446	48.6
全体	2976	100.0

子育てを終えた後の過ごし方	人	%
ひとりの時間を楽しみたい	159	8.1
自分の時間を楽しみたい	736	37.6
夫婦・パートナーとの時間を楽しみたい	762	39.0
子どもとの時間を楽しみたい	30	1.5
孫との時間を楽しみたい	69	3.5
親や祖父母との時間を楽しみたい	12	0.6
友人・仲間との時間を楽しみたい	188	9.6
全体	1956	100.0

子育てを終えた場合にどのように過ごそうと思うかについて尋ねたところ、「夫婦・パートナーとの時間を楽しみたい」が 39.0%、「自分の時間を楽しみたい」が 37.6%を占めた。

子育てを終えての過ごし方を考えた年齢	人	%
25～29 歳	28	1.4
30～34 歳頃	31	1.6
35～39 歳頃	39	2.0
40～44 歳頃	92	4.7
45～49 歳頃	165	8.4
50～54 歳頃	379	19.4
55～59 歳頃	424	21.7
60～64 歳頃	445	22.8
65～69 歳頃	238	12.2
70 歳以上	115	5.9
全体	1956	100.0

子育てを終えて、前問のように過ごそうと思った年齢について尋ねたところ、「60～64 歳頃」(22.8%)、「55～59 歳頃」(21.7%)、「50～59 歳頃」(19.4%) の順であった。

要介護対象者の有無	人	%
家族に介護対象者がいる	525	17.6
家族に介護対象者がいない	2451	82.4
全体	2976	100.0

家族としての介護	人	%
担っている	319	60.8
担っていない	206	39.2
全体	525	100.0

家族に介護対象者がいる 525 人のうち、介護を担っている人は 60.8%。

あなたと「介護」との関わり (複数回答)	人	%
自分の親や家族などの介護をしたことがある	1167	39.2
自分が介護される立場(だったことがある)	47	1.6
介護の現場でボランティアや実習などを行っている(したことがある)	185	6.2
介護の仕事をしている(したことがある)	128	4.3
介護に関する勉強をしている(勉強したことがある)	232	7.8
自分の介護のことに興味がある	565	19.0
親や家族などの介護のことに興味がある	783	26.3
その他、介護との関わり・興味がある	329	11.1
該当するものはない	913	30.7
全体	2976	100.0

「自分の親や家族などの介護をしたことがある」と回答した人は 1167 人 (39.2%)、「介護の仕事をしている(したことがある)」人は 185 人 (4.3%)。介護との関わりがない人は 913 人 (30.7%)。

身近に介護施設で働いている人の有無	人	%
働いている人がいる	961	32.3
働いている人がいない	2015	67.7
全体	2976	100.0

あなたの家族・親族や友人・知人に介護施設で働いている人がいるかどうか尋ねたところ、「働いている人がいる」と回答した人は961人(32.3%)だった。

介護のイメージ	人	%
良い	285	9.6
やや良い	446	15.0
どちらでもない	1370	46.0
やや悪い	655	22.0
悪い	220	7.4
全体	2976	100.0

介護のイメージを尋ねたところ、「良い」と「やや良い」とを合わせて「良い(計)」と回答した人は24.6%、「悪い」と「やや悪い」とを合わせて「悪い(計)」と回答した人は29.4%と、「悪い(計)」が「良い(計)」を上回った。「どちらでもない」と回答した人は46.0%。

介護への興味	人	%
とても興味がある	122	4.1
興味がある	887	29.8
どちらともいえない	1363	45.8
興味はない	415	13.9
全く興味はない	189	6.4
全体	2976	100.0

介護への興味について尋ねたところ、「とても興味がある」と「興味がある」とを合わせて「興味がある(計)」と回答した人は33.9%、「全く興味はない」と「興味はない」とを合わせて「興味はない(計)」と回答した人は20.3%と、「興味がある(計)」が「興味はない(計)」を上回った。「どちらでもない」と回答した人は45.8%。

介護の知識	人	%
よく知っている	164	5.5
知っている	757	25.4
どちらともいえない	1245	41.8
知らない	674	22.6
全く知らない	136	4.6
全体	2976	100.0

介護について、「よく知っている」と「知っている」とを合わせて「知っている(計)」と回答した人は30.9%、「全く知らない」と「知らない」とを合わせて「知らない(計)」と回答した人は27.2%と、「知っている(計)」が「知らない(計)」を上回った。「どちらでもない」と回答した人は41.8%。

介護の知識獲得意欲	人	%
もっと知りたい	220	7.4
知りたい	1099	36.9
どちらともいえない	1400	47.0
知りたくない	180	6.0
全く知りたくない	77	2.6
全体	2976	100.0

介護についてもっと知りたいかどうか尋ねたところ、「もっと知りたい」と「知りたい」とを合わせて「知りたい（計）」と回答した人は44.3%、「全く知りたくない」と「知りたくない」とを合わせて「知りたくない（計）」と回答した人は8.6%と。「知りたい（計）」が「知りたくない（計）」を上回った。「どちらでもない」と回答した人は47.0%。

介護ボランティアへの興味	人	%
とても興味がある	69	2.3
興味がある	534	17.9
どちらともいえない	1178	39.6
興味はない	862	29.0
全く興味はない	333	11.2
全体	2976	100.0

介護ボランティアへの興味について、「とても興味がある」と「興味がある」とを合わせて「興味がある（計）」と回答した人は20.3%、「全く興味はない」と「興味はない」とを合わせて「興味はない（計）」と回答した人は40.2%と、「興味はない（計）」が「興味がある（計）」を上回った。「どちらでもない」と回答した人は39.6%。

「介護の仕事」のイメージ	上段：人 下段：% 単一回答	全体	まる あ 大 い は に	る て は ま あ	い で も ち な ら	ら な い ま あ	ら な い ま あ	全 く あ ま あ
魅力がある仕事である		2976	81	386	1200	887	422	
		100.0	2.7	13.0	40.3	29.8	14.2	
おもしろい仕事である		68	43	279	1150	993	511	
		100.0	1.4	9.4	38.6	33.4	17.2	
やりがいのある仕事である		68	360	1209	908	301	198	
		100.0	12.1	40.6	30.5	10.1	6.7	
専門性がある仕事である		68	817	1536	480	79	64	
		100.0	27.5	51.6	16.1	2.7	2.2	
生計を立てられる仕事である		68	60	474	1331	802	309	
		100.0	2.0	15.9	44.7	26.9	10.4	
自分の職業選択としてある仕事である		68	40	203	768	853	1112	
		100.0	1.3	6.8	25.8	28.7	37.4	

「介護の仕事」のイメージは、「専門性がある仕事である」「やりがいがある仕事である」。

事業の振り返りと今後への考察

産経新聞社は、令和4年度の厚生労働省「介護のしごと魅力発信等事業（情報発信事業）」を実施した。令和元年度から続く4年目の事業である。令和2年に始まった新型コロナウイルスの流行は、4年度も収まらず、いくつかの計画の変更を余儀なくされた。イベントや取材は、非常に困難を極めたが、何とか工夫してオンラインとのハイブリッド型を取り入れるなど、実施することができた。

今年度の情報発信事業は、テレビ、ラジオの企画に初めて取り組んだほか、新聞、YouTube、オンラインコミュニティサイト「きっかけ」、公式サイト「ゆうゆうLife」などの多様なメディアを活用して、介護の仕事の魅力を広く伝えることができた。

テレビは、介護職をテーマにした映画「ケアニン」の主演俳優、戸塚純貴さんが特色ある介護施設など3つの現場を訪問。仕事の体験やスタッフとの交流を通じて、介護の仕事の魅力を伝える内容とし、BSフジで5分間の枠で10月末から計6回にわたり放送した。放送を見逃した人のためにBSフジのオンデマンド配信や公式サイトでアーカイブ視聴できるように工夫した。

ラジオは30分番組を2本制作した。出演者はニッポン放送にゆかりのある人物を考え、ヤングケアラーの経験をもつフリーアナウンサーの町亜聖さんをパーソナリティーに起用。1本目のゲストは、介護職の経験もあり、令和5年3月に介護福祉士の資格も得たタレントの安藤なつさんで、介護体験を語ってもらった。2本目は、元ニッポン放送のアナウンサーの松本秀夫さんをゲストに迎え、母親の介護体験と仕事の両立など介護を身近に感じてもらう内容で放送した。さらに両番組では介護職の方が登場するコーナーを設け、介護の仕事の魅力などについて語ってもらった。オンエア後、番組内容（音声）を公式サイトで聴取できるようにした。

また、令和3年度から開始した「きっかけ」は、介護の仕事の魅力を発信する「ゆうゆうLife」を引き続き開設して、イベント告知や介護の仕事に関するトークを展開した。参加登録者は3月31日時点で2万6千人となり、昨年の同時期から1万1千人以上増えている。横浜市の動画視聴者を呼び込んで、視聴の後押しをしたことは、修了者のアンケートからも有効な結果とすることができた。

このほか、YouTubeチャンネル「ゆうゆうLife」を開設して、3年間にわたり制作した漫画を紙芝居風にした動画やイベントの動画などを配信した。紙面広告では、介護福祉士の笑顔溢れるイメージアップの全面広告を4年連続で掲載した。「ゆうゆうLife」のコンテンツは、施設や介護職、サービス利用者らへの取材が困難な中、20本の記事と52本の漫画を掲載することができた。

イベントもいくつか実施できた。介護施設の協力で体験型の「子どもヘルパー教室」や施設が企画、運営した地域交流イベントを共同で実施した。イベントの様様を動画にして施設に提供したことは非常に喜ばれた。また、都道府県事業との連携として、全国で毎年11月11日の「介護の日」前後に実施されるイベント告知のポスターやチラシを東京・大手町の東京サンケイビル地下の展示スペースで実施した。都道府県の担当者からは、地域外へ広く広報できた点などが評価された。

さらに、BSフジの番組と連動したトークイベントを東京都内で実施した。番組に出演した戸塚純貴さんをはじめ、全国社会福祉経営者協議会が新たな福祉に挑戦する若手「社会福祉ヒーローズ」を受賞した介護福祉士や取材先の施設関係者をゲストに迎えた。質疑応答コーナーも大いに

盛り上がり、急遽、番組関連イベント第2回目を実施することになった。コロナ禍の対策を万全にした会場には戸塚さんファンのみならず、介護に関心のある人が多く詰め掛けた。

一方、コロナ禍で開始し横浜市と協力して入門的研修のオンライン講座は、2年目の実働も昨年同様に予想以上の成果を得ることができた。実証実験の結果を富山県や茨城県、沖縄県などへ説明し、導入を促した。残念ながら、予算の関係や既に研修に関する委託企業が決まっていたことなどから今年度の導入には至らなかった。

そうした中で、静岡県が実証実験の位置づけで1月から募集を開始、想定を超える結果を出すことができたことは、不足する介護人材の確保へ光明を見出せたと感じた。

昨年度、課題としていた入門的研修動画の修了者と優良事業者のマッチングは、オンラインと電話で相談できる方式の実証実験を実施した。結果的には、就労マッチングに繋がらなかったが、受講生と就労マッチングにギャップがあることがわかったのは収穫だった。入門的研修は、就労よりも介護のしごとへの理解を深める面が多いこと、施設側の受入れ体制が整っていないなどの理由があげられる。こうした点を考慮しながら、就労へ繋げる工夫が必要と感じた。

5年度以降の課題としては、入門的研修を介護の仕事への登竜門として、簡単に受講できる方法を他の都道府県へ大きく広げ、新たな介護人材の確保へ繋げることがあげられる。その為に、予算や横浜市で対象となっていない医療介護総合確保基金の対象を都道府県に働きかけることが重要だ。同時に、都道府県の人材センターとの連携や施設でのボランティア参加や見学会などコロナ禍で実施できなかった事業等が考えられる。

今年度は、様々な方法で「介護のしごと」の魅力を発信したが、介護人材の不足は変わっていない。だが、この事業を通して、施設経緯者や介護福祉士、介護職の方々のやりがいを感じることはできたのは、ありがたかった。

アドバイスを頂いた企画委員の皆様、取材などにご協力を頂いた関係者の皆様、厚生労働省、静岡県、横浜市、全スタッフに感謝する。

令和5年4月10日

株式会社産業経済新聞社

新プロジェクト本部介護プロジェクトチーム一同